

### 第3章 狩猟具（武器）

本遺跡出土の狩猟具<sup>43)</sup>として、石鏃、石槍、投弾、石匙、刃器などがある。

#### 第1節 石鏃（PL. 46~53、PL. 61）

本遺跡より出土する石鏃には、打製と磨製とがある。打製石鏃は総数1165点であり、サヌカイトを石材として用いている。<sup>44)</sup>大阪府・奈良県境二上山地域に産出するサヌカイトである。磨石鏃は5点であり、石材はサヌカイトの他に玢岩、ホルンフェルスをも利用している。

石鏃とは、矢の先端に装着され、『狩猟具』『武器』として機能するものである。

##### 打製石鏃

打製石鏃は、基部の形状、茎の有無を基準にして次の様に5分類を行った。

タイプ分類

- Aタイプ 凹基無茎式 基辺が凹むもの。
- Bタイプ 平基無茎式 基辺が直線をなすもの。
- Cタイプ 円基無茎式 基辺が円く突出するもの。
- Dタイプ 尖基無茎式 基辺が鋭く尖るもの。
- Eタイプ 凸基有茎式 茎をもつもの。

Aタイプ、Bタイプ、Cタイプについては、最大幅が基辺にあるものと、上位にあり基辺においてやや狭くなるものにと小分類を行い、それぞれ1)、2)とした。

Dタイプ、Eタイプについては、逆刺の部分が角をなすものと、角をなさずになだらかに下るものにと小分類を行い、それぞれを、1)、2)とした。

なお、各部分の名称を fig.19 の様

にした。剥片の部分名称については『紫雲出』<sup>45)</sup>に準ずるものである。平面において一方の面をA面、他方をB面とするが、これは写真図版に載っている面をA面、反対側の面をB面とする。載っていない分については、便宜的に呼称しているが、一

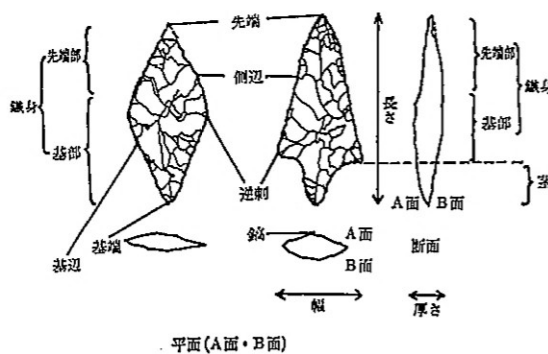


fig.19 石鏃の各部名称

応、中高で、鏃の通る面をA面、平坦で、主要剝離面の残る面をB面という様に、目安にしている。

剥離面の状況 なお、剥離面の状況は、貝殻状剥離面<sup>46)</sup>(フリー)、階段状剥離面<sup>47)</sup>(ステップ)、がみられるが、一覧表には主として階段状剥離面について記した。観察によれば、一平面が貝殻状剥離面よりなるもの、貝殻状剥離面と階段状剥離面が混在するもの、一側辺が全て階段状剥離面を呈し、他側辺は貝殻状剥離面を呈するもの、一平面が全て階段状剥離面よりなるもの等がある。さらに、階段状剥離面が深くて段をなすものや、浅く痕跡のみ残るもの等があり、種々の様相を示す。しかしながら、この両者は、フリーフレイキングによる調整剥離の結果、貝殻状剥離面を呈するもの、階段状剥離面を呈するものとがあらわれると考えられる。また、その打撃がサスカイトの石目に逆っている場合は、階級状剥離面を呈する。即ち、弥生時代においては、技法として両者を意図したのではなく、打撃・石材の状況により両者があらわれると考えたい。

Aタイプ 凹基無茎式。124点あり。最大幅が基辺にあるA-1タイプは104点(完形品35点)で大多数を占め、最大幅が、基辺より上位にあり、基辺にむかって狭くなるA-2タイプは、わずか20点(完形品12点)である(PL.46-17・41・52)。

法量は、長さ15.8mm~46.7mm(平均26.6mm)、幅7.0mm~25.4mm(平均17.4mm)、厚さ2.3mm~6.3mm(平均4.3mm)、重量0.4g~3.2g(現存最大重量3.7g)(平均1.6g)である。

形態的にみると、基辺の凹みは全体として浅く、大体深さ3mm位の凹基が普通である。一番深い凹基は深さ約6mmを示す(PL.46-42)。基辺は円く彎曲して凹むものが、大半を占め(PL.46-25・47)、他にV字形に凹むもの(PL.46-1・20)や両端で急に屈曲し、中央は平坦な凹基のもの(PL.46-21、S-09-0194)等がある。

側辺は、直線的にのびるもの(PL.46-22・42・53)、ふくらみをもって基辺に至るもの(PL.46-18・33)、ふくらみをもつ部分と内彎する部分が組み合わさり、途中で段をもつ複雑な形態のもの(PL.46-1・2・6・7・9・25・36)、直線的にのびるが途中で段をもつもの(PL.46-19)等があり、先端より内彎して基辺に至るものはない。5分類中、Aタイプが最も側辺の形態に変化がみられる。

Aタイプは全体として薄身であるが、幅狭・長身で側辺が略直線的<sup>ほぼ</sup>にのびる一群は厚身である(PL.46-10・11・21・22・52・53)。厚みは大体5mm前後になる。

なお、この中の1点(PL.46-32)は土壙墓(SJ233)より、人骨に伴出しているものである。

Bタイプ 平基無茎式。74点あり。5分類中最も少ない。B-1タイプは42点(完形品9点)で(PL.47-8・17・33)、B-2タイプは30点(完形品16点)、不明品は2点となる。

法量は、長さ17.7mm~39.1mm(現存最大長40.1mm)(平均28.6mm)、幅10.4mm~26.7mm(現存最大幅29.2mm)(平均15.6mm)、厚さ2.8mm~7.2mm(平均4.4mm)、重量0.6g~4.8g(平均2.1g)である。

基辺は、中軸線と直交する方向に存するものが大半であり、わずかに斜基もある(PL.47-3・6・10、S-09-0077)。

側辺の形態は、直線的にのびるもの(PL.47-1・22)、先端より内彎して下るもの(PL.47-21)と、ふくらみをもつ部分と内彎部分とが組み合わさり、途中で段をもつ形態のもの(PL.47-24・25、S-09-0455)、直線的にはのびるが途中で段をもつもの(PL.47-

3) 等があるが、大半はふくらみをもつ側辺形態のものである (P L. 47-8・11・32)。

Bタイプは、厚みはない方だが、B-2タイプはB-1タイプに比較して、全体的に厚みをもつ。B-1タイプの厚さは2.8mm~7.9mm(平均4.2mm)であり、B-2タイプは2.8mm~7.2mm(平均4.7mm)である。

Cタイプ 円基無茎式。136点あり。C-1タイプは42点(完形品24点)で(P L. 48-9・10・12・15・33)、C-2タイプは94点(完形品43点)である(P L. 48-2・23・27)。

法量は、長さ18.2mm~52.8mm(現存最大長62.2mm)(平均32.9mm)、幅9.4mm~30.7mm(平均15.6mm)、厚さ1.7mm~8.5mm(平均4.7mm)、重量0.5g~10.6g(平均2.6g)である。

全体として薄身である。側辺の形態は、大半は先端からふくらみをもつもの(P L. 48-24・25・27・37)であるが、他に、内彎して下るもの(P L. 48-1・4・23・31)や、ごく先端の側辺は、内彎しており、先端は細く鋭く突出し、下半はふくらみをもつ側辺のもの(P L. 48-2・20、S-09-1295)がある。

Dタイプ 尖基無茎式。166点あり。逆刺が角をなすD-1タイプは36点(完形品6点)で(P L. 49-2・6・7)、逆刺部が角をなさず、なだらかに下る、柳葉形態を呈するD-2タイプは126点(完形品34点)である(P L. 49-28~30)。

法量は、長さ21.2mm~50.3mm(現存最大長69.6mm)(平均34.7mm)、幅8.7mm~24.5mm(平均15.1mm)、厚さ2.4mm~8.8mm(平均4.8mm)、重量0.6g~5.7g(現存最大重量7.8g)(平均2.1g)である。

側辺の形態は、大半はふくらみをもつもの(P L. 49-21・33、S-09-0111)であるが、他に直線的にのびるもの(P L. 49-22・23・32、S-09-0374)や、内彎するもの(P L. 49-11・45)や、ごく先端の側辺は内彎しており、先端は細く鋭く突出し、下半はふくらみをもつ側辺のもの(P L. 49-31)等がある。

Eタイプ 凸基有茎式。279点あり。5分類中、数が最も多い。逆刺が角をなし、茎の挟りの明瞭なE-1タイプは94点(完形品25点)であり、逆刺が角をなさず、円くなだらかで、茎の挟りが緩やかなE-2タイプは185点(完形品47点)である(P L. 51-14~16)。

法量は、長さ23.7mm~63.6mm(現存最大長68.2mm)(平均39.7mm)、幅7.7mm~29.8mm(平均17.0mm)、厚さ2.5mm~10.0mm(平均5.7mm)、重量1.1g~7.9g(現存最大重量9.0g)(平均3.5g)である。

Eタイプは、基部や茎の形態には種々のものがあり、逆刺が明らかに角をなすもの(P L. 51-2・7・12)の他に、逆刺は円くなだらかだが、茎の挟りが明瞭なもの(P L. 51-14・26・34、S-09-0879)がある。

側辺の形態は、ふくらみをもつものが大半である。この他に、直線的にのびるもの(P L. 51-11、S-09-1264)や、内彎するもの(P L. 51-12)がある。

Eタイプの中に、「大型石鏃」がある。これは、長さが大体50mm前後以上を示すものである。長さは茎が折れのため、正確な長さは不明であり、それに伴い、重量も不明である。推定重量3g以上、残存最大重量7.9g。典型的なものが、38点ある。

これは、幅広で薄身のもの(49点)(P L. 51-7・11)と、幅狭で厚身のもの(29点)(P

大型凸基  
有茎式石鏃

L. 50-1・2) とがある。ともに鍍身中央に鑿が通るが、横断面形は、前者は扁平な菱形、後者は菱形を呈する。

幅と厚さの法量を求めると、前者は、幅18.5mm~29.8mm (平均22.7mm)、厚さ 5.0mm~7.1mm (平均 5.7mm) となり、後者は、幅11.1mm~16.8mm (平均12.9mm)、厚さ5.2mm~9.6mm (平均 6.9mm) となる。

両者とも丁寧な調整剝離が施され、中央に鑿が通り、揃った剝離面が並列しており、側辺のエッジは鋭くつくられる。

前者には、E-1タイプが15点、E-2タイプが3点で、逆刺が角をなし、明瞭な茎をつくるものが多い。茎は、つけねで折れているものが多いが、比較的長い茎がつくられていた様である (P.L. 51-9、S-09-0859、1263)。

身幅が広いわりに、側辺のエッジは非常にうすく鋭く、一直線状にのびる。

後者には、E-1タイプはなく、E-2タイプのみ、29点がある。基部は両側辺に緩やかな挟りを入れたもの (P.L. 50-6・10) と、逆刺部より直線的に狭くなるもの (P.L. 50-2・7) とがあり、後者は、Dタイプの中に入れる事が可能とも考えられる。幅狭で厚身のわりに刃先は鋭く、側辺は屈折に粗密はあるが、殆ど全点がジグザグを呈する (P.L. 50-1・7)。鋸歯状剝離<sup>48)</sup>のものもある (P.L. 50-6・7)。

遺構より出土するものは、その中で6点と少ないが、いずれも中期に属する。その内、5点は第Ⅲ-Ⅳ様式期のものである。

A~Eタイプの中で、形態的に特殊なものが数点みられた (fig. 21)。

なお、破片の中に、細身で先端が、非常に鋭く (先端角約 <sup>49)</sup>22°)、側辺はまっすぐにのびる形態のものがある (fig. 21-1・2)。丁寧な調整剝離が施され、中央に鑿が通り、側辺は鋸歯状剝離である。全体形は不明。この他に、両端が欠損しているが、両側辺が平行してのびる中央部破片もある (fig. 21-3)。これは、両面とも揃った剝離面が並列しており、中央に鑿が通る。側辺には、鋸歯状剝離が施される。

#### 未製品

全体の調整剝離面に凹凸があり、不揃いで、粗く、更に調整を施して作り得る、完成品の法量と比較して大きい一群がある。これを未製品とする。308点あり。

未製品は、A~Eタイプに比べて、やはり大剝離面を残すものの割合が多く、未製品全体の約80%を占め、その内、両面に残存するものは50%以上になる。その内、自然面を残すものも多く、約1割弱になる。それは、一方の平面上の他、基端、先端、側辺上にみられ、また平面から基端にかけて残すものもみられる (P.L. 52-1・9・10・21)。大剝離面の残存状況も種々みられ、中央部だけでなく、基部に残るもの、先端部に残るもの、左右に片寄るもの等の様相があり (P.L. 52-11・12・20、S-09-0588)、また、側辺に、剝片の折れ面 (打ち割り面の可能性もある) が厚く残るものもみられる (S-09-0766)。主要剝離面の打点も一定ではなく、上方、下方、右方向、左方向等があり、また、先端や基端、左右の側辺上に打点があるものが比較的<sup>50)</sup>多い (S-09-0796)。

未製品は、完成品にくらべて、調整剥離は粗く、面構成も不揃いで凹凸が大きい加工状況のものである。剥片の両面とも両側辺、又は、三辺より、打ち欠きをして厚みをとったもの（P L.52-2、S-09-0209）、調整剥離を施して成形するもの（P L.52-8、S-09-1045）で、この調整剥離は一回だけでなく、複数の調整を施す場合もみられる（S-09-1387）。更に、周辺沿いに細かい調整剥離を施す（P L. 52-10）。繰り返し、調整が施される場合はこの様な状況を示すが、中央に大剥離面を残し、周辺のみ小さな調整剥離だけのものもある（P L.52-3・4）。

形態的にも変化に富む。未製品の中で、各タイプに分類しうるものは、合計 207点である。Aタイプ16点（A-1 14点、A-2 2点）、Bタイプ67点（B-1 27点、B-2 38点）、Cタイプ61点（C-1 16点、C-2 42点）、Dタイプ41点（D-1 9点、D-2 25点）、Eタイプ22点（E-1 5点、E-2 16点）となる。この他に、更に祖型とみられる不整形の一群が95点あり、三角形、楕円形、ポイント状の平面形態を示す。

未製品と呼称したものの中に、周辺のエッジや、表面全体が磨滅しているものが多々みられる（P L.52-3・21）。これは、分類上、「未製品」としたが、この加工状況で使用された石器とも考えられる。石鏃より大型の「尖頭器」と分類した一群、「石槍」とも考えあわせて、今後検討を要する事である。

#### 製作状況

大剥離面の残存状況は fig.20 の通りである。比較的薄身のAタイプ、Bタイプは、両面に大剥離面を残すものが多いが、比較的厚身のEタイプは、やはり大剥離面を残さないものが多い。これは必要とする剥片とも関係しており、Aタイプ、Bタイプは薄身の剥片を利用しており、両面に大剥離面を残すものの厚さは、Aタイプでは、2.0mm~6.0mm、Eタイプでは 3.0mm~10mmとなる。Eタイプでは、厚身の剥片を用いている。

残存状況 形態名	両 面		片 面		な し	
	点数 (自然面)	割合 (%)	点数 (自然面)	割合 (%)	点数	割合 (%)
Aタイプ	45(7)	36	33	27	46	37
Bタイプ	37(2)	50	16(1)	22	21	28
Cタイプ	69(2)	51	37(1)	27	30	22
Dタイプ	51(4)	31	40(4)	24	75	45
Eタイプ	71(5)	25	78(5)	28	130	47
未 製 品	189(27)	61	88(12)	29	31	10
合 計	462(47)	42	292(23)	27	333	31

fig.20 大剥離面の残存状況<sup>51)</sup>

剥離調整の状況は、両面とも両側辺に調整剥離を施して成形し、観察によれば、中央に初段階の剥離面を残すものがあり、数回の調整を行っていた事がわかる。更に側辺（または三辺）沿いに細かな調整を施す。これは、側辺のエッジを薄く鋭くするための調整、および、側辺を整えるための調整の、両者が考えられる。後者の例として、鋸歯状剥離（P L.46-36、P L.50-6）や両面から交互に調整剥離を施してはいないが、交互剥離状のジグザグを呈する側辺を形成するもの（P L.46-9、P L.50-1）、また、両面とも側辺沿いにのみごく小さな調整剥離を施して側辺が一直線にのびるように整形しているもの（P L. 51-7・12）、両面とも一方の側辺沿いに急傾斜面を呈する、細かな錯向剥離<sup>52)</sup>を施し、横断面形が扁平な平行四辺形を呈するもの。扁平なものに多く、厚味をもたせている。（P L. 46-33、S-09-1463©）等

を挙げることができる。鋸歯状剥離は全タイプにみられ、合計49点存する（P.L. 46—37、P.L. 47—32、P.L. 48—27、P.L. 51—2、S—09—0484⑩タイプ(以下タイプ省略)）。

各タイプの製作上の特徴をみれば、Aタイプ、Bタイプは、両面に大剥離面を残すものが多く、薄い剥片に調整剥離を施して成形する。薄身の剥片を利用しているものが大半である。また、両面とも大剥離面よりなり、周辺沿いに小さな調整を施しただけのものもある（P.L. 47—7・29）。Cタイプもこれに準じる。

Dタイプ、Eタイプは、前者と比較して、両面とも調整剥離を何度も施しているものが多い。既に、前者と比べて厚身の剥片を利用している。

幅広で薄身のものは、両面中央に大きく大剥離面を残すが（P.L. 49—8・30・31・39、P.L. 51—2・18・25）、厚身の剥片を利用して、大剥離面を残さぬ程調整を施しているものの方が多いといえる。

Eタイプで大剥離面を残すものは、全体の約30%であるが、その中には薄く調整剥離を施す事を目的としたにもかかわらず、力が及ばずに大剥離面を残すもの（P.L. 51—15・22）と一つの方法として周辺沿いにのみ細かな調整を施すものがある。これは中央に大きく大剥離面を残しており、薄い剥片を利用している。剥片が薄い故にそれ以上の調整を施す必要がなかったものとみられる（P.L. 51—18、S—09—0038、0079、0659、0961、1265）。また、大剥離面を残すから作りが粗いという事ではなく、丁寧な調整を施しているものもあり、揃った剥離面が並列する面構成をなすものもある（P.L. 50—25、P.L. 51—2・12）。

#### 大型凸基 有茎式石鏃

Eタイプの中の「大型石鏃」は特に丁寧な調整剥離によって作られる。

幅狭・厚身のものは、両面とも揃った剥離面が並列しており、中央に鑄が通る。20点中、階段状剥離面をもつものは1点のみで、それは片面中央に大剥離面を残すが、他は全て貝殻状剥離面を呈す。中央鑄に至る剥離によって作られるもの（P.L. 50—1）が多いが、更に側辺沿いに細かな調整を施して側辺を整えているもの（P.L. 50—9）や鋸歯状剥離を施すもの（P.L. 50—7）もみられる。

幅広・薄身のものは、薄い剥片を利用しており、両面に大剥離面を残すもの（P.L. 50—25、S—09—0054、0894、1262）、片面に自然面を残すもの（S—09—0089）がある。両面とも両側辺より薄く丁寧な調整剥離により、中央に鑄が通る。薄く奥行のある調整剥離の後、側辺に更に細かな調整により非常に薄いエッジが直線をなす側辺をつくっている。押圧剥離<sup>53)</sup>を施しているものもあると考えられる（P.L. 51—7）。鋸歯状剥離を施すものもみられる（S—09—0894）。

幅狭・厚身のもの、幅広・薄身のものはともに中央に真直ぐに鑄が通り、全体形、面の構成ともに整ったつくりのものである。

#### 転用

回転痕 石鏃に分類しているもので、C・D・Eタイプの中には、その先端や基端、茎などに回転痕をもつものがある（P.L. 53）。19点あり、石鏃としての本来の機能を離れて、石錐として使用されたものである。

また、石錐に分類した中にも、回転痕をもつが、形態的には石鏃とみられるものがあり、同類と考えられる（S-12-0202、0239、0307、0396、0402、0536）。

### 磨製石鏃

磨製石鏃は、5点検出されている。石材はサヌカイトの他に、玢岩やホルンフェルスを用いている。

基部の形態によって4種類に分けられる。即ち、基部の両側に深い抉りをいれて、鏃身と基が明確に区分できる有基式のもの（PL. 47-47）、基部が狭くなって下り、基部両側辺に浅い抉りを入れたもの（PL. 47-45）、基部両側辺がほぼ平行しており、基辺はわずかに彎曲するもの（PL. 47-44）、基部の両側辺が磨ってあり、基部が尖った尖基式のもの（PL. 47-46）の四者である。前二者は鏃身中央に竝が通っておらず、横断面形は、扁平な杏仁形を呈するか、または、ごく浅い竝を形成するもので、後二者は鏃身中央に竝が通っており、横断面形は菱形を呈する。また、前者は、先端は比較的身幅が広く、側辺はふくらみをもつが、後二者の先端は比較的細身で鋭く、直線的にのびると考えられる。

後二者は、第Ⅲ-Ⅳ様式期である。

注 43) 『狩猟具』として統括したが、石鏃、石槍の中には武器と考えられるものもある。また、狩猟の際の解体作業などに使用されるであろう石匙や刃器も狩猟活動に伴うものとして、ここに含めるものである。

44) 未製品の中に1点、ホルンフェルスを石材とするものがある。（S-09-1372）

45) 小林行雄・佐原真『紫雲出』詫間町文化財保護委員会 1964

46・47) 剝離面の状況としては、貝殻状剝離面（フリーな状況）と階段状剝離面（ステップ状）とがある。貝殻状剝離面は、剝片・石核ともにその周縁がスムーズに終っており、隣の面と稜線をなすのみである。階段状剝離面は、剝片に於ては、その末端は折れたように終り、石核に残る剝離面は、末端が段をもつものである。

M. パーキットによれば、力の加え方が問題であり、縁に対して内から外へむけて力を加えるフリーフレイキングを施すと、貝殻状剝離面になり、縁に対して外から内へむけて力を加えるステップフレイキングを施すと、階段状剝離面になるということである。

F. ホルド 芹沢長介・林謙作訳『旧石器時代』（世界大学選書 623） 1971

M. パーキット 酒詰仲男訳『旧石器時代』（帝塚山大学考古学叢書第1輯） 1974

杉原荘介『日本先土器時代の研究』 1974

芹沢長介 「先史時代(1)―無土器時代―」（『考古学ノート』I） 1957

48) 鋸歯状剝離とは、素材の縁辺に、加工具を使用して、圧迫を加えることによって幅・奥行ともに1mm前後の細かな剝離を施すことである。平面からみて、縁辺は鋸歯状を呈する。その加工具として、骨や角や堅い木片あるいは金属片の道具が考えられる。

松沢亜生 「弥生時代の石槍と呼ばれる石器(下)」(『考古学ジャーナル』No.124) 1976

49) 先端の両側辺に接線をもうけて、その延長角度である。

50) 打点の方向の判別しうる未製品は134点中、52点であり、約4割を占める。

51) この表は、大剝離面の判別可能なものについて作成した。

52) 錯向剝離とは、素材の一辺に、一方向から剝離を施した後、それを裏返して、剝離を施した辺に対する一辺に、一方向から剝離を施すことである。横断面形は平行四辺形を呈する。

本遺跡の石鏃では、鏃身やその先端部にのみ、側辺に沿った細かな錯向剝離が施されている。石鏃全体の中では僅かであるが、比較的、薄身のものにみられる。薄く成形するのではなく、厚さを維持し、側辺の整形を目的とする調整である。

芹沢長介 「大分県早水台における前期旧石器の研究」（『日本文化研究所研究報告第1集』）

1965

53) 押圧剥離とは、加工しようとする物をたたくかわりに、その縁に、加工具の先端を使用して、圧迫を加えることによって剥離することである。きわめて薄い剥片を剥離することができ、器面調整を目的とする剥離技法である。その加工具として、骨や角や堅い木片の道具が考えられる。

F. ボルド 芹沢長介・林謙作訳『旧石器時代』（世界考古学選書 623） 1971

M. パーキット 酒舘伸男訳『旧石器時代』（帝塚山大学考古学叢書第1輯） 1974

杉原荘介『日本先土器時代の研究』 1974

芹沢長介 「先史時代(1)―無土器時代―」（『考古学ノート』I） 1957

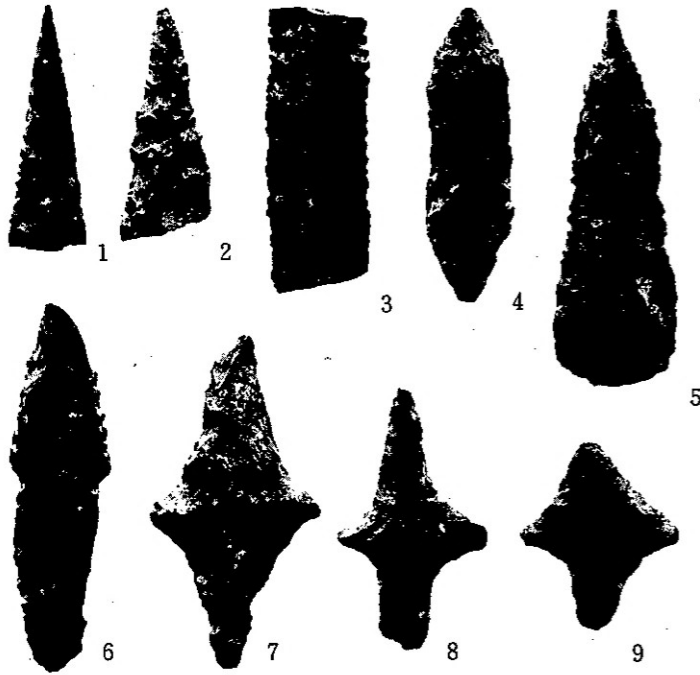


fig.21 石鏃の特殊形態

約 1 : 1



図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
PL.46-1	S-09-0531 MU63  黒褐色粘質土層	25.7 15.0 3.8 1.8		A-1 細身。逆刺は鋭い。両面共調整剝離面（以下調整面と略す）よりなる。A面基辺とB面右側辺はステップ状を呈す。	菱形	
PL.46-2	S-09-0235 KV61 土坑 (SK 420) 第3層・黒色砂質土層	(27.5) (14.5) 3.7 (1.0)		A-1 細身。両平面共に先端から基部にかけて細長く大剝離面が残る。A面先端部左側辺は大剝離面のままである。両平面の右側辺とA面の左側辺下半の剝離は急角度に入っている。	先端部 菱形 基部 不整六角形	
PL.46-3	S-09-0978  不明	(29.5) 16.9 3.4 (1.0)		A-1 細身。先端部から下に側辺は広がらず真直ぐにのび、基部で斜下に広がる。基辺は平基ぎみで逆刺のみ下方に突出する。剝離は全体におよび、両平面共に筋が通る。	菱形	
PL.46-4	S-09-0005  不明	27.0 14.6 4.0 1.3		A-1 A面の先端部から基部にかけて細長く大剝離面が残る。両平面共に剝離面の大きさはほぼそろっているが、B面の左側辺中央に、大きな剝離面が1つある。基部に最大厚あり。	扁平な扇形	
PL.46-5	S-09-0951 JU66  黒褐色土層	(29.3) (17.7) 5.1 (2.3)		A-1 A面の右側辺はステップ状を呈する。B面の中央に大剝離面が残る。中央に最大厚あり。	扁平な菱形	
PL.46-6	S-09-0165 KH62  第3層・褐色砂質土層	24.4 14.8 2.9 0.8		A-1 A面の中央の左側に右方に打点を持つ大剝離面が残る。B面中央にも大剝離面が残る。基辺の剝離は小さい。A面先端部に筋が通る。	扁平な菱形	
PL.46-7	S-09-1234 JS64 溝 (SF 081) 黒褐色土層	36.1 14.9 4.2 1.6		A-1 縦長のもの。逆刺は下方をむくが、基辺は平基ぎみである。調整剝離は全体に及び両平面共に筋が通る。B面下半はステップ状を呈する。側辺は更に調整剝離を施しており、剝離は小さくA面両側辺とB面左側辺はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-8	S-09-1255 IB62  礫混黒褐色土層	41.7 13.5 4.4 1.8		A-1 縦長のもの。両平面共に調整面よりなり、筋が通る。基辺は半円状に凹む。側辺の剝離は、ほぼ一定で、整っている。A面左側辺とB面右側辺は基部でステップ状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-9 PL.61-1	S-09-1002 LO58 溝 (SF 430) 黒色土層	46.7 14.8 4.4 2.7		A-1 縦長のもの。両平面共に筋が通る。側辺の剝離はほぼ一定で、整っている。基辺はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-10	S-09-0075 IG・IH 62・68  床土層	35.5 16.5 5.8 2.8		A-1 逆刺は鈍く、基辺は平基ぎみである。両平面共に先端部に筋が通る。A面基部中央に大剝離面が残る。右側辺の剝離は左側辺に比べて大きく、この為、筋は右側辺に彎曲する。左側辺はやや角度を持つ面で、中央にステップ状を呈する部分がある。基辺の剝離は急角度に入る。B面基部中央に大剝離面が残る。右側辺は大きくステップ状を呈する。B面の調整はあらい。	不整形	
PL.46-11	S-09-0351 LA66 土坑 (SK 274) 第3層	35.8 15.5 4.6 2.2		A-1 逆刺は鈍い。中央に細長く大剝離面が残る。両側辺共に剝離は小さく、中央にのびない。右側辺の剝離は急角度に入っている。B面は右側辺からの剝離面が大きく1つ中央にあり、他の剝離は小さく中央にのびない。右側辺に沿ってステップ状を呈する。	先端部 扁平な菱形 基部 不整形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.46-12	S-09-0311 KQ64 第2層	(27.8) (17.6) 3.4 (1.6)		A-1 両面共中央にのびて切り合っている調整剝離を施した後に、細かな剝離を施しており、側辺は不揃いな鋸歯状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-13	S-09-0472 LD63 第2層	(30.1) (17.7) 3.4 (1.4)		A-1 A面の先端部から基部にかけて中央に細長く大剝離面が残る。両平面共に側辺はステップ状を呈し、さらに細かな調整剝離を施す。先端部は鋸歯状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-14	S-09-0155 KF68 第3層・黒色砂質土層下部	31.2 17.8 5.2 2.0		A-1 基辺は台形状に凹むが、逆刺は鈍い。剝離調整は全体に及び、B面中央に筋が通る。先端は磨滅する。	扁平な菱形	石鏃か 
PL.46-15	S-09-0612 JD68・69 黒色粘質土層	24.9 19.2 3.4 1.2		A-1 三角形形状。逆刺は鋭く、基辺の凹みは浅い。A面基部はステップ状を呈し、中央に大剝離面が残る。B面基部中央にも残る。A面右側辺とB面の先端部左側辺には細かな調整剝離が更に施される。	扁平な菱形	
PL.46-16	S-09-0425 MZ	24.5 13.5 4.7 1.3		A-1 逆刺は鈍く、基辺の凹みは浅い。A面の先端部に小さく大剝離面が残る。調整は粗く、中央の1点に側辺からの剝離が集まって山状になり最大厚を持つ。B面基部に大剝離面が残る。	三角形	
PL.46-17	S-09-1293 HY58 黒褐色土層	26.0 7.0 4.0 1.7		A-2 基辺の凹みは浅い。両側辺共に基部では、主軸とほぼ平行となっている。A面はステップ状を呈する。B面は右方に打点を持つ主要剝離面で周辺に剝離を施すが、B面もステップ状を呈する。先端部の両側辺は磨滅し、先端部B面は横方向に研磨される。	先端部 杏仁形 基部 不整形	石鏃か 
PL.46-18 PL.61-2	S-09-0259 MK59 黒色砂質土層	23.8 17.1 3.3 1.3		A-2 A面は調整面よりなり、ステップ状を呈する剝離が混在する。B面基部には、大剝離面が残る、右側辺には、ステップ状を呈する剝離が混在する。	先端部 三角形 基部 扁平な菱形	
PL.46-19 PL.61-3	S-09-0716 MK57 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	18.7 8.0 2.3 0.4		A-1 小型。先端は細く鋭い。側辺は中央に段を明瞭に持ち真直ぐにのびる。A面中央は大剝離面で、B面中央は左方に打点を持つ主要剝離面である。周辺に小さな調整剝離を施す。B面基部左側辺はステップ状を呈する。	先端部 扁平な菱形 基部 不整四辺形	
PL.46-20	S-09-0444 KZ 表採	21.3 14.6 3.3 0.9		A-1 両側辺は先端部で広がり、角をつくり、基辺にかけてやや内彎する。両面ともに調整面よりなる。	扁平な菱形	
PL.46-21	S-09-0460 LC60 第3層	35.1 17.5 5.3 2.5		A-2 基辺は屈曲して台形状に凹む。調整剝離は全体におよび両面共に筋が通るが、ステップ状を呈する剝離が混在する。A面左側辺沿いには、更に細かな調整剝離が施される。両側辺の逆刺部分は磨滅。	扁平な菱形	
PL.46-22 PL.61-4	S-09-0945 JU66 黒褐色土層	35.5 19.8 5.2 2.4		A-1 基辺は台形状に深く凹む。両面共に基部中央に大剝離面を残す。A面左側辺はステップ状を呈し、A面右側辺、B面両側辺にも混在する。	先端部 扁平な菱形 基部 扇形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.46-23	S-09-0611 JC68  黒色砂質土層	(27.7) (19.9) 5.0 (2.0)		A-1 先端は鈍い。A面基部右寄りに大剥離面残存。B面中央に筋が通る。B面の右側辺を除き、側辺にはステップ状を呈する剥離が混在する。	先端部 三角形 基部 扁平な菱形	
PL.46-24	S-09-0228 KU60  第3層・黒色砂質土層	(33.2) (18.1) 3.9 (2.1)		A-1 両平面共に左側辺には、ステップ状の剥離が混在する。A面基部中央に大剥離面残存。両平面共に右側辺のエッジには、更に細かな調整を施しており、両側辺は鋸歯状を呈する。A面の右寄りとB面中央に筋が通る。	扁平な菱形	
PL.46-25	S-09-0643 JA65 溝 (SF 079) 黄褐色粘質土層	(30.1) (20.5) 4.2 (1.7)		A-1 両側辺は、先端部に不明瞭な段を持ち、その上方は内彎しており、先端は細く鋭い。それより下方、基辺にかけて浅く内彎して下り、逆刺部は円くおさまる。その部分には、エッジに細かな調整が両平面共に施され、鋸歯状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-26	S-09-0681 JY58  整地層	25.3 17.9 4.0 1.6		A-2 B面基部中央に若干大剥離面が残る。A面は調整面よりなる。A面中央の剥離面の他はステップ状を呈する。両平面共、側辺沿いの小さい調整もステップ状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-27	S-09-0404 KX66 土坑 (SK 282) 第3層	(23.5) (21.3) 4.2 (1.7)		A-1 基辺は両平面共にステップ状を呈し、剥離は中央にのびない。A面は大きく打ち欠き、右側辺上半は深いステップ状を呈し、基部右に大剥離面が残る。B面は、右方に打点を持つ大剥離面。B面先端部左側辺を除き、両面両側辺沿いに小さな剥離を施す。両側辺は不揃いな鋸歯状を呈する。	三角形	
PL.46-28	S-09-0488 LC68  第2層	27.0 20.9 4.1 2.0		A-2 側辺は外彎して下り、基辺は中央で小さく凹む。A面中央には、右方に打点を持つ主要剥離面が残り、基辺は小さな剥離からなる。B面は自然面で、右側辺上半と左側辺のみ調整剥離を施す。	先端部 扁平な菱形 基部 不整形	
PL.46-29	S-09-1311  不明	25.3 16.1 5.0 1.7		A-2 A面は調整面よりなり、B面基部中央に大剥離面が残る。側辺は不揃いな鋸歯状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-30	S-09-0469 LF63  第2層	28.6 17.6 4.5 2.0		A-1 先端は鈍い。A面は調整面よりなり、中央に筋が通る。B面中央に大剥離面が残る。両平面共にステップ状を呈するものが混在する。両平面共に、更に右側辺沿いに小さな剥離を施すが、これはステップ状を呈する。	扁平な菱形	
PL.46-31	S-09-0373 MD61 溝 (SF 074) 褐色粘質土層	(19.8) 18.0 4.6 (1.3)		A-1 先端は鈍い。両平面共に剥離の多くはステップ状剥離面を呈し、中央に大剥離面残存。	扁平な菱形	
PL.46-32	S-09-1191 LY64 土城 (SJ 233)	21.3 16.1 2.7 0.8		A-1 両平面共に大剥離面よりなり、周辺に小さな剥離を施す。基辺の剥離は側辺に比べ小さい。	扁平な菱形	
PL.46-33	S-09-0229 KU60  第3層・黒色砂質土層	23.6 20.0 3.4 1.4		A-1 A面は主要剥離面でB面は大剥離面である。A面右側辺とB面の左側辺と基辺に調整剥離後に、両平面左側辺沿いとA面基辺沿いに急角度に入る細かな調整剥離を施す。	不整形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.46-34	S-09-0637 JC68・69  黒色粘質土層	(28.2) (19.4) 3.5 (1.3)		A-1 両平面共に基部中央に大剝離面が残る。A面右側辺はステップ状を呈し、他の側辺にも混在する。	扁平な菱形	
PL.46-35	S-09-0948 LO62  黒褐色土層	32.0 21.8 5.5 3.2		A-1 基辺の凹みは浅い。全体に調整剝離を施した後に両側辺沿いに細かな調整剝離を施す。両平面共に左側辺、基辺はステップ状を呈す。細かな調整もステップ状を呈す。	扁平な菱形	
PL.46-36	S-09-0946 LO58  黒褐色土層	39.9 21.6 4.0 2.6		A-1 縦長で薄い。先端部両側に段を持ち、先端は細く鋭い。その下方は開き気味に下り、逆刺部で円くおさまる。基辺は内彎する。両面共剝離調整後段より下方の側辺エッジに細かな鋸歯状剝離を施す。B面基部右寄りに大剝離面残存。	扁平な菱形	
PL.46-37	S-09-1327 IE70  黒色土層	(29.3) 21.0 3.9 (2.2)		A-1 縦長で薄い。側辺は直線的にのび、基辺の凹みは浅い。全体に調整剝離。両面共揃った剝離面よりなり、中央に錆が通る。更に側辺沿いに細かな調整剝離を施し、鋸歯状を呈す。	扁平な菱形	
PL.46-38	S-09-1252 JA56 第9号周溝基・3区 (SH128)	22.0 15.9 2.7 0.8		A-1 基辺の凹みは浅い。A面は主要剝離面で、B面は大剝離面。周辺に小さな調整剝離があらく施され、ステップ状を呈する剝離が混在する。	不整形	
PL.46-39	S-09-0463 LC61 土坑 (SK579) 第3層	23.7 13.4 3.2 0.9		A-1 基辺の凹みはごく浅く、平基気味である。A面基部中央に大剝離面が残る。B面は上方に打点をもつ主要剝離面で、周辺に小さな調整剝離を施す。	扁平な菱形	
PL.46-40	S-09-0984 LO58 溝 (SF430) 黒褐色土層	19.8 16.3 3.6 0.9		A-1 A面は左方に打点を持つ主要剝離面で、B面は右下方に打点を持つ大剝離面である。周辺に小さな剝離を施す。	平行四辺形状	
PL.46-41	S-09-1131 ML60  黒色土層	22.9 15.3 3.7 1.2		A-2 A面中央の右方に大剝離面が残る。B面は大剝離面で周辺に小さな剝離を施す。A面の剝離にはステップ状を呈するものが混在する。	扁平な菱形	
PL.46-42	S-09-1323  不明	30.5 (17.1) 4.8 (1.3)		A-1 側辺は真直にのび、逆刺は細長く鋭い。基辺は台形状に深く凹む。A面は右方に打点を持つ主要剝離面で周辺に小さな調整剝離を施す。B面基部中央に大剝離面が残る。先端部から基部にかけて、左側辺からのステップ状を呈する大きな剝離面がある。周辺には小さな調整剝離が施される。A面の剝離に比べ急角度に入る。	先端部 菱形 基部 不整形	
PL.46-43	S-09-0682 JY58  整地層	28.6 19.8 3.3 1.3		A-1 A面は、大剝離面で周辺に調整剝離を施す。左側辺の剝離と大剝離面とで錆をつくる。B面は主要剝離面で、周辺に剝離を施す。左側辺上半には剝離が施されていない。	扁平な菱形	
PL.46-44	S-09-0833 KX54  黒褐色土層	25.0 19.3 3.2 1.2		A-1 両平面共に基部中央に大剝離面が残る。A面基辺はステップ状を呈する。B面基辺には混在する。	先端部 三角形 基部 扁平な杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.46-45	S-09-1297  不明	30.2 20.7 4.0 1.7		A-1 両平面共に調整剥離は全体におよび、特にA面では整っている。両平面中央に竊が通る。左逆刺に比べ、右逆刺は鋭く長い。	扁平な菱形	
PL.46-46	S-09-0429 KZ	23.5 (11.0) 3.8 (0.6)		A-1 小型。先端は鋭い。基辺は半円に深く凹む。A面中央に竊が通る。両側辺共にステップ状を呈する剥離が多い。B面中央は大きくステップ状剥離面が残っており、先端部から中央にかけて薄く、基部には厚みあり。	先端部 三角形 基部 平行四辺形状	
PL.46-47	S-09-1003 MV50 溝 (SF 084) 最下層・褐色砂層	24.2 13.2 4.4 1.2		A-1 A面中央に竊が通る。厚味は、先端部にある。両面とも基部中央に小さく大剥離面残存。	扁平な菱形	
PL.46-48	S-09-0100 KJ67  第3層・黒色砂質土層	19.0 14.1 4.0 0.7		A-1 小型。大きさに比べ厚味を持つ。剥離は全体におよび両平面共に竊が通る。	菱形	
PL.46-49	S-09-0368 KU65  第3層・黒色砂質土層	(22.1) (17.9) 3.9 (1.1)		A-1 全体に剥離はおよぶが竊をつくらぬ。B面中央に大剥離面残存。	扁平な菱形	
PL.46-50	S-09-1123 KG62  第3層・褐色砂質土層	(22.5) 17.9 3.7 (1.4)		A-1 逆刺は円く、基辺は全体に小さな剥離を施すが、ふくらみを持つ。中央のみ小さく凹む。先端は鈍い。A面は主要剥離面で、B面は自然面である。側辺には小さな剥離が施され、部分的に鋸歯状を呈す。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な杏仁形	
PL.46-51	S-09-0088 KZ  第3層・暗褐色砂質土層	(22.6) 23.3 3.6 (1.6)		A-1 逆刺は横に張っており、鈍い。A面の剥離にはステップ状を呈するものが混在する。B面は大剥離面で周辺に小さな調整剥離。	三角形状	
PL.46-52	S-09-0552 JW63  第4層・褐色粘土層	32.0 16.7 5.7 2.0		A-2 両平面共に中央に竊が通る。B面右側辺、基辺はステップ状を呈する。A面の両側辺には混在する。	扁平な菱形	
PL.46-53	S-09-0428 KZ	(28.2) 15.9 5.2 (1.6)		A-1 幅に比べて厚味を持つ。両平面共に先端部中央に竊が通る。側辺にはステップ状を呈する剥離が若干混在する。B面基部中央に小さく大剥離面残存。	菱形	
PL.46-54	S-09-0815 KT54  黒褐色土層	29.1 20.2 6.1 2.7		A-1 A面の基部は大剥離面で、調整剥離はほとんど施さず、浅く凹み、平基ぎみである。左側辺下半はステップ状を呈し、基部中央に厚味を持つ。B面は右方に打点をもつ主要剥離面で側辺に剥離を施す。基辺には小さな急角度に入る剥離を施す。	扇形	
PL.46-55	S-09-1185 IJ66  礫混黒褐色土層	(24.0) 22.4 2.9 (1.4)		A-1 薄味で幅のあるもの。基辺は内彎する。A面基部中央はステップ状を呈し、基部中央の左に小さく大剥離面が残る。B面の両側辺は中央でステップ状を呈し、中央部に左方に打点をもつ主要剥離面が残る。両平面共に、側辺には更に細かな剥離を施しており、A面左側辺下半は細かな鋸歯状を呈する。	扁平な菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.46--56	S-09-0671 JQ58  整地層	(24.5) 25.4 4.7 (1.8)	A-1 薄味で幅のあるもの。逆刺は鋭い。側辺は基部で横に広がりながら外彎する。基底は内彎する。ステップ状を呈する剝離が混在するが、両面とも調整面よりなり更に側辺沿いに細かな調整を施す。	扁平な菱形		
	S-09-0007  不明	22.3 18.3 4.2 1.3	A-1 先端は鈍い。基底はV字形状に浅く凹む。左右の逆刺にバランスがとれていない。全体に調整剝離がおよんでいる。	扁平な菱形		
	S-09-0011 HR66  第3層	26.0 12.6 6.2 2.4	A-1 先端は円い。厚味があり、棒状。基底は平基ぎみ。A面中央に竊が通る。両平面の両側辺共にステップ状を呈する。B面基部中央に、大剝離面が残る。	先端部 三角形 基部 扇形		石鏃か
	S-09-0023 KT・KU64・65  第3層下・第4層上	(27.2) 14.8 5.7 (2.2)	A-2 右逆刺に比べ左逆刺は鋭く長い。幅に比べやや厚味を持つ。A面中央に自然面が小さく残る。B面中央には縦長に主要剝離面が残る。若干ステップ状を呈する剝離が混在する。	先端部 扁平な菱形 基部 六角形		
	S-09-0026 MZ	(19.9) 16.3 3.8 (1.1)	A-1 側辺は先端部では直線的にのび、基部ではふくらみをもつ。両平面共に中央に竊が通る。基底は半円に凹み、逆刺は鋭い。	扁平な菱形		
	S-09-0034 MP62  灰褐色砂礫層	(18.0) (17.8) 5.4 (1.9)	A-2 基底の凹みは浅い。両面とも調整面よりなり、A面右側辺とB面基底はステップ状を呈する。	扁平な菱形		
	S-09-0035 KU66  第4層下面	(22.4) 15.9 5.3 (1.5)	A-1 やや細身。基底は内彎し、逆刺は鈍い。両面とも調整面よりなり、竊が通る。A面右側辺はステップ状を呈し、他の側辺にも混在する。	菱形		
	S-09-0052 KN66  第4層・茶褐色砂質土層	(28.2) 20.6 5.3 (2.6)	A-1 逆刺は丸く、基底は中央で内彎する。先端は突出する。A面中央に自然面。B面中央部左寄りに、主要剝離面が残る。周辺の剝離はあらく、凸凹が大きい。B面右側辺下半には、剝離は施されず。	扁平な菱形		
	S-09-0071 KJ64  第3層・暗褐色砂質土層	(27.7) 16.3 5.4 (3.1)	A-1 縦長で、基部に最大幅を持つ。逆刺は鈍く、基底は浅く凹む。A面の中央から基部に左方に打点を持つ主要剝離面が残り、右側辺はステップ状を呈する。B面は全体に剝離がおよぶが、竊は通らず。	杏仁形		
	S-09-0117 KD67  第3層・茶褐色砂質土層	(26.9) 18.9 5.4 (2.5)	A-2 A面基部には左方に打点を持つ主要剝離面が残る。A面上半とB面に竊が通る。A面右側辺とB面基底はステップ状を呈する。	扁平な菱形		
	S-09-0129  不明	(29.3) (16.3) 3.5 (1.6)	A-1 先端は鈍く、丸みを持つ。逆刺は鋭く、基底は深く凹む。右逆刺は長い。A面先端部には竊が通り、両側辺は基部でステップ状を呈し、中央に主要剝離面が残る。基底の剝離はステップ状を呈する。B面は大剝離面と自然面で周辺に剝離を施す。先端部に最大厚があり、基部は薄い。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な杏仁形		

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0162 KL66 第3層	(30.2) 17.6 4.1 (1.9)		A-1 側辺は基部で円くふくらみ、基辺は中央で内彎する。逆刺は円い。全体に剝離がおよぶが明瞭な鏃をつくらない。A面の両側辺にはステップ状を呈する剝離が混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0166 KH68 第3層・黒色砂質土層	22.3 17.1 4.3 1.7		A-2 逆刺は鈍く、基辺の凹みは浅い。右方に厚く左方に薄い。A面は右下方に打点を持つ大剝離面で、周辺に小さな急角度に入る調整剝離。B面は左下方に打点を持つ主要剝離面で、調整剝離は施されず。	台形	片面加工 
	S-09-0170 KL65 第3層・褐色砂質土層	(27.8) (18.3) 3.9 (2.1)		A-2 A面中央に左上方に打点を持つ主要剝離面が残る、B面中央には右方に打点をもつ大剝離面が残る。両平面共に側辺はステップ状を呈する。	扁平な杏仁形	
	S-09-0177 KX58 第3層	(23.5) 18.5 5.0 (2.4)		A-1 基辺の凹みは浅い。両平面共に中央に大剝離面が残る。B面右側辺はステップ状を呈し、両平面の左側辺にも混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0194 KP67	(19.2) 17.5 4.6 (1.4)		A-1 逆刺は鈍く、基辺は台形状に凹む。A面は主要剝離面、B面は大剝離面である。基部側辺と基辺は、両平面より小さな剝離が施されるが、先端部は、右側辺のみに急角度に入る剝離を施す。	先端部 平行四辺形 基部 六角形	
	S-09-0202 KT60 第3層・黒色砂質土層	(27.3) (14.6) 5.4 (2.0)		A-1 逆刺は左右不揃いで右逆刺が長く鋭い。A面中央に大剝離面が残る、右側辺の剝離と明瞭な稜を作る。B面中央には鏃が通り、右側辺はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0216 MK63 黒褐色礫混合土層	(27.6) (14.8) 3.5 (1.2)		A-1 先端部は細身であるが、先端は鈍く、円味を持つ。A面基部中央に大剝離面が残る。A面側辺はステップ状を呈し、B面両側辺には混在する。先端部では両平面共に左側辺のみに急角度に入る。細かな剝離が施される。その部分のエッジは磨滅。	先端部 平行四辺形 基部 扁平な菱形	石鏃か 
	S-09-0224 Z 黒褐色礫混合土層	18.9 13.7 4.7 1.1		A-1 小型。厚みあり。A面中央に縦に長く大剝離面が残る。両側辺、基辺共にステップ状を呈する。B面は下方に打点を持つ主要剝離面で、急角度に入る小さな剝離が周辺に施され、ステップ状を呈する。	台形状六角形	
	S-09-0236 KV61 土坑 (SK 420) 第3層・黒色砂質土層	(24.4) (17.5) 3.2 (1.6)		A-1 逆刺は鋭く明瞭で、基辺は内彎する。薄手。両面とも大剝離面よりなり、周辺より調整剝離。	半弧状	
	S-09-0250 KT62 第2層・黒色砂質土層	(32.0) (24.2) 5.5 (2.6)		A-1 逆刺は鈍い。基辺は浅く凹む。A面中央に鏃が通る。基部の右逆刺部分に主要剝離面が小さく残る。B面基部中央から左逆刺にかけてと右逆刺の一部分に自然面が残る。右側辺はステップ状を呈する。他の辺にも混在する。	先端部 三角形 基部 扁平な菱形	
	S-09-0290 KH69 第3層・黒色砂質土層・Pit25	(30.6) 21.4 4.6 (2.6)		A-1 両側辺は先端部で段をなし、先端は鋭い。中央で浅く凹む。逆刺は明瞭で、基辺は内彎する。A面中央に鏃が通る。B面は左半に大きく大剝離面が残る。右側辺はステップ状を呈し、右寄りに大剝離面と稜を持つ。左側辺には、小さな剝離を施す。基辺は両面共に剝離を施した後、更に細かな剝離が施される。	不整四辺形	

( ) は残存部分の法量である。

石 鉄

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0350 MH57 溝 (SF 074) 青褐色砂層	(25.7) (14.8) 4.0 (1.3)		A-1 左側辺は縦方向に剝離欠損。全体に剝離はおよぶが、錆はつからない。B面左側辺には、ステップ状を呈する小さな剝離が2つあり、その部分の側辺は凹む。表面は磨滅。	不整四辺形	
	S-09-0355  表採	(20.2) (14.5) 4.6 (1.3)		A-1 A面中央に主要剝離面、B面中央に大剝離面が残る。A面左側辺はステップ状を呈し、主要剝離面と稜をつくる。B面基辺もステップ状を呈する。	不整四辺形	
	S-09-0395 LB65 土坑 (SK 284) 第3層	(23.7) (15.9) 3.9 (1.3)		A-1 薄身。全体に剝離はおよぶが、明瞭な錆はつからない。両平面共にステップ状を呈する剝離が混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0403 KX62  第3層・Pit	20.1 17.0 4.7 1.5		A-1 先端は鈍く、円味を持つ。全体に剝離がおよび、両平面共に不明瞭であるが、錆が通る。両平面共にステップ状を呈する剝離が混在する。右側辺の中央には、上方から剝離された面が残存。	不整五角形	
	S-09-0408 KZ  第3層	31.4 22.0 4.8 2.2		A-1 側辺の凹凸が大きい。基辺の凹みは浅い。左右の逆刺は、つり合っていない。A面中央に錆が通る。左側辺はステップ状を呈する。B面中央に大剝離面が小さく残る。	扇形	
	S-09-0410 Z  第3層・Pit	(23.2) (15.3) 3.7 (0.9)		A-1 側辺中央でごく浅く凹む。先端は鈍い。全体に調整剝離はおよぶが、錆はつからない。A面右側辺とB面左側辺はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0411 Z  第3層・Pit	24.5 20.1 5.0 (2.2)		A-2 逆刺は鈍い。両側辺共に外彎状に円弧を描く。A面基部右寄りに大剝離面、右側辺にステップ状を呈する剝離が多く混在する。B面は大剝離面で周辺に剝離を施すが、逆刺部にはほとんど施さず。右側辺上半と基辺はステップ状を呈する。	先端部 扁平な菱形 基部 扇形	
	S-09-0422 KZ	(30.9) (21.2) 4.7 (2.2)		A-1 逆刺は鋭く明瞭。A面全体に剝離がおよぶが、ほとんどステップ状を呈する。B面中央に大剝離面が残る。B面の剝離もほとんどステップ状を呈す。A面左側辺は上方より剝離欠損する。		
	S-09-0431 KZ	22.5 16.6 3.2 1.3		A-1 先端部は細く厚味がある。A面中央まで基辺の剝離がのびる。両側辺の剝離は小さく、急角度に入る。基辺には更に細かな剝離が施され、ステップ状を呈する。B面は全体に剝離がおよんでいるが、ステップ状を呈する剝離が多い。先端のエッジは磨滅。	先端部 菱形 基部 台形状	石錐か 
	S-09-0445 KZ	(25.4) 18.0 5.2 (1.9)		A-1 先端部は細く厚味がある。基辺は平坦で逆刺部分が斜下方に突出する。右逆刺が大きい。B面基部中央に大剝離面が残る。両面共に側辺は、ステップ状を呈し、先端部では急角度に入る。	先端部 菱形 基部 扁平な菱形	
	S-09-0449  表採	(20.0) (15.4) 3.4 (0.9)		A-1 やや薄手。逆刺は鋭い。基辺は大きく内彎する。全体に剝離がおよぶが、A面右側辺はステップ状を呈する。	扁平な菱形	

( )は残存部分の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 層位	法量 (cm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0464 LD60  第3層	31.4 (13.8) 5.4 (1.5)		A-1 幅狭で鋭い。逆刺は鋭く、基辺は台形状に深く凹む。A面基部中央にまで、基辺の剝離がおよんでいる。A面先端部に竊が通る。B面の右側辺下半はステップ状を呈し、基部中央に前剝離面が残る。先端部に竊は通らず、やや右寄りに稜をつくる。	先端部 不整四辺形 基部 六角形状	
	S-09-0485 MB59 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	28.3 16.3 3.8 1.5		A-1 逆刺は鈍く、両側辺は形が整っていない。A面は右やや下方に打点を打つ大剝離面で周辺を小さく調整剝離。右側辺下半はステップ状を呈する。B面は下方に打点を持つ主要剝離面で基部中央に打痕裂痕を残す。周辺を小さく剝離するが、基部右側辺には施さず。	六角形	
	S-09-0514  不明	(23.8) 17.4 4.8 (1.6)		A-1 先端部は細く厚味がある。逆刺は鈍い。両平面共に剝離は全体におよぶが、A面両側辺、B面右側辺にはステップ状を呈する剝離が多い。	先端部 菱形 基部 扁平な菱形	
	S-09-0525 MZ	(29.6) (19.3) 5.1 (1.7)		A-1 側辺は先端で角を持ち、そこよりほぼ平行にのび、基部で屈曲して広がる。逆刺は大きく明瞭である。両平面共に中央に竊が通り、基部中央で両逆刺よりのびる稜と一点に交わる。B面はほぼ平坦な面で、A面は両側辺共中央でステップ状を呈し、厚みを残すが、先端部は剝離が中央にのび薄くなる。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な菱形	
	S-09-0546 MC60 溝 (SF 075) 黒色砂質土層	(30.4) (19.1) 3.6 (1.6)		A-1 幅広で薄身。側辺は先端部で段を持ち基辺にかけ直線。逆刺は外方へ突出する。基辺は内彎する。A面は両側辺共に幾重にもステップ状を呈する。B面の左半は大きな剝離面で、基部右方に大剝離面があり、周辺に小さな剝離を施す。	先端部 扁平な菱形 基部 菱形	
	S-09-0549 MC60 溝 (SF 075) 第1層・耕土・床土層	(25.8) 15.5 5.0 (1.8)		A-1 A面中央に竊が通る。B面中央に大剝離面が残る。側辺にステップ状を呈する剝離が若干混在する。	先端部 扁平な菱形 基部 五角形状	
	S-09-0555 IV66  第3層・整地面	(29.1) (19.0) 4.0 (1.5)		A-1 逆刺は明瞭、基辺は三角形形状に凹む。全体に剝離がおよぶが竊は持たない。A面右側辺は、ステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0657 JC68  黒色砂質土層	(25.5) (25.1) 5.4 (2.6)		A-1 逆刺は明瞭。基辺は内彎する。薄身の大型品。A面は逆刺の中央に稜が通り、基部中央で交わる。両面とも揃った調整面よりなり、B面にはステップ状を呈する剝離が混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0667 MF50  黒褐色礫混土層	(23.4) (14.4) 3.7 (0.9)		A-1 側辺は先端部で角をなし、中央部でごく浅く凹む。逆刺は鈍く、基辺は浅く凹む。剝離は全面におよぶ。A面右側辺中央と基辺はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0683 JY58  整地層	(24.9) (17.0) 4.2 (1.3)		A-1 逆刺は明瞭であるが鈍い。右逆刺が長い。基辺は三角形形状に深く凹む。A面中央には竊が通り、基部中央で逆刺中央を通る稜と交わる。右側辺先端は上方から剝離欠損。先端の欠損部は若干磨滅する。	扁平な菱形	
	S-09-0702 JQ54  整地層	(37.1) 18.9 5.0 (2.8)		A-2 縦長の形態で、側辺は中央でわずかに凹み、基部でふくらむ。逆刺は鈍いが、明瞭で下方をむく。基辺は内彎する。両平面共に中央にやや不明瞭であるが、竊が通る。B面左側辺の中央は、ステップ状を呈する打ち欠きで、大きく凹む。	扁平な菱形	

( )は残存部分の法量である。

## 石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0703 KP54  整地層	(20.0) (14.1) 4.8 (1.6)		A-2 小型品。調整はあらく、形は整っていない。先端は鈍くやや平坦である。A面は大剝離面で、先端部に小さく、自然面を残す。B面は主要剝離面で、両面共周辺に小さく急角度に入る剝離を施す。	台形状	先端に回転痕あり。 
	S-09-0727 LX54  整地層	(18.6) 22.2 5.1 (2.2)		A-1 逆刺は鈍い。基辺の凹みは浅い。幅があり、薄手の大型品。A面基部中央に大剝離面が残るが、側辺の剝離は整っている。B面は大きくステップ状剝離を施し、更に細かな剝離を施す。B面中央に大剝離面残存。	扁平な六角形	
	S-09-0738 J166  床土層・整地面	(23.8) 17.0 4.8 (1.8)		A-1 基辺は浅く凹み、平基ぎみ。平面は二等辺三角形を呈する。両平面共に剝離は全体におよぶが、錆は作らず、A面左側辺はステップ状を呈し、B面右側辺にも混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0753 KG67 炉跡 (SD 549)	19.2 (17.1) 4.8 (1.0)		A-1 小型品。基辺は浅く凹む。右逆刺は細く長い。平面は正三角形に近い。A面右側辺とB面両側辺はステップ状を呈し、B面基辺沿いは、細かく剝離されるがステップ状を呈する。B面中央に大剝離面がわずかに残存。	扁平な菱形	
	S-09-0788  表採	(28.6) 22.2 6.1 (2.8)		A-1 左逆刺は鈍く、平基の逆刺とかわらないが、基辺の凹みは右方に片寄る。右逆刺は明瞭である。A面の中央には錆が通る。基部はステップ状を呈し、基部中央に大剝離面が残る。B面にはステップ状を呈する剝離が混在する。全体に剝離面は大きい。	扁平な菱形	
	S-09-0789  表採	(27.8) 19.2 5.1 (2.5)		A-2 側辺は逆刺部で若干すぼまる。基辺は三角形に凹み、二辺はやや外彎する。両面は全体に剝離がおよぶ。ステップ状を呈する剝離が混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0807 ME50 溝 (SF 085) 灰褐色礫土層	(32.0) (15.4) 4.2 (1.6)		A-1 先端部はやや細身で基部で広がる。逆刺は鈍いが明瞭。全体に剝離はおよぶ。A面左側辺はステップ状を呈し、B面左側辺には多く混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0809 KX54 第6号住居址 (SA 006) Pit25	(21.7) (19.3) 4.2 (1.7)		A-1 逆刺は鋭く、基辺は台形状に凹む。A面中央に錆が通る。B面右側辺はステップ状を呈し、A面基辺には混在する。B面基部中央に大剝離面が小さく残る。	扁平な菱形	
	S-09-0830  不明	(19.2) 16.0 2.9 (1.0)		A-1 小型品。A面は左方に打点を持つ主要剝離面で、周辺に急角度に入る小さな剝離を施す。基辺の凹みは浅く、右逆刺は平基と変らない。B面は大剝離面で右側辺と基辺にはA面同様の剝離を施し、左側辺の剝離は小さいが急角度に入らず。	扁平な六角形	
	S-09-0850 J162  茶褐色土層	(22.3) (15.8) 4.3 (1.2)		A-1 基辺は半円状に凹み、逆刺は鋭い。両側辺共に鋸歯状を呈す。A面右側辺はステップ状を呈し、中央に大剝離面が細長く残る。B面中央に錆が通る。B面は側辺、基辺にステップ状を呈する剝離が多く混在する。	扁平な菱形	
	S-09-0888 KT58  Pit55	(22.4) (17.4) 3.9 (1.4)		A-1 全体に調整剝離は粗い。基辺は浅く凹む。A面中央に大剝離面が残る。両面共に側辺にはステップ状を呈する剝離が多く混在する。	扁平な菱形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0892 KP54 1号土城	(27.8) 18.5 4.9 (2.0)		A-1 先端部は細身。基部に段をもち幅広くなる。先端は鈍く丸味を持つ。逆刺は鈍く、左右非対称。両面基部中央に大剝離面が残り、主軸はB面側に彎曲する。先端部は両平面共に中央に稜線があるが、A面には先端より剝離があり、先端に至らない。両平面共に側辺にはステップ状を呈する剝離が混在する。	先端部 菱形 基部 台形状	石鏃か 
	S-09-0934 MZ	(29.7) (14.8) 4.0 (1.8)		A-1 薄手。幅狭の大型品。側辺は基部までほぼ平行で、基部で外下方へ下る。基底は浅く凹む。両面共に剝離は全体におよびA面中央に鏃が通る。	扁平な菱形	
	S-09-0958 L058  黒褐色土層	(24.6) (14.8) 3.8 (1.5)		A-1 幅狭。側辺は直線的。基底は半円状に凹む。全体に剝離はおよぶが、鏃はつくりず。B面にステップ状を呈する剝離が多く混在する。	先端部 三角形 基部 扁平な菱形	
	S-09-0980 LZ  揚土・表採	(30.2) (18.3) 6.0 (2.7)		A-1 S-09-0444と同一形態。両面共両側辺と基底より調整剝離。A面では中央に鏃が通る。A面左側辺はステップ状を呈し、基部中央にわずかに大剝離面残存。B面は基底中央に打点をもつ主要剝離面である。	三角形	
	S-09-1127 KM64  第3層・褐色砂質土層	27.9 18.7 4.9 2.1		A-2 調整剝離は粗い。左右非対称。左方に厚く右方に薄い。基底の凹みは浅く、逆刺は鈍い。A面は主要剝離面で、左側辺に急角度に入る小さな剝離、右側辺に細かな剝離を施す。両側辺共にステップ状を呈する。B面は右方に打点を持つ大剝離面で右側辺と基底に剝離を施すが左側辺には施さず。A面右側辺は元の剝片の縁に近い。	先端部 三角形 基部 扁平な五角形	
	S-09-1129 ML61  黒色土層	(20.6) 13.6 3.5 (0.7)		A-1 両面共調整面よりなる。A面中央に鏃が通る。B面右側辺の中央はステップ状を呈する。基底は斜基ぎみである。	扁平な菱形	
	S-09-1136  不明	(23.4) (17.9) 4.4 (1.8)		A-1 逆刺は鈍く、基底の凹みも浅い。側辺は若干ふくらむ。A面基部はステップ状を呈し、厚みが残る。B面基底の剝離は急角度に入り、ステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-1137  不明	(21.3) (13.1) 2.6 (0.7)		A-1 先端と右逆刺は鋭い。左逆刺は斜下方に大きく突出しており、左右の逆刺はアンバランス。A面基部中央に大剝離面が残る。左側辺中央はステップ状を呈する。B面は大剝離面で周辺に小さな剝離を施す。ステップ状を呈する。	扁平な杏仁形	
	S-09-1144 MO62 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(34.1) 22.1 5.6 (4.1)		A-2 側辺は基端でややすぼまり、逆刺は鈍い。A面の剝離は大きい、全体に整っている。B面には両側辺共にステップ状を呈し、中央に大剝離面を残す。更に側辺沿いに細かな調整を施す。	扁平な菱形	
	S-09-1307 KG68 土坑 (SK 551) 第3層	(19.0) 20.0  (1.2)		A-2 基底は、台形に凹む。右逆刺に比べ左逆刺が大きい。側辺は、鋸歯状に近い。A面基部中央はステップ状を呈する。B面は大剝離面で周辺に小さな剝離を施す。基底の左逆刺部分は折れ面で左右の逆刺の大きさの違いとなっている。	扁平な三角形	
	S-09-1312  不明	(18.6) 19.1 3.4 (1.0)		A-1 側辺は、先端部で段をもち、その上方は緩く傾斜して先端に至る。先端は幅広いが鋭い。基部では外下方へ外彎して下る。基底は三角形に凹む。逆刺は鋭く明瞭。両面共基部中央に大剝離面が残る。	扁平な三角形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1318  不明	(23.3) 19.6 3.3 (1.1)		A-1 基辺は半円状に凹む。逆刺は明瞭で大きいが鈍い。両平面共に逆刺の中央に稜が通り、基部中央で交わる。全体に調整がおよんでいる。A面にステップ状を呈する剝離が多い。	扁平な菱形	S-09-0444と同一形態。 
	S-09-1353  不明	(32.2) 19.5 6.3 (3.7)		A-1 逆刺は鋭く明瞭で、基辺は三角形状に凹む。両平面共に鋸が通り、逆刺中央の稜と基部中央で交わる。側辺、基辺共にステップ状を呈する剝離が混在する。A面左側辺の中央は浅く凹み、ステップ状を呈している。	菱形	
	S-09-1365  不明	(26.3) (14.9) 3.9 (1.5)		A-1 A面は左方に打点を持つ主要剝離面でB面は大剝離面である。両平面共に周辺に急角度に入る小さな剝離を施す。基辺の作りはあらく、逆刺は不明瞭で基辺の凹みも浅い。A面右側辺にステップ状を呈する剝離が混在する。	六角形状	
PL.47-1	S-09-0369 KH65  黒色砂質土層・Pit21	(18.3) 15.8 3.2 (0.7)		B-1 A面基部に左下方に打点を持つ大剝離面が残る。右側辺、基辺に細かな調整が更に施される。B面は調整面よりなる。	扁平な菱形	
PL.47-2	S-09-0466 LC61 土坑 (SK 579)	(21.6) 17.2 4.0 (1.1)		B-1 A面基部右寄りに大剝離面が残る。両側辺共に剝離は中央にのび筋をつくる。両側辺沿いはステップ状を呈する。右逆刺には調整剝離を施さず。B面は右側辺、先端部左側辺は調整剝離。基部には右上方に打点を持つ大剝離面が残る。先端部左側辺はステップ状を呈し、基部は未調整。基辺は大剝離面に小さな剝離を施して整えている。	先端部 菱形 基部 三角形	
PL.47-3	S-09-0386  表採	18.6 10.4 3.3 0.6		B-1 側辺中央で段をもつ。基辺は斜基を呈する。A面の先端部中央に自然面が残存する。両側辺共にステップ状を呈す。基辺は大きく剝離した後小さく調整剝離。B面には右方に打点を持つ大剝離面が右側に大きく残り、右側辺は未調整。	扇形	
PL.47-4	S-09-1095 JDZ  褐色礫混合土層	(20.0) 12.6 2.9 (0.9)		B-1 A面は左上方に打点をもつ大剝離面。B面は下方に打点を持つ主要剝離面よりなり、調整剝離は両面共に周辺にとどまる。逆刺は鈍い。逆刺のエッジは磨滅する。	扁平な六角形	
PL.47-5	S-09-1421  表採	(19.9) (14.6) 2.9 (1.0)		B-1 両面共に調整面よりなるが、不揃いで、B面基辺はステップ状を呈する。	扁平な杏仁形	
PL.47-6	S-09-0963 JQ64 溝 (SF 081) 黒色土層	(21.2) 16.0 3.3 (1.1)		B-1 基辺は斜基である。A面の中央左寄りに左方に打点を持つ大剝離面、B面基部中央に左上方に打点を持つ主要剝離面が残る。両面共に右側辺はステップ状を呈し、左側辺には混在する。	台形状	
PL.47-7	S-09-1242 IX58 溝 (SF 080) 最上層・黒褐色粘質土層	21.5 19.8 4.1 1.5		B-1 幅広くうすい。側辺はやや外彎する。先端に薄く、基辺に厚い。横軸でB面側に彎曲。A面は下方に打点を持つ主要剝離面、B面は右方に打点を持つ大剝離面よりなる。調整剝離は周辺にとどまり、両側辺共に鋸歯状を呈す。	扁平形	
PL.47-8	S-09-0535 KB63  第3層・灰黒色砂質土層	(24.3) 17.5 4.0 (1.6)		B-1 側辺は基辺近くで、若干すぼまり、逆刺は鈍い。両面とも調整面よりなる。A面は両側辺よりのび中央で切りあう剝離面よりなる。B面は右側辺下半を除きステップ状を呈する。全体に剝離は不揃いである。	扁平な菱形	

( )は残存部分の法量である。


図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.47-9	S-09-0055 MN 61  黒褐色礫混合土層	(23.4) 11.4 4.8 (1.4)		B-2 比較的小型。厚みあり。A面は主軸方向に凸面で、中央に最大厚を持つ。中央に大剝離面が残る。基辺は中央に至る剝離を施した後、細かく調整剝離。B面は基端左寄りに大剝離面が小さく残る。主軸方向にはほぼ平坦である。左側辺と基辺はステップ状を呈す。	先端部 菱形 基部 六角形	
PL.47-10	S-09-0436 JC63  第2層・黒褐色土層	25.7 10.8 4.3 1.3		B-2 全体にあらいつくり。A面は両側辺より数度の大きな剝離を加えた後に、周辺に小さな剝離を施す。基辺はステップ状を呈する。B面は右逆刺に打点を持つ主要剝離面よりなり、右側辺のみにあらく小さな剝離を施す。	三角形	
PL.47-11	S-09-0906 KD54  黒褐色土層	24.4 11.8 3.7 1.1		B-2 両面共調整剝離後、両側辺にさらに細かな調整を施す。右側辺の中央と左側辺は鋸歯状を呈する。右側辺の下方はステップ状を呈し、前調整面が残る。	扁平な菱形	
PL.47-12	S-09-0204 KT62  第2層・黒褐色砂質土層	(25.8) 13.3 3.6 (1.4)		B-2 A面中央に細長く大剝離面が残り、基辺は未調整。B面は調整面よりなる。	扁平な菱形	
PL.47-13	S-09-0396  表採	26.0 14.6 3.2 1.2		B-2 A面は左側辺より大きく剝離し、剝離面は右方へのびる。基端部中央に大剝離面残存。周辺には細かな調整剝離。B面も大きく剝離した後に周辺に細かな調整剝離。B面左下部に小さく大剝離面が残る、その部分の左側辺はステップ状を呈する。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な杏仁形	
PL.47-14	S-09-0840 MI55  整地面	(24.8) 13.8 2.8 (1.0)		B-1 幅狭。先端から左側辺の中ごろにかけて縦長に剝離欠損。周辺のエッジは磨滅。A面基部には左上方に打点を持つ大剝離面が残る、基辺はほとんど調整されず。B面も基辺から中央にかけて、右方に打点を持つ大剝離面が残る。左側辺は長さのそろった調整。右側辺の調整はあらい。基辺は細かな調整剝離。	扁平な菱形	
PL.47-15	S-09-1091 IY67 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	36.1 16.4 6.1 3.6		B-2 A面周辺より、B面両側辺より調整剝離。両面共基部中央に小さく大剝離面残存。A面基部周辺、B面右側辺はステップ状を呈する。	扁平な菱形	
PL.47-16	S-09-0477 MZ 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	31.3 13.6 3.6 1.6		B-2 長軸はB面へ彎曲する。A面先端部左側に左方に打点を持つ大剝離面が残る。左側辺の剝離は小さい。右側辺の剝離はやや大きく、大剝離面と左側に彎曲する稜をつくる。B面は右やや下方に打点を持つ主要剝離面で周辺に小さな調整剝離。	不整三角形	
PL.47-17	S-09-0313 MJ62  黒褐色礫混合土層	27.4 15.2 3.9 1.6		B-1 逆刺は鈍く基辺近くでややすぼまる。両面とも丁寧な調整剝離。A面基部中央に大剝離面を残す。B面左側辺上半はステップ状を呈する。更に両側辺のエッジに細かな調整を施し、鋸歯状を呈す。	扁平な菱形	
PL.47-18	S-09-0016 GU56  第2層・茶褐色粘質土層	(31.4) 16.1 3.2 1.6		B-1 幅狭で薄身。左逆刺はやや下方へ突出気味。両面とも調整面よりなる。押圧剝離が施され、更に両側辺のエッジに細かな調整剝離を施し鋸歯状を呈す。	扁平な菱形	
PL.47-19	S-09-0098 KI66  第3層・黒色砂質土層	(22.4) 14.0 3.4 (1.3)		B-1 逆刺は斜下方向に突出するが先端は鈍い。両平面共に、基部に大剝離面が残る。A面左側辺とB面両側辺はステップ状を呈する。B面側辺沿いに後に細かな剝離調整。基辺は両面共大剝離面に細かな調整剝離を施す。	扁平な菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏝

図版番号	造 構 名	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
PL.47-20	S-09-0693 JY58  整地層	(27.7) 14.8 4.9 (1.9)		B-1 両側辺より中央にのびる調整剝離後に、A面両側辺、B面周辺に細かな調整剝離。鋸歯状を呈する。A面中央に筋が通る。	扁平な菱形	
PL.47-21	S-09-0226  不明	(22.6) (21.9) 3.8 (1.8)		B-1 側辺は基部で外方へ開く。左逆刺は下方に突出する。右方に厚く左方にうすい。A面中央には、右上方に打点を持つ主要剝離面が残る。B面基部中央に三角形形状に、下方左寄りに打点を持つ大剝離面が大きく残る。	先端部 扁平な菱形 基部 不整形	
PL.47-22	S-09-0491 MD61 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	(31.4) 18.1 4.8 (2.0)		B-1 幅狭。両面とも調整面よりなる。A面先端部右側辺の剝離は左側辺にまでのびている。基辺はステップ状を呈する。B面中央に筋が通る。先端は鈍い。	菱形	
PL.47-23	S-09-0006  不明	28.1 16.2 5.7 2.1		B-1 厚味のあるもの。両面とも調整面よりなる。A面中央に筋が通るが、右側辺からの剝離で先端部はうすくなっており、この部分に筋はない。周辺のエッジ、両面の稜線は丸く磨滅。	扁平な菱形	
PL.47-24	S-09-0175  不明	30.0 (16.8) 4.3 (1.8)		B-1 側辺は中央でふくらみ、一旦、すぼまった後に逆刺部分で広がる。先端部では側辺の傾斜は緩いが先端は鋭い。A面は中高で筋が通り、B面は平坦に近い。両面とも比較的丁寧な調整剝離。A面基辺はステップ状を呈する。B面基部中央に大剝離面が残る。	扇形	
PL.47-25	S-09-0057 KN66  第4層・茶褐色砂質土層	26.3 21.2 5.1 2.3		B-1 側辺は、先端部で角を持ち、中央でわずかに凹む。両面共三辺より調整剝離。B面基部中央に大剝離面残存。先端はA面のみ側辺沿いに急角度に入る細かな調整を施す。	扁平な菱形	
PL.47-26	S-09-0863 JQ66  褐色土層	33.4 14.5 5.8 (2.6)		B-2 先端は突出し鋭い。両面共三辺より調整剝離。A面基部はステップ状を呈し、中央に厚みを残す。B面基部中央に縦長に右上方に打点を持つ大剝離面が残り、その部分の側辺はステップ状を呈する。基辺は両面共細かい調整剝離が施され、やや外彎気味。	先端部 菱形 基部 六角形状	
PL.47-27 PL.61-5	S-09-0344 KW66  第2層	(35.9) 14.5 3.9 (1.8)		B-2 幅狭で薄身。両面ともうすく丁寧な調整剝離。中央にのびる剝離を施した後に、側辺に細かな調整剝離を施す。B面左側辺に沿ってステップ状を呈する。	扁平な菱形	
PL.47-28	S-09-1236 IS66 溝 (SF 080) 第2層・炭混黒色土層	(36.6) 12.1 5.6 (2.2)		B-2 幅狭。中央で切り合う調整剝離をした後に部分的に細かな調整剝離を施し、基部両側辺は鋸歯状を呈す。B面中央の左側はステップ状を呈し、厚みを残す。	扁平な菱形	
PL.47-29	S-09-913 JU64 溝 (SF081) 炭混黒色土層	(36.1) 11.8 5.2 (1.9)		B-2 幅狭。A面は左方に打点を持つ主要剝離面。B面は右上方に打点を持つ大剝離面である。左側辺、先端部右側辺に両面より調整剝離。基部右側辺は未調整。基辺はB面より打ち欠かれるのみ。主軸はB面側に彎曲し、左に厚く、右にうすい。	先端部 板状 基部 不整四辺形	
PL.47-30	S-09-0848 JI54 溝 (SF 079) 上層	(34.6) 13.4 4.2 (2.3)		B-2 幅狭。A面は、中央で切り合う剝離を施す。両側辺共に部分的にステップ状を呈する。B面基辺から中央にかけて細長く、上方に打点を持つ主要剝離面が残る。側辺の剝離は中央で切り合うまでのびない。基辺は、極めて細かい調整剝離。更に両側辺には小さな調整剝離が施され、鋸歯状を呈する。	扇形	

( )は残存法量の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.47-13	S-09-0427 LE60 第2層	34.4 18.9 7.2 4.6		B-2 幅広。全体に調整剥離はあらく、左右の形が整わない。右方に厚く、左方にうすくなる。A面中央に右上方に打点を持ち、B面中央には左方に打点を持つ大剥離面が大きく残る。	先端部 扁平な菱形 基部 五角形	
PL.47-32 PL.61-6	S-09-1238 IY60 溝 (SF 080) 最上層・黒褐色土層	(29.7) 17.3 3.4 (1.7)		B-1 薄身。側辺はやや外彎する。両面ともうすく丁寧な押圧剥離を施す。更に両側辺沿いに細かな調整剥離を施し、小さな鋸歯状を呈する。基辺にも細かな調整を施すが、基辺は平坦である。A面基部中央右寄りに大剥離面残存。	扁平な杏仁形	
PL.47-33	S-09-0462 LC61 土坑 (SK 579) 第3層	39.1 24.9 4.2 4.1		B-1 薄身の大型品。側辺はやや外彎する。全体に調整剥離はあらい。A面基部には、下方に打点を持ち、B面には右方に打点を持つ大剥離面が大きく残る。A面の両側辺中央とB面先端部左側辺はごく浅いステップ状を呈する。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な扇形	
	S-09-0019 LA・LB64・65 第3層・茶褐色砂質土層	(22.3) (13.4) 2.7 (1.1)		B-1 両平面中央に縦長に大剥離面が残る。周辺からの調整剥離はあらい。B面基辺にステップ状を呈す。	扁平な六角形	
	S-09-0030 KC68 第4層・褐色土層上面	(22.1) 16.5 4.8 (1.5)		B-1 左逆刺は斜下方にやや突出し、右側辺は逆刺の部分で円くおさまる。両面共調整面よりなり、中央に鏝が通る。A面両側辺共にステップ状を呈する部分がある。	菱形	
	S-09-0047 LZ 揚土内	(28.9) 10.4 3.6 (1.4)		B-2 細身。A面、B面共に両側辺の剥離は中央までのび中央に鏝が通るが、A面基部では平坦になっている。基辺は細かな剥離により、ステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0051 MP62 黒褐色礫混合土層	36.1 14.4 5.0 2.8		B-2 斜基。両面ともうすい調整剥離。両面とも中央に鈍い鏝が通る。両面とも右側辺にはステップ状剥離面あり。A面両側辺沿いの小さな調整剥離はステップ状を呈す。両側辺ともエッジは鋭い。先端部両側辺、B面鏝の部分、基辺に研磨を施す。	杏仁形	
	S-09-0077 KE65 第4層・黒色砂質土層	19.2 13.2 4.6 0.9		B-2 A面は大剥離面よりなり両側辺に剥離を施す。B面は左側辺のひとつの剥離面が全体を大きく占める。基辺は折れ状の面よりなる。先端部に厚みがある。	先端部 菱形 基部 不整形	
	S-09-0078 KE65 第4層・黒色砂質土層	17.7 14.0 2.8 0.8		B-2 A面基部に右下方に打点を持つ大剥離面あり、周辺を調整剥離。B面は右下方に打点を持つ主要剥離面で先端部右側辺を除き、調整剥離。両面共に先端部左側辺の剥離は急角度に入り、先端部の断面は平行四辺形となる。	先端部 平行四辺形 基部 扁平な半円形	
	S-09-0116 KD67 第3層・茶褐色砂質土層	(23.4) (15.4) 4.1 (1.4)		B-1 両面とも三辺より調整剥離。基部中央に大剥離面残存。A面左側辺とB面左側辺はステップ状を呈する。右側辺は縦方向に細長く剥離欠損。	扁平な菱形	
	S-09-0160 KJ67 第3層・褐色砂質土層	(27.5) 18.6 5.4 (2.6)		B-1 主軸はやや右に傾く。逆刺は円い。A面中央には左上方に打点を持つ大剥離面が残り、左側辺中央はステップ状を呈する。B面中央に右方に打点を持つ大剥離面が残り、右側辺上はステップ状を呈する。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	

( )は残存部分の法法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0196 MK58  黒色土層	(31.7) 20.9 5.2 (3.4)		B-1 両平面共に大きく調整剝離した後、A面の両側辺のみに細かな調整剝離を施すが、右側辺上半では剝離が急角度に入り、側辺が凹凸を呈す。A面基辺とB面右側辺中央はステップ状を呈する。A面基辺とB面右側辺中央はステップ状を呈する。両面共稜線の磨滅は著しい。	扇形	
	S-09-0231  表採	(22.4) 16.7 3.5 (1.0)		B-1 逆刺はあらい。両面、右側辺はステップ状を呈し、更に細かな急角度に入る調整剝離を施す。B面基部に左方に打点を持つ主要剝離面が残る。	不整四辺形	
	S-09-0288 MQ63 溝 (SF 074)	(33.6) 16.7 4.9 (2.9)		B-2 幅狭。A面は、左側は大剝離面、右側は大きな打ち欠き面よりなり、先端部と基辺にあらく剝離を施す。ともにステップ状を呈する。B面は大剝離面で、周辺に剝離を施す。全体に形が整っていない。	不整形	
	S-09-0293 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	(31.2) 23.4 6.3 (3.8)		B-1 幅広。逆刺は円い。A面基部には大剝離面が残る、両側辺はステップ状を呈す。B面基部には主要剝離面が残る。基辺は自然面よりなり(厚2.2~2.7mm)、未調整。	扁平な菱形	未製品か 
	S-09-0358 KQ61  第3層・黒色砂質土層	32.2 15.0 5.9 2.6		B-2 両面共揃った調整面よりなる。A面両側辺からの剝離は中央で切り合って鏃をつくる。B面中央の右側辺はステップ状を呈し、中央に厚みを残す。	扁平な菱形	
	S-09-0389  表採	(21.6) 19.9 4.7 (2.1)		B-1 基辺は右下がりの斜基。断面はA面に凸で、左側辺はステップ状を呈す。B面は右上方に打点をもつ主要剝離面で、周辺に小さな剝離を部分的に施す。	三角形	
	S-09-0400  表採	32.1 14.4 5.9 2.7		B-2(未製品か) 幅狭で厚みあり。両面とも両側辺と基辺より調整剝離。A面中央に鏃が通り、中央左寄りに大剝離面残存。B面中央にも基辺に打点をもつ主要剝離面残存。両面両側辺ともステップ状を呈す。両側辺のエッジは鋭い。	三角形	
	S-09-0418  表採	(23.1) (14.0) 3.6 1.9		B-2 両面共三辺より調整剝離。B面基部中央に大剝離面が残る。	菱形	
	S-09-0441 MZ  表採	(16.9) (16.7) 3.5 (1.3)		B-1 両面共周辺より調整剝離。基部中央に大剝離面が残る。	扁平な杏仁形	
	S-09-0455  表採	(29.2) 21.2 5.5 (3.6)		B-1 A面中央にやや左下方に打点を持つ大剝離面が残る。左側辺と基辺はステップ状を呈する。B面は大剝離面で両側辺に周辺から急角度に入る剝離を施す。基辺は折れ面よりなる。先端磨滅。	先端部 五角形 基部 扁平な六角形	石鏃か 
	S-09-0456  表採	(25.9) (16.8) 4.0 (2.0)		B-1 両側辺の形は整わず。左側辺は直線的で、先端ですばまる。右側辺は、外彎する。基端は右下がりの斜基。中央で切り合う調整剝離。B面は更に細かな調整剝離を施す。	扁平な菱形	

( )は残存部分の法量である。




図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-0474 MB59 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(21.3) 16.2 4.7 (1.5)		B-1 A面は背稜をもつ大剝離面で両側辺に小さい急角度に入る剝離を施す。基底にもわずかに剝離を施す。B面は下方に打点を持つ主要剝離面で、基底のみ急角度に入る剝離がみられる。	三角形	片面加工 
	S-09-0507 MF61 黒褐色礫混入土層	30.0 17.1 4.0 2.6		B-2 先端は鈍い。中央に大剝離面。両側辺共にさらに細かい調整剝離を施すが、ほとんどがB面側である。基底は折れ面よりなる。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な扇形	C-Eタイプの 破損品か 
	S-09-0522 MZ 溝 (SF 075)	24.0 12.9 4.7 1.5		B-2 小型。全体につくりはあらい。下半はステップ状を呈する剝離により、上半は小さな調整剝離により、形を作っている。両面共先端部中央に大剝離面残存。	不整形	
	S-09-0589 KZ 表採	(21.2) 18.0 3.3 (1.8)		B-1 A面は左方に打点を持つ主要剝離面で、左側辺は小さな剝離が施され、ステップ状を呈する。右側辺は若干の細かい調整剝離が施される。B面は右方に打点を持つ大剝離面で、右側辺は折れ面であり、周辺に粗く調整を施す。基底も折れ面よりなる。	不整三角形	未製品か 
	S-09-0602 JA67 黒褐色砂質土層	(30.6) 14.1 4.2 (1.9)		B-2 幅狭。A面、両側辺から中央にのびる調整剝離を施す。右側辺下半はステップ状を呈し、中央に大剝離面が小さく残る。左側辺沿いにさらに小さな剝離を加えるが、ステップ状を呈する。B面基部中央に大剝離面が小さく残る。	扁平な菱形	
	S-09-0658 MC50 整地層	(23.3) 14.8 4.3 (1.5)		B-1 逆刺は円く、基底もややふくらみ円基ぎみとなる。A面基部中央に大剝離面が残る。B面は大剝離面で周辺に剝離を施している。先端部のみ、両平面共に筋が通る。	先端部 菱形 基部 扁平な扇形	
	S-09-0729 KP54 第3層・Pit 5	(23.7) 11.1 3.9 (1.1)		B-2 長軸が左へ彎曲する。両面とも周辺に調整剝離。基部中央に最大厚がある。A面はステップ状を呈する。B面中央に自然面が残る。	扇形	
	S-09-0791 表採	(26.5) 11.2 4.2 (1.4)		B-2 細身。両面共調整面よりなる。両平面共に中央に筋が通る。B面左側辺と右側辺の一部はステップ状を呈する。	菱形	
	S-09-0798 LC58 第9号住居址 (SA 009) 埋没土層	(16.2) 14.3 3.2 (0.9)		B-1 右逆刺は円い。A面、右側辺は中央にのびる剝離を施した後、さらに剝離を施すが、これはステップ状を呈する。B面基部中央に大剝離面が残る。	扁平な菱形	
	S-09-0832 MN62 黒色砂質土層	22.0 12.4 3.2 0.9		B-1 幅狭。両面共に大剝離面よりなり、両側辺に小さな剝離を施す。基底は折れ面であり、A面にのみ調整を施す。	先端部 扇形 基部 扁平な六角形	
	S-09-0914 JZ	(25.7) 16.7 5.3 (2.5)		B-2 B面基部は主要剝離面で、基底と右側辺の下部には細かな剝離が若干施される。上半には両側辺から調整剝離。A面基部に大剝離面が残る。基底は細かな剝離が施される。両側辺共にB面より剝離は小さく、ステップ状を呈す。先端は丸く磨滅する。	先端部 扁平な菱形 基部 扇形	石鏃か 

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0950 JU66  黒褐色土層	(25.7) 16.7 5.3 (2.5)	B-1 逆刺は円い。中央に厚みあり。基辺から中央に向けて大きく剝離を施す。B面基部中央に右下方に打点を持つ主要剝離面が残る。A面基部右側にも大剝離面残存。両平面共に左側辺はステップ状を呈する。両平面共に基部の剝離面の後には横方向の研磨痕あり。	五角形状		
	S-09-0998 MZ  表採	30.9 11.0 4.6 1.7	B-2 細身。A面基部中央に右方に打点を持つ大剝離面、B面先端部中央にも大剝離面が残る。全体に調整剝離はあらく、B面基辺は未調整。	先端部 菱形 基部 五角形		
	S-09-1094 JDZ  褐色礫混合土層	(23.1) 26.7 4.0 (3.6)	B-2 薄身。極めて幅広い大型品。A面中央に大剝離面が残る。B面は左方に打点を持つ大剝離面で、周辺に剝離を施す。更に細かな調整剝離を施す。	極めて扁平な 三角形		
	S-09-1121 ML58  黒褐色礫混合土層	29.6 (17.3) 5.1 (2.4)	B-2 先端部で側辺は大きく開き、先端は円く鈍い。A面両側辺、B面右側辺共にステップ状を呈する剝離が多い。側辺には更に細かな調整剝離が施される。	扁平な菱形		
	S-09-1306 KG68 土坑 (SK 551) 第3層	30.0 22.2 7.0 4.8	B-1 左側辺は中央でふくらみ、基部ですぼまる。右側辺は、直線的に広がり、共に鋭い逆刺を持つ。A面中央に、右上方に打点を持つ大剝離面が残る。先端部に錆が通る。基辺の調整はステップ状を呈する。B面は大きく剝離を施すが、左側辺下半の剝離はステップ状を呈し大剝離面を残す。基端は折れ面よりなる。	先端部 三角形 基部 台形状		
	S-09-1338 ML57  黒色土層	25.2 15.8 5.0 1.9	B-2 A面中央に自然面が、続いて基部に大剝離面が残る。基辺は未調整で両側辺のみ調整剝離。B面基部には左上方に打点をもつ主要剝離面が大きく残り、基辺は折れ面である。先端部両側辺は調整剝離。	先端部 菱形 基部 扁平な杏仁形		
	S-09-1389 GT50 溝 (SF 334)	(40.1) (29.2) 7.9 (7.2)	B-1 両面とも丁寧な調整剝離。中央に錆が通り、揃った調整面よりなる。	扁平な菱形		
	S-09-1405 MI57  黒色砂質土層	23.6 17.2 3.4 1.4	B-2 右側辺は中央で、左側辺は基部でふくらむ。A面は右上方に打点を持つ主要剝離面で右側辺上半と左側辺に剝離を施し、基辺には細かな剝離を施す。B面は、左方に打点を持つ大剝離面で、両側辺を剝離し基辺に細かな剝離を施す。	先端部 菱形 基部 不整四辺形		
	S-09-1415  表採	(17.9) (14.9) 2.9 (0.9)	B-1 両面共周辺より調整剝離。両平面共に中央に大剝離面が残る。A面基辺の剝離のみ細かいステップ状を呈する。	扁平な菱形		
	S-09-1461 KK67  第3層・黒色砂質土層	(21.3) 14.3 3.7 (1.1)	B-1 側辺は、内彎し、基辺に向って広がる。逆刺は円い。B面左側辺の剝離は小さく、深く入る。先端部右側辺の剝離は大きく左に片寄る。	扁平な菱形		
	S-09-1462 KP62  第5層・茶褐色砂層	(25.7) 16.5 4.0 (1.5)	B-1 基辺は、右上がりの斜基である。A面全体に剝離後、右側辺に更に細かな剝離を施すが、ステップ状を呈する。B面は調整面よりなる。左側辺、基辺はステップ状を呈する。	扁平な三角形		

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.48-1	S-09-1324 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	19.7 11.5 2.7 0.8		C-2 小型。先端は鋭く突出する。A面は左上方に打点を持つ大剥離面、B面は上方に打点をもつ主要剥離面である。小さな剥離を周辺に施すが、基部は両平面共に左側辺のみに施す。先端部はA面両側辺、B面右側辺に調整剥離。	先端部 扁平な菱形 基部 ごく扁平な杏仁形	
PL.48-2	S-09-1277 HCZ 溝 (SF 328)	24.3 11.1 1.7 0.5		C-2 小型。先端は鋭く突出する。A面は左方に打点を持つ大剥離面、B面は下方に打点を持つ主要剥離面で、両面共に周辺に小さな剥離を施す。基端には自然面残存。	ごく扁平な杏仁形	
PL.48-3	S-09-0397 表採	23.1 9.7 3.5 0.8		C-2 小型。幅狭。両平面共に剥離は全体におよぶ。両面共にステップ状を呈す剥離が若干混在する。A面中央とB面先端部の剥離の稜が磨滅。	扁平な菱形	
PL.48-4	S-09-1223 IZ	(19.2) 13.0 2.7 (0.6)		C-2 小型。やや幅が広い。先端部に厚く基部に薄い。A面は右上方に打点を持つ主要剥離面、B面は上方に打点を持つ大剥離面である。両面とも先端部両側辺に小さな剥離を施す。	先端部 菱形 基部 ごく扁平な半円形	
PL.48-5	S-09-0073 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	22.1 11.8 3.3 0.9		C-2 小型。先端は鈍い。A面基部中央に右上方に打点を持つ主要剥離面が残る。基端には剥離は施されず、側辺の剥離はステップ状を呈する。B面基部に右下方に大剥離面が残る。両側辺の剥離はステップ状を呈する。基端は細かな剥離が施されるが、不整形。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な杏仁形	
PL.48-6	S-09-0082 KI63 第3層・暗褐色砂質土層	21.6 11.5 3.2 (0.7)		C-2 小型。全体に調整剥離はあらく、A面中央右寄りに大剥離面残存。B面は左上方に打点をもつ主要剥離面で、先端部にのみ剥離を施す。	先端部 菱形 基部 三角形	
PL.48-7	S-09-0982 KX54 第6号住居址 (SA 006) Pit12	18.2 10.6 2.7 0.6		C-2 小型。左方に厚味を持つ。A面は調整面よりなり、B面は調整後更に周辺に細かな剥離を施す。B面先端部中央に大剥離面残存。	扁平な杏仁形	
PL.48-8	S-09-0933 LG58 黒褐色土層	20.5 11.8 2.7 0.6		C-2 小型。両平面共に中央に大剥離面を残す。B面の剥離は大部分ステップ状を呈する。先端は丸味を持つ。	扁平な杏仁形	
PL.48-9	S-09-0126 不明	22.5 10.5 2.6 0.7		C-1 小型。A面は全体に剥離をした後、側辺に小さな剥離を施す。基部はステップ状を呈する。B面は主要剥離面で周辺に小さな剥離を施す。	先端部 菱形 基部 扁平な扇形	
PL.48-10	S-09-0326 表採	20.1 11.7 3.3 0.8		C-1 小型。両平面共に剥離は整っている。B面先端部中央には竅が通る。	扁平な菱形	
PL.48-11	S-09-0212 KT60 第3層・黒色砂質土層	(30.0) 15.3 4.9 (2.2)		C-1 A面は全体に剥離がおよんでおり、中央はステップ状を呈する。B面中央には右方に打点を持つ主要剥離面が大きく残り、基端左半には剥離は施されず。	三角形状	

( )は残存部分の法量である。

石 鍬








図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.48-12	S-09-0192 KT60  第3層	27.5 13.9 3.5 1.5	C-1 先端部に厚く、基部に薄くなる。両平面共に周辺に小さな剝離を施し、中央に大剝離面残存。	先端部 菱形 基部 六角形		
PL.48-13	S-09-0647 JA54  整地層	29.5 14.8 4.0 (1.8)	C-2 一方の端が欠損しており、上下は明確でない。両平面共に剝離は全体におよぶが、B面ではほとんどステップ状を呈し、A面右側辺にも若干混在す。	扁平な菱形		
PL.48-14	S-09-0752 KP54  茶褐色土層	27.2 9.4 4.1 1.7	C-2 先端部に段をもつ。基部は左方がふくらみ非対称。両平面共に全体に剝離がおよんでいる。A面中央は両側辺共にステップ状を呈する。両面基部左側辺には、細かな剝離を更に施す。	扁平な菱形	基部に回転痕あり。 	
PL.48-15	S-09-0217  不明	24.5 14.6 4.8 1.7	C-1 基部に厚く、先端に薄い。A面中央左寄りは大剝離面残存し、周辺に剝離を施す。両側辺共に中央はステップ状を呈する。B面も周辺より調整剝離。中央には大きく左下方に打点をもつ主要剝離面が残り、右側辺中央は剝離が急角度に入って、ステップ状を呈する。	扇形		
PL.48-16	S-09-0001 KZ  表採	(28.1) 14.4 3.2 (1.5)	C-2 両平面共丁寧な調整剝離。B面左側辺はステップ状を呈する。他の辺には若干混在する。A面中央、B面基部部に大剝離面残存。	扁平な菱形		
PL.48-17	S-09-0486 MC59 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	27.7 13.5 3.3 1.1	C-1 先端部に厚く、基部に薄い。先端部は両平面より調整剝離。基部はA面側の方に細かな調整剝離を施す。A面基部中央に大剝離面が残り、B面基部は上方に打点を持つ主要剝離面残存。	先端部 菱形 基部 扁平な三角形		
PL.48-18	S-09-0439 LE61  第2層	(26.3) 9.4 3.4 (0.8)	C-2 細身。基部にやや厚味を有する。剝離は全体におよぶ。B面にステップ状を呈する剝離が多く、A面にも混在する。B面基部中央に小さく大剝離面残存。	扁平な菱形		
PL.48-19	S-09-0398  表採	30.3 12.0 3.6 1.2	C-2 両平面共に剝離は全体におよび中央に鈍く稜を持つ。ステップ状を呈す剝離が両面共に混在する。	扁平な菱形		
PL.48-20	S-09-0497 MZ	(36.5) 17.0 4.8 (2.6)	C-1 先端のみ極めて細くなり突出する。両平面共に剝離は整っており、全体におよぶ。B面の中央には筋が通る。A面にステップ状を呈する剝離が混在する。両側辺のエッジに細かな調整を施し、やや鋸歯状を呈する。	扁平な菱形		
PL.48-21	S-09-0092 LZ  表採	32.5 15.4 4.7 2.1	C-1 A面基部中央に初段階の打ち欠き面あり。B面基部右側には大剝離面残存。全体に調整剝離後、更に側辺に小さな剝離を施し、鋸歯状を呈する。先端部の中央に最大厚を持つ。	扁平な菱形		
PL.48-22	S-09-1270 LG54  Pit45	(30.5) 15.1 3.6 (1.7)	C-1 A面は右下方に打点を持つ主要剝離面で、側辺には調整剝離を施すが、基部にはほとんど施さない。B面基部中央に大剝離面が残る。先端部中央に最大厚を有する。	先端部 三角形 基部 台形		

( )は残存部分の法量である。











図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
PL.48-23	S-09-0009 MQ63  黒褐色礫混土層	(30.4) 13.6 3.9 (1.3)		C-2 側辺は内彎して先端に至り、先端は細く鋭い。A面の剝離は全体におよび、中央に筋が通る。基部右側辺はステップ状を呈する。B面は先端部に筋が通る。両面基部中央に大剝離面が残る。	扁平な菱形	
PL.48-24	S-09-0885 KP54  茶褐色土層	32.9 14.1 3.2 1.9		C-2 A面は大剝離面で、B面は左上方に打点をもつ主要剝離面である。両平面共に周辺に小さな剝離を施す。B面右側辺はステップ状を呈する。	六角形状	
PL.48-25	S-09-0154 MJ56  褐色砂層	(35.0) 18.7 3.6 2.1		C-1 両平面共に丁寧な押圧剝離による調整を施す。ステップ状を呈する剝離が混在するが、剝離は全体におよぶ。A面基部中央に小さく大剝離面残存。A面左側辺、右側辺両面に更に細かな剝離を施し、細かい鋸歯状を呈する。	扁平な菱形	
PL.48-26	S-09-0304 MJ59 溝 (SF 074) 腐混黒色砂質土層	35.1 14.3 4.1 1.8		C-2 先端は細く鋭い。両平面共に基部中央に大剝離面が残る。B面基部の剝離はステップ状を呈する。A面基部にも、多く混在する。	扁平な菱形	
PL.48-27	S-09-1258 IV60 溝 (SF 080) 第1層・灰黒色砂質土層	(37.1) 16.8 4.3 (2.4)		C-2 両面共周辺より調整剝離。A面先端部に筋が通る。基部に大剝離面が残る。B面基部中央に大剝離面が残る。両平面両側辺には、鋸歯状剝離を施す。	扁平な菱形	
PL.48-28	S-09-0692 JY58  整地層	(31.4) 21.2 5.2 (3.8)		C-1(未製品か) A面は右方に打点を持つ主要剝離面で、B面は大剝離面。基部に厚く、先端に向って薄くなる。調整剝離は粗い。ステップ状を呈する剝離が混在する。	不整形	
PL.48-29	S-09-0929 LK58  黒褐色土層	(32.8) 21.6 3.3 (2.2)		C-2 薄手で幅広。A面中央右寄りには大剝離面残存。中央には初段階の大きな打ち欠き面あり。B面は右上方に打点をもつ主要剝離面。両面共側辺に小さく、基辺に大きく剝離を施す。両面共基辺の打ち欠きはステップ状を呈し、A面両側辺にも混在する。更に両平面共に両側辺沿いに細かな剝離を施し、細かな鋸歯状を呈す。	ごく扁平な扇形	
PL.48-30	S-09-1260 LO54  黒褐色土層	(25.6) 18.1 3.8 (2.1)		C-1 A面の右側辺の剝離は整っているが、左側辺はステップ状を呈し、基部中央に大剝離面が残る。B面の左側辺はステップ状を呈し、基部中央に主要剝離面が残る。押圧剝離によると思われる。側辺には細かな剝離が、更に施され、細かな鋸歯状を呈する。	扁平な菱形	
PL.48-31 PL.61-7	S-09-1198 IZ	40.4 21.8 6.1 4.3		C-1 先端は細く鋭く突出している。両平面共に先端部に筋が通る。A面の基部に主要剝離面が残り、基辺は未調整。両側辺共にステップ状を呈する剝離が混在する。B面はA面に比べて平坦な面で、先端部から基部にかけて中央に大剝離面を残す。A面同様にステップ状を呈する剝離が混在する。	先端部 扁平な菱形 基部 台形状	
PL.48-32	S-09-0189 KL63  第3層下部・暗褐色粘質土層	37.9 17.4 4.8 2.7		C-1 A面中央に大剝離面が残る。左側辺の剝離と稜を持つ。右側辺はステップ状を呈する。B面の基部中央と先端部左半に左下方に打点をもつ主要剝離面が残る。左側辺上半と右側辺はステップ状を呈する。最大厚は基部中央にあり。先端は鈍い。	先端部 扁平な菱形 基部 扇形	
PL.48-33	S-09-0910 JU64 溝 (SF 081) 黒色土層	(31.0) 14.9 3.9 (1.7)		C-1 A面中央に大剝離面が残る。左側辺の剝離と稜を持つ。右側辺はステップ状を呈する。B面は主要剝離面で周辺に小さく剝離を施す。	扇形	

( )は残存部分の法量である。

石 鉄




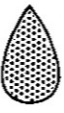







図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
PL.48-34	S-09-0315 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(29.4) 15.2 4.4 (2.0)		C-2 両平面共に剝離は全体におよぶ。A面基部にステップ状を呈する剝離が多く混在する。	扁平な菱形	
PL.48-35	S-09-0989 MZ 表採	(40.7) 19.8 4.5 (3.9)		C-2 両平面共に風化。両端部欠損しており、尖基の可能性あり。両面全体に剝離がおよぶが、錆はつくらない。ステップ状を呈する剝離が若干混在する。両面両側辺沿いに細かな調整あり。	扁平な杏仁形	
PL.48-36	S-09-0517 MZ 溝 (SF 075)	39.9 22.4 6.8 4.8		C-1 A面基部はステップ状を呈する剝離が多く、中央に右方に打点を持つ主要剝離面が残る。B面は、ステップ状を呈する剝離が混在するが、全体に剝離がおよぶが中央に大剝離面残存。	扇形	
PL.48-37	S-09-0489 MP62 溝 (SF 074)	(39.5) 21.2 4.3 (3.2)		C-2 薄手のもの。両面とも薄く丁寧な調整剝離。押圧剝離によると思われる。A面基部中央にわずかに大剝離面残存。両平面共にステップ状を呈する剝離が若干混在する。	ごく扁平な杏仁形	
PL.48-38	S-09-1106 不明	40.7 17.1 5.9 3.5		C-2 両平面共に剝離の大部分はステップ状を呈する。A面中央に小さく大剝離面が残る、厚みをもつ。	扁平な菱形	
PL.48-39	S-09-1381 HL56 褐色砂層	37.8 15.4 4.1 2.2		C-1 両面共に剝離が施され大剝離面を留めず。両側辺からは更に細かい調整剝離が施される。B面左側はステップ状剝離面を呈し、他の部分にも混在。側辺は不揃いの鋸歯状を呈する。錆は両面に通る。	扁平な菱形	
PL.48-40	S-09-0302 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(36.7) 17.1 4.7 (2.9)		C-1 両面共剝離が施され、大剝離面を留めず、A面基部には更に細かい剝離が見られる。B面基部左側はステップ状を呈し、A面左側辺にも混在。A面はB面よりもやや平坦な面をなすが、錆は両面に通る。	菱形	
PL.48-41	S-09-0565 MK64 溝 (SF 075) 黒色土層	38.4 12.9 4.6 1.6		C-1 やや細い。先端はA面に反っている。A面は調整面よりなるが基部はステップ状を呈し中央に厚みを残すが、先端部は薄身である。B面は先端部のみ調整。B面基部には右方に打点をもつ主要剝離面が残存し、その周辺沿いに細かな調整を施す。	扁平な菱形	
PL.48-42	S-09-0134 KI65 第4層・黒色砂質土層下部	46.2 22.1 5.0 4.9		C-1 A面基部に主要剝離面を留め、打点は左上方にある。B面には全体に大剝離面を留め、打点は右下方にある。A面先端部の剝離は中央までのびステップ状を呈する。B面右側辺にはやや粗い剝離が施される。A面両側辺、B面先端部左側辺には更に細かい調整剝離が見られる。周辺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 不整四辺形 基部 扁平な扇形	
PL.48-43 PL.61-8	S-09-1133 MI56 黒色砂質土層	(43.4) 20.9 5.1 (4.8)		C-1 A面基部中央に一部大剝離面を留める。B面基部中央には大剝離面を留め、打点は右上方にある。両側辺、基辺から剝離が施され剝離面は揃っている。両面左側辺には更に細かい剝離が見られ、両側辺は鋸歯状を呈する。両面にステップ状剝離が混在。錆はB面先端部に通る。	先端部 菱形 基部 台形状	
PL.48-44	S-09-0775 MF56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(44.7) 17.4 6.8 (4.9)		C-2 両面中央に大剝離面を一部留める。周辺からはやや粗い剝離が施され、主にステップ状を呈する。A面先端の両側辺およびB面先端から基部にかけての両側辺には更に細かい剝離が見られる。	扇形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.48-45	S-09-1301 MB50 溝 (SF 074) 褐色砂層	(43.0) 17.1 5.9 (4.3)		C-2 両面共に剝離が施されるが、中央にわずかに大剝離面残存。全体にステップ状剝離が混在。	菱形	
PL.48-46	S-09-0500 MF60 溝 (SF 075) 黒褐色礫混入土層	45.3 19.6 6.6 5.5		C-2 両側辺は非対称である。左側辺の先端部は浅く内彎し、逆刺が丸味をもつのに対し、右側辺の先端部は浅く外彎、逆刺はやや角ばる。両面共に大剝離面を留めず。B面中央の剝離は大きなステップ状を呈し、ステップ状剝離は他の部分にも混在。両側辺から剝離後、基辺からの剝離が両面側に施される。	菱形	
PL.48-47	S-09-1374 LG62  黒褐色土層	52.8 19.2 6.4 5.9		C-2 先端部は細長い。B面中央に細長く大剝離面を留め、打点は左方にある。A面先端部中央には僅かに大剝離面を残し、周辺より調整剝離を施す。A面左側辺、B面基部下半の剝離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在。A面右側辺、B面先端部両側辺には更に細かい剝離も見られる。	先端部 菱形 基部 不整六角形	
fig.21-5	S-09-0675 JU66  整地層	49.0 16.0 4.2 2.7		C-1 両側辺は浅く内彎し、全体形はヒョウタン形を呈する。先端は細く鋭く突出する。両面共基端中央に大剝離面が残存。両面共左側辺沿いに細かな剝離が施され、両側辺は鋸歯状を呈する。両面にステップ状剝離が混在。	菱形	
	S-16-0033 KE65  第3層・暗褐色砂質土層	(23.4) 14.9 3.7 (1.6)		C-2 基部破片。一面にのみ調整剝離を施す。他方の面は大剝離面のまま。	扁平な半円形	
	S-09-0048 KQ62-63  第4層・灰褐色土層	36.6 14.8 5.6 3.1		C-2 鏃身中央は厚味をもつ。B面は下方に打点のある主要剝離面を呈する。A面周辺からの剝離は中央までのびるが、鏃はつくらず。B面は周辺から剝離が施され、主にステップ状を呈する。	先端部 扇形 基部 不整杏仁形	
	S-09-0056 KN66  第4層・茶褐色砂質土層	20.7 11.7 3.6 1.0		C-2 小型。右側辺は左側辺よりもやや外彎する。両面中央に大剝離面を留める。両側辺から剝離後、基辺からの剝離が施される。A面にステップ状剝離が混在し、B面基辺にも見られる。鏃は通らず。	杏仁形	
	S-09-0103 KJ66  第3層・黒色砂質土層	(40.3) 19.2 7.7 (5.3)		C-2 両側辺より粗い剝離が施され、大剝離面を留めず。先端部右側辺に細かい剝離が見られる。A面基部、B面先端部の剝離はステップ状を呈する。	扇形	
	S-09-0105 KK68  第3層・黒色砂質土層	(19.2) 10.6 2.6 0.6		C-1 小型。両面中央に大剝離面を留む。B面は右下方に打点をもつ主要剝離面である。周辺には剝離が施される。両面基部右側の剝離はステップ状を呈す。鏃は両面とも通らず。	扁平な杏仁形	
	S-09-0112 ML57  黒色土層	(37.0) 19.6 7.2 (5.9)		C-2 全体に粗いつくりであるが、大剝離面は留めない。B面右側辺からの剝離は大きく、左側辺からの剝離は中央までのびずにステップ状を呈する。ステップ状剝離はA面にも混在。	五角形	
	S-09-0119 KE58  第3層・黒色砂質土層	(42.0) 19.8 7.2 (5.2)		C-2 鏃身中央で最大幅を測り、基端はやや尖がり気味である。B面中央に一部大剝離面を留める。A面両側辺、B面先端部、左側辺および基部右側辺には更に細かい剝離が施され、ステップ状を呈する。B面中央は大きなステップ状剝離をなし、他の部分にも混在する。基端部のエッジは磨滅。	菱形	












( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0131 MJ56 溝 (SF 074) 褐色砂層	29.0 11.1 5.1 1.7		C-2 小型。鏃身はやや細い。両面中央に大剝離面が一部残存。B面はA面よりもやや平坦。先端はA面側へ反っている。A面中央に大きなステップ状剝離が見られる。押圧剝離によると思われる。周辺からは細かい調整剝離が施される。先端および基端のエッジは磨滅。	扇形	
	S-09-0159 KJ63  第3層・褐色砂質土層	(32.2) 19.9 5.0 (2.7)		C-1 基端は自然面を留め平坦。平基の可能性あり。B面中央には下方に打点をもつ大剝離面残存。B面はA面よりも平坦な面をなす。A面先端部、B面基部はステップ状剝離を呈する。B面両側辺には更に細かい剝離も施される。	三角形状	
	S-09-0188 KJ69  第3層・黒色砂質土層	50.4 30.7 7.2 8.2		C-2 大型。幅広。先端部両側辺は左右非対称で、左側が浅く外彎するのに対し、右側は浅く内彎する。先端部は両側辺からの剝離で両面に鑄が通る。基部は両面共周辺に剝離が施されるが両面に大きく大剝離面を残す。A面は背稜を中央にもつ大剝離面。B面は主要剝離面で打点は左上方にあたる。A面基端寄りにはステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在。	先端部 菱形 基部 扁平な三角形	石鏃の可能性あり。 
	S-09-0198 MJ60  黒色土層	34.5 20.4 5.8 3.3		C-1 A面基端部に主要剝離面を留め打点は左上方にあたる。B面基部に大剝離面を留め打点は下方にあたる。先端部は両側辺からの剝離により、両面共に稜線が通る。基部はB面側に粗く調整剝離され、A面右側辺にも一部見られる。B面基部はステップ状剝離を呈す。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-0210  表採	23.8 10.3 2.5 0.7		C-2 小型。鏃身はやや細い。基端はやや尖がり気味である。B面には大剝離面が残存し、打点は左下方にあたる。A面には大きな剝離面が見られる。周辺からは細かい調整剝離が施され、更に両面共右側辺沿いに急角度に入る細かな調整あり。	扁平な四辺形	
	S-09-0232  表採	(25.1) 16.0 3.4 (1.4)		C-1 B面基部右に大剝離面を留め打点は左方にあたる。両面共に押圧剝離が施され、鑄は両面に通る。両面共にステップ状剝離を呈す。右側辺沿いに細かな調整があり、側辺は鋸歯状をなす。	扁平な菱形	
	S-09-0234 KW60 土坑 (SK 421) 第3層	36.7 14.7 3.1 2.1		C-2 幅狭。A面は研磨面であり、右側辺寄りになだらかな稜をなす。周辺からは細かい調整剝離が施される。B面は主要剝離面で、打点は下方にあたる。B面は平坦で未調整。	扁平なカマボコ形	
	S-09-0283 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	(25.9) 16.0 4.6 (1.8)		C-1 B面上半部は主要剝離面で打点は下方にあたる。B面基部のみ調整剝離される。A面は両側辺、基端からの剝離により稜が通る。両面ともステップ状剝離を呈する。全体に粗いつくりである。	扇形	
	S-09-0287 KX60  第3層・黒色砂質土層	32.0 16.3 5.3 3.3		C-2 A面中央に大剝離面を留め打点は右下方にあたる。B面中央に主要剝離面を留め打点は左下方にあたる。軸はA面側へ彎曲。周辺からは調整剝離が施される。先端に回転痕あり。基端は磨滅。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	先端に回転痕あり(長3mm)。 
	S-09-0298 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(40.3) 12.9 5.2 (2.7)		C-2 鏃身は細長い。A面中央に大剝離面を一部留める。軸はB面側へやや彎曲。A面は両側辺からの剝離後更に両側辺に細かい調整剝離を施す。B面はA面よりもやや粗い剝離。鑄は両面に通る。A面先端部右側辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0312 MH58 溝 (SF 074) 黒色土層	31.6 13.2 4.5 2.0		C-2 先端はやや厚味がある。両面中央に大剝離面を留める。B面は主要剝離面で打点は右方にあたる。両側辺には更に細かい調整剝離も見られる。両面ともステップ状剝離が混在。基端および基端寄りの両面の稜は磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	







( )は残存部分の法量です。














図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0319 MZ	(41.3) 16.9 7.8 (5.4)		C-2 厚味を有する。両面とも大剥離面を留めず。両面左半分およびB面先端部右側辺は大きなステップ状剥離を呈し、他の部分にも混在。全体に粗いつくり。	菱形	
	S-09-0328 KX66 第2層	(25.1) 14.4 4.3 1.6		C-2 両側辺から剥離され、大剥離面を留めず。両面先端部左側辺には、更に細かい剥離も見られる。基部は両面とも右側辺に細かい剥離が施される。A面は主にステップ状剥離を呈し、B面にも混在。	杏仁形	
	S-09-0336 MH57 溝 (SF 074) 褐色砂層	36.1 15.6 4.5 2.5		C-2 B面は大剥離面を呈し、平坦。打点は左方にあたる。A面は基部に大剥離面を一部留めるが、両側辺からの剥離により、鑄をつくる。B面は先端部、両側辺より剥離される。B面左側辺には細かい調整剥離が見られる。先端および左の逆刺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-0345 KW66 第3層	(21.0) 14.8 3.2 (1.2)		C-2 鉄身中央よりやや上方で最大幅を測る。先端は突出すると思われる。A面は周辺からの剥離で鑄が通る。B面は大剥離面を留め、平坦な面をなす。A面両側辺、B面左側辺には更に細かい調整剥離が施される。A面中央左およびB面基端部はステップ状剥離を呈し、他の部分にも混在する。	三角形	
	S-09-0381 表採	(26.6) 14.1 3.8 (1.4)		C-2 A面は両側辺からの剥離により鑄が通る。B面は主要剥離面で打点は右上方にあたる。両面共周辺に細かい剥離が施される。A面にステップ状剥離が混在。軸はB面側へ彎曲。先端に厚みがあり、基部はうすい。両面先端部の稜は磨滅。	先端部 菱形 基部 扁平な三角形	
	S-09-0387 表採	21.9 10.3 3.1 0.7		C-1 小型。B面中央に大剥離面を留め、打点は左上方にあたる。全体に粗いつくりで鑄は通らず。両側辺から剥離後更に両側辺には細かい調整剥離が施されるが、不揃いでステップ状を呈する。A面先端部左側辺は右側辺よりも強く傾斜し、先端は鋭く突出する。	不整四辺形	
	S-09-0392 KZ	(15.1) 10.3 3.3 (0.6)		C-1 小型。両面中央に大剥離面を一部残す。逆刺から基端にかけては細かい剥離が見られる。B面両側辺の剥離はステップ状を呈する。	菱形	
	S-09-0412 KZ	29.5 14.7 4.8 2.3		C-2 B面に大きく主要剥離面を留め打点は右方にあたる。A面では左側辺から大きく剥離され、大剥離面が細長く一部残存する。周辺から調整剥離が施され、剥離面は略揃っている。A面両側辺および基辺の剥離はステップ状を呈する。基端は僅かに磨滅。	先端部 杏仁形 基部 六角形	
	S-09-0424 KLZ 表採	33.6 18.7 5.4 4.1		C-2 未製品。楕円形を呈し、先端は作り出していない。A面中央に大剥離面を留め、左方に打点あり。B面は主要剥離面で、打点は下方にあたる。周辺からの剥離は不揃いで、ステップ状剥離が混在する。	台形状	
	S-09-0432 KZ	33.1 12.6 5.5 2.1		C-2 細身。両面に大剥離面を留む。A面は右下方に打点がある。B面は主要剥離面を呈し、右上方に打点がある。周辺からは調整剥離が施され、剥離面は揃っている。A面基部両側辺は大きなステップ状剥離を呈する。	先端部・基部 菱形 中央部 台形	
	S-09-0435 KZ	(26.3) 14.2 5.2 (2.2)		C-2 基端はやや尖がり気味である。両面中央に大剥離面を留める。周辺から剥離後、両側辺には更にやや小さい剥離が施される。A面基部中央右の剥離はステップ状を呈し、他の部分にも混在。	先端部 台形状 基部 菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃


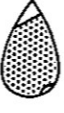









図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0447  表採	(23.7) 15.8 3.6 (1.4)		C-2 全体に円形。先端は突出する。両面共に調整剥離。B面基部中央に大剥離面残存。B面両側辺、A面右側辺には更に細かい剥離も見られ、両側辺は鋸歯状を呈する。A面中央はステップ状剥離を呈し、他の部分にも混在。	扁平な菱形	
	S-09-0450  表採	27.4 12.0 3.2 1.2		C-2 幅狭。B面に大きく主要剥離面を留め打点は下方にあたる。A面両側辺から剥離が施され更に周辺からは細かい調整剥離が施される。	扁平な扇形	
	S-09-0453  表採	(22.0) 13.2 2.8 (1.1)		C-2 小型。鏃身中央で最大幅を測る。両面共周辺から細かい剥離が施されるが両面中央に大きく大剥離面を留める。B面は主要剥離面で、打点は下方にあたる。両面にステップ状剥離が混在。	扁平な杏仁形	S-09-1324と同一形態。 
	S-09-0468 LC62  第2層	32.4 13.5 4.7 2.1		C-2 未製品。先端およびA面に自然面を留める。B面は主要剥離面を留め、打点は左方にあたる。両側辺沿いに調整剥離。両端は未調整。A面中央は自然面を剥離してから全体に周辺から細かい剥離が施される。A面先端部右側辺はステップ状剥離を呈す。B面中央は一部研磨。軸はA面側へ彎曲。	扁平な杏仁形	
	S-09-0476 MC59 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	53.5 26.5 8.5 10.6		C-2 大型。A面中央に大剥離面を一部留める。B面に大きく主要剥離面を留め、打点は左下方にあたる。B面は両側辺からの剥離が中央までのびず。剥離面は主にステップ状を呈し、A面右半分は大きなステップ状をなす。	先端部 扇形 基部 台形状	
	S-09-0495 MZ	(31.6) 16.0 5.2 (2.5)		C-2 未製品か。先端部に厚みがあり基部は薄い。B面中央に大きく大剥離面を留める。B面の打点は上方にあたる。A面は主要剥離面を呈し、打点は上方にあたり、中央に打痕裂痕がある。A面両側辺、B面周辺に細かい剥離が施される。基部にステップ状剥離が混在。	先端部 五角形 基部 扁平な五角形	
	S-09-0496 MZ	29.5 13.6 4.3 (1.8)		C-2 鏃身中央よりやや先端寄りに最大幅がある。先端は鈍い。両面共に剥離が施され、大剥離面を留めず、両側辺には更に細かい調整剥離が施され、側辺は鋸歯状を呈する。両面の剥離は主にステップ状を呈する。先端および基端のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0498 MZ	36.0 17.0 5.1 3.1		C-2 A面基部中央に一部大剥離面を留める。両面共にやや粗い剥離が施されるが、全体に形は整い、錆も通る。A面基部右側辺には更に細かい剥離が施される。A面基部はステップ状剥離を呈し、他の部分にも混在。	菱形	
	S-09-0499 LE66 第8号住居址 (SA 008)	33.2 15.2 5.9 2.6		C-2 両面基部中央に大剥離面を留める。軸はB面側へ彎曲。周辺からは剥離が施され、両面先端部に錆が通る。基端は薄い。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-0515 MZ	(30.6) 14.7 4.2 (2.1)		C-2 A面中央に大剥離面を留め、B面に大きく主要剥離面を留める。B面の打点は上方にあたる。A面は両側辺からの剥離により、錆が通る。周辺からは細かく調整剥離が施されるが、基端よりも先端の方が丁寧な作りである。両面にステップ状剥離が混在。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-0523 MZ	(31.3) (16.1) 2.9 (1.3)		C-1 薄い。両面中央に大剥離面を留め、B面は主要剥離面である。周辺からはやや細かい調整剥離が施され、ステップ状剥離が混在する。	先端部 菱形 基部 扁平な杏仁形	

( )は残存部分の法量である。












図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-0527 MF61 溝 (SF 075) 黒色土層	(27.4) 18.0 4.2 (1.8)		C-1 A面基部中央およびB面基端付近に大剝離面を留める。両面とも周辺から丁寧に剝離が施され、剝離面は揃っている。基部は両面ともステップ状剝離を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0530 MZ	(18.0) (16.4) 4.3 (1.5)		C-1 両面中央に大剝離面を留める。両側辺から剝離が施され、両面右側辺には更に細かい剝離が施され、側辺は鋸歯状を呈す。A面はステップ状剝離を呈し、B面にも混在。鏝は両面に略通る。両側辺エッジは僅かに磨滅。	菱形	
PL.53-1	S-09-0541 IT66  第2層・床土層	36.6 9.9 3.8 1.5		C-2 鏝身は細長い。先端は突出する。両面中央に大剝離面を留める。両側辺からは細かい調整剝離が施されて、丁寧に作りである。	杏仁形	先端に回転痕あり(長5mm)。 
	S-09-0544 MZ	(36.2) 15.5 4.3 (2.5)		C-2 鏝身中央で最大厚を測り、基端は薄い。A面基部に大剝離面を留める。B面には主要剝離面を留め、打点は右下方に位置する。両側辺からの調整剝離。全体に粗いつくりで剝離面は不揃いである。両面共ステップ状剝離が混在。	先端部 三角形 基部 扁平な扇形	
	S-09-0550 MH64 溝 (SF 075) 黒色土層	(29.3) 12.0 5.3 (1.8)		C-2 小型。厚味を有する。両面中央に大剝離面を留める。両面先端部に鏝が通る。B面先端部中央の稜は一部研磨が施されている。剝離面はやや不揃いでステップ状剝離が混在。先端はB面側へ剝離欠損。	先端部 菱形 基部 六角形状	
	S-09-0560 IV62  黒褐色砂質土層	28.5 15.3 5.0 2.1		C-2 小型。B面中央に大剝離面を留め、B面は平坦。A面側に厚味をもつ。両面とも右側辺には更に細かい調整剝離が施される。A面基部右側の剝離はステップ状を呈し、他の部分にも混在。先端の磨滅は著しい。	扇形	
	S-09-0566 JC64・65  床土直下・黒褐色砂質土層	(28.4) 13.2 5.1 (2.5)		C-2 鏝身は細長い。両面中央に大剝離面を留める。周辺から剝離が施されるがやや不揃いである。基端および両面の稜は僅かに磨滅。	杏仁形	
	S-09-0572 JA63 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	31.6 10.6 5.1 1.7		C-2 小型。細身。厚味を有する。A面基部、B面基部中央に大剝離面を留める。A面先端部に鏝が通る。基部は主にB面側へ調整剝離。A面中央、B面左側はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在。全体につくりは粗い。	先端部 扇形 基部 杏仁形	
PL.53-14	S-09-0576 ML62	(40.8) 13.3 7.2 (4.1)		C-2 鏝身は細長い。かなり厚味をもつ。B面先端部中央に自然面を留める。両側辺から剝離が施され、鏝は両面に通る。両面基部はステップ状剝離を呈す。先端部エッジおよび両面の稜は磨滅。	菱形	基端に回転痕あり(長4mm)。 
	S-09-0583 KJ67  第3層・黒色砂質土層	28.0 17.0 6.9 3.0		C-1 先端部はかなり厚味を有し、基部は薄い。石鏝の錐部欠損品か。B面中央に一部大剝離面を留める。周辺からは調整剝離が施されるが、不揃いである。B面右側辺は大きなステップ状を呈し、他の部分にも混在。先端部に鏝が通る。	先端部 菱形 基部 杏仁形	石鏝か 
	S-09-0596 JC63  第3層・黒褐色土層	(32.4) 15.0 5.9 (3.2)		C-2 A面基部中央に大剝離面を留める。B面に主要剝離面を留め、打点は右下方にあたる。両面とも周辺から調整剝離を施すが先端および基部をつくり出さず。基端は厚みをもつ。	杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏝





図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0605 MI57 溝 (SF 074) 黒褐色土層	49.9 21.6 8.1 8.8		C-2 大型。厚味を有する。B面中央に一部大剝離面を留める。周辺からは、粗い剝離が施される。両面にステップ状剝離が混在。	菱形	
	S-09-0630 MS58 溝 (SF 078) 褐色砂層	(29.9) 18.1 5.9 (3.2)		C-1 両面共両側辺、基辺から剝離が施され、両面に鏝が通る。A面右側辺、B面左側辺には更に細かい調整剝離が施される。B面右側辺はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在。	菱形	
	S-09-0653 JM58  整地層	40.0 (14.3) 5.7 (3.2)		C-2 B面基部に大剝離面を留む。A面には主要剝離面を大きく残し、打点は右方にあたる。B面は比較的平坦な面をなす。周辺から調整剝離を施すが、A面基部右側辺には見られず、厚みがある打ち割り面残存。B面左側辺はステップ状剝離を呈し、A面左側辺にも混在する。先端部右側辺および先端から基端にかけての左側辺エッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-0684 JY58  整地層	(29.9) (14.4) 4.3 1.9		C-1 両面共に剝離が施され、大剝離面を留めず。両側辺には更に細かい調整剝離も見られる。A面基部右側、B面基部はステップ状剝離を呈し、他にも混在。鏝は両面先端部に通る。両側辺エッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0694 JI58  整地層	30.0 14.0 5.0 2.0		C-2 A面中央に大剝離面を留め打点は左下方にあたる。B面左半分は大きなステップ状剝離を呈す。両側辺に剝離が施され、先端部は鏝が通る。更に両側辺には細かい調整剝離が見られる。全体に丁寧な作りである。A面右側辺エッジは磨滅。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0706 KP58  整地層	26.6 14.0 5.0 1.9		C-1 両面共に周辺から剝離が施され、大剝離面を留めず。剝離面は略揃っており両面に鏝が通る。B面左側辺には更に細かい調整剝離が施される。A面左側辺はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在。先端部のエッジは磨滅。先端は鈍い。	菱形	
	S-09-0707 KT54  黒色砂質土層	(27.8) 13.1 4.8 (1.9)		C-2 両面とも両側辺より調整剝離。A面右側辺の小さな剝離はステップ状を呈す。B面先端部には上方に打点を持つ大剝離面残存。両側辺とも屈折の小さいジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0709  表採	(29.8) 12.9 4.1 (1.6)		C-2 鉄身はやや細い。B面中央に自然面を留む。A面基部中央に主要剝離面を留め、打点は左下方にあたる。両側辺には更に細かい調整剝離が施される。両面左半分の剝離はステップ状を呈し、右側辺にも混在。	扇形状	
	S-09-0759 MD54 溝 (SF 074) 黒色土層	33.2 (22.2) 5.5 (3.8)		C-2 B面右半分に主要剝離面を留め、打点は左方にあたる。A面基部中央、B面左側の剝離はステップ状を呈す。A面、B面左側辺には押圧剝離が施される。	扁平な扇形	
	S-09-0768 KT54 落ち込み 黒褐色土層	(29.3) (24.2) 5.0 (3.9)		C-2 尖基の可能性あり。両面中央に大剝離面を残し、両面共平坦な面をなす。両側辺より剝離が施されるが、剝離面はステップ状を呈し、両側辺には更に細かい調整剝離が施される。	扁平な杏仁形	
	S-09-0779 KL58	(33.9) 18.2 3.5 (3.1)		C-2 鉄身はやや長く、薄い。B面基部に大剝離面を留め打点は左上方にあたる。両側辺からは剝離が施され、A面に鏝が通る。B面はやや平坦な面をなす。両面とも剝離面は主にステップ状を呈する。両側辺には更に細かい調整剝離が施され、鋸歯状を呈す。	扁平な扇形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0801 LC58 第9号住居址 (SA 009) 埋没土層	(27.6) 13.9 5.5 (2.0)		C-2 小型。厚味を有する。先端部に最大厚を測り、基部は薄い。両面基部に大剝離面を留む。A面は主要剝離面であり、打点は右上方にある。両側面からは剝離が施され、先端部に竊が通る。基端はA面側へ細かく調整剝離している。両面にステップ状剝離が混在。	先端部 菱形 基部 不整菱形	
	S-09-0853 JE58 溝 (SF 079) 上層	(62.2) 17.2 7.7 (9.2)		C-2か 細長く先端で鋭いが、両側面は平行してのび、石槍形態。両平面共両側面と基面より調整剝離、比較的揃った剝離面よりなる。A面右側面、B面左側面はステップ状を呈する。A面中央の稜線周辺、B面先端部、先端部の両側面のエッジには研磨が施される。両側面はジグザグ状を呈する。右側面～基面のエッジには更に刃つぶし状の細かな剝離がある。先端はA面へ反っている。	先端部 杏仁形 基部 扇形	
	S-09-0874 MM53  整地層	49.4 19.9 4.4 (3.7)		C-2 両面中央に大剝離面を留める。A面は主要剝離面を呈し、打点は左下方にあり、B面の打点は右下方にある。周辺からは調整剝離が施されており、ステップ状剝離が混在。周辺のエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0983 LO58 溝 (SF 430) 黒褐色上層	(26.4) 13.3 6.9 (2.1)		C-2 A面中央に一部厚味を残すが、両面共に周辺から調整剝離が施され、大剝離面を留めず、竊は両面に通っている。A面中央およびB面左半分はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在。両面の稜は磨滅。	菱形	
	S-09-0997 MZ  表採	(20.4) 11.8 4.5 (1.1)		C-2 小型。B面中央に大剝離面を留め、打点は左上方にあたる。周辺からは調整剝離が施され、A面に竊が通る。両面にステップ状剝離が混在。	扇形	
	S-09-1000 MZ  表採	31.1 17.0 4.9 2.2		C-1 両面基部に大剝離面を留める。A面の打点は右上方にあたる。B面は主要剝離面を呈し、打点は左上方にあたる。両側面からは調整剝離が施され、先端部両面に竊が通る。基端は薄く、B面およびA面右半分は細かい剝離が施される。A面左側面はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在。全体に丁寧なつくりである。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-1120 KE67  第3層・黒色砂質土層	(24.8) 15.1 3.5 (1.5)		C-1 A面基部中央に大剝離面を留め、打点は右上方にあたる。B面中央に大きく大剝離面を留め、打点は右上方方向にあたる。B面は平坦な面をなす。周辺からの剝離によりA面に竊が通る。両側面には更に細かい調整剝離も見られる。先端はB面側へ剝離欠損。	扁平な扇形	
	S-09-1141 NH56  第3層	24.9 11.3 3.7 1.1		C-2 小型。両面共に剝離が施され、大剝離面を留めず。A面両側面、B面左側面には更に細かい剝離も見られステップ状を呈する。基端はB面側へ細かく調整剝離している。基端右側のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1180 IT68  黒色土層	43.2 21.4 8.2 6.8		C-1 大型。A面基部中央、B面中央に一部大剝離面を留める。A面中央およびB面基部中央は大きなステップ状剝離を呈するが、全体に周辺からの剝離面は略揃っている。B面両側面には更に細かい剝離も見られる。B面左側面もステップ状剝離を呈す。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-1193 JO64  黒褐色土層	48.0 24.5 6.7 7.0		C-1 大型。未製品か。先端に自然面残存。両面基部に大剝離面を留む。A面の打点は上方にあたる。B面は主要剝離面で打点は右上方にあたる。鏃身中央で最大厚を測り基端は薄い。先端部は両側面からの剝離により、A面に竊が通る。基部両側面には細かい剝離が見られるが基端は未調整。	先端部 三角形 中央部 菱形 基部 扁平な杏仁形	
	S-09-1229 LO54  黒褐色土層	(32.6) 17.3 5.4 (2.7)		C-2 B面先端部中央に大剝離面を留め、打点は左下方にあたる。周辺から剝離が施される。両面基部左半分はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在。竊はA面に通る。	先端部 三角形 基部 扇形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1244 NE62  暗褐色土層	(38.3) 15.0 6.9 (3.8)		C-2 両面基部に大剝離面を留める。A面は主要剝離面を呈し、打点は左上方にあたる。B面の打点は右方にあたる。周辺からは剝離が施され、A面に錆が通る。B面先端部は右方から大きく剝離され、平坦な面をなす。両面にステップ状剝離が混在する。基辺のエッジは僅かに磨滅。	五角形	
	S-09-1272 HC52 Pit 4	(31.7) 12.8 5.0 (2.1)		C-2 基端はやや尖がり気味である。両面共に剝離が施され、大剝離面を留めず。両側辺には更に細かい剝離が見られる。A面は揃った調整面よりなる。B面右半分の剝離はステップ状を呈し、他の部分にも混在する。錆は両面に通る。基部下端のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1273 HC54 Pit 7	(25.3) 12.8 5.8 (1.9)		C-1 小型。鉄身中央部で最大厚を測り、先端部は厚みがあり、基端は薄い。先端部の両面に錆が通る。B面基部は大きく剝離され、A面側では細かく調整剝離が施される。B面右側辺には更に細かい剝離も見られる。A面左側辺はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在する。	菱形	
	S-09-1295 II・IJ 64 土城 (SJ183)	21.4 10.9 3.2 0.7		C-2 小型。先端は鋭く突出する。薄い。A面中央に大剝離面を留め、打点は左下方にあたる。周辺から剝離が施される。両面にステップ状剝離が混在。	杏仁形	
	S-09-1299  不明	45.0 17.8 8.2 5.8		C-2 鉄身は細長い。厚味を有する。両面共に大剝離を留めず。A面左側辺、B面先端部は大きなステップ状剝離を呈し、先端は薄い中央に厚みを残す。他の部分にも混在。A面先端部右側辺および先端のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1310 GW50 Pit 5	49.9 20.3 6.6 6.3		C-2 未製品か。大型。鉄身中央で最大幅を測る。A面に大きく大剝離面を留め打点は右方にあたる。B面右半分に主要剝離面を留め打点は左方にあたる。A面が平坦なのに対し、B面は厚味をもつ。B面左側辺からのみ剝離が施される。A面は周辺から細かく調整剝離が施される。両面にステップ状剝離が混在する。先端は磨滅。	台形状	
	S-09-1325 KP68  第5層・茶褐色砂質土層	(25.8) (16.6) 5.0 (2.4)		C-2 基部は尖がりぎみで、基端は自然面を留む。両面共両側辺より剝離が施されるが、両面中央に大きく大剝離面を留める。剝離面は主にステップ状を呈する。基部両側辺エッジは僅かに磨滅。	六角形	
	S-09-1333 Z  第3層・黒色砂質土層	(25.4) 17.0 3.0 (1.8)		C-2 薄身。両面共両側辺に細かい剝離が施される。両面に大きく大剝離面を留め打点はA面左方、B面上方に位置する。基端部両側辺および両面は一部研磨が施される。	扁平な杏仁形	
	S-09-1395 KG68 土坑 (SK 410) 第3層・黒色砂質土層	21.2 11.2 4.2 1.2		C-2 小型。両面共に両側辺より剝離が施され、大剝離面は留めず。両面基部右側辺はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在する。先端は鈍い。	菱形	
	S-09-1423 MZ 溝 (SF 075)	(37.1) (22.9) 6.0 (5.7)		C-2 未製品か。両面共に両側辺より剝離が施され、基辺は未調整。A面左側辺、B面右側辺はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在する。A面基部右寄り、B面基部に大きく大剝離面を留める。B面は主要剝離面を呈し、打点は右上方に位置する。	扇形	
	S-09-1451  不明	(34.7) 16.7 7.0 (3.9)		C-2 両面共に両側辺より剝離を施すがA面先端部左寄り、B面先端部中央に大剝離面を留める。B面は主要剝離面を呈し、打点は左下方にあたる。錆はA面に略通る。A面右側辺には更に細かい調整剝離が見られる。両面の剝離は主にステップ状を呈する。	扇形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1453 表採	26.0 15.3 4.7 1.6		C-2 小型。A面左側辺、B面右側辺、基部左側辺からの調整剝離が見られる。B面先端部左側には大きな剝離面があり、A面右側辺は折れ面である。未調整。両面基部に大剝離面を残し、B面の打点は右上方にあたる。A面の打点は左上方にあたる。両面の稜は僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-1457 JY64 Pit	(24.3) 16.1 3.9 (1.6)		C-1 小型。幅広く薄身。両面共に周辺より剝離が施される。B面中央に大剝離面残存。両面の剝離は主にステップ状を呈する。A面に略竊が通る。	扁平な杏仁形	
	S-09-1458 KE69 第3層・黒色砂質土層	(23.8) 10.7 3.7 (1.2)		C-2 小型。細身。両側辺より剝離を施し、先端部は竊が通る。両面基部に大剝離面を留める。B面は主要剝離面で、打点は左方にあたる。B面にステップ状剝離が混在。	先端部 菱形 基部 台形状	
	S-09-1463 KT58 茶褐色土層	25.6 10.5 2.9 0.8		C-2 小型。細身。鉄身中央で最大幅を測り、基端部はやや幅狭く、基辺が直線的である。先端部は両面共右側辺に傾斜の急な細かい剝離が施され、基部はA面両側辺に細かい剝離が施され、B面は未調整。両面中央に大きく大剝離面を留める。A面は2つの剝離面よりなり、先端部に横方向の稜がある。B面は下方に打点をもつ主要剝離面よりなる。軸はB面側へ彎曲。A面基端部は大きなステップ状剝離を呈す。	先端部 扁平な平行四 辺形 基部 台形状	
PL.49-1	S-09-1135 不明	(29.7) 13.1 4.6 (1.8)		D-2 両端欠損。両面とも両側辺に調整剝離。両面とも中央に大剝離面残存。A面中央に右方向に打点をもつ主要剝離面残存。B面先端部右寄りに大剝離面、中央には大きな剝離面残存。両側辺とも細かなジグザグを呈する。	先端部 菱形 基部 六角形	
PL.49-2	S-09-0003 MZ 表採	29.5 15.5 4.3 (1.8)		D-1 両面ともうすい調整剝離を施す。A面中央に竊が通る。B面中央に大剝離面残存。A面左側辺、B面左側辺に細かな調整を施し、側辺の刃先に厚みをもたせる。周縁は磨滅。	扇形	
PL.49-3	S-09-0330 表採	31.4 13.6 3.6 1.5		D-2. 両面ともうすい調整剝離を施す。A面の剝離面は揃っている。B面は両側辺沿いのみ剝離が施され、ステップ状を呈す。中央には大剝離面残存。両側辺のエッジはうすく鋭い。	扇形	
PL.49-4	S-09-0021 GN54・55 茶褐色粘土層	30.3 14.6 3.4 1.4		D-2 両面にくりかえし調整剝離。A面右側辺、B面基部右側辺はうすいステップ状剝離面を呈すが、剝離面は揃っている。	扁平な菱形	
PL.49-5	S-09-0380 KX62 Pit 第3層	29.3 11.8 4.4 1.2		D-2 両面とも両側辺より調整剝離。A面中央に右方向に打点をもつ主要剝離面が残る。B面基部両側辺ともステップ状剝離面を呈し、中央にわずかに大剝離面残存し、厚みを残す。先端部両面とも右側辺に小さな調整剝離があり両側辺エッジはわずかに厚みをもつ。	扇形	
PL.49-6	S-09-1145 表採	(21.8) 12.5 3.9 (1.1)		D-1 両端欠損。両面両側辺より調整剝離。A面中央に竊が通る。B面左側辺はうすいステップ状を呈す。先端部両側辺のエッジは鋭いが、基部のエッジは磨滅している。	扇形	
PL.49-7	S-09-1090 IX67 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	(22.6) 10.1 2.4 (0.6)		D-1 細身で小型。両面とも大剝離面が残存し、両側辺沿いのみ調整剝離。A面右側辺はステップ状を呈し、B面両側辺には、それは混在する。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	


( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構 (遺構番号) 層位	法量 (mm)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.49-8	S-09-0360 MZ	22.1 13.1 4.0 1.1		D-2 小型。A面、B面先端部は大剝離面よりなり両側辺沿いのみ調整剝離。B面基部は剝離してうすくつくられるが、ステップ状を呈し、中央部にフレイクの厚味を残す。A面は主要剝離面であり、右方向に打点あり。右側辺は細かなジグザグを呈す。	不整五角形	
PL.49-9	S-09-0750 JU66  整地層	21.2 10.9 2.8 0.6		D-1 小型。両面とも大剝離面より成り、A面左側は打ち欠きにより厚みを取り両側辺沿いに細かな調整あり。B面は主要剝離面であり、右下方に打点あり。B面先端部左側辺、基部両側辺に細かな調整を施す。	扁平な三角形	
PL.49-10	S-09-1373 JS64 溝 (SF 081) 黒褐色土層	(38.6) 16.4 5.2 (2.9)		D-2 比較的幅広の柳葉形。両端わずかに欠損。両面にくりかえし調整剝離を施し整形。B面中央部はステップ状を呈し、大剝離面残存。両側辺ともエッジはうすく鋭い。	両端部 菱形 中央部 五角形	
PL.49-11	S-09-0842 JU58  茶褐色土層	35.8 17.5 3.9 2.0		D-2 先端は突出する。基部にふくらみをもつ。両面ともうすく丁寧な調整剝離。形は整っている。B面基部、A面の一部は押圧剝離が施される。B面基部右側辺、A面中央はステップ状を呈し、B面中央に右方向に打点をもつ主要剝離面が残存。	扁平な菱形	
PL.49-12	S-09-0353 LB68 土坑 (SK 288) 第3層	(30.8) 13.9 3.7 (2.0)		D-2 長さの割合に幅広である。A面大半は調整剝離によりうすくつくられるが中央に大剝離面残存。B面は大半が左下方に打点をもつ大剝離面であり、周辺のみ調整剝離。A面はステップ状剝離面が多い。	扁平な扇形	
PL.49-13 PL.61-9	S-09-0505 LE66 第6号土器堆積 (SL 305) 下部	36.3 12.7 2.9 1.3		D-2 幅狭でうすい形の整った柳葉形。両面両側辺より調整剝離を施す。A面中央には左方に打点をもつ大剝離面残存。B面中央に主要剝離面が残存、右方向に打点あり。A面両側辺、B面左側辺中央、左側辺はステップ状を呈す。	扁平	
PL.49-14	S-09-0046 MQ64  黒褐色礫混合土層	(35.5) 12.6 4.7 (1.9)		D-2 両端わずかに欠損。幅狭で厚い。両面にくりかえし調整剝離を施す。剝離面は比較的揃っている。両側辺とも細かなジグザグを呈す。	菱形	
PL.49-15	S-09-0181 KI65  第4層・下部黒色砂質土層	31.0 13.4 3.6 1.4		D-2 両面両側辺より調整剝離、剝離面は不揃いである。A面先端部中央、B面中央に大剝離面残存。打点はA面では右下方、B面では右上方にある。A面右側辺、基部左側辺、B面基部両側辺はステップ状を呈する。先端部の両側辺とも鋸歯状を呈し、その凸部のエッジには研磨が施される。	扁平な扇形	
PL.49-16	S-09-0334 MK63  黒褐色礫混合土層	(33.9) 11.6 3.8 (1.4)		D-2 幅狭の柳葉形。両面にくりかえし調整剝離。剝離面は揃っている。A面基部両側辺ともステップ状を呈し、B面左側辺にもわずかに混在する。	菱形	
PL.49-17	S-09-0461 LC60  第3層	32.9 12.4 3.4 1.3		D-2 幅狭で柳葉形を呈す。両面、両側辺より調整剝離。両面とも中央に大剝離面残存。B面は主要剝離面で右方向に打点あり。A面左側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。	杏仁形	
PL.49-18	S-09-1199 IO64  砂礫混黒色土層	(30.5) 11.8 4.4 (1.3)		D-2 幅狭で柳葉形を呈す。両端欠損。A面両側辺、B面右側辺に調整剝離。両面共右側辺はステップ状を呈す。B面中央には一部自然面残存し、先端部左側辺には調整剝離は施されずフレイクの調整面のままである。A面先端部中央にも僅かに大剝離面残存。	杏仁形	

( )は残存部分の法量である。














図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
PL.49-19	S-09-0538 IT64 第3層・黒色砂質土層	42.0 15.5 5.8 3.7		D-2 基部にふくらみを有する。両面両側辺より調整剝離。A面両側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。更に両面両側辺沿いに細かな調整が施され、右側辺沿いの細かな打ち欠きも同様ステップ状を呈す。A面中央に大剝離面残存。両側辺とも細かなジグザグな稜線を呈す。先端は鈍い。	杏仁形	
PL.49-20	S-09-0343 不明	(43.5) 15.3 5.1 (3.2)		D-2 柳葉形を呈す。先端欠損。両面調整剝離。両面、両側辺とも部分的にステップ状を呈す。	杏仁形	
PL.49-21	S-09-0173 MZ	46.6 13.3 5.1 3.2		D-2 典型的な柳葉形。両端は鋭い。両面にくりかえし調整剝離を施す。A面中央には初段階の調整面が残存。B面基部中央には大剝離面が残存するが両側辺とも揃った剝離面を呈し、右側辺はステップ状を呈す。長軸に於いてA面側にわずかに彎曲。	両端部 菱形 中央部 杏仁形	
PL.49-22	S-09-0171 N153 褐色粘質土層	(42.0) 13.8 3.9 (1.9)		D-2 基部にふくらみをもつ。柳葉形。基端欠損。両面両側辺より調整剝離。基部中央には大剝離面残存。両面とも基部両側辺は、ステップ状を呈す。両側辺のエッジは鋭い。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
PL.49-23	S-09-0251 不明	(39.8) 15.3 4.7 (2.4)		D-1 比較的幅狭。両側辺はくの字形に屈曲し、直線的にのびる。両面とも両側辺より調整剝離を施し、剝離面は揃っておりA面では並列している。両面とも中央に竅が通る。両側辺とも振幅の幅はごくわずかではあるがジグザグを呈し、エッジはうすく鋭い。基部両側辺のエッジは磨滅している。	菱形	
PL.49-24	S-09-0376 KI66 第3層・黒色砂質土層・Pit23	38.0 13.7 4.9 2.1		D-2 比較的幅狭の基部にふくらみをもつ柳葉形。両面にくりかえし調整剝離。B面中央には竅が通る。B面基部左側辺はステップ状を呈し、又先端部両側辺沿いに細かな調整が施されるがこれもステップ状を呈す。	扇形	
PL.49-25	S-09-0405 表採	34.0 12.3 4.7 2.0		D-2 柳葉形を呈す。両面とも両側辺より調整剝離。A面先端部中央に大剝離面残存。B面中央部には初段階の調整面残存。A面両側辺中央はステップ状を呈し対応する。B面右側辺にもわずかにみられる。両側辺ともジグザグを呈す。	杏仁形	
PL.49-26	S-09-0695 JQ58 整地層	(36.9) 14.4 5.1 (2.4)		D-2 比較的幅広の柳葉形。両端わずかに欠損。両面とも調整剝離を施すが、A面は剝離面が不揃いである。A面は全体にステップ状剝離面が多く、A面両側辺沿い、B面両側辺中央の小さな調整剝離はステップ状を呈す。左側辺は小さなジグザグを呈し鋭いが、右側辺は両面にステップ状を呈し、エッジは厚みをもつ。	扇形	
PL.49-27	S-09-0911 JU62 黒褐色土層	34.1 13.5 3.1 1.8		D-2 基部にふくらみをもつ柳葉形。両端わずかに欠損。両面にくりかえし調整剝離。B面中央部は両側辺ともステップ状を呈し、中央に大剝離面がわずかに残存。	扇形	
PL.49-28	S-09-0364 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(40.3) 18.8 4.0 (2.7)		D-2 幅広くうすい。先端欠損。左側辺は基部でわずかに内彎し、E-2タイプの形を呈す。A面中央には初段階のあらい打ち欠き面が残存。B面は基端に打点をもつ主要剝離面よりなる。両面とも両側辺沿いに調整剝離を施すのみである。A面先端部両側辺とも押圧剝離によると思われるが、大半ステップ状を呈す。	扁平な扇形	
PL.49-29	S-09-1321 KI69 第3層・黒色砂質土層	(37.4) 19.8 5.0 (3.5)		D-2 幅広くうすい。先端部欠損。両面ともうすい押圧剝離による調整剝離。両面中央に浅い竅が通る。A面中央部右寄りに大剝離面残存。A面中央部、基部右側辺、B面先端部右側辺にはうすいステップ状剝離面がみられるが、剝離面は揃っている。	扁平な菱形	

( ) は残存部分の法量である。

石 鏃











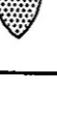
図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-0031 KC68  第4層・褐色土層上面	(30.2) 12.5 4.3 (1.8)		D-2 細長い柳葉形、基部欠損。両面に調整剝離を施し比較的揃った剝離面よりなる。両面とも右側辺はステップ状を呈す。両側辺のエッジは鋭い。B面先端に一部分研磨痕あり。その下方に一部自然面残存。	杏仁形	
	S-09-0036 KN69  表採	(45.6) 16.2 6.6 (5.0)		D-2 細身の大型。両面にくりかえし調整剝離。両面とも中央に竊が通る。剝離面は並列している。B面両側辺沿いの小さな調整剝離はステップ状を呈し、両側辺共に鋭く、ジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0040 KY60  第4層・上面	(44.6) 16.5 4.4 (3.1)		D-2 両側辺とも基部にふくらみをもち、右側辺の逆刺部はやや角張り気味で、左側辺は円みをもつ。両面とも両側辺より調整剝離を施し、両面とも先端部中央に竊が通る。B面中央に右下方に打点をもつ主要剝離面残存。A面基部中央は深いステップ状を呈し、一部に自然面残存。長軸方向でB面側へ彎曲する。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-0044 MO62  黒褐色礫混合土層	(42.6) 15.1 5.6 (3.5)		D-2 両側辺ともくの字形に屈曲してのびる端整な形。両端欠損、両面とも両側辺より調整剝離を施す。A面先端部、B面中央部に大剝離面残存。A面は主要剝離面で左方向に打点をもつ。B面大剝離面の右側には自然面残存。A面両側辺の調整剝離、B面両側辺沿いの細かな調整剝離は殆どステップ状を呈す。	菱形	表面は白色化する。 
	S-09-0085 KZ  第3層・暗褐色砂質土層	(29.4) 11.1 5.5 (1.9)		D-2 先端部欠損。細身で厚みあり。両面とも両側辺より調整剝離を施す。A面、B面とも基部左側辺の細かな調整剝離はステップ状を呈す。先端部はあらく、奥行は狭く急傾斜におわる調整剝離である。石鏃の可能性あり。基部のエッジは磨滅がみられる。	杏仁形	石鏃か 
	S-09-0090 LZ  表採	(41.3) 22.6 8.1 (6.4)		D-2 未製品か。幅広で不整形。両面とも両側辺よりあらい調整剝離を施して成形。B面基部には右上方に打点をもつ主要剝離面残存。B面先端に小さく自然面残存。両端のエッジに磨滅あり。	先端部 菱形 基部 扁平な半円形	
	S-09-0096 KH69  第3層・黒色砂質土層	(30.5) 13.8 8.8 (3.1)		D-2 小型。厚みあり。両面ともうすい調整剝離を施す。A面両側辺、B面右側辺は並列的である。B面左側辺は深く大きいステップ状を呈し、厚みが残存。A面中央両側辺もうすいステップ状を呈す。両面とも中央に小さく大剝離面残存。左側辺は屈折の小さいジグザグを呈す。	不整杏仁形	
	S-09-0106 KLZ	(32.8) 19.0 5.9 (2.9)		D-2か 大型の基部破片。両面にくりかえし調整剝離。両面中央に竊が通る。両面ともうすいステップ状剝離面が混在するが、揃った剝離面が並列している。両側辺とも屈折の小さいジグザグを呈し、エッジは鋭い。基部よりの両側辺のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-0111 MK63  茶褐色砂質土層	45.7 13.3 5.3 3.4		D-2 幅狭。先端部にくりかえし調整剝離。基部にはあらい剝離を施す。A面基部はフレイクの調整面より成り、B面は右下方に打点をもつ主要剝離面よりなる。A面先端部中央には初段階の剝離で竊が通り、両面両側辺沿いに細かな調整剝離を施す。先端部両側辺は細かなジグザグを呈す。基部は両面ともステップ状剝離面である。先端部はややA面側に反り気味である。	先端部 扇形 基部 台形状	
	S-09-0128  不明	(38.3) 12.5 4.5 (2.0)		D-2 比較的幅狭。両面、両側辺より調整剝離。両面とも中央部ではステップ状を呈し、中央に大剝離面残存。	菱形	
	S-09-0133 KG68  第3層・黒色砂質土層	32.3 14.3 6.6 2.3		D-2 両面にくりかえし調整剝離を施すが、両面とも右側辺は深いステップ状を呈し、全体として不整形である。先端部右側辺は外彎気味。他は直線的にのびる。	菱形	

( )は残存部分の法量である。












図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-0135 KP66 第5層	(33.0) 15.5 5.0 (2.9)		D-2 両端欠損。両面にくりかえし調整剥離。両面とも中央に筋が通る。剥離面は揃っている。うすいステップ状剥離面も混在する。両側辺とも小さいジグザグを呈する。	菱形	
	S-09-0167 KJ63 第3層・褐色砂質土層	(38.9) 12.3 4.7 (2.2)		D-2 幅狭。両面にくりかえし調整剥離。A面中央に鈍い筋が通る。A面側辺沿いの細かな調整はステップ状を呈す。左側辺は柳葉形状を呈し、右側辺はくの字形に屈曲する。先端より $\frac{2}{3}$ に最大幅があり、石鏃としては不整形である。	先端部 扇形 基部 菱形	石鏃の可能性あり。 
	S-09-0183 NI52 第4層・褐色粘質土層	(30.1) 11.6 4.1 (1.5)		D-2 幅狭。両面とも両側辺より調整剥離。両面とも基部中央に大剥離面残存。B面左側辺はステップ状を呈す。両側辺とも屈折の小さいジグザグを呈する。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0185 MK58 黒色土層	27.6 13.8 4.2 1.3		D-2 小型。基部に最大幅あり。両面両側辺より調整剥離。B面先端部はうすくつくられるが、B面基部中央に大剥離面残存。両面ともステップ状剥離面よりなる。	扇形	
	S-09-0190 KH65 第3層・黒色土層	(27.3) 18.2 3.9 (2.0)		D-2 S-09-0353と同一形態。幅広くうすい。両面に押圧剥離が施される。両側辺のエッジはうすく鋭い。	扁平な菱形	
	S-09-0191 KT60 第3層	(44.7) 14.5 5.5 (3.3)		D-2 先端部が長く直線的に外下方へのびる。基部に最大幅あり、整った形をしている。両面にくりかえし調整剥離が施され、剥離面は揃っている。両面とも中央に筋が通る。B面中央に大剥離面残存。両面両側辺ともうすいステップ状剥離面が多い。両側辺とも逆刺の部分までエッジに研磨が施され丸くなり、一部研磨がB面右側面にまで至る。	菱形	
	S-09-0214 表探	(57.2) 18.7 6.6 (6.8)		D-2 未製品か。大型。両面とも両側辺より調整剥離が施される。A面中央に大剥離面残存し、その右側に初段階の大きなステップ状剥離面あり。B面両端に小さく大剥離面残存。B面右側辺、A面下半部はうすいステップ状剥離面を呈す。	先端部 扇形 基部 杏仁形	
	S-09-0225 不明	(28.3) 14.9 4.8 (2.0)		D-2 基端欠損。両面くりかえし調整剥離。両面とも中央に稜が通る。両面ともステップ状剥離面が多く混じり、B面左側辺沿いの剥離は奥行は短い深い。表面の磨滅あり。	菱形	
	S-09-0233 MM62 黒色土層	43.6 15.8 4.3 3.0		D-2 左側辺は柳葉形を呈し、中央でふくらみを有し、右側辺は先端より $\frac{2}{3}$ でわずかに挟りが入る。(先端より $\frac{1}{3}$ に一番ふくらみをもつ) 両端は鈍い。両面両側辺より調整剥離が施され、両面とも右側辺基部は剥離面が揃っているが、先端部左側辺はステップ状を呈す。A面先端部中央、B面中央に大剥離面残存。基部両側辺に研磨が施される。	先端部 三角形 基部 不整四辺形	
	S-09-0238 KY61 土坑 (SK 259) 第3層・黒色砂質土層	39.1 15.2 7.3 4.1		D-2 未製品か。両面にくりかえし調整剥離するが、両面両側辺ともステップ状剥離面が多く厚みが残る。B面先端部中央に大剥離面残存。A面基部に自然面あり。	杏仁形	
	S-09-0240 KG65 第3層・黒色砂質土層	37.1 12.6 5.3 2.3		D-1 幅狭。先端部は長く、基部に最大幅あり。両面にくりかえし調整剥離。両面とも中央に筋が通る。両側辺の凸部両端、両平面の稜線は全て磨滅。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0248 MK58 第9号土器堆積 (SL 308) 黒色砂質土層	35.0 15.4 3.6 1.7		D-2 両端は鋭く、中央で幅広になる。薄身である。長軸でB面側へ大きく彎曲する。A面先端部、基部左側辺、B面両端部及び右側辺にわずかに調整剝離を施す。A面基部右側、B面中央に大きく、大剝離面残存。B面は主要剝離面であり先端寄り左上方に打点あり。	扁平な扇形	
	S-09-0285 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	(33.8) 12.2 5.0 (1.7)		D-2 先端は細く鋭く、基部に最大幅あり。両面両側辺より調整剝離。A面中央に鏑が通る。A面中央部に大剝離面残存。A面基部、B面右側辺下半部はステップ状剝離面よりなる。	菱形	
	S-09-0297 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(35.9) 15.1 4.3 (2.7)		D-2 柳葉形を呈す。先端部欠損。両面ともうすい調整剝離が施される。ステップ状剝離面も混じる。両側辺ともカーブのゆるいジグザグを呈す。両側辺の逆刺部分及び基端のエッジは磨滅。	扇形	
	S-09-0301 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	37.7 14.7 6.3 2.9		D-2 両面両側辺より調整剝離。両面とも中央部にわずかに大剝離面残存。A面中央部、B面右側辺中央部はステップ状を呈し、A面左側辺では特に深いステップ状剝離面である。基部に最大厚あり。B面中央に鏑が通る。基端にわずかに自然面残存。	扇形	
	S-09-0314 MI58 溝 (SF 074) 黒色土層	(38.6) 18.1 4.6 (3.0)		D-2 中央部に最大幅があり、幅広いが先端は特に鋭い整った形態。両面ともうすい調整剝離。両面とも中央に不明瞭な鏑が通る。A面右側辺、先端部左側辺沿いの調整、B面右側辺中央部、B面先端部左側辺沿いの細かな調整は殆どステップ状を呈す。両側辺とも細かなジグザグを呈し、エッジは鋭い。	菱形	
	S-09-0317 KU63  第3層	(22.3) 12.7 4.0 (1.2)		D-2 基部破片。両面とも調整剝離。A面左側辺の剝離面は長く、右側辺は短かく、ステップ状を呈す。A面右側辺、B面周縁の細かな打ち欠きも又ステップ状を呈す。	不整四辺形	
	S-09-0318 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(29.6) 11.2 4.3 (1.5)		D-2 幅狭。両面両側辺より調整剝離。両面共先端部中央に鏑が通る。両側辺ともジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0321 KP60  第3層・黒色粘土層最上面	(23.6) 16.7 3.1 (1.4)		D-1 基端欠損。両面とも周縁にのみ調整剝離を施す。中央部には大剝離面が大きく残存し、A面は主要剝離面であり、右下方に打点あり。A面は両側辺ともステップ状を呈す。右側辺は深く、先端部では内彎する。	扁平な扇形	
	S-09-0325  表採	(21.3) 14.7 3.2 (1.0)		D-2 幅広で小型。先端部B面へ折れ欠損。両面ともうすく調整剝離。A面両側辺、B面左側辺に細かな調整剝離を施す。両面とも左側辺は細かなステップ状剝離面を呈す。	扁平な菱形	
	S-09-0331 MK59 溝 (SF 074) 褐色砂層	(39.8) 12.8 6.0 (2.6)		D-1 幅狭。両面両側辺より調整剝離。A面中央部、B面中央部右側辺はステップ状剝離面を呈し、A面では大剝離面残存。B面では深いステップ状を呈し、厚みが残る。右側辺はジグザグを呈す。B面両端部は中央に鏑が通る。	扇形	
	S-09-0333 KP65  第2層	26.2 12.0 1.3 1.3		D-2 小型。両面両側辺より調整剝離。A面先端部、B面先端部左側辺はステップ状を呈し、フレイクの厚みが残る。A面基部、B面中央部には大剝離面残存。基端のエッジは磨滅。	五角形	

( )は残存部分の法量である。












図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0347 MJ59 溝 (SF 074) 褐色砂層	(28.3) 14.0 3.2 (1.5)		D-2 両端欠損。両面両側辺より調整剝離。両面とも中央に大剝離面残存。B面両側辺ともステップ状を呈す。	扁平な杏仁形	
	S-09-0354  表採	(28.9) 10.9 3.5 (1.1)		D-1 基端欠損。幅狭で先端は鋭い。両面にくりかえし調整剝離。	杏仁形	
	S-09-0367 MD62 溝 (SF 074) 褐色砂層	(27.8) 14.7 5.0 (1.6)		D-1 基端欠損。両側辺ともくの字形に屈曲し略直線的にのびる。両側辺中央に最大幅、最大厚あり。右側辺の逆刺はやや円みをもつ。両面両側辺より調整剝離。両面とも右側辺はうすいステップ状を呈す。B面先端部左側には大剝離面残存。	菱形	
	S-09-0370 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	25.7 12.8 4.1 1.2		D-2 左側辺は先端部でふくらみ、右側辺は中央でふくらみもち、全体として不整形である。両面両側辺より調整剝離。A面中央右側辺はステップ状を呈し、厚みが残る。B面中央部左寄りに大剝離面残存。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0374 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(42.1) 13.1 5.1 (2.0)		D-2 基端欠損。幅狭の大型。先端部は細長くうすく鋭い。側辺は直線的にのびる。両面にくりかえし調整剝離。B面基部は揃った剝離面より成るが、先端部は不揃いでステップ状も混じる。A面左側辺、基部右側辺はステップ状を呈する。タイプ不明S-09-1205と先端部の形態が類似。	先端部 菱形 基部 菱形	
	S-09-0393 LA64 土坑 (SK 270)	(27.4) 9.3 3.8 (0.9)		D-2 基端欠損。幅狭。両面にくりかえし調整剝離。A面先端部両側辺、B面左側辺中央部に比較的深いステップ状剝離面あり。両面とも中央に竊が通る。両側辺とも逆刺から基端にかけてエッジが磨滅。	菱形	
	S-09-0417 MZ  表採	(35.6) 15.6 5.5 (3.0)		D-2 両側辺共先端部でふくらみをもつ。先端欠損。両面両側辺より調整剝離。両面とも基部右側辺はステップ状を呈す。左側辺は両面とも急傾斜面をなす。先端部両側辺はジグザグを呈す。	杏仁形	
	S-09-0419 MZ  表採	(28.6) 12.6 3.1 (1.2)		D-2 幅狭でうすい。先端欠損。両面とも両側辺より調整剝離。B面中央には大きく上方に打点をもつ主要剝離面残存。長軸でB面側へやや屈曲。	扁平な扇形	
	S-09-0433 KZ  表採	(31.2) 16.7 4.4 (2.2)		D-2 S-09-0898と同一形態。先端欠損。両面に調整剝離。B面先端部は大きなステップ状剝離面よりなる。両側辺、両端、両面の剝離面の稜は磨滅。先端部のエッジの磨滅が特に著しい。	杏仁形	
	S-09-0446 KZ  表採	(34.1) 16.4 4.6 (2.6)		D-2 柳葉形。先端、基部欠損、両面にうすい調整剝離。A面には揃った剝離面が並列的に並ぶが、B面では両側辺ともステップ状を呈し、中央に大剝離面残存。A面基部中央も深いステップ状剝離面を呈す。両側辺のエッジは鋭い。先端でA面側へやや反っている。	扇形	
	S-09-0451  表採	(27.8) 12.5 4.9 (1.5)		D-1 両端欠損。比較的幅狭で厚味あり。両面両側辺に調整剝離。A面基部両側辺、B面右側辺はステップ状を呈し、中央部に厚みが残る。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0454 表採	(24.3) 13.4 3.7 (1.4)		D-1 両端欠損。比較的幅狭。両面両側辺より調整剝離。左側辺は両面ともステップ状を呈し、不揃いである。	杏仁形	
	S-09-0484 KZ	(39.2) 13.3 6.2 (3.0)		D-1 先端部、基端欠損。細身で大型。厚味あり。両面に調整剝離。両面とも中央に鑄が通る。A面はB面より中高である。両面とも剝離面は揃っており、並列的である。両側辺ともジグザグを呈す。逆刺より下方は直線的にのびるが、上方は目の大きな鋸歯状を呈す。逆刺より下方のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-0494 KZ	(23.6) (18.0) 6.2 (2.4)		D 基部破片。両面両側辺に調整剝離。A面中央に鑄が通り、B面中央には大剝離面残存。両面右側辺はステップ状を呈す。	扇形	
	S-09-0508 MN62~MR62	(30.5) 20.1 6.3 (3.7)		D-2 幅広タイプ。先端部両側辺はふくらみをもっており、逆刺は円く、基部は直線的にのびる。先端欠損。両面両側辺より調整剝離。両面両側辺ともステップ状を呈し、A面中央に大剝離面、B面中央に初段階の調整剝離面残存。両側辺ともエッジは鋭い。	杏仁形	
	S-09-0518 MS62 第9号土器堆積 (SL 308)	(35.6) 12.7 4.8 (1.9)		D-2 幅狭。先端欠損。両面に調整剝離。ステップ状剝離面も混じる。両側辺のエッジは鋭い。	菱形	
	S-09-0526 MZ 溝 (SF 075)	(36.2) 13.1 5.6 (2.2)		D-2 幅狭で厚味あり。逆刺は円味をもつが、両側辺は略直線的にのびる。両面に調整剝離。両面とも中央に鑄が通る。両面ともステップ状剝離面があるが、比較的並列的である。	菱形	
	S-09-0529 MR62 溝 (SF 074) 灰褐色砂層	(31.8) 17.6 6.2 (3.8)		D 未製品か。両面とも両側辺より調整剝離。側辺の打ち欠きは両面ともステップ状を呈す。左側辺はジグザグを呈す。	扇形	
	S-09-0533 MQ52・53 溝 (SF 074) 青灰色砂層	(31.7) 13.4 6.2 (2.4)		D-2 整った柳葉形。基部欠損。両面に調整剝離。両面とも先端部中央に鑄が通る。両面とも剝離面は揃っており、並列的である。両側辺ともにやや不規則だが、小さいジグザグを呈す。エッジは鋭い。	先端部 菱形 中央部 杏仁形	
	S-09-0559 IR62 黒褐色泥土層	(33.3) 13.9 3.7 (1.4)		D-2 端整な形態。薄身である。先端部両側辺ともややふくらみ気味にのび逆刺より下方は直線的である。両面ともやすい調整剝離。押圧剝離によると思われる。剝離面は比較的揃っており、並列的である。両面中央に浅い鑄が通る。両側辺のエッジはうすく鋭い。	扁平な菱形	
	S-09-0561 MH64 溝 (SF 075)	(36.5) 18.8 6.4 (3.7)		D-2 幅広。先端は細く鋭く、両側辺中央部で円く彎曲した、端整な形態。基端欠損。両面とも両側辺より調整剝離。しかし大半がステップ状を呈し、中央部に厚みが残る。両側辺のエッジはうすく鋭い。わずかにジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0563 IV62 第3層・整地面・褐色礫泥土層	(34.6) 10.1 6.4 (1.9)		D-1 幅狭で厚味あり。両面に調整剝離。B面左側辺、A面中央部はステップ状を呈し、中央部には瘤状に厚みが残存。左側辺はジグザグを呈す。両側辺ともエッジは鋭い。	扇形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0564 JA64  整地面・褐色礫混土層	33.3 15.5 4.3 1.9		D-2 幅広くうすい。比較的端整な形態。先端は鋭い。両側辺共中央でふくらみをもち、基部両側辺は略直線的にのび基端は円い。両面にくりかえし調整剝離。A面の両側辺沿いの小さな調整、B面左側辺はステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-0573 IX68 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	(33.1) 15.0 3.4 (1.6)		D-2 薄身である。先端は突出し、右側辺は先端部でふくらみ、左側辺は中央にふくらみをもち、不揃いである。両面両側辺に調整剝離。A面右側辺、B面基部両側辺はステップ状を呈し、両面とも中央に大剝離面残存。B面は右上方に打点をもつ主要剝離面である。	三角形	
	S-09-0579 MJ57  黒色土層	29.3 11.8 5.1 2.0		D-2 小型。両面両側辺より調整剝離。A面先端部中央、B面中央に大剝離面あり。中央部は両面両側辺ともステップ状を呈す。先端(～3mm)に石鏃として使用した回転痕あり。両側辺のエッジはジグザグを呈す。基端にわずかに自然面残存。	六角形	先端に回転痕あり(先端～3mm)。 
	S-09-0600 MH64  黒色バラス層	32.8 10.0 4.2 1.3		D-1 細身。両面両側辺に調整剝離。両面とも中央には大剝離面残存。A面は主要剝離面であり、左中央に打点をもち、中央部は打痕の一部で厚みが残る。左側辺はジグザグを呈す。長軸でB面側へ彎曲。	台形	
	S-09-0627  表採	36.0 16.8 5.5 3.1		D-1 幅広。長軸方向で左側へ彎曲。B面全体はあらい剝離。A面はその後、両側辺に細かな急傾斜面を呈する調整剝離を施す。両側辺ともエッジの角が大きくなる。B面には施されず。A面中央、B面基部には大剝離面残存。	台形状	
PL.53-8	S-09-0633 JB64 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	33.2 10.5 4.8 1.5		D-2 幅狭の柳葉形。先端は鈍い。両面両側辺より調整剝離。両面とも中央に筋が通る。A面左側辺のみその後細かな調整剝離。左側辺はジグザグを呈す。先端部は石鏃として使用した回転痕あり。先端部の形態は変形している。	菱形	先端部に回転痕あり(～12mm)。 
	S-09-0646 LX54  整地層	(32.4) 16.8 5.0 (2.5)		D-2 基部にふくらみをもつ比較的幅広のもの。両端欠損。両面に押圧剝離による調整剝離が施される。剝離面は揃っており並列的。両側辺のエッジはうすく鋭い。	菱形	
	S-09-0651 JE54  整地層	(43.8) 15.5 5.5 (3.9)		D-2 大型。幅狭。両側辺の逆刺は角はとれているが、両側辺とも直線的にのびる端整な形。両端欠損。両面に調整剝離。両面とも中央に不明瞭な筋が通る。両面とも揃った剝離面が並列的に並ぶ。逆刺より下方の両側辺のエッジは丸く磨滅。	菱形	層理のあるサヌカイト 
	S-09-0679 JY62  整地層	(34.4) 15.5 5.4 (2.6)		D-2 基部に最大幅あり。先端部欠損。両面に調整剝離。A面は全体にステップ状剝離面よりなり、B面中央両側辺ともステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-0680 JY62  整地層	(34.0) 17.9 4.5 (3.0)		D-2 先端欠損。比較的幅広。両面にうすい調整剝離後A面両側辺、B面左側辺には細かな調整剝離。これは大半がステップ状を呈す。B面基部右側辺は比較的深いステップ状を呈し、中央には大剝離面残存。	杏仁形	
	S-09-0714 MF50  黒褐色礫混土層	36.3 16.7 5.5 2.9		D-2 基部中央にふくらみをもつ。両側辺とも凹凸あり。両面とも両側辺沿いに調整剝離。両面中央に大きく大剝離面残存。B面は基端に打点をもつ大剝離面、A面も基端に打点をもつ主要剝離面である。A面基部に打痕残存。先端のエッジは磨滅。	先端部 五角形 基部 六角形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-0720 MJ57 溝 (SF 074) 褐色砂層	(29.7) 18.2 3.6 (2.1)		D-1 薄身。両端欠損。両面両側辺よりうすい調整剝離。A面中央に一部、B面に大きく大剝離面残存。B面は上方に打点のある主要剝離面である。A面両側辺ともステップ状を呈する。両側辺はうすく鋭い。	扁平な扇形	
	S-09-0724  不明	(22.4) 13.7 3.6 (1.3)		D-2 小型。先端部欠損。左側辺は上方より縦方向に剝離欠損。基部にふくらみあり。両面ともうすい調整剝離。	菱形	
	S-09-0726 KP58	(43.7) 19.3 5.8 (4.8)		D-2 大型。先端からA面を通り左側辺へぬけて縦方向に剝離欠損。両面に調整剝離。A面右側辺、B面両側辺ともステップ状を呈し、中央部に厚みを残す。基端は磨滅。	菱形	
	S-09-0741 JI58  床土層・整地面	(32.6) 13.4 3.7 (1.8)		D-2 両面に調整剝離。両面とも中央に竊が通る。両面ともステップ状剝離面も混在。先端部左側辺からB面にかけて研磨。両側辺ともエッジはうすく鋭い。	菱形	
	S-09-0742 JE54  床土層・整地面	(33.4) 12.2 5.3 (1.5)		D-2 幅狭。基部両側辺はやや内彎気味に下る。両面両側辺よりあらい調整剝離。A面基部両側辺、B面右側辺はステップ状を呈す。中央部に厚みが残存。両側辺ともジグザグを呈し、エッジは鋭い。先端のみ両側辺のエッジに磨滅あり。その部分のみ小さな調整剝離。中央部両側辺はジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0781  表採	(32.4) 16.1 6.1 (2.8)		D-2 先端欠損。左側辺は柳葉形状を呈し、右側辺はくの字形に屈折し、先端部にふくらみをもつ。両面に調整剝離。A面右側辺、左側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。先端部右側辺のエッジにわずかに自然面残存。	菱形	
	S-09-0784  表採	(40.2) 16.2 4.8 (3.7)		D-2 基部にふくらみをもつ。細身の大型。両面に調整剝離。両面とも中央に竊が通る。両面とも剝離面は揃っており並列している。両側辺ともエッジは鋭い。	菱形	
	S-09-0797 LC58 第9号住居址 (SA 009) 埋没土層	(24.2) 15.8 4.6 (1.6)		D-1 小型。両側辺ともくの字形に屈曲し、先端部右側辺は円味をもち、左側辺は直線的である。両面両側辺に調整剝離。A面基部中央に自然面、B面基部には右方向に打点をもつ主要剝離面残存。両面共左側辺はステップ状を呈す。B面左側辺の剝離面で大半を占め、右側辺沿いに小さな剝離がみられるのみ。	扇形	
	S-09-0805 KP54  茶褐色土層	(39.7) 20.3 7.9 (6.0)		D-1 未製品か。先端欠損。A面左側辺、基部右側辺、B面両側辺より調整剝離。A面右側には右下方に打点のある大剝離面、B面中央には右方向に打点をもつ主要剝離面が大きく残存。基端には自然面残存。両面とも左側辺はステップ状を呈す。	五角形	
	S-09-0816 JY62  黒褐色土層	(40.6) 17.3 6.2 (4.2)		D-2 両面とも両側辺より調整剝離。A面にはくりかえし施す。A面先端部、B面基部中央に大剝離面残存。右側辺寄りに最大厚あり。両側辺ともにジグザグを呈す。	不整菱形	
	S-09-0835 KZ  表採	(38.8) 14.5 5.3 (2.8)		D-2 先端部欠損。左側辺は中央でふくらみ、右側辺はくの字形に屈曲し、直線的にのびる。両面に調整剝離。両面とも中央に竊が通る。B面、A面右側の剝離面は揃っており、並列している。A面左側辺はステップ状を呈す。	菱形	





( )は残存部分の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0855 JE66  褐色土層	(40.2) 15.3 4.0 (2.6)		D-1 先端部は長く、基部に最大幅あり。両端欠損。両面とも両側辺沿いに調整剝離。両面とも中央に大きく大剝離面残存。A面左側辺はステップ状を呈す。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-0862 JQ66  褐色土層	(41.3) 13.9 5.0 (2.6)		D-2 先端わずかに欠損。先端部が長い。両面に調整剝離。基部両側辺のエッジは磨滅。両側辺は屈曲のゆるいジグザグを呈す。両面とも先端部両側辺沿いの細かな調整剝離はステップ状を呈すものが多い。	先端部 扇形 基部 杏仁形	
	S-09-0881 KL59  灰褐色土層	(33.1) 14.4 4.7 (2.5)		D-2 柳葉形。両面に調整剝離。A面中央に竊が通る。B面基部中央に大剝離面残存。A面右側辺にはステップ状を呈し、B面両側辺ともうすいステップ状剝離面が多い。両側辺とも細かなジグザグを呈し、エッジは鋭い。	扇形	
	S-09-0883 KP54  茶褐色土層	(35.7) 16.3 4.8 (2.7)		D-2 柳葉形。両端欠損。両面に調整剝離。両面中央に竊が通り、揃った剝離面が並列している。しかしA面左側、B面右側にはうすいステップ状剝離面が多い。両側辺ともうすく鋭い。	菱形	
	S-09-0897 KT54  黒色土層	(33.6) 11.5 4.1 (1.4)		D-1 幅狭。基部にふくらみをもつ。先端部は長く両側辺とも直線的のびる。両面に調整剝離、両面中央に竊が通る。B面基端に大剝離面残存。B面は比較的揃った剝離面が並列。A面にはステップ状剝離面が多い。左側辺はジグザグを呈す。	菱形	
	S-09-0901  表採	(46.2) 19.4 6.2 (5.7)		D-2 大型。左側辺のふくらみは小さく、右側辺は大きい。両端欠損。両面両側辺より調整剝離。A面先端部中央に竊が通る。A面中央部にわずかに大剝離面残存するが、比較的揃った剝離面が並ぶ。B面両側辺、A面基部両側辺ステップ状を呈す。先端部両側辺はジグザグを呈す。	先端部 扇形 基部 杏仁形	
	S-09-0902  表採	(40.0) 14.6 4.3 (2.6)		D-2 略柳葉形。両側辺とも中央でやや角ばり気味。端整な形態。両端欠損。両面に調整剝離。A面中央部はステップ状を呈し、中央に大剝離面残存。B面中央に大きく主要剝離面が残存し、打点は右下方にあり。B面は揃った剝離面が並列している。両側辺はジグザグを呈す。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0949 LQ62  黒褐色土層	(30.6) 14.5 4.3 (1.8)		D-1 先端欠損。先端部側辺は略直線的のび、基部側辺はわずかに内彎気味である。両面両側辺より調整剝離。B面先端部左側に主要剝離面残存。右方向に打点あり。両面とも右側辺はステップ状を呈す。B面右側中央は大きな打ち欠き面あり。長軸においてB面側へ彎曲。逆刺より下方の両側辺に回転研磨痕あり。	三角形	基部に回転痕あり(長10mm)。 
	S-09-0969 LW62  黒褐色土層	(26.0) 11.5 4.2 (1.2)		D-2 両端欠損。幅狭。両面両側辺より細かな調整剝離。両面基部中央に大剝離面残存。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0970 LW62  黒褐色土層	(26.2) 13.1 3.4 (1.6)		D-2 先端欠損。A面調整剝離。B面主要剝離面よりなり、右下方に打点あり。右側辺に小さな調整剝離を施す。A面左側辺、基部はステップ状剝離面を呈す。	扁平な扇形	
	S-09-0975  不明	(42.6) 18.7 5.5 (4.8)		D-2 先端部欠損。大型。左側辺は円く、右側辺は角をもつ。両面に調整剝離。中央に初段階の剝離面があり、両側辺沿いに小さな調整剝離。左側辺の両面はともにステップ状が多くジグザグを呈す。B面基部中央に大剝離面残存。	先端部 杏仁形 基部 菱形	

( ) は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0992 MZ  表採	(31.6) 18.8 4.4 (2.2)	D-1 大型。薄身。基部破片。両面ともうすい調整剝離。押圧剝離による。両面とも揃った剝離面が並列。両側辺ともエッジはうすく鋭い。A面中央に不明瞭な筋あり。	扁平な扇形		
	S-09-0996 MZ  表採	(24.9) 11.6 5.1 (1.6)	D-2 基部欠損。両面に調整剝離。両面中央に筋が通る。ステップ状剝離面も混在するが、比較的揃った剝離面が並列。両側辺エッジは鋭い。	菱形		
	S-09-0999 MZ  表採	(24.6) 15.6 2.4 (1.1)	D-2 先端部破片。特に薄身。先端の鋭さはない。両面ともうすい調整剝離。押圧剝離による。両側辺のエッジは鋭い。両面とも剝離面の稜線には研磨が施され、光沢をもつ。	扁平		
	S-09-1093 JDZ  褐色礫混合土層	45.2 15.7 8.4 5.7	D-2 未製品か。両面両側辺より調整剝離。両面とも中央に大剝離面残存。B面は左下方に打点をもつ主要剝離面である。両面とも中央部は両側辺ともステップ状を呈す。両側辺はジグザグを呈す。	六角形		
	S-09-1100 JBZ  床土層	(42.0) 16.1 6.4 (3.2)	D-1 先端部欠損。両面に調整剝離。A面先端部左側には深く大きいステップ状剝離面があり、断面形のバランスを失う。B面基部右側辺にも同様の剝離面があり袂が入り、有茎式の如き観を呈する。他の部分は揃った剝離面が並列している。B面中央に大剝離面あり。A面先端部にはわずかに自然面残存。両側辺のエッジは鋭い。	先端部 菱形 基部 不整扇形		
	S-09-1103 MB50  茶褐色砂礫土層・整地層	31.6 13.8 4.4 1.6	D-2 両面に調整剝離。A面中央部両側辺ともステップ状を呈し、厚みが残存。両側辺のエッジはうすく鋭い。	先端部 扁平な杏仁形 基部 菱形	A面に鉄分付着。 	
	S-09-1105 JY58  茶褐色土層	(38.8) 16.2 6.3 (3.4)	D-2 柳葉形。両面両側辺より調整剝離。両面中央部両側辺ともステップ状剝離面が多く厚み残存。B面よりA面が中高である。B面は比較的揃った剝離面が並列している。	扇形		
	S-09-1116 MJ56  褐色砂層	(40.9) 16.2 5.4 (3.7)	D-2 大型。柳葉形。両面両側辺より調整剝離。A面中央に筋が通る。B面右側辺には小さな調整剝離は施されず。A面両側辺のそれはステップ状を呈す。	菱形		
	S-09-1125 KH63  第3層・褐色砂質土層	(37.6) 16.8 5.6 (2.9)	D-1 両端欠損。両面とも調整剝離。左側辺は両面ともステップ状を呈す。両側辺のエッジはうすく鋭い。	菱形		
	S-09-1126 MZ	(19.5) (12.9) 5.0 (1.2)	D 基部破片 両面両側辺に調整剝離。A面中央部左側には大剝離面残存。基部より両側辺は磨滅。	中央部 不整四辺形 基部 菱形		
	S-09-1130 KF63  第3層・褐色砂質土層	(37.8) (15.4) 5.9 (2.6)	D-1 両面に調整剝離。右側辺は両面ともステップ状を呈するものが多い。左側辺は先端から基部にかけて縦方向に剝離欠損。	扁平な菱形		

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1142 MO62 溝 (SF 074) 黒色砂層	(33.3) 16.8 4.1 (2.3)		D-1 基端欠損。両面に調整剝離。A面中央に筋が通り、B面中央には大剝離面残存。先端部両側辺は一部鋸歯状を呈す。先端のエッジ磨滅。	扇形	
	S-09-1147 MO62 溝 (SF 074) 褐色砂層	(31.7) 26.0 6.0 (4.8)		D-2 基部欠損。幅広く、両側辺中央は凹くふくらみをもつ。S-09-1352と同一形態。両面、両側辺より調整剝離。両面中央に大剝離面残存。B面は左上方に打点をもつ主要剝離面である。A面左側辺、B面右側辺、A面先端部右側辺沿いの細かな調整剝離はステップ状を呈す。	扁平な扇形	
	S-09-1206 KP54 茶褐色土層	(42.6) 14.9 5.6 (3.0)		D-2 基端欠損。両側辺とも直線的にのび、逆刺は角ばらずなだらかである。両面に剝離調整。A面中央に筋が通る。B面中央に主要剝離面残存。右下方に打点あり。両面とも揃った剝離面が並んでいる。両側辺とも屈折の小さいジグザグを呈し、エッジは鋭い。A面中央部両側辺ともステップ状を呈し、厚みが残存。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-1216 MP62 溝 (SF 074) 褐色砂層	(40.8) 19.4 6.3 (4.7)		D-2 未製品か。先端A面へ剝離欠損。両面両側辺に調整剝離。両面とも中央部はステップ状を呈す。両面中央に大剝離面残存。B面は右上方に打点をもつ主要剝離面である。両側辺ともエッジは鋭い。	扇形	
	S-09-1240 MX62 黒色砂質土層	(33.2) 12.8 5.6 (2.4)		D-2 幅狭。厚みあり、基端は鈍い。先端から右側辺へかけて縦方向に剝離欠損。両面両側辺に調整剝離。中央に大剝離面残存。A面は基端に打点をもつ主要剝離面である。基部に打瘤が残存。両側辺ともジグザグを呈す。	六角形	
	S-09-1267 HS59 土城 (SJ167)	(26.6) 14.0 4.7 (1.7)		D-2 両端欠損。左側辺は凹凸がありスムーズでない。両面とも調整剝離。左側辺は両面ともステップ状を呈し、うすく鋭いが、右側辺はうすく小さな剝離面よりなり、厚みを残す。A面中央に大剝離面残存。	菱形	
	S-09-1269 HS59 土城 (SJ167)	(27.9) 14.1 3.5 (1.5)		D-2 先端部は直線的にのび、基部にふくらみをもつ。両面に調整剝離。うすいステップ状剝離面もあるが、揃った剝離面が並列している。A面基部中央、B面中央に大剝離面残存。B面は右方に打点をもつ主要剝離面である。両側辺ともエッジはうすく鋭い。	杏仁形	
	S-09-1281 不明	25.0 8.7 4.2 0.9		D-2 小型。細身。両面に調整剝離。両面とも基部をつくりだしており、先端部は両面とも左側辺は調整剝離している。両面とも右側辺は小さな調整剝離がみられるのみ。A面先端部右側、B面中央に大剝離面残存。B面は下方に打点をもつ主要剝離面である。長軸でB面へ彎曲。	先端部 扁平な扇形 基部 菱形	
	S-09-1286 HA50 溝 (SF 325)	(43.5) 14.5 7.9 (4.8)		D-2 未製品か。不整形。基端欠損。先端部に最大厚あり。両面両側辺に調整剝離。A面先端部はステップ状を呈し厚みが残り、両面とも基部中央に大剝離面残存。基部両側辺のエッジに磨滅あり。	三角形	
	S-09-1287 IV60 溝 (SF 080) 第17層直上	(30.1) 16.2 4.2 (1.8)		D-1 両端欠損。基部に最大幅あり。両面両側辺より調整剝離。両面とも先端部左側辺は並列剝離的だが、右側辺はステップ状を呈す。A面基部左側、B面基部中央に大剝離面残存。B面は左方向に打点をもつ主要剝離面である。両側辺はうすく鋭い。	不整四辺形	
	S-09-1316 K164 第3層・暗褐色砂質土層	(27.8) 12.3 3.3 (1.3)		D-2 基部にふくらみあり。両面に調整剝離。両面とも中央に不明瞭な筋が通り、揃った剝離面が並列している。基端に自然面あり。両側辺のエッジはうすく鋭い。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1332 KD68 土壌 (SJ212) 第3層・黒色砂質土層	(33.2) 19.4 6.0 (3.3)		D-2 幅広。未製品か。両面両側辺よりあらい調整剥離。B面基部に大剥離面残存。A面基部は剥離。右側辺はステップ状を呈す。B面右側辺、基部左側辺のエッジに細かな調整剥離。先端部左側辺はあらい打ち欠きのままでエッジは整えず。	扇形	
	S-09-1347 MP63 溝 (SF 074) 礫混黒色有機土層	(33.0) 17.0 3.9 (2.1)		D-1 うすい菱形。両端欠損。両面にうすい調整剥離。しかし両面ともステップ状剥離面が多く表面は整っていない。先端部両側辺には凹凸あり。基部では直線的にのびる。	菱形	
	S-09-1369 KH62  灰褐色砂質土層	(29.0) 20.8 4.4 (3.0)		D-2 うすく幅広。先端部に最大幅あり。基端欠損。両面両側辺に調整剥離。A面基部中央、B面中央に大きく大剥離面残存。B面は左逆刺に打点をもつ主要剥離面である。両面とも右側辺はステップ状を呈す。	扁平な杏仁形	S-09-1352と同一形態。 
	S-09-1382  不明	(21.8) 10.0 3.4 (0.9)		D-2 小型柳葉形。先端部基端欠損。A面両側辺に調整剥離。中央に大剥離面残存。B面両側辺沿いに細かな調整剥離。中央には大きく主要剥離面残存。右上方に打点あり。両側辺は細かなジグザグを呈す。	扇形	
	S-09-1450  不明	(31.1) 16.0 3.3 (1.8)		D-1 先端部欠損。左側辺はくの字形に屈曲し、右側辺は不規則な調整剥離により不整形。B面ではステップ状を呈す。両面とも両側辺よりうすい調整剥離。B面右側辺もステップ状である。基部両側辺ともエッジは磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-10-0163 JY62  整地層	(29.3) 19.3 (5.6) (2.7)		D 基部破片。両面両側辺より調整剥離。両面とも比較的揃った剥離面よりなる。B面右側辺沿いのみ細かな調整があり、ステップ状を呈す。右側辺のエッジはうすく鋭い。基端寄りの両側辺に打ち欠きを施し、その部分のみ凹凸があり、一見鋸歯状を呈す。	不整四辺形	
PL.50-1 PL.61-11	S-09-0864 NG49  灰褐色砂質土層	(66.4) 12.3 7.3 (5.7)		E-2 大型。細身。厚みがあり基部で最大厚を測る。全体に丁寧な調整剥離が施され、大剥離面を留めず。剥離面は揃っている。側辺はジグザグを呈する。鏃は両面共に通る。	菱形	
PL.50-2	S-09-0783  表採	(63.4) 16.8 7.8 (7.9)		E-2 大型。細身。厚みがあり基部で最大厚を測る。両面共に剥離は中央部までのび大剥離面を留めず。鏃は両面共に明瞭である。ステップ状剥離面も混在するが、剥離面は揃っている。側辺のエッジは僅かに磨滅している。	菱形	
PL.50-3	S-09-1257 HN66 第1号住居址 (SA 001) 上部	(51.4) 12.0 9.6 (4.7)		E-2 大型。細身。厚みがある。基部で最大厚を測り、先端にゆくにつれ、薄くなる。両面共に大剥離面を留めず。鏃が通る。側辺はやや大きなジグザグを呈する。A面基部両側辺、B面基部右側辺はステップ状を呈する。	菱形	
PL.50-4	S-09-0307  不明	(47.8) 12.7 6.1 (3.5)		E-2 大型。細身。厚みがある。丁寧な作りで、両面中央に鏃が通る。剥離面は揃っている。挟りの部分は左右で少しずれがみられる。側辺は小さいジグザグを呈する。先端部及び右側辺のエッジは磨滅している。	菱形	
PL.50-5	S-09-0221  不明	(47.6) 12.0 7.1 (3.3)		E-2 大型。細身。厚みがある。基部で最大厚を測り、先端にゆくにつれ薄くなる。両面共に大剥離面を留めず、中央に鏃が通る。茎の挟りは、はっきりしている。側辺はジグザグを呈する。	菱形	

( )は残存部分の法量である。


図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.50-6	S-09-0536 JC63 第2層・黒褐色土層	(48.6) 12.1 5.3 (2.7)		E-2 大型。細身。全体に丁寧な剥離が施され、剥離面は揃っている。両面共に竊が通る。両側辺沿いには細かい調整剥離が施され、鋸歯状を呈す。	菱形	
PL.50-7	S-09-0663 JE66 床土・整地層	(45.1) 12.9 6.2 (3.7)		E-2 大型。細身。両面とも調整剥離。先端部は略同じ厚さで、基部から先端にかけて薄くなる。A面には竊が通る。B面は比較的平坦である。軸はB面へ彎曲。両側辺は細かい調整剥離が施され、鋸歯状を呈す。	菱形	
PL.50-8	S-09-0858 JQ66 褐色土層	(48.4) 12.9 5.2 (3.3)		E-2 大型。細身。やや薄い。両面共両側辺より調整剥離。両面共に竊は通っている。両側辺はジグザグを呈する。四面ともステップ状の剥離面が混在する。	菱形 (A面扁平)	
PL.50-9	S-09-0686 JY58 整地層	(50.6) 12.4 6.2 (3.5)		E-2 大型。細身。厚みがある。基部上方で最大厚を測り、先端に至り薄くなる。先端は鋭い。全体に丁寧な調整剥離が施され、両面中央に竊が通る。両側辺からの細かい調整剥離も見られ、側辺は略一直線上にのび、エッジは鋭い。	菱形	
PL.50-10	S-09-0880 LC58 茶褐色土層	(44.7) 13.0 8.3 (4.3)		E-2 大型。細身。厚みがある。基部で最大厚を測り、先端に至り薄くなる。茎の挟りは明瞭。両面共調整剥離が施され、大剥離面を留めず。中央に竊が通る。四面ともステップ状剥離面が混在する。	菱形	
PL.50-11	S-09-0688 JY58 整地層	(42.4) 10.5 7.1 (3.2)		E-2 大型。細身。厚みがある。全体にやや大きい剥離が施され、中央部までのびる。A面中央部に大剥離面が残存。茎はB面側へ折れ欠損。	菱形	石鏃の可能性あり。 
PL.50-12	S-09-0915 MM54 黒褐色土層	(46.4) 12.4 8.3 (4.0)		E-2 大型。細身。厚みがある。鏃身中央で最大厚を測り、両端に至り薄くなる。全体にやや大きい剥離が施され、中央部までのびるが、B面基部に自然面を残す。B面先端部左半分の剥離はステップ状を呈する。先端は少しA面側へ彎曲。全体の形は整わず。先端エッジは磨滅している。	菱形	石鏃の可能性あり。 
PL.50-13	S-09-1275 不明	(41.2) 14.2 6.4 (4.1)		E-2 大型。細身。茎上部で最大厚を測る。B面中央に大剥離面が残存し、打点は右下方にある。A面には丁寧な調整剥離が施され、竊が通る。A面両側辺沿いに細かい剥離が一部施され、エッジは鋭い。	菱形	
PL.50-14	S-09-0936 MZ	(40.4) 10.5 6.6 (2.3)		E-2 細身。厚みがあり基部で最大厚を測り、先端へ至り薄くなる。茎は薄い。両面両側辺より調整剥離が施され、大剥離面を留めず。挟りは右側が明確で、左側はなだらかである。両面ともに竊が通る。両側辺ともジグザグを呈す。	菱形	
PL.50-15	S-09-0049 MJ56 床土層	(38.0) 13.5 6.3 (3.3)		E-2 大型。細身。やや厚みがある。両面共に竊が通る。全体に調整剥離が施され、側辺寄りに細かい調整剥離も見られる。逆刺〜茎部分のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
PL.50-16	S-09-0660 JE66 整地層	(35.7) 11.7 6.3 (3.0)		E-2 大型。細身。厚みがある。両側辺は略平行、逆刺の部分で、やや角ばり、深い挟りが入る。厚みは茎まで略一定。全体に調整剥離が施される。両面共竊は明瞭である。先端部はA面側へ折れ欠損。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.50-17	S-09-0534 NA60  灰褐色砂層	(50.2) 13.1 6.2 (4.9)		E-2 大型。細身。やや厚みがある。両側辺は略平行、逆刺はなだらか。全体に調整剥離が施され、側辺からの小さい調整剥離もみられる。四面ともステップ状剥離面が混在する。両面共竊は明瞭である。側辺のエッジは鋭い。	菱形	
PL.50-18	S-09-0025 MH60  床土層	(48.8) 12.0 6.9 (4.5)		E-2 大型。細身。厚みがあり基部中央で最大厚を測る。逆刺はなだらか。全体に調整剥離が施され、竊は明瞭である。剥離面は揃っている。両側辺に小さい調整剥離が見られ、ステップ状を呈する。	菱形	
PL.50-19	S-09-0230   表採	(19.8) 10.3 3.1 (0.7)		E-2 やや幅広の小型。薄い。全体に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。剥離の大きさは不揃いである。竊は通らず全体的に表面は磨滅。	扁平な杏仁形	
PL.50-20	S-09-0158 KI63  第3層・褐色砂質土層	(23.5) 12.4 2.5 (0.7)		E-2 幅広の小型。薄い。全体に調整剥離が施され大剥離面を留めず。剥離面はやや大きく更に両側辺沿いに細かい調整剥離が施される。茎は尖がる。	扁平な扇形	
PL.50-21	S-09-0342 MF60  茶褐色砂質土層	(38.6) 12.8 5.5 (2.4)		E-2 やや細身。少し厚みがある。全体に調整剥離が施され、側辺からの小さい調整剥離が先端部および左側辺にみられる。軸はA面側へ少し彎曲している。B面中央の竊は明瞭でA面は平坦な面をなす。A面中央に大剥離面残存。茎部分の両側辺は僅かに磨滅。	三角形	
PL.50-22 PL.61-12	S-09-1200   不明	48.0 12.9 4.6 2.4		E-2 細身。やや薄い。逆刺はなだらか。形は整っている。全体に調整剥離が施され、両面中央の竊は明瞭である。逆刺から茎にかけての両側辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
PL.50-23	S-09-0414 MZ  表採	45.3 13.8 7.7 3.3		E-2 細身。厚みがあり基部中央で最大厚を測る。全体に調整剥離が施され、竊は両面共に通る。鏃身左側辺はジグザグを呈し、右側辺は鋸歯状を呈す。両面基部の剥離はステップ状を呈する。先端は磨滅。	菱形	
PL.50-24	S-09-0810 KL54  茶褐色土層	(41.4) 19.6 6.0 (4.9)		E-2 大型。幅広。逆刺は円味をもつ。先端はA面側へ折れ欠損。全体に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。B面は両側辺からの小さい剥離が見られ、ステップ状の並列剥離痕を呈す。基部から茎にかけての両側辺及び両平面の稜も僅かに磨滅。	杏仁形	
PL.50-25 PL.61-13	S-09-0042 KX・KY60・61・LA60  茶褐色砂層上面	(46.0) 19.7 4.4 (3.9)		E-2 大型。やや幅広。薄い。逆刺は円味をもつ。A面には中央までのびる調整剥離が施される。竊はA面先端部に明瞭。両面基部中央に大剥離面残存。B面右側辺はステップ状を呈し、他の部分にも混在するが、剥離面は揃っている。	先端部 扇形 基部 扁平な六角形	
PL.50-26	S-09-0856 JI66  褐色土層	(50.2) 25.7 5.0 (6.0)		E-2 幅広の大型。薄身。逆刺は円味をもつ。全体にうすく丁寧な調整剥離が施されるが、竊はA面先端部のみ明瞭。両側辺には小さい調整剥離も見られる。逆刺部分のエッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形	
PL.50-27	S-09-0972 LS68  黒褐色土層	(47.3) 19.6 5.3 (4.3)		E-2 大型。幅広。薄い。逆刺は円味をもつ。先端はB面側へ折れ欠損。A面左半分は大剥離面が残存。両面共にやや大きく調整剥離した後、両側辺より小さい調整剥離を施す。B面基部右半分の剥離はステップ状を呈する。先端部両側辺のエッジは細かなジグザグを呈する。	扁平な杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.50-28	S-09-1149  表採	33.4 13.5 4.9 1.6		E-2 薄い。逆刺は円味をもつ。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。鏝は両面を通る。剝離面は揃っている。茎はA面両側から大きく剝離され、ステップ状を呈する。細かい調整剝離は施されず。茎の端部は僅かに磨滅。	扁平な菱形	
PL.50-29	S-09-0473 LC63  第3層	(28.6) 13.3 4.3 (1.5)		E-2 逆刺は円味をもつ。軸はB面へ彎曲。A面中央に大剝離面が残存するが、全体に調整剝離が施される。A面左側辺からの剝離はステップ状を呈する。B面基部左側辺および先端部右側辺沿いの剝離もステップ状を呈する。鏝身右側辺はジグザグを呈する。	先端部 扇形 基部 台形状	
PL.50-30	S-09-0659 JE62  整地層	33.7 16.8 4.1 2.1		E-2 幅広。逆刺は円味をもつ。両面中央に大剝離面あり、B面左下方に打点をもつ主要剝離面である。両面両側辺沿いに小さい調整剝離が施される。茎端部および逆刺部のエッジは僅かに磨滅。	三角形	
PL.50-31	S-09-0811  不明	(35.9) 18.3 5.5 (3.3)		E-2 幅広。逆刺は円味をもつ。両面中央に大剝離面を留める。B面大剝離面の打点は下方にあり。全体に剝離は揃っているが、その大部分がステップ状を呈する。両面左側辺沿いの細かい調整剝離も見られ、ステップ状を呈する。鏝はA面に通る。両側辺のエッジは研磨され丸くなる。	先端部 菱形 基部 五角形	
PL.50-32	S-09-1254 IZ  礫混黒褐色土層	31.2 13.1 4.3 1.6		E-2 逆刺は円味をもつ。A面左半分に大剝離面を留め、上方に打点あり。B面は主要剝離面であり、打点は左下方にある。A面右側辺は調整剝離を施すがステップ状を呈す。更に両面とも両側辺より小さな調整あり。全体に両側辺からの剝離は揃っている。	先端部 菱形 基部 不整四辺形	
PL.50-33 PL.53-7	S-09-0845 JQ58  茶褐色土層	45.0 14.2 6.9 3.9		E-2 幅狭。厚みがある。B面中央に大剝離面を留めるが、全体に調整剝離が施され、両面に鏝が通る。A面基部から茎にかけての右側辺およびB面両側辺沿いの剝離はステップ状を呈する。先端部および茎部分は石鏝としており、回転痕が著しい。	菱形	先端および茎に 回転痕あり(先 端長1.1cm、茎 長1.3cm)。  
PL.50-34	S-09-0291 NJ58  第3層	47.3 14.0 6.7 4.0		E-2 幅狭。厚みがある。逆刺はなだらかで、抉りは浅い。全体に調整剝離が施され、B面中央に一部大剝離面を留めるのみ。剝離は略揃っており、ステップ状のものが混在する。両面に鏝が通るが、A面では不明瞭。周辺からの細かい調整剝離も見られ、全体にステップ状を呈す。先端部のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
PL.50-35	S-09-0258  不明	(41.5) 14.0 5.9 (3.0)		E-2 幅狭。厚みがある。逆刺はなだらかで抉りは浅い。全体に剝離は不揃いであるが大剝離面を留めず。A面およびB面の先端部には鏝が通る。B面茎部分は平坦な面をなす。B面左半分の剝離はステップ状を呈する。周辺からの細かい調整剝離も見られ主にステップ状を呈す。周辺のエッジおよび両面の稜線は磨滅。	先端部 菱形 基部 扇形	石鏝の可能性あり。  
PL.50-36	S-09-1319 GT54 溝 (SF 334)	(52.7) 19.1 5.0 (4.5)		E-2 大型。やや幅広。薄い。逆刺はやや円味をもつが、形が整っていない。全体に調整剝離され大剝離面を留めず。剝離面は揃っている。周辺からの細かい調整剝離もみられ、ステップ状を呈する。側辺のエッジはうすく鋭い。鏝は両面共通。茎部分のエッジおよび鏝は磨滅。	菱形	
PL.50-37	S-09-0246 KT62  第2層・黒色砂質土層	(35.1) 12.6 5.0 (1.9)		E-2 幅狭。逆刺はなだらかで、抉りは浅い。A面中央、B面基部に大剝離面を留む。全体に剝離は不揃いで周辺からの細かい調整剝離もみられるが、殆どがステップ状を呈する。鏝はA面先端部およびB面に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 五角形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地名 遺構 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.50-38	S-09-0551 ME59 溝 (SF 075) 黒褐色礫混土層	(36.2) 13.2 4.3 (1.7)	E-2 幅狭。薄い。逆刺は僅かに円味をもち、抉りは明確。全体に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。剥離面は揃っておりステップ状のものが混在。両面共に鏃は通る。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに研磨が施される。先端部両側辺は細かな調整が施され、鋸歯状を呈す。	菱形		
PL.50-39	S-09-1393 ML59 第9号土器堆積 (SL 308) 黒色砂質土層	(35.4) 21.1 5.3 (2.5)	E-2 やや幅広。逆刺は円味をもつ。A面中央に大剥離面を留め、打点は右方にあり。B面中央に大きく主要剥離面を留め、打点は左方にある。剥離面は不揃いで主にA面側ではステップ状を呈する。鏃は両面共に中央に通らず周辺からは細かい調整剥離が施される。逆刺から茎のエッジは研磨により擦られている。	不整五角形		
PL.50-40	S-09-0701 LX51  礫混黒褐色土層	(39.6) 14.4 5.1 (2.7)	E-2 逆刺はなだらかで抉りは浅い。B面中央に大剥離面を留めるが、全体に調整剥離が施され、揃っている。ステップ状の剥離面が混在。A面中央に鏃は通る。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	菱形 (B面やや平坦)		
PL.50-41	S-09-0375 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	38.0 11.1 4.6 1.7	E-2 細身。やや厚みがある。大剥離面を留めず。全体に不揃いな調整剥離が施され、両面共鏃身左側はステップ状を呈する。周辺には細かい調整剥離も見られる。鏃は両面共に通る。先端のエッジは磨滅。	菱形		
PL.50-42	S-09-0186 KL67  第3層・黒色砂質土層	37.5 15.0 6.2 (3.3)	E-2 やや幅広。厚みがある。逆刺はやや円味をもつ。先端部右側辺はステップ状剥離により浅い凹みをなす。剥離は両面共に中央部までのび、大剥離面を留めず。両面共にステップ状の剥離が混在。鏃は両面に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。茎部分のエッジには回転痕が著しい。	菱形	茎に回転痕(長4mm)あり。 	
PL.50-43	S-09-0113 KK68  黒色砂質土層	(33.0) 17.1 5.8 (2.8)	E-2 幅広。やや厚みがある。抉りは浅い。A面中央に小さく、B面左方に大剥離面が一部残存。B面はやや平坦な面をなす。A面は中央まで剥離がのびる。両面共に剥離面は主にステップ状を呈す。先端部に回転痕が著しい。	先端部 菱形 基部 不整五角形	先端部に回転痕(長7mm)あり。 	
PL.50-44	S-09-0378 MZ	39.0 14.6 4.2 1.2	E-2 薄い。逆刺は円味をもつ。A面茎端部、B面に大剥離面を留める。全体に調整剥離を施し、剥離面は揃っている。A面に鏃は通る。両側辺のエッジはうすく鋭い。	扇形		
PL.50-45	S-09-0542 MY61  黒色砂質土層	33.0 11.5 5.3 1.6	E-2 幅狭。厚みがある。全体に調整剥離が施され、両面共に鏃は通る。剥離面は揃っており側辺はジグザグ状を呈する。両面とも左側辺沿いに細かな調整剥離を施すが、うすいステップ状を呈する。表面全体に磨滅が著しい。	菱形		
PL.51-1	S-09-1249 IB62  礫混黒褐色土層	49.1 20.1 6.5 5.0	E-1 大型。幅広。厚みがある。両面基部中央に大剥離面を留めるが、全体に調整剥離が施され、両側辺には細かい剥離も一部見られる。鏃は両面共に通る。右側辺は先端から逆刺まで磨滅か。先端は研磨が施された可能性あり。	先端部 平行四辺形 基部 六角形		
PL.51-2	S-09-0366 KH66  黒色砂質土層・Pit22	48.2 22.6 4.1 3.9	E-1 大型。幅広で薄い。両面中央に大剥離面を留めるが、全体に調整剥離が施される。周辺からの細かい調整剥離により両側辺は鋸歯状を呈する。鏃身B面の剥離面は全てステップ状を呈する。A面にも混在する。逆刺から茎にかけての左側エッジおよび基部・茎右側は研磨が施される。	扁平な杏仁形		
PL.51-3 PL.61-14	S-09-0872  不明	53.1 18.8 7.2 5.8	E-1 大型。幅広。厚みがある。全体に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。両側辺からの細かい剥離も一部みられる。ステップ状剥離面が混在。B面先端は剥離し薄い。両面共B面先端を除いて、鏃は通る。	菱形		

( )は残存部分の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.51-4	S-09-0869 JZ	(54.9) 22.4 7.1 (7.0)		E-1 大型。幅広。鍬身は長く、両側辺は先端から逆刺にかけて略直線的にのび、逆刺上方で少し外方へ開く。厚味がある。全体に丁寧な調整剝離が施され、大剝離面を留めず。剝離面は並列しており、両面中央に竊が通る。両側辺からは細かい調整剝離が施され、B面両側辺には極く細かい鋸歯状剝離を施す。両面の剝離はステップ状のものが混在。逆刺のエッジは両側ともに磨滅。	扁平な菱形	
PL.51-5	S-09-0733 JI54 床土・整地層	(57.3) 19.8 4.7 (5.1)		E-1 大型。幅広。鍬身は長く薄い。両面共に押圧剝離により調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両側辺からは細かい調整剝離が施され、両側辺共鋸歯状を呈する。両面共にステップ状の剝離が混在。鍬身中央の右側辺は浅く凹むが、全体に整った形をしている。竊は両面に通る。先端はA面側へ折れ欠損。	扁平な菱形	
PL.51-6 PL.61-15	S-09-0127 MJ56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(63.6) 22.6 6.6 (7.9)		E-1 大型。幅広。鍬身は長く薄い。両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両側辺からは細かい調整剝離も施され、両側辺は細かいジグザグを呈する。鋸歯状の部分もある。両面共竊が通る。	菱形	
PL.51-7	S-09-0540 MY61 黒褐色砂質土層	(68.2) 22.6 5.1 (7.3)		E-1 大型。幅広。鍬身は長く薄い。両面共に入念な押圧剝離が施され、揃った剝離面よりなる。B面基部中央に大剝離面残存。両側辺部には細かく揃った押圧剝離が施され、両側辺は殆んど直線的である。エッジはうすく鋭い。竊は両面共に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは擦っている。	扁平な菱形	
PL.51-8	S-09-1320 GP58 整地層	(44.5) 18.5 6.5 (6.5)		E-1 大型。幅広。鍬身は長く薄い。両側辺は逆刺上方で外方へ開く。両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。更に両側辺沿いに細かい調整剝離が施される。剝離面は主にステップ状を呈す。竊は両面共通。逆刺のエッジは磨滅。先端はB面側へ折れ欠損。	菱形	
PL.51-9	S-09-1233 MJ54 黒褐色土層	(51.0) 23.5 5.2 (4.7)		E-1 大型。幅広。薄い。両面共に押圧剝離が施され、大剝離面を留めず、揃った剝離面よりなる。両側辺沿いには細かい剝離も見られ、両側辺は鋸歯状を呈する。竊は両面共通。茎端部A面に自然面残存。逆刺のエッジは磨滅。先端はA面側へ折れ欠損。	扁平な菱形	
PL.51-10	S-09-0340 MJ59 溝 (SF 074) 黒色粘質土層	49.9 26.8 6.2 6.3		E-1 大型。幅広。薄い。右側の逆刺がやや円味をもつ。両面中央に大剝離面が残存するが、全体に調整剝離。中央部の剝離面は主にステップ状を呈する。右側エッジおよび左側逆刺から茎にかけてのエッジは磨滅。	扁平な杏仁形	
PL.51-11	S-09-0372 ML64 黒褐色礫混合土層	(48.3) 29.8 5.8 (5.8)		E-1 大型。幅広。薄い。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。周辺からは細かい調整剝離が施され、剝離面は主にステップ状を呈するが、側辺のエッジは薄く鋭い。竊は両面先端に通る。先端および逆刺から茎にかけての両側辺エッジ、両面の稜は僅かに磨滅。	扁平な菱形	
PL.51-12	S-09-0241 不明	39.5 27.5 5.4 3.4		E-1 大型。幅広。薄い。先端から逆刺にかけての両側辺は少し内彎。茎の扱りは深く、逆刺は鋭角をなす。両面基部中央に大剝離面を留めるが、全体に調整剝離が施される。先端部の剝離は中央までのびており、両面とも竊が通る。周辺からは細かい調整剝離が施されており、エッジは鋭い。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	
PL.51-13	S-09-1097 LW50 茶褐色砂質土層	39.4 24.4 5.1 3.1		E-1 幅広。薄い。茎の扱りは深い。逆刺先端はやや円味をもつ。全体に調整剝離が施され、周辺からの細かい剝離も見られる。大剝離面は留めない。竊は両面に通る。右側の逆刺および茎のエッジは磨滅。	扁平な菱形	
PL.51-14	S-09-0118 KE66 第3層・黒色砂質土層	34.7 23.6 9.3 5.9		E-2 幅広。逆刺は円味をもつ。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。側辺のエッジは薄く鋭いが、中央に厚みがある。A面右側辺に細かい剝離が見られる。四面にステップ状の剝離が混在。	杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
PL.51-15	S-09-1308 MB54 溝 (SF 074) 腐混黒色砂質土層	(34.4) 24.3 4.4 (2.8)		E-2 幅広。薄い。逆刺は円味をもつ。A面中央に大剝離面が残存するが、全体に押圧剝離が施され剝離面は揃っている。剝離は主にステップ状を呈する。	扁平な杏仁形	
PL.51-16	S-09-0923 LW54 溝 (SF 077) 黒色土層	39.3 19.8 7.4 4.9		E-2 厚味がある。逆刺はやや円味をもち、挟りは左側では浅く、右側では明瞭。B面中央に大剝離面を留め、B面はやや平坦。全体に剝離調整が施され、両面先端部に鏝は通る。剝離面は主にステップ状を呈す。	先端部 菱形 基部 五角形	
PL.51-17	S-09-0114 NN58  第3層・茶褐色砂質土層	39.3 20.1 5.1 2.7		E-1 薄い。両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。A面右側辺、B面右側辺に細かい調整剝離が見られ、ステップ状を呈する。鏝は両面共通している。両平面の稜および茎の端部は僅かに磨滅。	菱形	
PL.51-18	S-09-0242 MJ58  黒色砂質土層	41.2 18.6 4.2 2.7		E-1 薄い。A面中央に大きく自然面が残存し、B面中央に大きく主要剝離面を留める。打点は右方にあり。周辺沿いにのみ調整剝離が施される。	扁平な六角形	
PL.51-19	S-09-0696 JQ58  整地層	41.7 17.6 7.1 4.1		E-1 厚味がある。A面中央に大剝離面を留める。鏝身の厚さは殆どかわらず、ごく先端でうすくなる。ステップ状の剝離が主である。鏝は両面先端部に通る。先端から逆刺にかけてのエッジ、茎の端部は僅かに磨滅している。	菱形	石錐の可能性あり。 
PL.51-19	S-09-0895 JQ58  整地層	(51.1) 21.0 6.6 (4.5)		E-1 幅広。厚味がある。逆刺はやや円味をもつ。A面中央に一部大剝離面を留め、B面中央に大きく主要剝離面を留める。A面先端部に鏝が通る。両側辺からは細かい調整剝離が施され、両側辺共に鋸歯状を呈す。剝離面は主にステップ状を呈す。先端はB面側へ小欠損。両側辺および茎端部のエッジは僅かに磨滅。	先端部・茎部 菱形 中央部 扇形	
PL.51-21	S-09-0935 MZ	(35.7) 18.7 5.3 (2.9)		E-1 A面基部中央に一部大剝離面が残存。全体に剝離面が揃って、やや粗雑なつくり。A面右側辺寄りB面右側の剝離はステップ状を呈し他にも混在。B面に鏝が通る。	先端部 菱形 基部 五角形	
PL.51-22	S-09-0332 KP65  第2層	(35.2) 16.3 7.5 (2.8)		E-1 厚味がある。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。剝離面は揃っており、ステップ状を呈する。基部中央のA面左側辺、B面右側辺に細かい調整剝離が見られる。両面共先端部、茎部に鏝が通る。	先端部・茎部 菱形 中央部 厚手の扇形	
PL.51-23	S-09-1237 JA56 第9号周溝墓・4区 (SH 128) 黒褐色土層	35.5 16.4 7.4 3.0		E-1 全体に調整剝離が施され大剝離面を留めず。鏝身は両面両側辺共ステップ状を呈し、中央に厚みを残す。側辺はジグザグである。鏝は両面に通る。茎の両側辺エッジは僅かに磨滅。	菱形	
PL.51-24	S-09-0295 KX62  第2層	33.0 13.9 4.5 1.9		E-1 やや薄い。逆刺は円味をもつが、茎の挟りが明確である。B面中央に大きく大剝離面を留めるが、全体に調整剝離が施される。A面先端部には細かい調整剝離が見られる。鏝はA面に通る。逆刺から茎にかけての両側辺エッジは磨滅。	先端部 菱形 基部 五角形	
PL.51-25	S-09-0383 MJ59 溝 (SF 074) 褐色砂層	33.3 15.9 3.8 1.6		E-1 薄い。左の逆刺がやや円味をもつ。両面中央に大剝離面を留めるが全体に丁寧な調整剝離が施される。両側辺には細かい剝離も見られる。A面右側の剝離はステップ状を呈し、他にも混在。鏝はB面先端部に通る。	先端部 扁平な菱形 基部 台形状	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.51-26	S-09-0168 KJ63 第3層・褐色砂質土層	(24.9) 16.5 5.5 (1.9)		E-1 幅広の小型。茎に厚味があり、先端にいくにつれてうすくなる。左の逆刺は先端が剥離され、右とは非対称。A面右側に大剥離面を留めるが、全体に調整剥離が施され、鏃身は両面共両側辺からの細かい剥離も見られる。B面右側辺の剥離はステップ状を呈し、他にも混在。鏃はA面に通る。	杏仁形	
PL.51-27	S-09-0413 MZ	(29.6) 18.2 5.7 (2.6)		E-2 幅広の小型。全体的に同じ厚さで、先端でうすくなる。左の逆刺は鈍角的に角ばり、抉りは浅く、右の逆刺は円味をもち、抉りは明確である。A面中央に一部、B面中央に大剥離面を留めるが、全体に調整剥離。B面の剥離はステップ状を呈し、A面ではステップ状が混在する。鏃は両面先端部に通る。	先端部 菱形 基部 扇形	
PL.51-28	S-09-0163 ML59 黒褐色礫混合土層	(25.3) 15.5 4.4 (1.6)		E-1 薄い。A面中央及びB面右側に大剥離面を留める。全体に調整剥離が施され、A面両側辺沿いに細かい調整剥離も見られるが、茎は両面共大きな剥離で抉りが入る。両面共左側の剥離はステップ状を呈し、他にも混在する。鏃はB面に通る。	扁平な扇形	
PL.51-29	S-09-0737 JI66 床土・整地層	33.2 12.2 5.4 1.8		E-2 幅狭。厚味がある。逆刺は緩くカーブする。全体に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。両側辺からの細かい剥離も見られる。四面共にステップ状の剥離が混在。鏃は両面に通る。周辺のエッジおよび両平面の稜は僅かに磨滅。先端はB面側へ僅かに破損。	菱形	
PL.51-30	S-09-0900 MJ50 黒色土層	35.3 14.8 4.8 2.2		E-2 やや薄い。逆刺は円味をもち、茎の抉りはやや浅い。全体に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。両側辺には細かい調整剥離が見られる。B面の剥離は主にステップ状を呈し、A面ではステップ状の剥離が混在。鏃は両面に通る。抉りから茎の側辺にかけてエッジを擦っている。	菱形	
PL.51-31 PL.61-16	S-09-0690 MF56 黒褐色礫混土層	30.6 15.2 4.9 1.8		E-1 幅広。やや薄い。逆刺は円味をもち、茎の抉りは明確。左よりも右の方がやや下方に位置する。全体に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。両側辺には細かい調整剥離が見られ、A面ではステップ状を呈する。鏃は両面に通る。	菱形	
PL.51-32 PL.53-2	S-09-0677 JU58 整地層	(37.5) 15.4 5.7 (3.0)		E-1 B面中央に大剥離面を留める。周辺から調整剥離が施されるが、鏃身両側辺はステップ状を呈する。鏃は両面先端部に通る。先端に回転痕あり。茎の左側辺エッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 扇形	先端に回転痕を有す。(長5mm) 
PL.51-33	S-09-0124 KE66 第3層・黒色砂質土層	(37.7) 16.2 4.4 (2.4)		E-2 薄い。逆刺は円味をもつ。全体に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。A面左側辺以外の側辺には細かい調整剥離が見られる。鏃はA面に通る。	扁平な扇形	
PL.51-34	S-09-0644 MB50 茶褐色砂礫土層	(38.8) 16.5 5.7 (3.1)		E-2 逆刺は円味をもつ。B面中央に一部大剥離面を留めるが、全体に調整剥離が施されており、剥離面は揃っている。鏃はA面に通る。先端はA面側へ大きく剥離欠損。	菱形	
PL.51-35	S-09-0661 JI58 整地層	(42.5) 18.5 8.3 (6.3)		E-2 幅広。厚味がある。逆刺は円い。両面中央に大剥離面を留める。B面は平担。周辺からの調整剥離は、全体に揃っているが、A面先端部両側辺、B面右側辺はステップ状を呈す。茎の端部には自然面残存。	先端部 扇形 基部 不整六角形	
PL.51-36	S-09-1248 IB62 礫混黒褐色土層	48.1 18.5 8.0 5.9		E-1 厚味がある。右の逆刺は円味をもち、茎の抉りは明確。両面に大剥離面を留める。A面は2つの調整面からなり、B面は左下に打点をもつ主要剥離面を呈する。周辺から調整剥離が施され剥離面は揃っている。鏃はA面に通る。B面は平担。両側辺のエッジはジグザグである。	扇形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
fig21-6	S-09-0222  不明	(47.0) 13.2 3.9 (2.3)		E-2 細身。鏃身に対し、茎が長い。逆刺は鋭いが挟りが小さい。A面には大きく2面の大剝離面を留め、B面には主要剝離面を残し、打点は下方右寄り。周辺沿いに細かい調整剝離が施され、剝離面は揃っている。先端部両側辺は鋸歯状を呈する。	三角形状	
fig21-7	S-09-0553 IV63  第1層・耕土・床土層	42.2 21.8 7.4 3.8		E-1 厚味がある。先端から逆刺にかけての両側辺は逆刺から茎にかけてと同じ位に内彎し、逆刺は突出している。B面中央に一部大剝離面を留め、全体にやや粗い剝離が施される。A面基部中央は大きなステップ状剝離を呈し、茎部は薄くなる。他の部分にもステップ状剝離は混在。鏃は両面に通る。先端部、逆刺、茎端部のエッジは磨滅。先端はA面側へ剝離欠損。	菱形	
fig21-8	S-09-0211 KK65  第4層・黒色砂質土層	33.2 19.3 4.1 (1.4)		E-1 先端部は細身である。薄い。先端から逆刺にかけての両側辺は逆刺から茎にかけてと同じ位に強く内彎し、逆刺は突出している。逆刺部は右よりも左の方が鋭い。両面両側辺より調整剝離。A面中央に大剝離面がわずかに残存。A面基部中央、B面先端部左側の剝離はステップ状を呈し、他の部分にも混在。鏃は両面に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	菱形	
fig21-9	S-09-1152 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	23.7 20.5 4.7 1.7		E-1 鏃身は特に短かく、逆刺は突出している。両面中央に一部大剝離面を留める。周辺からはやや小さい調整剝離が施される。A面中央の剝離はやや大きなステップ状を呈し、他の部分にもステップ状剝離が混在。両端部のエッジは磨滅。	杏仁形	
	S-09-0014 LE・LF66・67  第3層・茶褐色砂質土層	(24.6) 11.9 4.0 (1.2)		E-2 小型。挟りは浅い。A面中央に大剝離面を留め、打点は左方にあり。B面中央に主要剝離面を留め打点は右方にある。比較的小さい剝離を原材料としている。周辺から調整剝離を施している。	不整五角形	
	S-09-0018 KX・KY62~69	(32.7) 20.7 6.5 (3.4)		E-1 幅広。厚味を有す。鏃身は二等辺三角形を呈し、逆刺は鋭い。両面共に大剝離面は留めないが、B面左方より大きな剝離が施されステップ状を呈す。B面右方からの剝離もステップ状を呈す。A面に鏃が通る。A面にもステップ状の剝離が混在。両側辺には細かい調整剝離も見られる。逆刺、茎の端部エッジおよび両面稜線は磨滅。	先端部 扇形 基部 不整四辺形	
	S-09-0027 ML62  床土層	(44.3) 13.5 8.0 (5.2)		E-2 大型。細身。厚味がある。全体に剝離が施され、大剝離面を留めず。剝離面は両面共に並列しており、中央に鏃が通る。側辺はジグザグを呈す。両側辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0029 KC68  第4層・褐色土層・上面	34.8 11.1 6.5 2.1		E-2 細身。中央に厚味を有し、両端へうすくなる。全体に粗いつくりである。A面中央に大剝離面残存。左側辺はより大きく屈曲し、軸は右側へ彎曲。剝離面は不揃いでA面右側辺はステップ状を呈す。鏃は両面に通る。先端エッジおよび茎左端エッジは僅かに磨滅。	菱形	石鏃の可能性あり。 
	S-09-0032 KC68  第4層・褐色土層・上面	(39.8) 18.6 8.2 (4.7)		E-1 鏃身は二等辺三角形を呈し、逆刺は円い。厚味がある。A面先端部中央およびB面中央に大剝離面を留めるが、全体に調整剝離が施されている。剝離面は揃っており、両面右側辺はステップ状を呈す。両側辺はジグザグである。鏃は両面先端部に通る。A面右側辺、両方の逆刺エッジ、茎のエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-0033 KR・KS66・67  第4層・灰褐色砂質土層	(26.9) 9.6 3.4 (0.9)		E-1 細身の小型。薄い。左側の逆刺はなだらかで、右側の逆刺は円味をもち、挟りが明確。B面中央に大剝離面を留めるが、全体に調整剝離が施される。鏃身両面両側辺からの細かい調整剝離も見られる。剝離面は主にステップ状を呈す。左側の挟り部を除く、周辺エッジは僅かに磨滅。鏃は両面に略通る。	杏仁形	
	S-09-0037 MP62  床土層	(38.3) 13.0 6.7 (3.6)		E-2 大型。細身。厚味がある。両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。A面両側辺沿いに細かい調整剝離も見られる。両面共ステップ状のものが混在するが、剝離面は並列している。側辺はジグザグである。鏃は両面に通る。両側辺エッジは僅かに磨滅。	杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0038 MN62 黒色砂礫有機層	(32.7) 16.2 3.6 (1.9)		E-2 幅広。薄い。逆刺は円味をもつ。両面中央に大きく大剝離面を留める。B面は主要剝離面で、打点は左方にある。薄い剝片を材料としている。周辺沿いに細かな調整剝離が施され、剝離面は揃っている。	扁平な六角形	
	S-09-0043 MN63 黒褐色礫混合土層	(42.4) 19.4 5.3 (3.7)		E-2 幅広。逆刺は円味をもつ。全体に剝離調整が施され、B面基部中央に大剝離面残存。四面にステップ状の剝離が混在。竊はA面に通る。逆刺と茎両側辺のエッジは僅かに磨滅。	扇形	
	S-09-0050 MJ58 床土層	(31.3) 12.9 4.3 (1.7)		E-2 やや細身。薄い。逆刺はなだらかで挟りは浅い。A面中央に一部大剝離面を残し、B面中央には主要剝離面を留め打点は右方に位置する。周辺から調整剝離が施される。両面右側辺はステップ状を呈し、他にも混在する。竊は両面先端部に通る。先端部および茎両側辺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 扁平な扇形 基部 五角形	
	S-09-0054 KN66・67 第2層・第3層	(46.4) 20.5 5.8 (5.7)		E-1 幅広の大型。薄い。両面中央に細長く大剝離面を留めるが、全体に剝離が施され、剝離面は揃っている。B面左側辺のみ剝離が揃わず、側辺が内彎きみになる。竊は両面先端部に通る。周辺のエッジおよび両平面の稜は磨滅。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-0072 KH64 第3層・暗褐色砂質土層	(44.3) 18.9 8.5 (5.7)		E-1 逆刺は左右非対称で左側の挟りが明確である。両面両側辺より調整剝離。両面先端部は竊が通るが、基部中央に大剝離面、B面中央には自然面が残存し、基部は特に厚みをもつ。B面はやや平坦な面を呈す。全体につくりは粗い。四面にステップ状剝離が混在。	先端部 菱形 基部 六角形	
	S-09-0076 IZ 表採	(35.2) 21.0 8.7 (5.8)		E-1 幅広。厚味がある。逆刺はやや円味をもつが、挟りは明確である。A面に一部大剝離面を留める。両側辺からは調整剝離が施されるが主にステップ状を呈し、剝離面は揃っていない。やや粗いつくりである。竊は両面先端部に略通る。先端はA面側へ折れ欠損。茎端部に自然面を留める。上端折れ部分に最大厚あり。	菱形	
	S-09-0079 KI62 第3層・暗褐色砂質土層	24.2 14.9 3.5 (1.4)		E-2 幅広の小型。薄い。挟りは浅い。両面は大きく大剝離面が残存。B面は下方に打点をもつ主要剝離面である。かなり小さい剝片を材料としている。周辺沿いに細かな調整剝離を施す。軸はB面側へ彎曲。茎のエッジは僅かに磨滅。	扁平な六角形	
	S-09-0080 KI63 第3層・暗褐色砂質土層	(41.0) 19.8 8.2 (5.0)		E-1 幅広。厚味を有す。逆刺は左右非対称である。右側の挟りはやや浅く、左側の挟りは明確である。全体に粗いつくりで剝離面はステップ状を呈す。右側辺の剝離は両面共うまいくならず、著しいステップ状を呈す。A面左側のみ中央付近まで剝離がのび、揃った面を呈す。A面基部右寄り、B面中央に大剝離面残存。周辺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 不整四辺形	
	S-09-0081 KI63 第3層・暗褐色砂質土層	(36.2) 20.3 6.7 (4.9)		E-2 幅広。側辺は緩くカーブし、逆刺は円く。茎は短い。A面、B面基部中央は大剝離面、B面先端部は上方からの大きな剝離面よりなり薄く、基部は厚みをもつ。周辺より小さな調整剝離。側辺はジグザグを呈す。先端は鈍く、不整形。	先端部 不整六角形 基部 不整五角形	
	S-09-0083 KJ63 第3層・暗褐色砂質土層	(30.2) 13.4 3.2 (1.5)		E-2 薄い。逆刺はややなだらかで、挟りは浅い。両面に大きく大剝離面が残存。B面は主要剝離面を呈し、打点は右下方に位置する。A面およびB面右側辺は調整剝離が施され、剝離面は揃っている。先端はB面側へ折れ欠損。	先端部 扇形 基部 台形状	
	S-09-0089 KZ 表採	(48.6) 19.7 5.6 (4.6)		E-1 大型。やや幅広。鏃身は長い。A面中央に自然面が残存するが、全体に調整剝離が施されており、剝離面は並列している。両側辺には一部細かい調整剝離も見られる。竊は両面に通る。逆刺から茎にかけてのエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0093 MJ57  茶褐色砂質土層	(25.7) 15.6 5.0 (2.0)		E-2 やや厚味を有する。逆刺は円い。両面共に大剝離面を留めないが、やや粗いつくりである。両面共に左側の剝離はステップ状を呈し、他にもステップ状の剝離が混在。鏃は両面に略通る。左側辺は粗い鋸歯状を呈す。	菱形	
	S-09-0097 KI66  第3層・黒色砂質土層	24.0 14.0 3.2 1.2		E-2 幅広の小型。薄い。逆刺は円味をもつ。両面中央に大剝離面を留め、A面は左方に打点をもつ主要剝離面である。小さい剝片を材料としている。周辺から細かな調整剝離が施される。周辺のエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 ごく扁平な六角形	
	S-09-0099 KI67  第3層・黒色砂質土層	(40.3) 20.3 5.4 (3.8)		E-1 幅広。鏃身の側辺は直線的にのび、左の逆刺はやや円味をもつが、茎の挟りは明確である。全体に丁寧な剝離が施され、大剝離面を留めず、両面中央に鏃が通る。両側辺からは一部細かい調整剝離も施され、エッジはうすく鋭い。	菱形	
	S-09-0101 KJ68  第3層・黒色砂質土層	32.2 20.6 4.4 2.6		E-1 幅広。薄い。左の逆刺はやや円味をもつ。先端の角度は鈍い。全体に調整剝離面は揃っていないが、大剝離面は留めていない。四面にステップ状の剝離が混在。鏃は両面に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形	
	S-09-0107  第5層・茶褐色砂質土層	(33.7) 18.5 8.2 (4.7)		E-2 幅広。厚味がある。逆刺は円味をもつ。両面中央に大剝離面を留める。B面はやや右寄りの下方に打点をもつ主要剝離面である。全体に粗いつくりで、A面中央の左側からの初段階の剝離は大きなステップ状を呈する。周辺からは調整剝離が施され、剝離面は揃っているが主にステップ状を呈す。鏃はA面に通る。先端および茎の端部はA面側へ折れ欠損。周辺のエッジは全体に僅かに磨滅。先端破損部および茎の両側辺は磨滅。	扇形	
	S-10-0119 KN66  第4層・茶褐色砂質土層	(40.2) 21.0 8.5 (6.6)		E-2 やや幅広。厚味がある。側辺は緩くカーブし、逆刺は円い。挟りは浅い。両面をやや粗い剝離が施され、大剝離面が施され、大剝離面を留めず。B面左側辺はステップ状剝離を呈し、他の部分にも混在する。鏃は両面に通る。	菱形	
	S-09-0120 KE69  第3層・黒色砂質土層	44.5 12.5 5.3 3.0		E-2 細身。やや厚味がある。逆刺はなだらかで挟りは極く浅い。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。剝離は全体に揃っており、四面共ステップ状の剝離が混在。鏃は両面に通る。左側辺はジグザグを呈す。先端は円い。周辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0121 KE69  第3層・黒色砂質土層	30.3 7.7 4.1 1.1		E-2 細身の小型。B面中央に大きく大剝離面を留める。全体に粗いつくりである。剝離面は主にステップ状を呈し、不揃いである。A面右半分の剝離は大きいステップ状を呈す。茎端部は自然面を留める。鏃はA面に通る。先端は右側に彎曲する。	不整五角形	
	S-09-0132 KD66  第3層・黒色砂質土層・下部	36.5 14.1 4.8 2.0		E-2 やや幅広。厚味がある。逆刺は円味をもち、挟りは浅い。A面中央に一部大剝離面を留めるが、全体に剝離面は揃っている。両面左側辺の剝離はステップ状を呈し、他にも混在。鏃は両面に通る。側辺のエッジ及び両面の稜線は磨滅。	菱形	
	S-09-0136 MK61  黒褐色礫混合土層	(25.4) 19.1 4.5 (2.7)		E-2 幅広。薄い。逆刺はやや角ばるが、左よりも右の方が下方に位置する。A面右半分は大剝離面を留める。両側辺からの剝離は粗いがA面両側辺には更に小さい調整剝離が施される。全体として不整形。周辺のエッジは磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0153 MH56  黒褐色礫土層	(36.5) 11.1 6.4 (3.4)		E-2 大型。細身。厚味がある。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両面の両側辺より細かい調整剝離が施されており、鏃は両面に通る。周辺エッジおよび両平面の稜は磨滅。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0157 KH68 第3層・褐色砂質土層	(34.4) 21.0 5.6 (4.3)		E-2 幅広。逆刺は円味をもつ。B面中央に自然面を留める。全体にやや粗いつくりで、剥離面は主にステップ状を呈する。A面は調整面よりなり、竊はA面に通る。逆刺のエッジは磨滅。先端から右側辺にかけて縦方向に剥離欠損。	不整五角形	
	S-09-0161 KJ64 第3層・褐色砂質土層	(41.3) 23.0 4.9 (3.7)		E-1 大型。幅広。薄い。B面中央に細長く大剥離面を留めるが、全体に押圧剥離が施され、剥離は中央までのびる。B面両側辺には一部細かい調整剥離も施されている。A面右側辺は主にステップ状を呈する。A面先端部左側辺、基部右側辺の剥離は不揃いである。竊は両面に通る。先端部エッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形	
	S-09-0169 KL65 第3層・褐色砂質土層	37.5 22.5 5.8 5.4		E-1 幅広。やや厚味がある。左の逆刺は円味をもち側辺の抉りがやや浅いのに対し、右の逆刺は鋭角的に角ばり抉りは明瞭である。両面中央に大剥離面を留めB面は右下方に打点をもつ主要剥離面を呈す。周辺から調整剥離が施されるが、剥離は不揃いでステップ状を呈する。周辺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 不整四辺形 基部 扁平な杏仁形	
	S-09-0172 N153 褐色粘質土層	(30.8) 11.3 4.4 (1.2)		E-2 小型。やや細身。厚味を有する。茎は長い。全体に調整剥離が施され、剥離は中央までのびている。剥離面は揃っており、四面にステップ状剥離が混在。両面基部中央に大剥離面残存。竊は両面に通る。	菱形	
	S-09-0176 KX58 第3層	(28.6) 21.4 4.4 (3.0)		E-1 大型。幅広。薄い。鏃身は二等辺三角形。全体に調整剥離が施されており、大剥離面を留めず。押圧剥離と思われる。B面先端部寄り右側に燦の結晶が見られる。剥離面は主にB面側において、ステップ状を呈する。竊は通らず。両面中央突部に研磨が施されており、先端はA面側へ折れ欠損。基部両側辺のエッジは僅かに磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0179 MZ	29.7 12.6 5.0 2.0		E-2 厚味がある。逆刺はなだらかで抉りは浅い。A面中央に一部、B面中央に大剥離面を留める。B面は略平坦な面をなす。周辺から調整剥離が施され、剥離面は揃っている。両側辺はジグザグ。周辺のエッジおよび両面の稜は磨滅。先端および基端部の磨滅は著しい。	先端部 菱形 基部 不整五角形	石鏃の可能性あり。 
	S-09-0180 MZ	(28.6) 15.4 5.0 (1.9)		E-2 幅広の小型。厚味がある。逆刺は角ばるが抉りはやや浅い。両面基部中央に大剥離面を留め、周辺より調整剥離を施している。全体にやや粗いつくりで、A面左側辺はステップ状を呈する。A面右側辺に細かい調整剥離が施される。竊はA面先端部に通る。周辺エッジは僅かに磨滅。	三角形	
	S-09-0187 MI56 黒色砂質土層	(42.9) 17.1 6.4 (3.8)		E-2 厚味がある。逆刺は円味をもつ。全体に調整剥離が施されており、大剥離面を留めず、中央に竊が通り、剥離面は並列している。側辺はジグザグを呈す。B面左側にステップ状の剥離が見られる。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0197 KT60 第2層・黒褐色砂質土層	38.6 21.3 6.0 3.7		E-2 幅広。薄い。逆刺はやや角ばるが、抉りは浅い。A面中央に小さく、B面中央にやや大きく、大剥離面を留め、周辺から調整剥離が施される。全体に剥離は揃っていない粗いつくりである。剥離は主にステップ状を呈す。	先端部 扁平な五角形 基部 菱形	
	S-09-0199 MH57 黒色砂質土層	(37.9) 10.6 5.1 (2.0)		E-2 細身。両面中央に大剥離面を留め、周辺から調整剥離を施している。全体に粗いつくりで、ステップ状の剥離が混在、全体として不整形。左右対称の形でない。	扇形	石鏃の可能性あり。 
	S-09-0203 KT62 第2層・黒褐色砂質土層	(32.6) 14.8 5.2 (3.0)		E-2 幅広。厚味を有す。逆刺は円味をもつ。両面中央に大剥離面を留める。周辺からは調整剥離が施され、剥離面は略揃っている。B面はステップ状の剥離が混在。基部両側辺はジグザグである。先端に回転痕あり。	杏仁形	先端に回転痕あり (長13mm)。 

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0341 KX60-70	(32.4) 14.8 6.5 (3.3)		E-2 基部に厚味がある。A面基部中央に一部大剝離面を留める。全体に調整剝離が施されるが、主にステップ状を呈する。鏃は両面に通る。B面には中央の突部に研磨が施される。先端部両側辺のエッジは磨滅して丸い。	菱形	
	S-09-0348 MJ58 溝 (SF 074) 褐色砂層	(40.2) 19.5 7.7 (6.1)		E-2 幅広。厚味がある。全体にやや粗い調整剝離が施されており、大剝離面を留めず。A面基部左側辺、B面基部両側辺はステップ状を呈し、他にも混在する。鏃は両面に通る。先端部エッジは僅かに磨滅。先端はB面側へ折れ欠損。未製品か。	菱形	
	S-09-0356 MN61  黑色砂質土層	(43.3) 20.3 6.3 (4.0)		E-1 逆刺部は幅広で、先端は鋭く、基端も細くつくられる。厚味がある。B面基部中央に大剝離面を留めるが、全体に調整剝離が施される。A面右側辺に細かい調整剝離が施されており、ステップ状を呈する。B面基部は主にステップ状剝離を呈し、他にも混在。逆刺からの茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 五角形状	
PL.49-37	S-09-0382 MK59 溝 (SF 074) 褐色砂層	35.6 14.5 4.7 1.8		E-2 基部中央で最大厚を測り、先端および基端に向けて薄くなる。鏃身両側辺は直線的のび、逆刺は円味をもち、抉りは少し浅い。両面共、調整剝離が施され、A面先端部両側辺には更に細かい調整剝離が施される。鏃は両面に通る。	菱形	
	S-09-0385 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(23.4) 18.0 5.5 (2.2)		E-2 鏃身は短かく、基部に厚味がある。先端部から逆刺にかけての両側辺はやや内彎する。先端は鈍く、鏃身は不整形。左の逆刺は角ばり、右の逆刺は円味をもつ。両面ともに両側辺から調整剝離が施されており、剝離面はステップ状を呈す。逆刺から茎側辺の磨滅は著しく、エッジは丸くなり、鏃身のエッジも磨滅。	不整四辺形	
	S-09-0391 LA64 土坑 (SK 270)	(25.0) 18.9 4.9 (2.4)		E-2 幅広。扁平。逆刺は円味をもつ。両面共に両側辺から調整剝離が施され中央までのびており、剝離面はステップ状を呈するが、並列している。両面共に大剝離面を留めない。鏃は両面に通る。	扁平な菱形	
	S-09-0399  表採	(32.4) 14.9 4.4 (2.5)		E-2 やや厚い。A面左半分、B面に大きく大剝離面を留めB面は左下方に打点をもつ。両面共に側辺から調整剝離が施されるが中央までのびず、不揃いである。全体につくりは粗い。	両端部 菱形 基部 台形状	石鏃の可能性あり。 
	S-09-0406  表採	(32.2) 13.5 6.8 (3.3)		E-2 やや細身。厚味を有する。両面共に調整剝離が施されており、大剝離面を留めず。鏃は両面に通る。A面両側辺沿いに細かい調整剝離も施され、剝離面はステップ状を呈する。両面共に中央部にはステップ状剝離が混在。逆刺から茎にかけてのエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-0409 KP65  第2層・暗褐色土層	(37.2) 23.8 3.9 (2.8)		E-1 幅広。扁平。先端から逆刺にかけての両側辺はやや内彎し、逆刺部は鋭く、茎の抉りは明確。A面基部中央に主要剝離面を留め、打点は上方にある。B面基部に大剝離面を留め打点は下方にある。両面両側辺から剝離が施され、A面では主にステップ状を呈する。先端部両側辺には細かい調整剝離も見られる。鏃はB面先端部に通る。先端部、逆刺、茎の両側辺エッジは僅かに磨滅。	先端部 扁平な扇形 基部 台形状	
	S-09-0415 MZ  表採	(34.0) 14.3 6.7 (2.7)		E-1 やや幅狭。厚味がある。A面基部中央に一部大剝離面を留め、右方に打点をもつ。全体に調整剝離が施され、剝離面は揃っている。B面左側辺基部から茎にかけての剝離面はステップ状を呈す。鏃は両面に通る。	菱形	
	S-09-0416 MZ  表採	(31.3) 17.0 5.6 (2.6)		E-1 厚味がある。先端から左の逆刺にかけて、やや内彎し、逆刺は円味をもつ。先端から右の逆刺にかけて、やや外彎し、逆刺は角ばる。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両面とも左半分の剝離が主にステップ状を呈する。鏃は両面に通る。	菱形	

( )は残存部分の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0420 MZ 表採		47.8 16.3 9.2 5.4	E-2 幅狭。鏃身は長く、左側辺は緩くふくらみ、右側辺はくの字形を呈す。厚味がある。A面基部中央に大剝離面、B面中央に主要剝離面を留め、打点は左方にあるが、この部分の側辺は調整剝離がうまくいかず、厚味を残す。両面共に両側辺から調整剝離が施され、先端部は鏃が通る。両面共に剝離面はステップ状を呈する。	菱形	石鏃の可能性あり。 
	S-09-0426 MZ	(35.0)	16.2 4.8 (2.7)	E-2 両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。基部両側辺には細かい調整剝離が施される。両面共ステップ状剝離が混在。鏃は通る。基端部を除く周辺のエッジおよび両面突部に研磨が施される。	菱形	
	S-09-0440 MZ 表採	(47.2) (24.6)	6.6 (7.5)	E-1 大型。幅広。やや厚味がある。先端から逆刺にかけての左側辺は内彎。両面に剝離が施され、B面基部中央に大剝離面残存。B面の剝離面は略揃っており、A面の剝離面は粗く不揃いで、大きなステップ状剝離を呈する。鏃はB面先端部に通る。周辺のエッジおよび両面の稜は磨滅。	先端部 扁形 基部 杏仁形	
	S-09-0443 KZ 表採	(45.0)	19.9 6.9 (4.7)	E-1 大型。幅狭。厚味を有する。先端部は直線的にのび、逆刺上方でやや内彎。逆刺は少し円味をもち、茎の挟りは明確。両面共に丁寧な調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両側辺からは細かい調整剝離が施され、ステップ状を呈す。B面の剝離面は主にステップ状である。鏃は両面共に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0448 ME60 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(21.1)	18.1 4.5 (2.1)	E-2 薄い。逆刺は円味をもつ。B面中央に大剝離面を留め、両側辺よりうすい調整剝離を施し、更に細かい調整を施す。両面共ステップ状剝離が混在。A面に鏃が通る。両側辺のエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0470 ME60 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(30.1)	13.6 5.4 (1.7)	E-2 小型。厚味を有する。逆刺は角ばるが、挟りは浅い。両面中央に大剝離面を留める。全体に調整剝離が施され、剝離面は略揃っている。更に細かい剝離が両側辺に施される。両面右側辺の剝離面はステップ状を呈する。鏃は両面先端部に通る。	先端部 菱形 基部 六角形	
PL.53-10	S-09-0480 LE63 第3層		36.3 19.2 6.4 4.1	E-2 幅広。厚味を有する。逆刺は左右非対称で、左側より右側の方が上方に位置する。左側の逆刺は角ばり右側の逆刺は円味をもつ。茎の挟りは浅い。B面中央に大剝離面を大きく留める。A面中央に主要剝離面を一部留め、左下方に打点をもつ。両側辺からは調整剝離が施されているが不揃いで、主にステップ状剝離を呈する。先端部側辺(長7mm)、茎両側辺(長6mm)は磨滅しており、両端鏃の可能性あり。	不整五角形	両端鏃の可能性あり。 
	S-09-0481 LG60~66	(39.5)	20.4 4.8 (4.1)	E-1 大型。やや幅広。やや薄い。逆刺は左右非対称で、左側はやや角ばるが、茎の挟りは浅く、右側は角ばっており、茎の挟りは明確である。全体に調整剝離が施されており剝離面は並列し、大剝離面は留めない。両面左側辺には更に細かい調整剝離が施される。A面およびB面左半分の剝離は主にステップ状を呈する。	扁平な菱形	
	S-09-0483 LE67 第2層	(23.4)	12.3 5.7 (1.8)	E-1 やや細身の小型。厚味がある。逆刺はやや角ばり茎の挟りは明瞭。両側辺から調整剝離が施され、大剝離面を留めず。B面両側辺には更に細かい調整剝離が施される。剝離面は主にステップ状を呈する。先端部から茎にかけての両側辺エッジは磨滅。先端はA面側へ、基端部はB面側へ折れ欠損。	杏仁形	
	S-09-0487 MZ62 溝 (SF 074) 表採		40.3 14.8 5.6 2.8	E-2 やや細身。逆刺はなだらかで、茎の挟りは浅い。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両側辺は鋸歯状を呈す。両面の剝離は主にステップ状を呈する。鏃は両面に通る。逆刺から基端部にかけてのエッジは擦っている。軸はA面側へ彎曲。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地 遺構 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-0490 LE68 溝 (SF 096)	34.4 15.8 4.6 2.0		E-2 幅広。薄い。逆刺は円味をもつ。挟りは明確。A面に大剝離面を留め右方に打点をもつ。B面に大きく主要剝離面を留め、左下方に打点をもつ。面側辺より調整剝離が施され、鏃身部の剝離面は略揃っており、挟り部分の剝離はやや粗い。周辺のエッジは僅かに磨滅。軸はA面側へ彎曲。	扁平な五角形	
	S-09-0506 MH64 黒褐色礫混入土層	(34.4) 15.4 6.7 (4.0)		E-2 大型。細身。厚味がある。逆刺はやや円味をもつ。両面共に調整剝離が施され、B面先端部中央に大剝離面残存。両側辺沿いに更に細かい調整剝離が施され剝離面は並列し、鏃は両面に通る。両面共にステップ状剝離が混在。両端ともA面側へ折れ欠損。	菱形	
	S-09-0513 不明	42.7 14.5 6.0 3.1		E-2 幅狭。茎の上方部で最大厚を有する。A面中央に自然面を残し、B面中央部では左下方に打点をもつ主要剝離面を留める。逆刺はなだらかで、挟りはやや浅い。周辺から調整剝離が施されており、剝離面は揃っている。B面鏃身右側辺はステップ状を呈する。鏃身中央右側辺、茎の左側辺エッジは僅かに磨滅。	両端部 菱形 基部 扁平な六角形	
	S-09-0532 NA61 黒色砂質土層	(45.0) 13.4 4.2 (2.3)		E-2 大型。細身。薄い。A面基部中央に一部自然面を留めるが、全体に調整剝離が施され、剝離面は並列。B面両側辺沿いに更に細かい調整剝離が施されており、両側辺は鋸歯状を呈する。両面共ステップ状剝離が混在。鏃は両面に通る。周辺のエッジは磨滅しており、先端および茎に明瞭である。	菱形	
	S-09-0537 JC63 第2層・黒褐色土層	(34.8) 15.9 5.2 (2.9)		E-2 やや厚味を有する。逆刺は円味をもつ。B面はやや平坦な面をなす。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両面左側辺には更に細かい調整剝離が施される。両面とも剝離面は主にステップ状を呈する。鏃は両面に通る。逆刺から茎にかけての両側辺エッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0543 MZ	29.8 21.3 4.5 (3.0)		E-1 幅広。薄い。逆刺は角ばり、挟りは明瞭。両面中央に大剝離面を留める。両側辺からは細かい調整剝離が施され、剝離面は揃っている。両面の剝離は主にステップ状を呈する。周辺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	
PL.53-9	S-09-0545 MZ	(37.2) 17.8 4.4 (2.8)		E-1 幅広。両面に大きく大剝離面を留める。打点はA面では左下方、B面では下方にあり、B面は主要剝離面を呈す。周辺沿いに調整剝離が施される。A面左側辺寄りには厚味を有し、右側辺では薄い。逆刺部および茎端部は僅かに磨滅。先端に回転痕あり。先端はB面側へ剝離欠損。	不整四辺形状	先端部に回転痕あり(長0.6cm)。 
	S-09-0554 IV62 第3層・整地層	(41.2) 14.7 7.2 (4.2)		E-2 幅狭。厚味がある。B面中央に大剝離面を留める。両側辺から小さな調整剝離。剝離面は主にステップ状を呈する。更に両側辺からは細かい調整剝離が施される。A面はステップ状を呈する。	先端部 不整な菱形 基部 扇形	
	S-09-0557 IK66 床土層下部	(49.2) 19.8 7.8 (6.2)		E-1 大型。やや幅広。基部に厚味がある。左の逆刺は角ばり、右の逆刺はやや円味をもつ。B面中央に一部大剝離面を留める。両側辺から剝離が施されており、剝離面は不揃いでステップ状を呈する。鏃は両面に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。茎のエッジは僅かに磨滅。茎のエッジの磨滅は明瞭。先端はA面側へ剝離欠損。	菱形	
	S-09-0558 IV62 黒褐色砂質土層	47.5 18.2 9.2 6.6		E-2 やや幅広。厚味がある。逆刺はなだらかで、挟りは浅い。A面先端部に自然面を留める。両側辺より粗く剝離後、更に両側辺に細かく調整剝離が施される。A面左半分の剝離は大きなステップ状を呈する。他にもステップ状剝離は混在。両面に略鏃は通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。	先端部 扇形 基部 菱形	
	S-09-0562 JA64 床土層下部・褐色礫混入土層	(42.4) 19.2 5.8 (4.4)		E-2 やや幅広。やや厚味がある。逆刺は円味をもち挟りは明瞭。全体に調整剝離が施され、剝離面は揃っており、大剝離面を留めず。B面両側辺からは更に細かい調整剝離が施され、両面ステップ状を呈す。鏃は両面に通る。逆刺から茎にかけての両側辺エッジは横方向に擦っている。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.53-4	S-09-0569 JA63  黒色砂質土層	(45.2) 23.9 8.0 (7.6)		E-1 大型。幅広。先端部に厚味がある。逆刺は非対称で、右の逆刺は鋭く突出する。茎端部に自然面を留める。両側辺より粗く剥離した後、更にA面両側辺を細かく調整剥離を施す。両面基部左半分は大きなステップ状剥離を呈し、他にも混在。B面基部中央に小さく大剥離面残存。鏃は両面に通る。逆刺から茎にかけての両側辺エッジは擦っている。	菱形	
PL.53-3	S-09-0571 JD62  褐色礫混土層	42.9 17.2 4.4 2.9		E-2 やや幅広。薄い。左右の逆刺は非対称で、左の逆刺は角ばり、右の逆刺は円味をもつ。全体に調整剥離が施される。A面先端部両側辺、B面左側辺には更に細かい調整剥離が施されステップ状を呈する。両面基部中央の剥離はやや大きなステップ状を呈す。鏃は両面先端部に略通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。先端の磨滅は著しい。	扁平な杏仁形	
	S-09-0578 KZ  表探	(31.8) 16.5 6.4 (3.0)		E-2 幅広。厚味がある。逆刺は円味をもち、扱りは浅い。両側辺から調整剥離が施されており、A面基部右側辺、B面左側辺には更に細かい剥離が施される。A面およびB面右半分の剥離はやや大きなステップ状を呈する。鏃は両面に通る。先端部、B面へ剥離欠損後、破損面に調整剥離を施し、再加工している。茎に回転痕あり。	菱形	茎に回転痕あり (長0.7cm)。 
	S-09-0587 KP63  第2層・暗褐色土層	38.2 16.8 8.0 4.8		E-2 やや幅広。厚味がある。逆刺は左右非対称で、左よりも右の方が下方に位置する。左の逆刺はややなだらかで、右の逆刺は角ばり扱りは浅い。周辺より剥離が施されるがB面左半分に大剥離面を留める。B面左側辺は大きなステップ状剥離を呈し、他にもステップ状剥離は混在。鏃は両面に通る。先端部のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0614 MM62 溝 (SF 074) 黒褐色礫混土層	(37.0) 12.2 6.4 (3.1)		E-2 細身。厚味がある。全体に調整剥離が施されB面先端部中央に僅かに大剥離面残存。両側辺からは更に細かい調整剥離が施され、剥離面は並列しており、鏃は両面に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。先端はA面側へ折れ欠損。	菱形	
	S-09-0624 KN66  第4層・茶褐色砂質土層	51.8 14.2 9.0 5.9		E-2 細身。厚味がある。茎は長く、全体として不整形。周辺から調整剥離が施され、大剥離面を留めず。剥離面はやや不揃いで主にステップ状を呈する。鏃は両面に通る。茎端部のエッジは磨滅。	両端部 菱形 中央部 厚手の杏仁形	石鏃の可能性あり。 
	S-09-0650 JE66  整地層	(40.5) 23.7 5.2 (4.8)		E-1 大型。幅広。薄身。逆刺は円味をもつ。A面基部に一部大剥離面を留める。周辺からうすい丁寧な調整剥離が施され、A面両側辺には更に細かい調整剥離も施される。剥離面は主にステップ状を呈す。左側辺はジグザグをなす。鏃は両面に通る。両面先端左側辺に錯向剥離を施して厚みをもたせる。先端部および扱り部分のエッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形	
	S-09-0652 JE62  整地層	(27.2) 12.3 4.4 (1.3)		E-2 小型。茎部に厚味がある。両側辺から剥離が施され、大剥離面は留めず。剥離面は略揃っている。両面共に右側辺はステップ状剥離を呈す。鏃は両面に通る。先端には自然面を留め鈍い。	菱形	
	S-09-0656 JE62  床土層	(35.1) 17.6 7.1 (4.0)		E-1 大型。やや幅狭。厚味がある。逆刺は左右非対称で、左側は右側よりも下方に位置する。左の逆刺は鋭角的に角ばり扱りは明確。右の逆刺は鈍角的に角ばりは不明瞭。両側辺から剥離が施され大剥離面は留めない。剥離面は不揃いで、全体に粗いつくりである。A面左側辺はステップ状剥離を呈し、他にも混在。鏃はA面に略通る。左の逆刺から茎端部にかけてのエッジは磨滅。先端はA面側へ折れ欠損。	扇形	
	S-09-0662 JI58  整地層	(37.2) 18.6 8.0 (5.3)		E-2 やや幅広。厚味がある。逆刺は左よりも右の方がやや上方に位置する。先端に自然面を留める。B面中央に主要剥離面を留め、打点は左下方にある。両側辺より調整剥離が施され、A面は鏃が通り、剥離面は揃っているが、全体に形は整っていない。A面基部右側辺の剥離はステップ状を呈する。茎欠損後、折れ面からの調整剥離が施される。石鏃の可能性あり。	扇形	石鏃の可能性あり。 

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0670 JQ66  黒色砂質土層	(54.0) 17.4 7.5 (6.6)	E-2 幅狭。鏃身も茎も長い。厚みがある。全体に丁寧な調整剥離が施され、大剥離面を留めず。A面鏃身右側、B面先端部左側の剥離面はステップ状を呈し、他にも混在。鏃はA面に通る。	扇形		
	S-09-0674 JQ62  整地層	(31.4) 9.7 7.6 (2.2)	E-2 細身の小型。厚みがある。両側辺から剥離が施され、大剥離面を留めず。A面先端部の両側辺には更に細かい調整剥離が施される。鏃は両面に通る。A面右側辺は僅かに磨滅。	厚手の杏仁形	石鏃の可能性あり。 	
	S-09-0676 JU62  整地層	(34.4) 19.9 6.3 (4.7)	E-1 大型。やや幅広。厚みがある。両側辺から剥離を施した後、更に細かい調整を施す。A面左側辺からの剥離面はステップ状を呈し他にも混在。B面は平坦な面をなす。鏃は両面先端部に通る。	先端部 菱形 基部 扇形		
	S-09-0678 JY62  整地層	(38.9) 21.4 6.2 (4.0)	E-1 幅広。鏃身は長く、やや厚みがあり、基部中央で最大厚を測る。両側辺から中央までのびる剥離を施した後、更に細かい調整を施す。両側辺および、B面中央の剥離はステップ状を呈す。鏃は両面に通る。周辺のエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	菱形		
	S-09-0687 JY58  整地層	(36.2) (14.4) 5.4 (3.1)	E-2 幅広。やや厚みがある。逆刺は円く、抉りは浅い。両面共に調整剥離が施され、更に細かい調整も施される。左側辺は磨滅。右側辺は先端から縦方向に剥離欠損し、先端はB面側へ剥離欠損。	杏仁形		
	S-09-0697 MI63 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(27.4) 11.4 3.3 (1.0)	E-2 幅狭の小型。やや薄い。左の逆刺はなだらかで、右側は角ばる。両面中央に大剥離面を留める。周辺からはやや細かく調整が施され、A面はステップ状剥離面を呈する。鏃はA面に通る。B面は平坦。	三角形状		
	S-09-0699 MF62  黒褐色礫混合土層	(47.8) 12.6 7.6 (4.8)	E-2 細身。厚みがある。左の逆刺はなだらかで、右の逆刺はやや円みをもつ。B面中央に細長く大剥離面を留めるが、両側辺より調整剥離を施す。A面右側辺、B面両側辺はステップ状剥離面を呈す。鏃は両面両端部に通る。	両端部 菱形 基部 六角形	石鏃の可能性あり。 	
	S-09-0700 ME65  整地層	(39.8) 14.0 7.8 (4.4)	E-2 大型。細身。厚みがある。逆刺はなだらかで抉りが無いため、尖基かと思われる。両面共に側辺から剥離調整され、大剥離面を留めず。剥離面は略揃っており、両側辺には更に細かい調整も見られる。両面の右側辺中央の剥離面はステップ状を呈し、他にもステップ状剥離は混在。両側辺エッジおよび両面の稜は磨滅。先端はB面側へ折れ欠損。	菱形		
	S-09-0705 KP58  整地層	(21.8) 12.3 4.3 (1.1)	E-1 小型。基部に厚みがある。両面基部中央に一部大剥離面を留める。B面右側辺より大きく剥離されるが、全体にやや丁寧な調整剥離が施される。B面基部両側辺には細かい調整も見られる。両面共に右側辺の剥離面はステップ状を呈し、他にもステップ状の剥離が混在。鏃はA面に通る。	先端部 扇形 基部 菱形		
	S-09-0708 LC54  黒色砂質土層	35.0 13.8 4.1 (1.8)	E-2 やや幅狭。逆刺は円い。A面中央に大剥離面を留めるが全体に調整剥離が施される。A面右側辺はステップ状剥離面を呈する。鏃はA面先端部、B面に通る。	先端部 菱形 基部 台形状		
	S-09-0715 KL64  第3層・黒褐色粘質土層	(28.4) 15.7 4.7 (2.3)	E-2 幅広のやや小型。逆刺は円みをもつ。やや厚みがある。A面先端部には大剥離面、B面中央に大きく主要剥離面を留め、打点は右下方にある。両側辺からは細かい調整剥離が施され、剥離面は揃っている。A面基部は下方から剥離され、大きなステップ状を呈し、他にもステップ状剥離面混在。鏃はA面先端部に通る。先端および逆刺のエッジは僅かに磨滅。先端はB面側へ折れ欠損。	不整四辺形		

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0732 MF54  整地層	(29.6) 20.5 6.6 (3.5)		E-2 幅広。鏃身は短かく、厚みがある。端部の両側辺は左右非対称である。折れ欠損後の再加工による変形である。鏃身側辺は緩くカーブして下がるが、先端部左側辺は直線的に傾斜する。左逆刺は円みをもち、抉りは明瞭。右逆刺は角ばり直線的に茎に至る。A面に一部大剝離面を留める。両側辺からの調整剝離は不揃いで、つくりはややあらい。両面先端部左側辺に細かい調整が見られる。鏃はB面先端部、A面に通る。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0744 JE54  整地層	(23.8) (22.2) 4.4 (2.4)		E-1 幅広。ごく薄い。両面共大剝離面を留めず。鏃身は両面とも両側辺より押圧剝離が施され、A面は中央に筋が通るがB面はステップ状を呈す。茎の両側辺エッジは僅かに磨滅。先端はB面側へ剝離欠損。	扁平な扇形	
	S-09-0758 MC52  礫混黒褐色土層	44.1 26.0 9.6 6.8		E-2 幅広。厚みがあり、基部中央で最大厚を測る。先端部は薄い。鏃身は左右非対称である。左側辺は外彎し、逆刺で円みをもつ。右側辺は略直線的にのび、逆刺で角ばり、抉りは浅い。鏃身と茎は略同じ長さである。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両面共ステップ状剝離が混在。先端部左半分は大きなステップ状剝離面を呈し、更に細かい調整が施される。逆刺から茎にかけてのエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	扇形	鉄分付着 
	S-09-0785  表採	(42.1) 24.4 6.0 (5.5)		E-1 幅広。鏃身は長く、やや厚みがある。逆刺は左右非対称で右側はやや円みをもち左側は鋭い。両面中央に一部大剝離面を留めるが、全体に調整剝離が施され、A面では略剝離面が揃っている。B面基部左側辺からの剝離は大きなステップ状を呈し他にもステップ状剝離面は混在。鏃は両面に通る。先端、逆刺に磨滅が見られる。	菱形	
	S-09-0787  表採	(32.2) 26.7 6.3 (4.7)		E-1 大型。幅広。やや薄い。A面中央に一部大剝離面を留めるが、全体に調整剝離が施される。両面共ステップ状剝離面が多い。B面両側辺には更に細かい調整が施される。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0790  表採	(37.4) 16.4 6.0 (3.3)		E-2 やや幅広。厚みがある。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両面先端部右側辺には更に細かい調整が施される。A面左側にステップ状剝離が著しくB面にも見られる。B面はやや平坦な面をなす。鏃はA面に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは磨滅。	扇形	
	S-09-0792  表採	(30.0) 12.6 6.3 (3.0)		E-2 大型。細身。厚みがある。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両側辺からは更に細かい調整が施され、両側辺はごく細かい鋸歯状を呈す。鏃は両面に通る。両面両側辺の剝離はステップ状をなす。先端はA面側へ折れ欠損。	菱形	
	S-09-0795  表採	36.1 (16.9) 5.5 (2.9)		E-1 幅広。厚みがある。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。A面右側辺沿いに更に細かい調整が見られる。鏃は両面に通る。先端から左側辺にかけて縦方向に欠損後、先端のエッジは磨滅。周辺のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-0808 JY62  黒褐色土層	(29.0) 17.9 6.1 (3.0)		E-2 基部破片。基部両側辺は平行であり、両側辺にわずかに抉りがつくられ、うすく、幅広い茎をつくる。端部に自然面あり。両面ともうすい剝離調整。A面左側辺はステップ状を呈す。両面共茎の右側辺のエッジにごく細かな調整があり、ステップ状を呈す。	基部 扇形 基部 杏仁形	石槍Cタイプの可能性あり。 
	S-09-0817 ML54 土器堆積 (SL 321)	(36.8) 20.7 6.2 (4.0)		E-1 大型。やや幅広。やや厚みがある。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両側辺には更に細かい調整が施される。B面の剝離面は大きなステップ状を呈す。鏃は両面に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは擦っている。両側辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	

( ) は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0820 KP54  黒色砂質土層	(55.6) 22.6 6.1 (6.9)		E-1 大型。やや幅広。やや厚みがある。鏃身は長い。右逆刺は円く、左逆刺は角をなす。全体に入念な調整剝離が施され大剝離面を留めず。B面基部両側の剝離はステップ状を呈す。鏃は両面に通る。先端および左の逆刺のエッジは僅かに磨滅。茎はA面側へ剝離欠損。	菱形	
	S-09-0821 NA46 溝 (SF 085) 灰褐色砂礫土層	(39.4) 16.7 6.0 (3.6)		E-2 やや幅広。厚みがある。逆刺は左右非対称で左側は円みを持ち、右側は角ばり鋭い。両面とも側辺から調整剝離が施され、大剝離面を留めず。A面右側辺に小さい調整が施されステップ状を呈する。鏃は両面に通る。茎周辺のエッジは一部は擦っているが、丸く磨滅している。	菱形	
	S-09-0824 MO54  表採	(29.6) 8.9 3.2 (0.9)		E-2 細身。茎部にやや厚みがある。逆刺は左右非対称で左側はやや角ばり、右側はなだらかである。両面とも調整剝離が施され、大剝離面を留めず。先端部は両面とも右側辺のみ、基部はA面両側辺に小さい調整が施され、ステップ状剝離面を呈し、それは急傾斜面をなし、側辺沿いに厚みをもつ。	先端部 平行四辺形 基部 扁平な台形 基部 菱形	
	S-09-0837 MH56  黒色砂質土層	(29.4) 19.9 4.6 (2.7)		E-2 幅広。やや薄い。逆刺は円みをもつ。全体に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両面先端部右側辺に細かい調整も施され、ステップ状を呈する。B面基部中央には大きなステップ状剝離面が見られる。鏃は両面に通る。	扁平な菱形	
	S-09-0852 JE58 溝 (SF 079) 上層	(33.8) 18.0 7.3 (4.2)		E-2 幅広。厚みがある。左側辺は円く外彎するのに対し、右側辺はくの字形に屈曲し、下半は円みをもつ。茎は左側に傾く。両面中央に大剝離面を留める。両側辺から調整が施されるが、つくりは粗くステップ状剝離が混在し、剝離面は不揃いである。	先端部 菱形 基部 不整五角形	
	S-09-0859 MV54  茶褐色砂礫土層	(59.3) 20.1 6.9 (6.9)		E-2 大型。やや幅広で鏃身は長い。やや厚みがある。両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。両側辺からは更に細かい調整が施される。ステップ状剝離面は混在。両側辺とも細かいジグザグで、エッジは鋭い。鏃は両面に通る。先端はB面側へ剝離欠損。	菱形	
	S-09-0860 NA46 溝 (SF 085) 灰褐色砂礫土層	(36.8) 13.2 7.0 (3.2)		E-2 幅狭。厚みがある。平面形が左右非対称で、左側辺はわずかに彎曲し、右側辺はくの字形に屈曲する。ごく浅い抉りである。両面中央に一部大剝離面を留む。B面は主要剝離面で左方に打点をもつ。両側辺より調整剝離。右側辺は厚みが十分に取れずにA面では大きなステップ状剝離面を呈す。B面右側辺には細かい調整が施される。	不整五角形	石鏃の可能性あり。 
PL.53-13	S-09-0865 MT50  黒褐色土層	40.0 19.3 6.4 4.1		E-2 幅広。やや厚みがある。逆刺から茎にかけての両側辺は左右非対称である。左側はなだらかで抉りが浅いのに対し、右側はやや円みを持ち、抉りは左よりも明瞭である。A面中央に大剝離面を留めるが、全体に調整剝離が施される。A面基部右、B面基部の剝離面はステップ状を呈する。鏃は両面に通る。先端は僅かに磨滅。	菱形	茎端部に回転痕あり(長5mm)。鉄分付着 
	S-09-0871  不明	41.9 16.1 4.4 2.9		E-2 先端部にやや厚みがある。逆刺は円みを持ち、抉りは明瞭。両面中央に大剝離面を留めるが全体に丁寧な剝離が施され、両側辺には更に細かい調整が施される。両面に鏃が通る。基部から茎にかけての両側辺エッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0877 NC50 溝 (SF 085) 腐植土層	(39.2) 19.3 7.4 (5.0)		E-2 幅広。厚みがある。逆刺は円みを持ち、左側の抉りはやや浅く、右側の抉りは明確。両側辺より調整剝離が施されており、A面基部中央に大剝離面を留め、打点は左方にある。その上方に大きく初段階の剝離面残存。B面基部左側は大きなステップ状剝離面を呈す。鏃は両面に略通る。周辺のエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	不整四辺形	
	S-09-0878 NC50 溝 (SF 085) 腐植土層	(52.0) 19.3 6.3 (6.2)		E-2 大型。やや幅広で鏃身は長い。やや厚みがある。B面基部中央に一部自然面を留めるが、全体に調整剝離が施され、剝離面は略揃っている。鏃は両面先端部に通る。先端部両側辺および逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-0879 KP58 茶褐色土層	(37.5) 17.3 6.3 (3.7)		E-2 厚みがある。逆刺は円みをもち、挟りは明瞭。周辺から調整剥離が施されるが、両面中央に一部大剥離面を留める。先端部A面両側辺、B面左側辺に細かい調整が施され、ステップ状を呈する。A面基部およびB面先端部の剥離面もステップ状を呈す。鏃は両面先端部に通る。茎両側辺、両面の稜は磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-0886 KP58 Pit 4	(30.4) 11.9 5.2 (1.6)		E-2 細身。厚みがある。逆刺は円みをもつ。全体に調整剥離が施され大剥離面を留めず。A面では剥離面は並列しており、B面左側辺の剥離面はステップ状を呈する。鏃は両面に通る。茎端部はB面側へ剥離欠損。	菱形	先端部に回転痕あり(長5mm)。 
	S-09-0891 KP54 1号土城	(30.2) 11.9 5.7 (1.8)		E-2 やや細身。厚みがある。逆刺は左よりも右の方がやや上方に位置し、左が角ばるのに対し、右は円みをもつ。両面とも調整剥離が施され、大剥離面を留めず。両面先端部右側辺には更に細かい調整が施される。鏃は両面に通る。先端部両側辺は僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-0894 KP54 黒色砂質土層	(39.0) 23.7 5.0 (5.1)		E-1 大型。幅広。薄い。両面中央に大剥離面を大きく留めるが、両側辺からは細かい丁寧な調整剥離が施され、両側辺は鋸歯状を呈する。逆刺のエッジは僅かに磨滅。茎の両側の基辺は凹み、茎は先細りの三角形状であろう。	扁平な杏仁形	
	S-09-0896 KT54 黒色土層	(39.6) 18.3 4.9 (3.5)		E-2 幅広。逆刺は円みをもち、挟りは浅い。両面中央に大剥離面を留める。A面は主要剥離面よりなり、打点は右下方にある。周辺からは調整剥離が施されるが不揃いで、A面基部左、B面基部右側はステップ状剥離面を呈する。茎両側辺のエッジは僅かに磨滅。	両端部 菱形 基部 不整六角形	
	S-09-0899 MJ50 黒色土層	(25.4) 15.4 4.9 (1.7)		E-2 幅広の小型。厚みがある。逆刺は円みをもつ。両面共調整剥離が施され、大剥離面を留めず。剥離面は揃っており、B面基部左ではステップ状を呈する。鏃は両面に通る。先端、茎端部はA面側へ剥離欠損。	菱形	
	S-09-0904 JY62 黒褐色土層	(28.5) 17.2 4.6 (2.3)		E-2 幅広。やや薄い。A面中央から左上方にかけて、大剥離面を留め、打点は左下方にある。B面中央に一部主要剥離面を留め、打点は右下方にある。両面両側辺より調整剥離。剥離面は主にステップ状を呈す。逆刺から茎にかけての両側辺エッジは磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0919 NE46 溝・東側 (SF085) 砂混茶褐色土層	(28.4) 14.9 3.9 (1.6)		E-2 幅広の小型。B面は中央に大きく大剥離面を留め平坦な面をなす。打点は右下方にある。両側辺からは調整剥離が施され、B面先端、A面に鏃が通る。A面先端部両側辺には更に細かい調整剥離も施される。	先端部 菱形 基部 扁平な五角形	
	S-09-0921 LZ	(42.9) 18.8 5.7 (4.0)		E-1 大型。やや幅狭で鏃身は長い。厚みがある。両面共に側辺より調整剥離が施され、大剥離面を留めず。両面両側辺沿いに細かな剥離調整も見られる。B面基部中央の剥離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在。鏃は両面に通る。	菱形	
	S-09-0922 LZ	(27.7) 13.2 5.2 (1.6)		E-2 やや幅広の小型。厚みがある。逆刺はやや角ばるが、左側の挟りは浅く、右側の挟りは明瞭である。両面共に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。A面左側辺、B面右側辺に細かい調整剥離が施される。鏃は両面に通る。	扇形	
	S-09-0924 LG62 黒褐色土層	26.8 18.3 5.3 2.2		E-2 幅広の小型。先端部にやや厚みがある。左側辺はくの字形に屈曲し、右側辺は円く彎曲する。挟りは浅い。両面中央に大剥離面を留める。側辺からは調整剥離が施され、A面基部左側、B面左側、先端部右側辺の剥離はステップ状を呈する。周辺のエッジおよび両面の稜は磨滅。	先端部 杏仁形 基部 扇形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0961 JS64 溝 (SF 081) 黒褐色土層	(30.6) 13.8 3.2 (1.3)	E-2 小型。薄い。両面に大きく大剝離面を残し、周辺から調整剝離を施す。剝離面は略揃っている。	扁平な扇形		
	S-09-0977 KE58	(52.8) 23.1 9.5 (9.0)	E-1 大型。幅広で鉄身は長い。厚みがある。逆刺は円みをもち、挟りは明確。両面共に大剝離面を留めず。両側辺からの剝離はあらく、両面右側の剝離はステップ状を呈し、他の部分にもステップ状が混在。鏃は両面に略通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。茎周辺の磨滅は著しい。	菱形		
PL.53-6	S-09-0994 MZ 表採	44.5 17.1 7.4 5.2	E-2 やや幅広。厚みがある。両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。A面右側辺、B面左側辺の先端部には更に細かい調整が施され、ステップ状を呈する。両面基部左および他にもステップ状剝離面あり。鏃は両面に通る。両面の稜および周辺のエッジは磨滅。両端に回転痕あり。	菱形	両端に回転痕を有す(先端長3mm、茎長7mm)。 	
	S-09-1001 MZ 表採	(35.4) 20.4 4.5 (2.9)	E-1 やや幅広。薄い。逆刺は左右非対称で、左よりも右の方が上方に位置し、左の方が鋭角的であるのに対し、右の方はやや鈍角である。両面ともに、側辺からの調整剝離により大剝離面を留めず。A面先端部右側辺には更に細かい調整が施される。A面右側辺、B面左の挟り部分は大きなステップ状剝離を呈す。周辺のエッジおよび両面の稜は磨滅。	扁平な杏仁形		
	S-09-1081 MH62 溝 (SF 077) 黒色粘質土層	49.3 16.3 10.0 5.9	E-2 細身。厚みがある。A面中央に一部大剝離面を留める。両側辺からは粗い剝離が施される。A面基部はステップ状剝離面を呈し、中央部に厚みが残存。B面基部にもステップ状剝離が見られる。鏃はA面に通る。逆刺から茎にかけての両側辺エッジは磨滅。	扇形	石鏃の可能性あり。 	
	S-09-1109 GZ	(42.9) 22.1 5.3 (4.7)	E-2 大型。幅広。薄い。逆刺は円みをもつ。B面先端部左側に大剝離面を留めるが両側辺より調整剝離が施される。剝離面は並列しており、中央に鏃が通る。両面左側辺には更に細かい調整が施される。周辺エッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形		
	S-09-1132 KL64 第3層・褐色砂質土層	(30.0) 13.2 4.8 (1.9)	E-2 幅広の小型。厚みがある。B面基部中央に大剝離面を留め、やや平坦な面をなす。両側辺から調整剝離が施され、B面先端部、A面に鏃が通る。剝離面は略揃っており、ステップ状剝離が混在する。	先端部 菱形 基部 扇形		
	S-09-1134 HM61 黒色土層	(40.2) 15.4 6.0 (3.6)	E-2 大型。細身。両面とも両側辺より調整剝離。A面両側辺ともステップ状を呈す。両面中央に鏃が通る。	菱形		
	S-09-1143 MQ62 溝 (SF 074) 褐色砂層	40.6 18.9 5.6 3.3	E-1 厚みがある。右逆刺及びその上方1箇所は鋭く突出している。B面中央に一部大剝離面を留めるが、全体に調整剝離が施され、鏃はA面、B面先端部に通る。両面とも先端部左側辺には更に細かい調整が施され、ステップ状を呈す。B面基部右の剝離面は大きなステップ状を呈する。	菱形		
	S-09-1153 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(34.6) 23.8 5.2 (4.1)	E-1 幅広。薄い。A面中央、B面基部左側に大剝離面を留める。両側辺から調整剝離が施される。A面先端部両側辺には更に細かい調整が施される。両面基部中央の剝離はステップ状を呈す。鏃は両面先端部に通る。先端はA面側へ剝離欠損。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な杏仁形		
	S-09-1160 KG67 Pit 25	(34.9) 22.4 3.4 (2.5)	E-2 幅広。薄い。逆刺は円みをもつ。両面中央に大剝離面を留める。A面は主要剝離面で、打点は左下方にあり、周辺から剝離が施され、剝離面は揃っている。B面先端部右側辺、基部左側辺はステップ状剝離面を呈し、他の部分にも混在する。	扁平な杏仁形		

( )は残存部分の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-1181 IS68 溝 (SZ 318) 第2層・黒色土層	(39.9) 15.5 4.9 (2.9)		E-2 B面中央に主要剥離面を留め、打点は左下方にある。周辺から剥離が施され、A面基部右側辺はやや大きなステップ状を呈す。B面両側辺にも細かいステップ状剥離面あり、先端部には細かい調整剥離が施される。鏃はA面に通る。軸はA面側へやや彎曲。	扇形状	
	S-09-1182 IF60 礫混黒褐色土層	(42.3) 16.7 7.6 (4.9)		E-2 厚みがある。A面中央に一部大剥離面を留めるが、全体に調整剥離が施される。A面基部下半の剥離面は主にステップ状を呈する。鏃は両面先端部に通る。周辺のエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-1195 IJ58 礫混黒褐色土層	(38.1) 13.8 4.8 (2.7)		E-2 やや細身。全体に調整剥離が施され、B面中央にわずかに大剥離面残存。A面先端部両側辺、B面先端部左側辺には更に細かい調整が施される。A面基部左半分、B面基部の剥離面はステップ状を呈する。鏃は両面に通り、剥離面は並列している。茎両側辺のエッジは磨滅。先端はB面側へ剥離欠損。	菱形	
	S-09-1215 LO54 黒褐色土層	(38.0) 14.0 6.8 (3.9)		E-2 大型。細身。厚みがある。両面共に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。両面茎左側辺には細かい調整が見られる。B面基部の剥離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在。両側辺はジグザグである。鏃は両面に通る。茎両側辺のエッジは磨滅。茎端はB面側へ折れ欠損。	菱形	
	S-09-1218 KP62 第2層	(33.3) 22.9 9.6 (7.2)		E-2 幅広。厚みがある。逆刺は左右非対称で左側より右側の逆刺の方が強く屈曲し、突出している。左側辺は挟りはつくれず。両面中央に大剥離面を一部留め、周辺からは調整剥離が施される。A面左側辺、B面右側辺には細かい調整も施される。A面基部およびB面右半分左側の挟り部分の剥離はステップ状を呈する。鏃は両面に略通る。先端部両側辺のエッジは僅かに磨滅。未製品か。	杏仁形	
	S-09-1225 MQ56 溝 (SF 078) 暗褐色小礫混砂層	(27.5) 19.7 5.1 (2.9)		E-2 幅広。薄い。逆刺は円みをもつ。両面共に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。A面左側辺には更に細かい調整が施される。A面基部中央、B面基部左はステップ状剥離面を呈し、他にもステップ状剥離面は混在する。鏃はA面に通る。	扁平な杏仁形	
	S-09-1232 IV60 溝 (SF 80) 第2層	46.2 20.6 6.2 4.6		E-1 大型。幅広。やや厚みがある。両面共に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。両側辺からは更に細かい調整が施され、鋸歯状を呈す。両面右側辺はステップ状剥離面を呈する。鏃はA面に通る。逆刺のエッジは僅かに磨滅。	扇形	
	S-09-1243 IJ68 礫混黒褐色土層	(36.4) 16.0 7.4 (3.3)		E-2 厚みがある。基部中央で最大厚を測り両端にかけて薄い。逆刺は左右非対称で、右側はなだらかであるのに対し、左側は角ばる。両面共に両側辺から調整剥離され大剥離面を留めず。A面右側の剥離は大きく、左側の剥離は小さい。A面は略平坦面をなす。B面は両側から大きく剥離を施され中高である。A面右側および基部左側、B面にステップ状剥離面が混在。	扇形	
	S-09-1246 IB62 礫混黒褐色土層	(33.7) 16.7 5.6 (2.7)		E-1 やや幅広。厚みがある。逆刺は左右非対称で、左側がやや角ばるのに対し、右側は円みをもつ。A面中央に主要剥離面を留め、打点は右方にある。B面右側に大剥離面を留め、打点は左上方にある。周辺からは調整剥離が施され、剥離面は略揃っている。B面基部右側辺のみ、殆ど調整剥離が施されず。A面基部、B面茎の剥離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在する。鏃はA面先端部に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは磨滅。	先端 扇形 基部 不整五角形	
	S-09-1251 IF66 礫混黒褐色土層	(47.2) 14.2 8.2 (6.5)		E-2 大型。細身。厚みがある。平面で軸は右側へやや彎曲。両面中央に一部大剥離面を留めるが、両側より調整剥離が施され、先端部に鏃が通る。両側辺はジグザグを呈す。A面基部左側にステップ状剥離面が見られ、他の部分にも浅いステップ状剥離が混在。両側辺、茎辺のエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	両端部 菱形 基部 杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1262 IX58 溝 (SF 079) 第3層・礫混灰黒色粘質土層	(52.4) 23.6 6.3 (5.4)		E-1 大型。幅広で鏃身は長い。逆刺は鈍角的で、左側がやや角ばるのに対し、右側は円みをもつ。先端は鋭い。両面中央に一部大剝離面を留める。A面は主要剝離面で、打点は左下方にある。両面共小さい剝離が施され、先端部のA面両側辺、B面右側辺には更に細かい調整が施される。大半の剝離面はステップ状を呈する。鏃は両面先端部に通る。逆刺のエッジは磨滅。軸はB面側へやや彎曲。	先端部 扁平な菱形 基部 杏仁形	
	S-09-1263 LO54  黒色土層	(48.4) 20.0 6.2 (4.2)		E-1 大型。幅狭で鏃身は長い。茎の挟りは明確である。両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。A面左側辺の剝離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在する。鏃は両面に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1265 JA54 溝・第2溝 (SF 080) 暗褐色土混砂層	52.2 23.6 4.2 5.4		E-2 大型。幅広。薄い。B面に主要剝離面がそのまま残存し、打点は下方にある。A面には剝片を作る前の調整面を留める。両面共先端から逆刺にかけての左側辺、逆刺から茎にかけて、細かい調整剝離が施され、錯向剝離を呈す。A面基部右側辺にも細かい剝離が見られる。先端および茎左側辺の中央エッジは僅かに磨滅。	極く扁平な扇形	
	S-09-1276 KZ	(37.9) 14.1 4.5 (2.8)		E-2 細身。薄い。B面中央に大剝離面を留め、やや平坦な面をなす。側辺より押圧剝離状のうすい剝離が施される。両面共にステップ状剝離面が混在。鏃はA面に通る。基部から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	扇形	
PL.53-5	S-09-1278 HW60 土城 (SJ176)	(45.1) 21.2 6.9 (5.1)		E-1 大型。幅広。厚みがある。逆刺は円みをもつ。両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。B面両側辺およびA面両側辺の一部には小さい調整が施される。B面の剝離面はステップ状を呈し、A面にも混在。鏃はA面に通る。茎端部に回転痕あり。	扇形	茎に回転痕あり (長5mm)。 
	S-09-1279 ID62  礫混黒褐色土層	(38.5) 17.9 5.2 (3.6)		E-2 やや幅広。やや厚みがある。両面共に調整剝離が施され大剝離面を留めず。両側辺からは更に細かい調整が施される。A面左側先端及びB面先端両側辺沿いに急傾斜する剝離があり、先端は厚みをもつ。鏃は両面に通る。先端および茎両側辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1280 ID62  礫混黒褐色土層	(35.7) 13.5 4.5 (2.2)		E-2 細身。逆刺の位置は左よりも右の方が上方にあり、茎は特に長い。挟りはごく浅く、茎も幅広である。B面基部に大剝離面を留める。全体に調整剝離が施され、両側辺には更に細かい調整が施される。両面共ステップ状剝離面が混在する。鏃はA面に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。	扇形	
	S-09-1288 HZ  表採	(22.3) 14.6 4.7 (1.5)		E-2 幅広の小型。厚みがある。逆刺は円みをもつ。両面共調整剝離され大剝離面を留めず。B面基部左の剝離面は大きなステップ状を呈し、他にも混在。両側辺には更に細かい調整も見られる。鏃はB面先端部、A面に通る。逆刺のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-1289 MB50 溝 (SF 074) 褐色砂層	(43.1) 29.4 4.2 (4.3)		E-1 大型。幅広。薄い。両面共に押圧剝離が施され大剝離面を留めず。剝離面は主にステップ状を呈する。鏃は両面に通る。逆刺~基部側辺のエッジは僅かに磨滅。	扁平な菱形	
	S-09-1292 ID58  黒色砂質土層	(37.4) 20.4 5.9 (3.9)		E-1 厚みがある。逆刺は左右非対称で右側はやや円みをもち、左側よりも下方に位置するのに対し、左側はくの字形に屈曲する。茎はやや左に傾く。B面中央に初段階の剝離面残存。両面共に側辺より剝離が施されるが剝離面が不揃いでA面基部では主にステップ状を呈す。ステップ状剝離面は他の部分にも混在。鏃はA面およびB面先端部に通る。	先端部 菱形 基部 台形状	
	S-09-1302 HY56 土城 (SJ177)	(47.0) 18.2 4.3 (3.3)		E-2 大型。やや幅広。薄い。両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。A面の剝離面は並列しており鏃は両面に通る。両面基部の剝離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在する。先端は丸く磨滅。	扁平な菱形	先端に回転痕あり (長2mm)。 

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1340 IU62・JAライン	(31.4) 19.2 5.2 (2.6)		E-2 幅広。やや厚みがある。逆刺は円みをもつ。B面中央に主要剥離面を留め、打点は左上方にある。両側辺からは調整剥離が施され、剥離面は略揃っている。両面基部はステップ状剥離面を呈する。	菱形	
	S-09-1342 JDZ 褐色礫混合土層	(28.7) (19.0) 5.5 (2.3)		E-2 幅広。やや厚みがある。逆刺は角ばっている。両面共調整剥離が施され、大剥離面を留めず。両面にステップ状剥離面が混在する。竊は両面に通ると思われる。両側辺のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-1345 JW62 溝 (SF 081) 黒褐色土層	(50.0) 21.8 5.1 (6.3)		E-2 未製品。幅広。薄い。逆刺は円みをもつ。両面に大きく大剥離面を留める。A面の打点は右方にある。B面側は主要剥離面で、打点は左方にある。A面右側辺、基部左側辺、B面両側辺共に調整剥離が施されるが、剥離面は不揃いで、A面右側辺は大きなステップ状を呈し、他にもステップ状剥離面は混在。A面先端部のエッジは磨滅しており、先端ではエッジから面にかけての磨滅も見られる。	先端部 半円形状 基部 台形状	
	S-09-1357 JI66 整地層	(31.0) 20.9 4.3 (2.5)		E-1 幅広。薄い。B面は大剥離面がそのまま残存凹面を呈し、打点は下方にある。A面中央には大剥離面を一部に留める。B面は殆ど剥離が施されず、先端部と挟り部分の両側辺にのみ細かい剥離が施される。A面では竊が通る。A面左側辺には更に細かい調整も見られる。A面基部中央左の剥離面は大きなステップ状を呈し、他の部分にも混在。先端から逆刺にかけての両側辺および茎のエッジは僅かに磨滅。	三角形	
	S-09-1364 不明	(17.4) 17.1 4.8 (1.6)		E-2 厚みがある。逆刺は左右非対称で、左側はやや円みをもつものに対し、右側は鋭く突出する。B面中央に大剥離面を留める。両側辺からは調整剥離が施されるが、剥離面は不揃いである。先端欠損後、両面へ剥離させ、再加工。逆刺～茎両側辺は磨滅。	不整六角形状	
	S-09-1375 JA56 第9号周溝墓・1区 (SH 128) 黒褐色土層	(36.4) 19.5 6.5 (2.9)		E-1 幅広。厚みがある。逆刺は左右非対称で、左側が円みをもつものに対し、右側は角ばる。両側辺からの剥離により形は整っているが、剥離面はやや不揃いである。A面左側、B面右側の剥離面はステップ状を呈し、他の部分にも混在する。竊は両面に通る。逆刺から茎にかけてのエッジは僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1377 IT62 溝 (SF 080)	(28.5) 19.7 4.2 (2.1)		E-2 幅広。薄い。逆刺は左側ではやや角ばり、右側ではやや円みをもつ。B面中央に大剥離面を一部留める。両面共に両側辺からの剥離が施されるが、剥離面は不揃いで主にステップ状を呈する。	扁平な杏仁形	
	S-09-1378 HCZ 表採	(29.8) 24.0 6.0 (4.1)		E-1 大型。幅広。薄い。両面とも両側辺からの調整剥離により、大剥離面を留めず。両面ともステップ状剥離面を呈す。竊は両面先端部に通る。挟りおよび茎のエッジは僅かに磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-1379 HZ	(33.1) 22.2 4.4 (3.2)		E-1 幅広。薄い。両面共に調整剥離が施され、大剥離面を留めず。両側辺からは更に細かい調整が施される。A面基部左側辺は大きなステップ状剥離面を呈し、他の部分にもステップ状剥離面は混在する。竊は両面に略通る。	扁平な杏仁形	
	S-09-1383 IZ 溝 (SF 101) 黒褐色砂質土層	(30.9) 18.0 6.4 (3.0)		E-1 幅広の小型。厚みがある。B面基部右半分は大剥離面を留めるが、全体に調整剥離が施される。両面両側辺には更に細かい不揃いな調整が施され、ステップ状を呈する。他の部分にもステップ状剥離面は混在。竊はA面に通る。周辺のエッジは僅かに磨滅。	菱形	

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1394 MK58 第9号土器堆積 (SL 308) 黒色砂質土層	(34.2) 14.4 4.3 (2.2)		E-2 幅狭。やや厚みがある。逆刺は円みをもつ。B面中央に大剝離面を留め平坦な面をなし、打点は右下方にある。両側辺から調整剝離が施され、剝離面は略揃っている。鏃はA面に通る。逆刺のエッジは僅かに磨滅。	扇形	
	S-09-1416 LA63 第2層	(21.3) 12.7 3.7 (1.1)		E-2 基部破片。A面は剝片を剥ぐ以前の調整面、B面は基端部に打点をもつ主要剝離面よりなる。下半部両面に調整剝離を施し茎をつくりだす。上半部はB面側辺にのみわずかに調整が施され、A面は未調整。	扇形	
	S-09-1443 JZ	(17.7) 16.2 4.5 (1.6)		E-2 基部破片。A面左側辺、B面両側辺より調整剝離。A面右側には大剝離面が残存し、エッジにわずかに調整あり。B面中央にはわずかに大剝離面が残存す。	杏仁形	
	S-09-1454 MZ	26.4 14.2 3.2 1.3		E-2 幅広の小型。薄い。両面共大剝離面よりなり、A面下半分の剝離の打点は右方にある。B面は主要剝離面をなし、打点は左方にある。両側辺には細かい調整が施されるが、抉り部分はB面側のみである。軸はA面側へ彎曲。先端は丸く磨滅。	扁平な六角形	
	S-09-1466 不明	(42.3) 16.8 5.5 (4.0)		E-2 幅狭。厚みがある。鏃身は長い。両面共に調整剝離が施され、大剝離面を留めず。ステップ状剝離面が混在するが、剝離面は揃っており、鏃は両面に通る。先端から逆刺にかけての両側辺エッジは僅かに磨滅。逆刺のエッジの磨滅は著しい。	菱形	
fig.21-1	S-09-0516 NO58 第3層	(31.2) (10.2) 3.8 (1.0)		Z 先端部。両面とも細かく丁寧な調整剝離を施し、細身で鋭い先端部をつくる。中央に鏃が通り、両側辺とも鋸歯状を呈す。	菱形	
fig.21-2	S-09-1205 IJ58 礫混黒褐色土層	(29.2) (11.7) 4.7 (1.3)		Z 先端部。両面とも丁寧な調整剝離が施され、細身で鋭い先端部をつくる。中央には鏃が通る。	菱形	
fig.21-3	S-16-0021 LW54 溝 (SF 077) 黒色土層	(30.3) 14.6 3.4 (1.4)		Z 中央部。細身である。両側辺は略平行である。両面ともに丁寧な調整剝離を施し、中央に鏃が通る。両側辺は細かな調整により鋸歯状を呈す。	菱形	
	S-09-0020 KV・KW 62・63	(21.9) 13.3 3.6 (1.1)		Z 先端部。両面にくりかえし調整剝離。一面にのみ鏃が通る。	扇形	
	S-09-0074 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	(27.8) 18.3 3.1 (2.1)		Z (DかE)基部。幅広でうすい。両面とも中央に大剝離面よりなり、ごくうすい板状の剝片の両面、両側辺に細かな調整剝離が施される。	ごく扁平な六角形	
	S-09-0086 KZ 第3層・暗褐色砂質土層	(22.5) 14.5 3.6 (1.2)		Z 先端部。両面とも調整剝離が施される。B面中央に大剝離面残存。	扁平な杏仁形	

( )は残存部分の法量である。


図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0091 LZ  表採	(22.3) 16.2 3.7 (1.6)		Z 基部。両面とも両側辺に調整剝離を施す。両面中央に大剝離面残存。一方の面は左側辺中央に打点がある。	扁平な三角形	
	S-09-0130  不明	(27.4) 13.7 4.3 (1.4)		Z 先端部。両面とも調整剝離。	菱形	
	S-09-0156 KH68  第3層・褐色砂質土層	(22.3) 14.5 7.1 (3.7)		Z 中央部。両面とも両側辺から調整剝離。A面中央に大剝離面が残存し、右側はステップ状を呈す。	台形	
	S-09-0193 MJ58  黒色土層	40.5 (16.7) 4.4 (2.5)		Z 基部一部欠損。両面ともに調整剝離によりうすくつぐられ(厚 3.7mm)両側辺に細かな調整が施され、鋸歯状を呈す。先端は両側が内彎しており鋭く突出する。	扁平な菱形	
	S-09-0195 KT60  第3層	(17.9) (19.2) (3.7) (1.0)		Z (Eの変形か)先端部欠損。基端は調整剝離を施して、平坦につくる。大型。薄身の基部破片か。両面とも調整剝離が施されるが、大剝離面残存。B面は大剝離面が殆どを占める。右側辺のエッジに研磨及び磨滅痕あり。	三角形	右側辺エッジに 研磨痕(磨滅)あり。 
	S-09-0205 KT62  第2層・黒褐色砂質土層	(16.8) (15.8) (3.5) (0.9)		Z 先端部。両面とも調整剝離。A面中央部稜線上にわずかだが研磨が施される。	菱形	
	S-09-0208 ML61  黒色土層	(21.5) (11.9) 5.4 (1.1)		Z 先端部。細身である。両面とも調整剝離。中央に筋が通る。B面右側辺はステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-0243  表採	(19.9) 13.5 3.6 (1.2)		Z 基部欠損。両面とも二度の調整剝離を施す。側辺沿いの細かな調整剝離はステップ状を呈し、B面中央に大剝離面残存。	杏仁形	
	S-09-0252  不明	(20.3) (12.0) 2.8 (0.7)		Z 先端部。先端から右側辺へかけて縦方向に剝離欠損。両側辺より調整剝離が施されるが、両面とも中央に大剝離面残存。B面右側辺はステップ状を呈す。	扁平な台形状	
	S-09-0281 MO61 溝 (SF 074) 黒褐色礫混砂質土層	(29.1) 12.9 5.1 (1.8)		Z 基端欠損。両面とも調整剝離。両面には筋が通る。	菱形	
	S-09-0282 MO61  黒褐色礫混土層	(29.2) 19.8 2.4 (1.7)		Z 先端部。幅広で薄い。両面とも大剝離面が大きく残存。両側辺沿いのみ調整剝離を施す。板状のうすい剝片を利用。	扁平	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0606 IU・IT'65  黒褐色砂質土層	(25.1) (15.2) 5.0 (1.3)		Z (DかE) 基端部。両面とも比較的揃った調整剥離。 A面両側辺のエッジの細かな調整はステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-0608 MK57 溝 (SF 074) 黒色土層	(22.8) 15.9 3.8 (1.6)		Z 中央部。うすく幅広。両面とも丁寧な調整剥離。右側辺は鋸歯状を呈する。	扁平な杏仁形	
	S-09-0617 KH66  第3層・黒色砂質土層	(22.6) (12.7) 6.3 (1.9)		Z 先端部。厚く細身である。両面とも調整剥離。A面両側辺、B面先端部はステップ状剥離面も混在し不揃いである。	菱形	石鏃の可能性あり。 
	S-09-0665 MB54  黒褐色礫混土層	(25.4) 14.5 4.0 (1.6)		Z 中央部。両面とも両側辺より調整剥離。B面中央に大剥離面残存。打点はB面右側辺下方にある。A面両側辺、B面右側辺はステップ状を呈す。	三角形	
	S-09-0723  不明	(23.8) 15.2 3.0 (1.0)		Z 先端部。B面中央に主要剥離面があり、右上方に打点あり。右側辺は一部鋸歯状を呈す。	扁平な杏仁形	
	S-09-0793  表採	(29.7) (14.7) 5.3 (1.7)		Z 先端部。両面とも丁寧な調整剥離。A面中央には鑿が通る。A面右側辺B面右側辺の小さな調整はステップ状を呈す。先端の表面に磨滅がみられる。	扇形	
	S-09-0794  表採	(27.9) 16.7 (6.5) (2.6)		Z 先端部。両面とも丁寧な調整剥離。A面左側辺、B面右側辺はうすいが、ステップ状剥離面を呈す。	杏仁形	
	S-09-0812 LC58  茶褐色土層	(28.2) (15.4) 4.3 (1.8)		Z (A未製品か) 両端欠損。上半部は細身で、下半部は外下方へ広がっている。両面とも両側辺より調整剥離。A面下半部、B面中央に大剥離面残存。	六角形	
	S-09-0937 JQ62	(30.5) 11.6 4.0 (1.5)		Z 両端欠損。細身である。両面とも丁寧な調整剥離。A面左側辺、B面右側辺は殆どがステップ状を呈す。先端から右側辺にかけて縦方向に剥離欠損。	杏仁形	
	S-09-0952 LJ58  黒褐色土層	(27.9) 17.1 4.7 (2.3)		Z 先端部破片。両面とも丁寧な調整剥離。A面下半部、B面には大剥離面残存。A面は調整面、B面は主要剥離面である。B面右上方に打点あり。長軸においてB面側へ彎曲している。	扁平な五角形	
	S-09-0966 JC64  黒褐色土層	(35.0) (19.3) 7.4 (3.9)		Z 両端欠損。大型。両面とも両側辺より調整剥離。比較的大きな剥離面よりなり、両面両側辺ともステップ状剥離面が混在している。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0987 JS60  褐色土層・Pit26	(26.8) (18.2) (5.3) (1.9)		Z 先端部。大型。両面とも調整剝離により成形。比較的大きく揃った剝離面よりなる。	杏仁形	
	S-09-0988 MZ  表採	(41.1) 17.0 4.8 (4.4)		Z (Eか) 大型。両端欠損。両面とも両側辺より調整剝離。両面とも中央に大剝離面が残存し、B面は主要剝離面であり、B面右方中央に打点あり。	扁平な扇形	
	S-09-0991 MZ  表採	(30.8) 12.3 3.4 (1.4)		Z 先端欠損。A面基部、B面中央部に大剝離面残存。B面は主要剝離面であり、打点は上方にある。A面左側辺の調整剝離はステップ状を呈し、不整形である。A面上半部は両側辺とも押圧剝離が施される。	扁平な三角形	
	S-09-1080 JY62  整地層	(35.3) (20.3) 8.1 (5.6)		Z (Dか) 基部破片。両面とも調整剝離。A面右側辺、B面基端はステップ状を呈す。	不整四辺形	
	S-09-1117 KF69  第3層・黒色砂質土層	(31.2) 16.5 6.7 (2.8)		Z 先端部。両面とも中央に竊が通る。A面左側辺の小さな調整はステップ状を呈す。先端よりB面へ縦方向に剝離欠損。両側辺、竊は磨滅している。	菱形	
	S-09-1122 KG62  第3層・褐色砂質土層	(34.2) 12.9 5.6 (2.6)		Z 基端欠損。細身である。先端は円い。両面とも調整剝離が施されるが、剝離面は揃っていない。A面両側辺下半部はステップ状を呈す。	菱形	鉄分附着 
	S-09-1124 KH62  第3層・褐色砂質土層	(34.3) (15.7) 5.6 (2.4)		Z 基端欠損。先端は細身で両側辺は直線的にのびる。両面とも両側辺より調整剝離が施される。A面両側辺下半はステップ状を呈し、下半中央には大剝離面残存。先端のエッジ、稜線に磨滅がみられる。	三角形	石錐の可能性あり。 
	S-09-1128 KL66  第3層	(20.6) (23.3) 6.5 (2.8)		Z 先端部破片。B面中央に大剝離面残存。A面右側辺はステップ状を呈す。A面両側辺、B面左側辺に細かな調整が施されるがそれらもステップ状を呈す。	杏仁形	
	S-09-1155 MI56 溝 (SF074) 褐色砂層	(32.6) 15.6 4.7 (2.3)		Z 両端欠損。うすく細身である。両面とも調整剝離。A面両側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。基部両側辺は研磨されて丸くなっている。	扁平な菱形	表面は灰白色を呈す。 
	S-09-1158 KZ  表採	(33.0) (21.3) 5.1 (3.2)		Z 先端部。両面とも大剝離面よりなり、A面は調整面、B面は下方に打点をもつ主要剝離面である。両面とも側辺沿いにのみ小さな剝離がみられる。両側辺ともエッジは磨滅。	不整台形	不定形刃器の可能性あり。 
	S-09-1202  不明	(24.6) 17.4 3.4 (1.5)		Z (Eか) 両端欠損。両面とも調整剝離。B面は両側辺ともステップ状を呈し、中央には大剝離面残存。A面中央にはわずかが研磨痕あり。	扁平な扇形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1220 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(47.7) (21.0) 7.8 (5.4)		Z 先端部。大型。両面とも調整剝離後A面右側辺、B面両側辺に細かな調整を施す。B面下半部左側には大剝離面残存。	菱形	尖頭器か 
	S-09-1283  不明	(24.5) 12.0 4.7 (1.6)		Z 両端欠損。両面とも調整剝離。B面先端より基部にかけて大きく剝離欠損。	不明	
	S-09-1285 GT54  整地層	(33.8) 12.4 4.5 (2.4)		Z 両端欠損。両面とも調整剝離を施す。中央に鑄が通る。両側辺は略平行している。全表面の磨滅が著しい。	菱形	石小刀の可能性あり。 
	S-09-1296  不明	(37.9) 13.9 4.7 (3.0)		Z(E-2か) 両端欠損。細身で基部下半に最大厚があり、先端にいくにつれてうすくなる。側辺は直線的にやや閉き気味に下り、基部でなだらかな逆刺を形成する。両面とも調整剝離。両面とも中央に鑄が通る。A面先端部右側辺、B面両側辺はステップ状を呈す。	菱形	
	S-09-1331  不明	(14.9) 12.6 2.0 (0.4)		Z(Cか) 先端部。A面剝離成形後両面とも両側辺に細かな調整を施して整形。B面下半は大剝離面よりなる。	ごく扁平な半円形	
	S-09-1335 IZ  表採	23.6 12.7 3.0 (0.9)		Z 先端部。両面とも調整剝離により、うすくなる。A面左側辺のエッジに細かな調整あり。	扁平な扇形	
	S-09-1336  表採	(19.3) (15.2) 4.5 (1.5)		Z 先端部。A面両側辺より調整剝離。中央に鑄が通る。B面の調整剝離は中央に至らず、大剝離面残存。A面左側辺ステップ状を呈す。	不整四辺形	
	S-09-1337 ME59  黒褐色礫混土層	(31.8) (21.1) 2.8 (1.8)		Z 先端部。A面左側辺に押圧剝離を施し、B面先端から左側辺にかけて調整剝離を施す。A面下半中央、B面中央に大きく、大剝離面残存。A面右側は大きな調整のみで、両面とも右側辺にはごくわずかの剝離が施される。	扁平な不整三角形	
	S-09-1339 ML57  黒色土層	(16.0) 12.0 4.0 (0.8)		Z(C小型か) 先端部。両面とも両側辺より調整剝離。A面中央に大剝離面残存。A面右側辺はステップ状を呈す。B面の剝離面は不揃いである。両側辺のエッジは磨滅。	五角形	
	S-09-1349 ML58  黒褐色礫混土層	(16.3) (14.6) 2.9 (0.7)		Z 先端部。両面とも丁寧な調整剝離によりうすく仕上げる。両側辺は鋸歯状を呈す。A面左側辺はステップ状剝離よりなる。	扁平な杏仁形	
	S-09-1360  不明	(22.0) 11.5 3.2 (1.0)		Z 中央部。両面とも両側辺沿いのみ調整剝離が施され、中央に大剝離面残存。A面は左方に打点のある主要剝離面である。両側辺はジグザグを呈す。下半部左側辺は瘤状に張り出している。	扁平な六角形	石錐か 

( )は残存部分の法量である。




図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1361 MK60  黒褐色礫混土層	(15.1) 14.4 5.8 (1.5)		Z 先端部。両面とも調整剝離。B面中央A面左寄りに竊が通る。四面ともステップ状剝離が混在する。	菱形	
	S-09-1366 MI56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(35.0) 21.1 6.2 (4.5)		Z 先端部。大型。両面とも調整剝離により成形後、A面左側辺、B面両側辺に小さな調整を施す。両面とも左側辺はステップ状を呈す。左側辺はジグザグである。	杏仁形	
	S-09-1386 ML54 土器堆積 (SL 321)	(32.2) 15.5 5.6 (3.3)		Z 中央部破片。両側辺は平行である。両面とも調整剝離。剝離面は並列しており、中央に竊が通る。	菱形	
	S-09-1413 MN60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(24.4) 10.9 3.0 (1.0)		Z 基端欠損。磨製石剣のうすい破片を利用している。A面右側辺、B面両側辺に調整剝離を施すが、三辺ともステップ状を呈す。A面左側辺エッジに小さな調整を施す。A面左側の大剝離面は下方に打点があり。B面は主要剝離面で左方に打点あり。	扁平な三角形	
	S-09-1452  不明	(14.0) (18.0) 4.1 (1.4)		Z 中央部。両面とも両側辺より調整剝離。両面とも中央に大剝離面残存。	杏仁形	
	S-09-1460 KX66  第2層	(30.7) (12.2) 4.8 (2.0)		Z 中央部。細身。両側辺はやや開き気味に直線的に下る。両面とも丁寧な調整剝離が施され、中央に竊が通る。比較的揃った剝離面である。	菱形	
PL.52-1	S-09-1138 KV62  第3層・黒色砂質土層	(40.5) (23.2) 6.0 (4.6)		未製品(A-1) 先端欠損。右側辺は直線的にのび、左側辺はふくらみをもつ。基辺は逆刺で突出し中央部は凹む。両面とも周辺より調整剝離。A面左側辺、基辺、B面左側辺はステップ状を呈す。B面中央に大きく自然面残存。A面基部左側には大剝離面残存。周辺のエッジは鋭い。	三角形	
PL.52-2	S-09-0631 MW61  灰黒色砂粘質土層	37.8 21.6 5.5 4.2		未製品(A-2) 不整形。両面両側辺に粗い調整剝離。A面中央～基部には大剝離面が大きく残り、先端には自然面が残存。B面は先端に打点をもつ主要剝離面よりなる。基辺は一度の打ち欠きで凹部をつくる。エッジは刃こぼれか。長軸でB面へ彎曲。	台形状	
PL.52-3	S-09-0479 LE63  第3層・Pit 3	30.8 19.9 3.4 2.0		未製品(A-1) A面は左側辺に打点をもつ主要剝離面よりなり、左側辺、基辺に細かな調整剝離を施すのみ。B面左より大剝離面残存。右側辺からうすく大きい調整剝離が施され、その後両側辺にA面と同じ調整剝離。両側辺中央部・基辺のエッジは磨滅して丸い。	扁平な台形状	
PL.52-4	S-09-0084 KJ63  第3層・暗褐色砂質土層	(33.9) 21.7 4.0 (3.0)		未製品(A-1) A面は両側辺より調整剝離後、側辺沿いに細かな調整剝離。基辺からもステップ状の打ち欠きあり。基部中央に大剝離面残存。先端部中央に研磨面あり。B面は右側辺逆刺に打点をもつ主要剝離面よりなり、両側辺に細かな調整剝離。	三角形	
PL.52-5	S-09-1456  不明	33.0 23.3 8.5 4.5		未製品(A-1) 両面とも両側辺、基辺より調整剝離。両面とも中央に大剝離面残存。A面は三辺ともステップ状を呈し、右側辺では特に深い。B面先端部でも深いステップ状を呈し、厚みが残る。側辺のエッジは鋭い。	六角形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.52-6	S-09-0008 MX57	35.8 21.6 5.9 3.8		未製品(A-1) 両面とも粗い調整剝離。両面とも右側辺はステップ状を呈す。B面右側辺、基辺にのみ細かな調整を施す。右側辺はステップ状を呈し、先端より略直線的に下り、基部で段をもつ形態を呈す。左側辺はふくらみをもって下る。B面先端部に風化面残存。右側辺のエッジは逆刺より縦方向に剝離欠損。	菱形	
PL.52-7	S-09-0971 LS68  黒褐色土層	50.3 25.2 8.7 7.3		未製品 不整形。鏃身左側は平基状を呈し、右側は逆刺が円く円基状を呈す。両面両側辺より調整剝離を施して成形。A面先端部中央に鑷が通る。両面とも基部に大剝離面残存。B面は左逆刺部分に打点をもつ主要剝離面である。両面とも右側辺はステップ状を呈し、A面では深い。A面基辺にわずかに細かな調整がみられ、両側辺沿いにはみられない。	先端部 菱形 基部 台形状	
PL.52-8 PL.61-17	S-09-0985 LO58 溝 (SF 430) 黒色土層	(50.4) (23.3) 6.2 (7.1)		未製品(E-1か) 右逆刺~茎欠損。両面両側辺より調整剝離を施して成形。両面とも先端部の剝離は中央まで至り、A面では鑷が通る。両面とも基部に大剝離面残存。A面は上方に打点をもつ主要剝離面である。A面左側辺、右側辺沿いの剝離、B面左側辺はステップ状を呈し、先端部右側辺には一部厚み残存。	先端部 扇形 基部 扁平	
PL.52-9 PL.61-18	S-09-1261 LO54  黒褐色土層	(42.0) 24.3 7.3 (6.9)		未製品(E-1) B面右側辺、茎左側辺、A面鏃身の両側辺に調整剝離。B面鏃身左側には右中央に打点をもつ主要剝離面残存。A面基部には大きく上方に打点をもつ大剝離面残存。両面両側辺ともステップ状剝離面が多く、基部左側辺には大きく自然面が残存し、Eタイプを作る途上にある。	先端部 扇形 基部 三角形	
PL.52-10	S-09-0255 KG70  第3層・黒色砂質土層	40.0 23.9 6.4 5.2		未製品(B-1) 両面両側辺より調整剝離。先端部では中央まで至り、両面とも基部に大剝離面残存。B面は右上方に打点をもつ主要剝離面である。側辺沿いに細かな調整を施す。基辺は折れ面のままで、先端には、自然面残存。両側辺はジグザグを呈す。	先端部 菱形 基部 三角形	
PL.52-11	S-09-1389 GT50 溝 (SF 334)	40.1 29.2 7.9 7.2		未製品(B-1) 両面両側辺より調整剝離。先端部は両面とも中央に鑷が通る。A面両側辺ともステップ状剝離面が多い。A面基部には下方に打点をもつ大剝離面残存。B面基部右側には大剝離面、左側には初段階の調整面が大きく残存。両側辺ともあらいジグザグを呈すが、中央部の側辺は敲打されたかのように白くなり、鈍い。	先端部 菱形 基部 扁平な三角形	
PL.52-12	S-09-1038 MH61  黒褐色礫混土層	49.7 25.6 9.3 11.2		未製品(B-1) 両面とも両側辺、基辺より調整剝離。両面中央には大剝離面残存。B面は右方向に打点をもつ。両面ともステップ状剝離面が大半で厚みが残る。	扇形	
PL.52-13	S-09-1427 ML55 溝 (SF 075) 黒色土層	46.8 30.5 7.7 12.3		未製品 平面形は楕円形を呈す。両面とも周辺より調整剝離。両面中央には大剝離面残存。両面ともステップ状剝離面が多い。周辺はジグザグを呈す。	先端部 扁平な三角形 基部 扁平な六角形	
PL.52-14	S-09-1435 JE54  床土・整地層	52.9 29.5 10.3 16.6		未製品 両面とも両側辺より調整剝離。A面左側辺はステップ状を呈すが、中央に鑷が通る。B面両側辺ともステップ状を呈し、左側辺の方が深く奥行はない。中央には右側からの初段階の剝離面、先端には自然面が残存。両側辺はジグザグを呈す。	不整四辺形	
PL.52-15	S-09-1271 HI52  Pit 23	(51.4) 20.0 7.7 (7.7)		未製品(B-2か) 先端欠損。両面とも両側辺より調整剝離。A面両側辺ともうすいステップ状を呈し、基部中央に左側辺中央に打点をもつ主要剝離面残存。B面右側辺、先端部左側辺はステップ状を呈し、中央部左側には左下方に打点をもつ、深い凹面を呈する大剝離面残存。基部中央にも一部残存。長軸で大きくB面へ彎曲する。両側辺のエッジは鋭い。	扇形	
PL.52-16	S-09-1019 KN68  第4層・黒色砂質土層	60.7 26.1 9.6 12.7		未製品(C-2か) 両面両側辺より調整剝離を施して成形。更にA面両側辺中央、B面先端部右側辺、左側辺に細かな調整あり。A面両側辺ともステップ状剝離面が多く、中央部に大剝離面残存。B面基部中央にもわずかに大剝離面残存。基端にはB面に打ち欠きがみられるが、一部自然面残存。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
PL.52-17	S-09-1387 KM65  第3層・褐色砂質土層	54.9 26.2 7.9 10.8		未製品 幅広の柳葉形状を呈する。両面、両側辺より調整剥離。A面では中央に筋が通り、両側辺ともステップ状を呈す。B面左側辺には奥行の深くうすい調整剥離もみられるが、両側辺ともステップ状が多い。B面先端部中央に大剥離面残存。左側辺中央部に厚みが残る部分があるが、両側辺ともジグザグを呈し、エッジは鋭い。長軸においてわずかにA面へ彎曲。	扇形	薄型尖頭器の可能性あり。 
PL.52-18	S-10-0408 MB54  黒褐色礫混土層	31.4 22.0 4.8 2.2		未製品 両面ともあらく大きな剥離面よりなるが、何度もくりかえして調整剥離を施す。A面左側辺、B面両側辺ともステップ状剥離面が大半である。A面基部には上方に打点をもつ主要剥離面、B面基部には自然面残存。基端は主要剥離面の末端にあたり丸くなりB面に至る。基辺左側は細かな調整がみられる。	菱形	
PL.52-19	S-10-0084 IX66 溝 (SF 079) 灰黒色粘土層	33.9 (21.7) 4.0 (3.0)		未製品(B-1か) A面両側辺基辺よりあらい調整後両側辺沿いに細かな調整剥離。ともにステップ状を呈す。中央に大剥離面残存。B面中央部は大きな初段階の調整面よりなるが、両側辺、基辺沿いに細かな調整があり、両側辺はステップ状を呈し、中央まで至らず。側辺の一部のエッジは敲打されたかの様に白くなり、鈍い。A面先端に自然面残存。	扁平な六角形	
PL.52-20	S-09-1023 ML60  黒色砂質土層	54.5 29.9 9.6 16.2		未製品(C-2か) 不整形。左側辺は円くふくらむ。A面左側辺基辺、B面右側辺基辺より調整剥離。両面ともステップ状を呈す。A面右側辺、B面左側辺は側辺沿いにわずかに調整剥離。A面右側には左下方に打点をもつ主要剥離面、B面中央には右下方に打点をもつ大剥離面残存。左側に厚みがある剥片を使用。先端部左側辺は剥片の末端にあたる。	五角形	
PL.52-21	S-09-1060 JE62  床土・整地層	57.0 23.3 11.8 12.8		未製品 両面ともあらい調整剥離。A面両側辺に調整剥離。共にステップ状を呈し、中央には初段階の剥離面、先端部中央には大剥離面残存。B面先端部には大きく大剥離面残存。右側辺、基辺の打ち欠きは深いステップ状を呈し、中央部に厚みを残す。先端に自然面残存。先端のエッジ磨滅。	先端部 扇形 基部 菱形	
PL.52-22	S-09-1294 GT50 溝 (SF 083) Pit	56.7 31.4 7.4 14.5		未製品 平面形は卵形。A面両側辺より調整剥離。左側辺はステップ状を呈す。A面基部には初段階の剥離面が大きく残り、先端には大剥離面残存。B面両側辺、基辺より粗い調整。ともにステップ状を呈し、中央には右下方に打点をもつ主要剥離面、基辺に一部自然面残存。	扁平な扇形	
	S-09-0012 MU63  第2層・床土層	39.5 28.0 9.1 9.4		未製品(B-1) 両面とも両側辺、基辺よりあらい調整剥離。はじめに大きく打ち欠いた後、三辺沿いに更に調整を施す。両面ともステップ状を呈し、剥離面は不揃いである。A面基部に一部、B面中央に大きく大剥離面残存。両側辺はジグザグを呈すが、エッジは細かなステップ状を呈し、くずれたかの様に打ち欠かれる。	五角形	
	S-09-0015 MQ63  第6層・褐色砂礫層	52.2 18.0 9.4 7.8		未製品 不整形。左側辺は柳葉形状になだらかに下り、先端部にふくらみもち、右側辺は中央でくの字形に屈曲する。両面両側辺より調整剥離。A面両側辺ともステップ状を呈し、中央部に大剥離面残存。B面両側辺もステップ状を呈し、ともに剥離面は不揃いである。B面先端のみ右側辺に押圧剥離あり。両側辺ともジグザグを呈す。先端は丸みもち、先端のエッジは磨滅。	扇形	石鏃か 
	S-09-0017 GQ61  第2層・黄色土層	31.3 15.5 5.8 3.3		未製品か 両面両側辺に調整剥離。両面基部中央に大剥離面残存。両面とも下方に打点あり。両面とも左側辺はステップ状を呈す。両側辺はジグザグを呈し、エッジは鋭い。基端には折れ面残存。	先端部 菱形 基部 六角形	
	S-09-0039 MP62  砂礫混黒色有機層	45.4 16.7 10.7 8.4		未製品 細身。両面両側辺より調整剥離。剥離面は不揃いである。A面基部中央に自然面、その上に初段階の調整面が残存し、厚味を残す。両面両側辺とも深いステップ状剥離面を呈す。両側辺ともジグザグになるが、ステップ状にくずれた様に打ち欠かれる。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地名 遺構 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現幅長 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0045 MQ62  黒褐色礫混合土層	44.5 16.1 7.9 5.3		未製品か(D-2) 両面両側辺より調整剥離。A面中央には大剥離面、B面中央部左側には自然面、その右側には初段階の調整面残存。基端部には大剥離面、基端は折れ面残存。両側辺ともジグザグを呈する。	中央部 五角形 基端 菱形	
	S-09-0102 KJ68  第3層・黒色砂質土層	46.5 19.7 7.5 6.3		未製品(D-2) 両面両側辺より調整剥離。A面は中央まで剥離面が至るが、B面は中央に右方向に打点をもつ主要剥離面残存。A面左側はステップ状を呈し、先端部右側辺も大きなステップ状を呈し、右側辺は凹凸あり。A面先端部、基端に自然面残存。	扇形	
	S-09-0110 MJ57  黒色土層	(43.7) 22.4 6.7 (7.2)		未製品 先端欠損。両面とも両側辺に調整剥離。A面は丁寧。A面両側辺、B面右側辺はステップ状を呈し、A面中央には基端に打点をもつ主要剥離面、B面先端部には大剥離面が大きく残存。基端には自然面残存。	扁平な五角形	
	S-09-0135 KP66  第5層	(42.4) 26.6 8.9 (11.3)		未製品 先端部欠損。左側辺は略直線的にのび、右側辺はくの字形に屈曲。基端には平坦な自然面残存。両面両側辺より調整剥離。両面ともステップ状が多い。A面基端中央、B面中央部に大剥離面残存。	扇形	
	S-09-0164 KH62  第3層・褐色砂質土層	24.0 19.7 4.0 1.9		未製品(B-1) 両面とも両側辺、基端より調整剥離。A面基部中央に大剥離面、B面中央に大きく左側辺中央に打点をもつ主要剥離面残存。A面右側辺はステップ状の不揃いの剥離面よりなり、基端右側は未調整である。右側に厚みをもつ剥片を使用。	扁平な三角形	
	S-09-0178 MFZ  第3層・茶褐色砂質土層	(29.2) 25.6 6.3 (6.6)		未製品 基部破片。B面両側辺より調整剥離を施して成形後、側辺沿いに細かな調整剥離。A面両側辺にも細かな調整剥離。A面は背稜をもつ大剥離面が大きく残存。B面左側辺、基端部右側辺、A面両側辺はステップ状を呈す。基端は折れ面より成る。	扁平な六角形	
	S-09-0182 KH64  第3層・褐色砂質土層	50.4 20.5 6.8 7.7		未製品 両面両側辺沿いに調整剥離。A面は右方向に打点をもつ大剥離面、B面は左方向に打点をもつ主要剥離面である。両面とも同一方向より打撃を加えた剥片を使用。両側辺ともジグザグを呈する。	六角形	
	S-09-0184 MK58  黒色土層	44.2 24.9 7.2 7.8		未製品(A-1) 両面共両側辺、基端より調整剥離。両面とも中央に大剥離面残存。A面は主要剥離面である。B面右側には折れ面がカーブをなして残存し、その末端に調整剥離を施す。両面ともステップ状剥離面が多い。	扁平な半円形	
	S-09-0200 KT60  第3層・黒色砂質土層	(33.5) 21.4 4.6 (3.9)		未製品 先端欠損。A面は右側辺中央に打点をもつ主要剥離面であり、B面は先端に打点をもつ大剥離面である。両面両側辺沿いに調整剥離。B面両側辺ともステップ状を呈す。基端は折れ面よりなるが、わずかに調整がみられる。	扁平な半円形	
	S-09-0201 KT60  第2層・黒褐色砂質土層	42.7 19.5 7.7 6.0		未製品(D-1) 両面ともに調整剥離。両面ともステップ状剥離面が多く、剥離面も大小種々あり、不揃いである。A面の方が中高である。周辺のエッジには磨滅あり。	扇形	
	S-09-0209 MI57  褐色砂層	37.8 27.0 9.8 9.6		未製品(C-2) 両面とも周辺よりあらく調整剥離を施して成形。ステップ状剥離面も混在。基部左側辺のエッジは敲打された様に白くなり、鈍い。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0244 KH65 第3層・黒色土層	35.1 27.2 5.4 5.1		未製品(B-1) A面は大剝離面、B面は、左側中央に打点をもつ主要剝離面である。両面両側辺より調整剝離。A面右側辺はステップ状を呈す。基底は剝片の末端にあたり、B面にわずかに調整あり。両側辺のエッジはうすく鋭いが、基部右側辺に打面が残存し厚い。	先端部 扁平な菱形 基部 扁平な台形状	
	S-09-0256 KH69 第3層・黒色砂質土層	59.1 23.2 11.8 13.2		未製品(E-2) 両面両側辺よりあらい調整剝離により成形。両面とも基部中央に大剝離面残存。茎先端には自然面残存。鏃身A面右側辺は深いステップ状を呈し、B面右側辺もステップ状剝離面が多い。茎の両側辺は鏃身に比較して揃った剝離面よりなる。	扇形	
	S-09-0280 KM70 第3層・黒色砂質土層・Pi25	44.5 (21.4) 4.9 (4.1)		未製品か(B-2) 基部一部欠損。A面右側辺、基底にうすい調整剝離。A面左側辺、B面両側辺沿いに細かな調整剝離。A面左側、B面中央に大きく大剝離面残存。B面は左下方に打点をもつ主要剝離面である。先端部はA面側へわずかに反る。先端は円く鋭さはない。	扁平な扇形	
	S-09-0286 MM63 黒褐色礫混入土層	46.0 16.0 6.5 4.3		未製品(B-2) 幅狭。A面、B面先端部両側辺より調整剝離。A面先端部に一部分、B面基部に大剝離面残存。B面は上方に打点をもつ。B面基部左側辺、基底に調整はみられず。A面先端部両側辺、B面両側辺沿いはステップ状を呈す。長軸で左側へ彎曲する。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-0299 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(36.4) 21.9 8.2 (7.1)		未製品 不整形。先端部欠損。両面とも周辺よりあらい調整剝離。両面ともステップ状剝離面が混在。A面両側辺沿い、B面左側辺沿いの細かな調整はステップ状を呈す。両側辺ともジグザグを呈すが、エッジはステップ状のため、くずれた様な感じである。	扇形	
	S-09-0305 MJ59 溝 (SF 074) 腐混黒色砂質土層	40.4 21.1 7.8 7.6		未製品(B-2) 両面とも周辺より調整剝離を施して成形後、両側辺、基底に調整剝離。両側辺、基底沿いの調整剝離はステップ状を呈し、周辺のエッジは鋭さに欠ける。先端は円みをもつ。	杏仁形	
	S-09-0308 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	46.0 20.1 8.0 6.6		未製品 不整形。A面両側辺よりあらい調整剝離。左側辺は深いステップ状を呈し、先端部右側に大剝離面残存。B面は基底に打点をもつ主要剝離面よりなり、両側辺に粗い調整剝離。左側辺、基部右側辺はステップ状を呈す。A面は中高である。基底は打ち割り面より成り、B面へ大きく剝離。	扇形	
	S-09-0309 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	59.8 21.9 7.0 8.4		未製品(D-1) 先端部が非常に長く、左右側辺で逆刺の位置は不揃い。A面両側辺より調整剝離。中央部に自然面が大きく残存。B面は両側辺よりあらい剝離を施して成形、比較的平坦面をなす。	先端部 扇形 基部 台形	
	S-09-0320 MZ	39.3 24.9 8.3 5.1		未製品(B-2) 幅狭。不整形。先端欠損。S-09-0286と同一形態。両面両側辺、基底より調整剝離。A面両側辺沿いの調整剝離はステップ状を呈す。B面中央には大剝離面残存。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-0352 MK59 溝 (SF 074) 褐色砂層	(33.4) 17.8 5.7 (2.5)		未製品(B-1) A面は右方に打点をもつ主要剝離面で、右側辺と基底に荒く調整を施す。左側辺の大半は調整は施されず。B面は右上方に打点をもつ大剝離面よりなり、先端部の右側辺を除き粗く調整剝離。左側辺下部はステップ状を呈する。先端は円くなると思われる。	不整形	
	S-09-0357 MN67 黒色土層	(37.1) 16.0 6.8 (3.6)		未製品 基部欠損。幅狭。A面両側辺、B面左側辺より調整剝離。A面左側辺はステップ状の不揃いの剝離面を呈し、右側辺、B面左側辺もステップ気味である。B面左側は左方向に打点をもつ主要剝離面よりなり、右側辺は自然面が残存。先端はB面側へ反る。	不整四辺形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃



図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0401 LB65 土器堆積 (SL 441) 第3層		38.4 18.4 5.7 3.6	未製品(D) 両面両側辺よりあらい調整剝離。A面は右上方に打点をもつ大剝離面、B面は左側辺下方に打点をもつ主要剝離面が残存。基部右側辺にはその打面が残存し、左側辺にも、厚い打ち割り面残存。A面右側辺、B面右側辺ともステップ状を呈す。両面基部左側辺は調整剝離が施されず。両側辺ともジグザグを呈す。側辺のエッジの突出部に磨滅あり。	杏仁形	
	S-09-0423 KZ 表採		(24.2) 21.2 4.1 (1.9)	未製品か(B-1) 基部。両面両側辺より調整剝離。両面とも基部には大剝離面残存。B面は右側辺中央に打点をもつ主要剝離面であり、基辺は剝片の末端にあたり、調整なし。両側辺は小さなジグザグを呈し、エッジはうすく鋭い。	扁平な扇形	
	S-09-0424 KLZ 表採		36.7 20.3 6.9 5.7	未製品(D) 不整形。左側辺はふくらみをもちなだらかに下り、右側辺はくの字形に屈曲する。A面周辺より調整剝離。三辺ともステップ状を呈し、厚みが残る。B面は大剝離面より成り、左側辺沿いのみ調整剝離。ステップ状を呈す。	三角形	
	S-09-0434 KZ		38.3 21.8 5.6 3.8	未製品か(B-2) A面両側辺、B面左側辺に調整剝離。B面右側辺は細かな調整のみ。A面両側辺ともステップ状を呈し、基部中央に厚み残存。B面は下方に打点をもつ主要剝離面よりなる。A面基辺にも調整。両側辺はうすく鋭い。基辺は斜基を呈す。	扁平な三角形	
	S-09-0442 MZ 表採		24.8 12.7 2.9 1.0	未製品(B-2) 小型。A面は基辺に打点をもつ主要剝離面、B面は左下方に打点をもつ大剝離面である。A面両側辺、B面右側辺基辺より調整剝離。A面右側辺はステップ状を呈す。基端には自然面残存。先端は円く鈍い。	扁平な台形	
	S-09-0458 KP69 第2層		(31.7) 36.7 6.6 (5.9)	未製品(A-1) 基部。両面とも両側辺、基辺よりあらく調整剝離。A面右側辺、B面両側辺ともステップ状を呈す。右側辺のエッジは敲打された様に白くなり、鈍い。	扁平な三角形	
	S-09-0459 KW61 土坑 (SK 289) 第3層		29.2 18.2 3.5 2.1	未製品(B-2) 先端は円みを持つ。A面の先端部は、左下方に打点を持つ大剝離面で、基部は右側辺からの大きな剝離面である。B面は左側辺に沿って細長く大剝離面が残り、面の大部分は、先端に打点をもつ剝離面である。A面の周辺沿い、B面右側辺基部、基辺沿いにごく小さな調整剝離が施される。	先端部 ごく扁平な扇形 基部 ごく扁平な台形	
	S-09-0462 LC61 土坑 (SK 579) 第3層		21.7 17.7 5.9 2.0	未製品(A-1) A面両側辺、基辺よりあらい調整剝離。三辺とも傾斜面の急な調整である。基端には一部自然面残存。両面とも大剝離面よりなり、B面に調整剝離は施されず。全面稜線は磨滅。	台形	
	S-09-0471 LD65 第2層		39.2 19.0 8.0 5.1	未製品か(B-1) A面左側辺、基部右側辺、B面両側辺基辺よりあらい調整剝離。A面右側には、剝片の折れ面が残存。先端部左側、B面先端部に大剝離面残存。A面両側辺、B面両側辺、基辺はステップ状を呈す。B面先端右側辺には細かな調整あり。両側辺のエッジは鋭い。周辺のエッジに磨滅あり。	先端部 不整扇形 基部 杏仁形	
	S-09-0502 MN56 整地層		54.0 (26.2) 6.1 (8.1)	未製品か(C-1) 基部左側欠損。大型。うすく幅広。両面ともうすい調整剝離。B面基部は大きなステップ状剝離面よりなりうすくなる。A面右側辺、先端部左側辺、B面右側辺にはエッジに細かな調整を施す。両側辺ともエッジは厚みがあるが鋭い。	先端部 扁平な杏仁形 基部 不整扇形	
	S-09-0503 LE68 第19号炉跡 (SD 065)		(51.9) 27.7 11.0 (14.0)	未製品(C-2) 両面とも周辺より調整剝離を施して成形。大きな剝離面よりなる。A面基部周辺に細かな調整剝離。B面基部に一部自然面残存。両面両側辺ともステップ状剝離面が多い。	先端部 扇形 基部 不整四辺形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0519 表採	(34.4) 20.8 4.2 (2.2)		未製品(A-1) S-09-0531と同一形態。先端欠損。A面両側辺より調整剝離。基部は中央に稜が通るが先端部中央に大剝離面残存。B面は右逆刺に打点をもつ主要剝離面より成り、両側辺沿いに調整剝離。基辺はA面のみ剝離し、ステップ状を呈す。A面両側辺沿いの調整剝離もまたステップ状を呈する。	先端部 台形状 基部 扇形	
	S-09-0570 JA63 黑色砂質土層	47.9 24.7 8.5 8.2		未製品(D-2) 両面とも両側辺よりあらい調整剝離を施して成形。両面ともあらく大きい剝離面よりなり、B面中央にわずかに大剝離面残存。両側辺のエッジは鋭い。細かな調整は施されず。	扇形	
	S-09-0575 KU65 溝 第4層上面	21.5 19.6 3.7 1.7		未製品(B-1) うすく幅広く、正三角形に近い平面形。両側辺はふくらみをもつ。先端欠損。A面両側辺、基辺より調整剝離。B面は左逆刺部に打点をもつ主要剝離面よりなり、左側辺基辺に剝離が施される。右側辺、基辺は両面ともステップ状を呈するが細かな丁寧な調整。左側辺はあらく凹凸あり。	扁平な三角形	
	S-09-0577 KB63 第3層・灰黑色砂質土層	35.2 20.3 8.5 5.3		未製品か(B-2) 先端は細く鋭く、左側辺は円くふくらみ、右側辺はややふくらみ気味に下り、左右不揃いな形態。基端は打ち割り。両面とも丁寧な調整剝離。A面先端は凹凸のあるステップ状を呈し、不揃いだが、A面両側辺、B面両側辺とも比較的揃った剝離面が並列。両面とも先端部は筋が通る。A面右側辺はうすいステップ状を呈す。A面基部中央には大剝離面残存。基辺はB面にのみ剝離。それはステップ状を呈す。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-0584 KT60 第3層	31.1 24.3 3.9 2.8		未製品 うすく幅広い。A面は大剝離面よりなり、B面は右方向に打点をもつ主要剝離面であり、基端右側には自然面残存。基辺は未調整。A面両側辺より調整剝離。左側辺、右側辺先端は丁寧だが、ステップ状を呈す。B面両側辺沿いに粗い調整剝離。	扁平な五角形	
	S-09-0585 KT60 第3層・黑色砂質土層	26.7 14.0 4.5 1.3		未製品(D-2) 右側辺のみ逆刺は円くつくられる。両面とも両側辺沿いに小さい調整剝離。基辺はA面のみ打ち欠き。A面先端部に大きく大剝離面残存。B面は基辺に打点をもつ主要剝離面であり、基部左側には自然面残存。	扇形	
	S-09-0586 KH70 第3層	(34.0) 17.8 8.9 (6.6)		未製品か 基部欠損。両面とも両側辺より調整剝離。両面両側辺ともステップ状を呈し、中央に大剝離面残存。両側辺のエッジ及び稜線に磨滅あり。	杏仁形	
	S-09-0588 KZ 表採	30.7 19.5 7.1 2.4		未製品(C-2) 基辺は右上がりの斜基を呈する。両面両側辺沿いに調整剝離。A面は自然面よりなり、B面は右逆刺に打点をもつ主要剝離面よりなる。基辺はB面に剝離がみられるがステップ状を呈す。A面右側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。両側辺は小さなジグザグである。周辺のエッジ及び稜線は磨滅する。	不整四辺形	
	S-09-0593 MT58 溝 (SF 078) 黑色砂質土層	41.2 16.5 6.8 5.0		未製品か 細身の楕円形。両面とも両側辺より調整剝離。A面先端部左側辺、B面右側辺、先端部左側辺はステップ状を呈し、不整形である。A面基部中央にわずかに、B面中央部に小さく大剝離面残存。厚味を残す。両端及び両側辺の突部のエッジは丸く磨滅。	両端部 扇形 中央部 五角形	石鏃か 
	S-09-0594 ME59 溝 (SF 075) 黑色粘質土層	42.3 18.7 8.5 5.7		未製品(B-2) 右下がりの斜基。先端は円く鈍い。両面とも両側辺、基辺より調整剝離。両面ともステップ状剝離面を呈し、中央部では特に強く、中央に大剝離面残存し、厚みも残る。両側辺ともエッジはうすく鋭い。	両端部 扇形 中央部 六角形	
	S-09-0595 MB58 溝 (SF 075) 黑色粘質土層	(27.4) (22.5) 6.2 (3.2)		未製品か(D-2) 基部。両面両側辺より調整剝離。両面ともステップ状剝離面が多い。B面中央にわずかに大剝離面残存。基端及び両側辺の突部のエッジに磨滅あり。	杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0601 JD65  褐色礫混土層	(34.5) 13.8 6.5 (2.7)		未製品(D-1) 基端欠損。A面両側辺より調整剝離。右側辺はステップ状を呈す。左側辺は揃った剝離面が並列。B面両側辺の調整剝離は揃いの上、ステップ状を呈す。中央部に大剝離面残存。先端部両側辺とも特に深いステップ状を呈し、瘤状に厚みを残し、不整形である。逆刺は角をなし基部は整っている。上下方向が逆になる可能性あり。	先端部 扇形 基部 菱形	
	S-09-0607 IR・IS69  黒色砂質土層	57.7 30.8 10.6 13.8		未製品(E-2) 右側辺はくの字形に屈曲し、左側辺は逆刺が角をもたない茎をつくる。両面とも逆刺~下方はステップ状を呈すが丁寧な調整剝離。先端部は両側辺沿いにわずかに調整剝離。両面とも大きく大剝離面残存。A面左側は左方に打点をもつ主要剝離面が残り、右側には初段階の調整面残存。B面右側には大剝離面、左側には自然面残存。先端部左側辺の他は、ジグザグを呈する。	先端部 四辺形 基部 六角形 基部 厚手菱形	
	S-09-0613 MM62 溝 (SF 074) 黒褐色礫混合土層	36.5 16.5 6.3 3.3		未製品(C-2) 両面両側辺に調整剝離。A面中央には大剝離面と初段階の調整面が残存。左側辺はステップ状を呈する。B面中央に大剝離面残存。左側辺はステップ状を呈し、基部では大きく深いステップ状剝離面を呈す。先端部右側辺、基端に平坦な調整以前の面残存。	杏仁形	
	S-09-0615 MZ	(46.6) 19.1 8.6 (8.6)		未製品 基端欠損。両面両側辺より調整剝離。B面左側辺はステップ状剝離面を呈し、他の部分にも混在するが揃った剝離面が並列。A面中央に大剝離面残存。B面中央は主要剝離面残存。両側辺ともジグザグを呈しエッジは磨滅。先端は円をもつ。	両端部 扇形 中央部 六角形	
	S-09-0618 KK67  第3層・黒色砂質土層	37.3 15.8 11.2 5.9		未製品(C-2) 両面両側より調整剝離。両面両側辺とも深いステップ状を呈し、瘤状に厚みが残存。A面基部中央に大剝離面残存。基端には自然面あり。全体として幅狭で厚みがあり、不整形。周辺のエッジは磨滅。	不整杏仁形	
	S-09-0619 KD67  第3層・黒色砂質土層	(37.4) 16.8 7.5 (5.6)		未製品(D-2) 柳葉形状を呈す。先端部欠損。両面両側辺より調整剝離。A面左側辺は大きなステップ状を呈し、右側辺沿いの小さな調整もステップ状を呈す。B面中央部左側、基部右側からの剝離が大きく、B面でのバランスは失われる。B面中央部右側辺には細かな調整剝離があるが、ステップ状を呈し、厚みは残る。基端には平坦な調整以前の面残存。両側辺のエッジは磨滅。	不整杏仁形	
	S-09-0623 KT62  第3層・黒色砂層	41.2 23.2 10.2 8.6		未製品 不整形。両面とも両側辺基辺よりあらい調整剝離。B面中央に大剝離面残存。整形のための細かな調整剝離は施されず。	扇形	
	S-09-0632 KB63  灰黒色砂質土層	38.6 18.8 8.3 4.5		未製品(C-2) 右側辺はくの字形に屈曲し、左側辺はふくらみをもつてのび、左右不揃いだが、基端は円い。両面両側辺、基辺より調整剝離。A面先端部右側辺は貝殻状剝離面を呈すが傾斜が急であり両面左側辺はステップ状を呈する。B面左側辺は深いステップ状である。A面中央に大剝離面残存。先端周辺のエッジは磨滅。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-0635 JB68  黒褐色砂質土層	35.8 25.8 7.7 6.8		未製品(B-1) 身幅は広い。基辺は打ち欠き面。両面両側辺よりあらい調整剝離。両面両側辺ともステップ状を呈し、中央に大剝離面残存。先端左側に打面残存。B面は左方向に打点をもつ主要剝離面である。	扁平な杏仁形	
	S-09-0640 LE62~65  第3層	39.3 23.4 5.9 6.2		未製品 両側辺はふくらみもち基辺は右上がりの斜基。A面周辺より調整剝離。中央左寄りに大剝離面残存。左側辺、基辺は、あさいステップ状を呈す。B面中央部は両側辺よりうすく大きい剝離後、両側辺沿いに小さい調整剝離。先端部左側辺はステップ状を呈す。中央に大きく、右側中央に打点をもつ主要剝離面残存。B面右側辺基部に自然面残存。基端面は折れ面よりなる。	先端部 不整四辺形 基部 扇形	(B-2かC-2) 
	S-09-0645 LW50  茶褐色砂礫土層	39.6 16.3 6.6 4.0		未製品(E-2) 比較的細身で両側辺はふくらみもち、先端は円い。両面とも両側辺より小さな調整剝離。ステップ状を呈し、両面とも中央に、下方に打点をもつ大剝離面が大きく残存。A面右側辺沿いは剝離の折れ面である。基端部に厚く自然面残存。側辺のエッジは小さいジグザグを呈する。	不整四辺形	

( )は残存部分の法量である。





図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0672 JQ58  整地層	(32.8) 22.9 4.7 (4.1)		未製品か(D-2) うすく幅広。先端欠損。両面とも両側辺より調整剥離。両面とも比較的揃った剥離面が並列。A面先端部に大剥離面、B面中央に大きく主要剥離面残存。ともに右逆刺部に打点をもつ。両側辺は屈折の小さなジグザグを呈す。	先端部 扁平な六角形 基部 扇形	層理をもつサマ カイト 
	S-09-0710 MD58 溝 (SF 074) 黒色土層	53.0 18.6 8.2 5.4		未製品か(E-2) 両側辺で逆刺の位置が不揃い。先端は円い。両面両側辺より丁寧な調整剥離。A面先端部右側辺は押圧剥離によるうすい揃った剥離面が並列。左側辺は両面と基部右側辺は深いステップ状剥離面を呈し、両側辺のエッジは鋭いが、凹凸が著しい。A面基部中央に大剥離面残存。	両端部 菱形 中央部 六角形	
	S-09-0711 KH58  整地層	(47.3) 19.0 9.2 (7.3)		未製品(E-2) 先端欠損。両面両側より調整剥離。しかしステップ状剥離面も混在し、剥離面不揃いである。両側辺のエッジは鋭い。A面中央に大剥離面残存。	扇形	
	S-09-0713 KH58  整地層	30.8 19.0 6.5 4.1		未製品 楕円形。両面とも両側辺より調整剥離。A面両側辺はステップ状もあるが、剥離面は中央に至る。B面は両側辺のみで、右側辺はステップ状を呈し、先端部中央は基辺に打点をもつ主要剥離面よりなる。この剥離面の末端はA面側にまで至る。基端は自然面である。	扇形	
	S-09-0721 MNZ	(37.2) 18.0 6.8 (4.5)		未製品 基端欠損。先端は平坦面。両面両側辺より調整剥離。B面中央に先端に打点をもつ主要剥離面残存。両側辺はジグザグを呈す。	扇形	
	S-09-0722  不明	43.2 22.4 7.6 6.6		未製品(B-2) 両面とも両側辺、基辺より調整剥離。両面共基部左側辺はステップ状を呈す。両面基部中央に大剥離面残存。斜基であり、左側辺は逆刺部は円く、右側辺では瘤状に突出しており、不整形である。	先端部 菱形 基部 六角形	
	S-09-0725  第9・10号住居址 (SA009・010) Pit 7	53.6 22.6 9.8 10.7		未製品(D-2) 細身の楕円形。両面両側辺よりあらい調整剥離を施して成形。A面右側辺はステップ状で、中央にわずかに自然面残存。B面右側辺もステップ状を呈す。右側辺はジグザグを呈すが、エッジはステップ状のためくずれた様になり鋭さはない。基部両側辺のエッジの突出部に磨滅あり。	両端部 扇形 中央部 不整四辺形	
	S-09-0728 JD58  床土・整地層	31.5 27.2 4.9 4.5		未製品(B-1) 正三角形。先端欠損。両面とも大剥離面よりなる。B面左側辺基部に打点をもつ主要剥離面。A面も同一方向に打点をもつ。両面とも両側辺、基辺にわずかに調整剥離。長軸でA面へ彎曲。	扁平	
	S-09-0730 MF54  整地層	59.4 22.0 10.8 13.2		未製品(D-2) 柳葉形状を呈すが不整形。両面とも両側辺よりあらい調整剥離を施して成形。A面先端部は右側辺にうすく奥行のある剥離がみられ、なだらかな面をなすが、基部、B面では凹凸が多い。中央部両側辺ともにエッジに厚みが残り、B面中央部右側にも瘤状に厚みが残存。	菱形	
	S-09-0731 MF54  整地層	40.8 16.8 8.3 5.8		未製品(B-2) 両面とも両側辺より調整剥離。A面基辺より打ち欠きあり、ステップ状を呈す。A面中央に大剥離面、B面中央には右逆刺に打点をもつ主要剥離面残存。両側辺はジグザグを呈す。先端部両側辺のエッジは磨滅。長軸でわずかにA面側へ彎曲する。	先端部 扇形 基部 五角形	
	S-09-0735 JA58  床土・整地層	(30.2) 25.4 7.4 (6.1)		未製品(B-1) 先端欠損。幅広の二等辺三角形形状を呈す。両面両側辺に調整剥離。両面とも左側辺はステップ状を呈す。A面中央に大剥離面残存。基辺は打ち割り後逆刺部に剥離がみられる。両側辺のエッジは磨滅。	扁平な杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0736 JA58  床土・整地層	32.3 27.0 7.2 7.3		未製品(B-1) S-09-0735と同一形態。左側辺はふくらみをもつ。両面両側辺、基辺より調整剝離。右側辺は両面ともステップ状を呈す。基辺は折れ面よりなり、B面は剝離がみられる。周辺のエッジは磨滅。	杏仁形	
	S-09-0740 JE54  床土・整地層	37.4 30.8 6.3 7.6		未製品か(B-1) 正三角形状。両側辺はふくらみをもつ。A面三辺、B面右側辺は調整剝離。A面は三辺ともステップ状を呈す。A面中央にわずかに大剝離面残存。B面基部にも大剝離面、その上方に自然面残存。基辺は折れ面よりなる。周辺のエッジは磨滅。	先端部 扁平な扇形 基部 扁平な半円形	
	S-09-0743 JA54  整地層	43.6 25.3 6.6 6.8		未製品(D-2) 基部は両面両側辺より調整剝離。先端部は両面ともわずかに調整剝離。両面とも先端部に大きく大剝離面残存。B面は基端に打点をもつ主要剝離面であり、先端はその末端にあたる。A面右側辺はステップ状を呈す。B面先端部もうすいステップ状を呈す。A面基端には大剝離面が残存し、最大厚あり。	先端部 扁平 基部 菱形	
	S-09-0745 JM66  整地層	47.2 26.9 8.6 10.6		未製品 A面右側辺、基部左側辺にあらひ調整剝離を施して成形。右側辺はステップ状を呈す。A面先端、基辺寄りに大剝離面残存。B面基部左側辺、基辺にわずかに調整剝離。B面は左側辺中央に打点をもつ主要剝離面で、先端部左側は厚く打面残存。	扇形	
	S-09-0749 JU66  整地層	50.9 21.2 10.8 10.8		未製品 先端欠損。両面周辺より調整剝離。A面基部、B面中央に大剝離面残存。あらひ調整後、両面両側辺沿いに小さな調整剝離を施す。両面側辺沿いの剝離面はステップ状を呈す。中央部左側辺は深く厚みが残存。	扇形	
	S-09-0754 MI62 溝 (SF 077) 黒褐色土層	47.6 28.4 7.3 10.3		未製品 幅広くうすい。先端は円い。両面とも周辺より調整剝離。A面先端部左側辺は揃った剝離面が並列するが、左側辺、基部右側辺はステップ状を呈す。B面中央に大剝離面残存し、両側辺はうすいステップ状を呈す。先端部左側辺のエッジは磨滅。	扁平な杏仁形	
	S-09-0755 MF56  黒褐色礫混土層	57.1 29.5 8.8 16.9		未製品 A面両側辺よりあらひ調整剝離を施して成形後、基部両側辺より調整剝離。中央に大剝離面残存。左側辺はステップ状を呈す。B面も両側辺、基辺よりあらひ調整剝離。先端部に大剝離面残存。先端部両側辺、基辺沿いに細かな調整を施すが、ステップ状を呈す。基端は打面残存。	扁平な半円形	
	S-09-0762 KX58  整地層	(38.3) 23.3 7.6 (7.7)		未製品(A-1) 先端B面へ剝離欠損。両面両側辺、基辺に調整剝離。両面中央に大剝離面残存。左逆刺に打点をもつ。A面先端部に風化面あり。B面両側辺はステップ状を呈す。	六角形	
	S-09-0763 MI62 溝 (SF 077) 黒褐色土層	39.0 20.8 5.8 5.0		未製品(E-2か) 両側辺先端部はふくらみをもち、逆刺で角ばり、基部両側辺は直線的に狭くなり、基辺は平坦。A面左側辺、基部右側辺に調整剝離。中央に大きく大剝離面残存。左側辺はステップ状を呈し、先端部左側辺沿いに細かな調整。B面右側辺、先端部左側辺に小さな調整剝離。中央には大きく基辺右角に打点をもつ主要剝離面よりなる。基端には厚く自然面残存。	扁平な扇形	
	S-09-0766 KP58  茶褐色土層	46.3 21.5 7.3 7.1		未製品 A面両側辺、B面基部左側辺に調整剝離。A面中央部両側辺ともステップ状を呈し中央に瘤状に厚みが残る。B面は大剝離面であり、左側辺は剝片の打ち割り面である。基辺は折れ。	五角形	
	S-09-0767 KP58  茶褐色土層	34.2 24.2 8.0 8.3		未製品(B-2) 両面とも両側辺、基辺より調整剝離。A面両側辺、B面右側辺はステップ状を呈す。両面中央に大剝離面残存。右側辺のエッジは鋭いが、左側辺のエッジはくずれた様になり、厚みを残す。B面基部に自然面残存。周辺のエッジ、両面の稜線は磨滅。	六角形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-0770 KP58  茶褐色土層	44.8 20.8 6.7 5.4		未製品(C-2) 両面両側辺より調整剥離。両面ともあらいが、比較的揃った剥離面よりなる。基部左側辺には細かな調整あり、なだらかにのびるが、他の辺のエッジは凹凸がある。基端部には自然面残存。B面先端部左側辺に大きな打ち欠きがあり、凹みをなす。先端部両側辺はジグザグを呈す。逆刺部のエッジは磨滅。	菱 形	
	S-09-0772 KT58  Pit 59	54.3 26.8 6.3 10.5		未製品 両面とも両側辺にあらい調整剥離。B面基辺にも調整があり平坦になる。A面両側辺、B面左側辺はステップ状を呈し、中央に大きく大剥離面残存。A面の打点は左下方にあり。B面は基端に打点をもつ主要剥離面である。左側辺のエッジはジグザグを呈し鋭いが、先端部右側辺には厚みが残る。長軸でA面側へ反る。	扁平な半円形	
	S-09-0774 MC55  黒色砂質土層	(46.0) 21.6 8.4 (8.0)		未製品(C-2) A面先端部左側辺、基部両側辺、基辺に調整剥離。先端部右側辺は剥片の打ち割り面より成る。基部左側は大剥離面残存。B面基部は大剥離面。先端部右側辺よりあらい剥離はあるが、深いステップ状を呈し、不整面。先端左上にも大剥離面わずかに残存。先端は折れ。周辺の突部のエッジ、両面の稜線は磨滅。	先端部 台形状 基部 三角形	
	S-09-0776   表採	33.0 (25.6) 8.6 (8.0)		未製品(B-1) 左逆刺部欠損。両側辺はふくらみをもつ正三角形。先端は円い。両面両側辺、B面基辺より調整剥離。A面基部右側辺の細かな調整はステップ状。B面両側辺もステップ状を呈す。B面先端部右側辺沿いに細かな調整。B面基部中央に大剥離面残存。基端は打ち割り面。その周囲は敲打によりつぶれる。両側辺のエッジ、A面の稜線は磨滅。	杏仁形	
	S-09-0777 KP58  Pit 63	(39.0) (31.2) 6.8 (7.8)		未製品 基部。両面とも両側辺、基辺より調整剥離を施して成形後、B面基部両側辺のエッジに細かな調整を施す。左側辺はうすいステップ状を呈す。	扁平な不整四辺形	
	S-09-0782   表採	46.8 22.4 10.0 10.5		未製品(D-2) A面中央部に大剥離面、B面中央に右方向に打点をもつ主要剥離面残存。両面とも両側辺よりあらい調整剥離により成形。B面中央部両側辺とも深いステップ状を呈し、B面の凹凸は大きい。	扇形	
	S-09-0796 LC58 第9号住居址 (SA 009) 埋没土層	45.8 28.9 6.4 10.3		未製品 幅広の柳葉形状を呈し、基辺はB面より調整、凹部を呈す。A面は左下方に打点のある大剥離面、B面は右下方に打点をもつ主要剥離面であり、長軸でA面に反る。A面中央部両側辺にはうすく大きい剥離を施し、先端部両側辺、基端部両側辺には細かな調整。先端部左側辺基部右側辺はステップ状を呈す。B面両側辺に大きな調整剥離。基部右側辺、基辺には細かな調整あり、ステップ状を呈す。エッジは鋭いが厚みをもつ。	扁平	
	S-09-0803 KL59  灰褐色土層	(41.0) 24.0 8.0 (8.4)		未製品 先端部欠損。両面とも基部両側辺より調整剥離を施して成形。基端には剥片の打面残存。先端部A面左側辺にわずかに調整あるのみ。右側辺はエッジに細かな調整あり。B面先端部は未調整で、右側に初段階の剥離面あるのみ。A面は左方向に打点をもつ大剥離面、B面は右下方に打点をもつ主要剥離面よりなる。	先端部 不整扇形 基部 菱形	
	S-09-0804 KT58  Pit 39	(25.4) (18.0) 6.9 (3.1)		未製品 先端部。A面両側辺より調整剥離。中央に大剥離面残存。縦軸が左側に彎曲。B面は大剥離面よりなり右側には打れ面あり、先端部左側辺は未調整で剥片の厚み残存。	扇形	
	S-09-0813 KT54  黒褐色土層	(39.4) 20.5 7.4 (7.1)		未製品(C-1) 先端部欠損。基辺は円みをもち両端でやや角張る。両面両側辺、基辺より調整剥離。その後A面両側辺、B面右側辺に細かな調整。これは三辺ともステップ状を呈す。A面中央にわずかに大剥離面残存。	中央部 不整杏仁形 基部 扁平な杏仁形	
	S-09-0814 KT54  黒褐色土層	48.4 20.0 7.2 8.3		未製品 細身で斜基。両面両側辺より調整剥離。A面左側辺沿い、B面ではステップ状を呈し、基部中央に主要剥離面残存。基端は大剥離面の末端部で丸くA面側に至る。基辺は未調整。	先端部 菱形 基部 台形状	

( ) は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0822 KL62  第3層・褐色砂層	(37.2) 22.2 7.0 (7.1)		未製品 楕円形状。両面両側辺、B面基辺よりあらい調整剝離。中央に大きく大剝離面残存し、B面は右方向に打点をもつ主要剝離面である。A面基部は整っているが他は不揃い。A面先端部左側はステップ状を呈す。周囲のエッジ、両面の稜は磨滅。右側辺先端より縦方向に剝離欠損。	不整三角形	
	S-09-0825 KT58  灰褐色土層	(33.5) 20.5 5.4 (3.7)		未製品か(E-1) 基先端欠損。両面両側辺より調整剝離。押圧剝離による。A面両側辺は揃った剝離面が並列。B面両側辺はステップ状を呈し、右側辺は不整形で凹凸あり。B面中央に大剝離面残存。失敗品として放棄されたと思われる。	菱形	
	S-09-0826 KP54  灰褐色土層	34.0 26.6 5.8 4.6		未製品 正三角形形状。先端が右側へ片寄る。A面基辺より大きく剝離後、両側辺より調整剝離。両側辺沿いに更に細かな調整剝離。基部右側に大剝離面残存。B面は右逆刺に打点をもつ主要剝離面よりなり、基端部は折れ面よりなる。先端部左側辺に細かな調整がわずかにみられる。	三角形	
	S-09-0828 KH54  茶褐色土層	38.3 29.2 7.4 8.5		未製品(B-1) 二等辺三角形形状。先端はA面側へ反る。A面右下方に打点をもつ大剝離面よりなり、B面は左逆刺部に打点をもつ主要剝離面よりなる。B面両側辺沿いに調整剝離。A面三辺に調整あり。右側辺、基辺沿いはステップ状を呈す。基端左側に自然面残存。先端は未調整。右側辺に折れ面が厚く残存。周囲のエッジ及び両面の突部の稜線磨滅。	台形状	
	S-09-0829 KD54  茶褐色土層	46.3 24.1 8.5 8.8		未製品 A面は背稜をもつ大剝離面、B面は基辺に打点をもつ主要剝離面よりなる。A面両側辺、基辺にあらい剝離を施す。三辺ともステップ状を呈す。B面両側辺に小さな調整剝離あり。基端は自然面である。先端部両側のエッジは磨滅あり。	扇形	
	S-09-0831 KL54  灰黒色土層	33.1 16.5 6.9 3.2		未製品(B-1) 先端は細身。A面両側辺より調整剝離。B面はあらい成形後、基部左側辺、基辺より調整剝離があるがステップ状を呈し、面の凹凸が大きく不揃いである。先端はA面に反る。	菱形	
	S-09-0841 JU58  茶褐色土層	(37.5) 21.3 6.2 (5.3)		未製品 先端部欠損。基部はやや尖基気味。両面両側辺より調整剝離。A面左側、B面両側辺ともステップ状を呈す。両面とも基部には大剝離面が大きく残存。B面は左下方に打点をもつ主要剝離面である。周囲のエッジ突部は磨滅。	扇形	
	S-09-0843 JQ62  茶褐色土層	39.0 19.3 7.3 4.9		未製品(D) 左側辺はくの字形に屈曲し、右側辺は柳葉形状を呈する。両面両側辺より調整剝離。A面中央部両側辺ともステップ状を呈し、中央に大剝離面残存し、B面右側辺基端はステップ状を呈し、中央部に厚さが残る。先端部右側辺のエッジを擦っている。	扇形	
	S-09-0844 JQ62  茶褐色土層	36.5 23.7 6.6 5.0		未製品か(B-2) 幅広。A面左側辺、B面右側辺、先端部左側辺に調整剝離。大半はステップ状を呈する。基辺A面に打ち欠き後エッジに細かな剝離。先端部右側辺、基部左側辺、B面先端部右側辺沿いにも細かな剝離あり。A面右側は左方向に打点をもつ大剝離面、B面中央部左側には右下方に打点をもつ主要剝離面残存。	扁平な菱形	
	S-09-0854 JA54・58 溝 (SF080) 上層	(57.3) 16.2 8.5 (7.5)		未製品 細身の柳葉形状。両面両側辺より調整剝離。B面中央、A面先端部中央に大剝離面残存。両面とも左側辺はステップ状を呈する。B面先端部両側は揃った剝離面よりなり、B面では瘤状に厚さが残る。両側辺はジグザグを呈する。	菱形	
	S-09-0857 JI66  褐色土層	48.4 23.8 10.0 9.9		未製品(C-1) 両面両側辺よりあらい調整を施して成形。A面基部右側には基辺左寄りに打点をもつ主要剝離面、B面中央には縦方向に打点をもつ大剝離面残存。B面先端部右側には折れ面残存。A面左側辺沿い、基部右側辺沿いに細かな調整剝離あり。A面両側辺、B面左側辺はステップ状を呈する。基端左寄りに自然面残存。	五角形	

( )は残存部分の法量である。




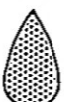







図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0867  不明		40.1 28.9 8.6 8.9	未製品(B-1) 二等辺三角形。両面とも両側辺、基辺より調整剥離。両面とも基部に大剥離面残存。あらいつくりで、先端は円い。	扇形	
	S-09-0868 JZ	(57.2) 28.4 9.0 (15.5)		未製品 ポイント状。両面両側辺よりあらい調整剥離を施して成形。B面先端部右側には大剥離面残存。A面左側辺、先端部右側辺、B面基部両側辺はステップ状を呈す。周辺のエッジは磨滅。	扁平な扇形	
	S-09-0873 JY54  黒色土層	39.4 23.6 9.1 6.8		未製品(B-1) 両面とも両側辺、基辺に調整剥離。両面とも比較的揃った剥離面が並列する。A面両側辺中央部、B面左側辺、基辺はステップ状を呈する。先端には調整以前の平坦な面残存。	菱形	
	S-09-0876 JM66  褐色土層	53.6 20.4 7.7 9.5		未製品 細身。先端部で左側へやや彎曲気味。両面とも両側辺より調整剥離。ステップ状を呈す。A面先端部左寄りに大剥離面、基部中央に下方に打点をもつ、初段階の剥離面が大きく残り、B面中央には右下方に打点をもつ主要剥離面が大きく残存。先端、基端は打ち割り面である。基辺は未調整。	先端部 扇形 基部 五角形	
	S-09-0887 KT58  Pit 55	(23.8) 30.7 7.4 (5.3)		未製品 基部。両面とも両側辺よりあらく剥離成形後、両面両側辺沿いに細かな調整剥離を施す。四面ともステップ状を呈す。	不整四辺形	
	S-09-0893 LC58 第9号住居址 (SA 009)	30.7 20.4 6.6 3.9		未製品か(C-1) 先端部の狭い楕円形態。A面右側は右上方からの打ち欠き面よりなる。左側には大剥離面、基辺よりには風化面残存。周辺に細かな調整剥離あり。B面右側辺は折れ面より成る。B面先端部は上方より調整。基部には大剥離面残存。基部周辺には細かな調整あり。周辺のエッジは磨滅。B面両端ステップ状を呈す。	不整四辺形	B面に付着物あり。 
	S-09-0903 JY62  黒褐色土層	(45.8) 19.6 7.2 (6.6)		未製品(B-2) 両面とも両側辺よりあらい調整剥離。両面両側辺ステップ状を呈し、B面中央には右側辺中央に打点をもつ主要剥離面残存。更に基部A面周辺、B面基辺にはエッジに細かな調整を施し平基につくる。両側辺は逆刺部でくの字形に屈曲し、その下方の辺のエッジには磨滅あり。	五角形	
	S-09-0907 KD56  黒褐色土層	47.7 16.1 5.4 4.8		未製品(B-2か) 細身。先端部は細長く、基部にふくらみをもつ。両面両側辺より調整剥離。中央には大きく大剥離面残存。両端にも打ち欠きあり。周辺のエッジ、両面の凸部は磨滅している。先端部はA面へ反っている。	台形状	
	S-09-0908 KH54	44.1 24.5 7.4 7.8		未製品 楕円形状を呈す。基辺は剥片の折れ面残存。A面は中央に背稜の通る大剥離面よりなり、B面は下方に打点をもつ主要剥離面である。A面先端部に調整剥離。B面両側辺に調整剥離。先端部はあらく、基部両側辺は押圧剥離を施す。右側はステップ状。A面先端部もステップ状を呈す。両側辺のエッジはうすく鋭い。	扇形	
	S-09-0909 JW64  黒褐色土層	49.3 25.7 10.5 11.9		未製品(B-2) A面三辺、B面両側辺より調整剥離。B面基辺は大きな打ち欠き面よりなる。両面中央に大剥離面残存。A面両側辺沿い、基辺はステップ状を呈し、B面両側辺もステップ状を呈す。両側辺ともエッジはくずれた様になり、部分的に厚みが残る。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-0920 LG58  黒褐色土層	49.4 27.8 8.9 11.6		未製品(D-1) ポイント状を呈するが、基部は尖基。両面とも両側辺より調整剥離を施して成形。A面右側辺、基部左側辺、B面右側辺、基部左側辺はステップ状を呈す。基部両側辺のエッジには細かな調整剥離を施して整形。基部右側辺のエッジには折れ面残存。	扇形	

( )は残存部分の法量である。





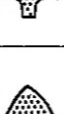

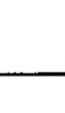
石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-0926 LK58  黒褐色土層		58.0 28.8 10.2 16.7	未製品 ポイント状を呈す。先端は細く突出している。B面は右側辺上方部に打点をもつ主要剥離面であり、先端部左側には自然面残存。A面両側辺よりあらい調整剥離を施して成形後周辺に細かな調整。基端に大剥離面残存。先端部両側辺はステップ状を呈し、左側辺には打ち割り面が厚く残存。B面両側辺よりあらい調整剥離、ステップ状を呈する。両端は未調整。	三角形	
	S-09-0928 LK58  黒褐色土層	(19.2) (29.4) 8.0 (5.0)		未製品 基部。A面両側辺、B面左側辺、基端より調整剥離。両面とも大剥離面残存。基端は平坦な調整以前の面より成る。	扁平な杏仁形	
	S-09-0938 LK62  黒褐色土層	(32.9) 18.2 6.2 (3.5)		未製品か(B-2か) A面両側辺、基端左側、B面両側辺より調整剥離。A面基端はステップ状を呈す。基部右側に大剥離面残存。B面は基端左側に打点をもつ主要剥離面が大きく残存。基端は打ち割り面より成る。両側辺はジグザグを呈す。	扇形	
	S-09-0939 JI68  黒色土層	(44.5) 23.2 9.3 (10.1)		未製品 大型の柳葉形状。端部は円みあり。両面両側辺より大きな調整剥離後側辺沿いに細かな調整剥離を施すが、B面基端に自然面残存。両側辺のエッジは敲打された様に白くなり、側辺の突部のエッジは磨滅して丸くなる。	扇形	
	S-09-0943 JU66  黒褐色土層		42.0 30.2 8.5 10.5	未製品 両面とも両側辺より調整剥離。側辺沿いに比較的揃った剥離面が並列。A面先端部中央に大剥離面、その下に初段階の調整面残存。B面は基端右寄りに打点をもつ主要剥離面である。B面基端寄りに自然面残存。基端右側は打ち割り面よりなる。A面基端左側にわずかに調整あり、ステップ状を呈す。	扇形	
	S-09-0947 LO62  黒褐色土層	(39.9) 27.8 8.3 (8.5)		未製品 二等辺三角形形状。A面右方向に打点をもつ大剥離面、B面は基端に打点をもつ主要剥離面であり、基端は自然面である。両面両側辺にあらい調整剥離。周辺のエッジは丸く磨滅。	台形状	
	S-09-0956 LO58  黒褐色土層		36.7 20.1 7.5 5.4	未製品(C-2) 基部中央で最大厚を測り先端に向かってうすくなる。A面中央に細長く主要剥離面を留め、打点は左方向にある。B面中央に大きく大剥離面を留め、打点は左上方にある。周辺から剥離が施され、A面に筋が通る。基端には剥片の折れ面が厚く残存。A面左半分は大きなステップ状剥離面であり、他の部分にも混在する。	五角形	
	S-09-0957 LO58  黒褐色土層		49.6 25.3 8.9 9.9	未製品(D-2) 幅広の柳葉形状を呈す。両面とも両側辺より調整剥離。A面先端部中央には大剥離面残存。A面左側辺、先端部右側辺はステップ状を呈し、B面基部両側辺沿いの剥離もステップ状を呈す。B面先端部右側辺は奥行のあるうすい剥離面であり、押圧剥離による。	先端部 扁平な半円形 基部 不整四辺形	
PL.53-12	S-09-0960 LO58  黒褐色土層		38.2 17.6 6.0 3.7	未製品か(D-2) 左側辺は基部でくの字形に屈曲し、右側辺は柳葉形状を呈し、左右不揃いである。両面両側辺より調整剥離。両面とも中央に大剥離面残存。先端部左側エッジには調整以前の平坦な面が厚く残存。両側辺はジグザグを呈す。基端部のエッジは丸く磨滅。	先端部 扇形 基部 杏仁形	
	S-09-0965 LS62  黒褐色土層	(36.0) 25.0 5.4 (4.1)		未製品 基部欠損。両面両側辺に調整剥離。A面先端部の剥離面は奥行があり、中央まで至る。右側辺はステップ状を呈す。基部左側に大剥離面残存。B面は左上方に打点をもつ主要剥離面である。左側辺中央部に打撃の厚み残存。B面基部右側辺は未調整。先端には平坦な自然面残存。	先端部 扇形 基部 不整三角形	
	S-09-0968 LW62  黒褐色土層		59.4 26.2 7.0 11.5	未製品(C-1か) 先端は細く鋭い。A面両側辺、基端、B面両側辺に調整剥離。A面中央には右下方に打点をもつ大剥離面残存し、B面中央左寄りに基端に打点をもつ主要剥離面残存。両面とも右側辺、A面基部左側辺はステップ状を呈す。基端左側からA面基部にかけて自然面残存。	両端部 扇形 中央部 扁平な杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-0986 IT66  黒褐色土層	27.5 22.2 7.0 3.0		未製品(A-1) 両面両側辺、基辺より調整剥離。両面とも中央にわずかに大剥離面残存。A面両側辺、B面基辺はステップ状剥離面を呈す。右逆刺先端には調整以前の平坦な面残存し、左逆刺先端は折れ面である。	菱形	
	S-09-0990 MZ  表採	(41.3) 20.1 10.1 (8.6)		未製品 幅狭の楕円形状を呈する。先端部欠損。基端には自然面残存。両面とも両側辺より調整剥離。A面は背稜をもつ大剥離面残存し、B面は基端に打点をもつ主要剥離面が大きく残存。両側辺はジグザグ状を呈する。	扇形	
	S-09-0993 MZ  表採	42.8 19.8 6.8 7.1		未製品 幅狭の楕円形状。両面両側辺より調整剥離。両面にうすく大きな剥離面あり。A面中央両側辺はステップ状を呈し、B面先端部左側辺にもステップ状剥離面あり。A面中央、B面先端部右側、基部左側に大剥離面残存。	扇形	
	S-09-1004 MZ  表採	48.5 29.6 7.9 12.0		未製品(C-1) A面両側辺、B面両側辺、基辺より調整剥離。A面両側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。B面基部中央に大剥離面。先端には平坦な自然面、基端には厚みのある折れ面が残存す。基部周辺のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-1005 KY68・69  第2層・上面・暗礫層	53.3 22.2 10.2 10.9		未製品か(D-2) 右側辺は中央でふくらみ、左側辺は基部でくの字形に屈折する。両面とも両側辺より調整剥離。A面は比較的揃った剥離面より成る。B面左側も同様。B面先端部中央に大剥離面残存。右側辺はジグザグを呈す。左側辺は不整。周辺のエッジは磨滅。	菱形	
	S-09-1006 MQ63  褐色砂礫層	52.3 23.6 6.0 9.5		未製品 幅狭の楕円形状。基端は折れ面である。A面両側辺、B面両側辺、基辺よりわずかに調整剥離。殆どはうすいステップ状を呈す。両面中央には大剥離面残存。B面は主要剥離面である。先端はややA面に反っているが、それは剥片の反りである。	扁平な杏仁形	
	S-09-1010 KA62  第2層	45.3 (25.4) 8.2 (8.7)		未製品(A-1) 両面とも両側辺、基辺より調整剥離。A面先端部中央には自然面、基部中央には下方からの初段階の剥離面が残存。B面中央には主要剥離面残存。B面左側辺、A面両側辺はうすいステップ状を呈す。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-1012 KF62  第2層・灰褐色砂質土層	47.1 26.5 6.7 9.2		未製品(DかE) 両面両側辺より調整剥離。A面中央と先端に自然面残存。B面右側はステップ状を呈し、左側辺より大きな剥離面がのびる。B面基部左側辺には細かな調整あり。基端は剥片の折れ面残存。	扁平な三角形	
	S-09-1016 KH63  第3層・褐色砂質土層	52.0 28.6 11.3 16.3		未製品(C-1) 基部に最大幅あり。両面両側辺よりあらい調整を施して成形。更にA面左側辺沿いに小さな調整剥離があるが、ステップ状を呈す。B面両側辺の剥離もステップ状で、中央に右方向に打点のある主要剥離面残存。基辺に細かな調整を施して整形。先端に自然面残存。	五角形	
	S-09-1017 KH63  第3層・褐色砂質土層	(38.0) 33.7 8.1 (12.6)		未製品 先端部欠損。A面中央に背稜をもつ大剥離面よりなり、B面は下方に打点をもつ主要剥離面である。基端は折れ、両側辺より調整剥離。右側辺の両面はステップ状を呈する。側辺エッジは磨滅する。	扁平な扇形	
	S-09-1018 KG62  第3層・褐色砂質土層	51.8 19.9 8.6 9.9		未製品(Eタイプ) 先端欠損。両面とも両側辺より調整剥離を施して成形。比較的揃った剥離面よりなる。B面先端部にわずかに自然面残存。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 遺構番号 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1020 MK60  黒色土層	60.0 29.0 1.4 (15.6)		未製品(C-1) 両面両側辺より調整剝離。しかし、四辺共ステップ状を呈する。B面先端部右寄りに大剝離面残存。A面基部は右方向に打点をもつ主要剝離面である。先端部の主要剝離面に対応するA面左側辺は深いステップ状を呈し打痕の厚さを残し、基部右側辺のエッジもステップ状にくずれた様になり、厚みを残す。先端部の稜線上研磨がみられる。	扇形	
	S-09-1024 MK58 第9号土器堆積 (SL308) 黒色砂質土層	47.8 23.7 1.1 11.7		未製品 両面両側辺よりあらく調整剝離を施して成形。A面中央部右側にわずかに大剝離面残存。先端のエッジは磨滅。	先端部 変形菱形 基部 五角形	
	S-09-1025 KM66  第4層・黒色砂質土層	50.2 22.9 8.0 10.1		未製品(B-2) 両面とも両側辺、基辺より調整剝離。A面中央に大剝離面、B面中央に右方向に打点をもつ主要剝離面が残存。A面には初段階の大きな剝離面も残存し、先端及び両側辺、B面左側辺はステップ状を呈す。	先端部 三角形 基部 不整六角形	
	S-09-1026 ML61 溝 (SF074) 褐色砂層	(43.5) 26.1 9.0 (9.5)		未製品(E-2か) 基端欠損。B面左側辺に調整剝離。先端部右側辺は未調整で打ち割り面残存。基部右側辺にはステップ状の剝離面あり。A面右側辺、左側辺先端部には調整剝離。基部にはステップ状の調整剝離あり。B面中央に大剝離面残存。A面中央には左方向に打点をもつ主要剝離面残存。左側に厚みがあり右へうすくなる剝片使用。基端は折れ欠損。周辺のエッジは磨滅。	不整四辺形	
	S-09-1029  不明	42.1 22.5 8.8 9.1		未製品(B-2) 両面両側辺より調整剝離。先端は折れ欠損。基辺は折れ面よりなり、A面に小さな調整剝離あり。A面両側辺沿い基辺、B面両側辺はステップ状を呈す。両側辺のエッジはうすく鋭い。	菱形	
	S-09-1032 MP61 溝 (SF075) 黒色砂質土層	52.6 21.6 7.8 8.8		未製品(C-2) 細身。基端欠損。両面とも両側辺、基辺より調整剝離を施して成形後、A面先端部右側辺、基辺に細かな調整あり。基部両側辺ともステップ状を呈す。B面も両側辺沿いに細かな調整があり、ステップ状を呈す。A面基部中央に大剝離面残存。先端部はA面へ反る。	扇形	
	S-09-1033 KP66  第2層	(40.4) 19.2 7.6 (6.0)		未製品か(E-1) 基部破片。両面ともあらい打ち欠き調整後、A面両側辺、B面鎌身の両側辺に調整剝離。両面両側辺ともステップ状を呈す。基部右側辺のエッジはくずれた様になり、厚みを残す。周辺のエッジは磨滅。	中央部 杏仁形 基部 台形	
	S-09-1034 LE64  第3層・上面	56.6 14.2 10.9 15.4		未製品 不整形。両面ともあらい調整剝離。A面先端部両側ともステップ状を呈し、B面右側、先端部左側辺もステップ状を呈す。基部右側辺のエッジは敲打されたように白くなり丸い。周辺のエッジの突部には磨滅があり先端は特に著しい。A面基部中央に大剝離面残存し、厚みあり、基端には平坦な調整以前の面の一部残存。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-1035 MO・MP61 溝 (SF074) 褐色砂層	(62.1) 22.8 9.9 (14.4)		未製品(E-2) A面は両側辺より丁寧な調整剝離。中央部両側辺はステップ状を呈し、中央に大剝離面わずかに残存。B面はあらい調整後、両側辺に小さな調整剝離。それは両側辺ともステップ状を呈す。基部中央に大剝離面残存。左側辺中央部のエッジは敲打された様に白くなり鈍い。茎の先端に打ち欠きあり。	扇形	
	S-09-1037 MB60 溝 (SF075) 黒色砂質土層	45.4 26.2 11.8 12.4		未製品(C-1) 基部が幅広い楕円形。両面とも両側辺、基辺よりあらい調整剝離を施して成形。A面基部中央に右方に打点を持つ主要剝離面残存。B面中央右寄りに大剝離面残存。A面基部、B面両側辺はステップ状を呈す。基辺には更に細かな調整あり。	菱形	
	S-09-1039 MU59 溝 (SF078) 黒色砂質土層	66.0 22.5 11.3 12.5		未製品か(D-1) 左側辺は先端部でくの字形に屈曲し、右側辺は基部でくの字形に屈曲し、左右不揃いである。左側辺先端部はステップ状を呈し、凹み気味。両面とも両側辺より丁寧な調整剝離。A面左側辺下半は揃った剝離面が並列。右側辺も中央部はステップ状を呈すが、比較的揃っている。B面左側辺先端部は揃った剝離面が並列するが他辺はステップ状を呈し、中央に厚みが残存。B面基部両側辺のエッジに細かな調整あり。	先端部 菱形 中央部 五角形	

( )は残存部分の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1041 MG61 溝 (SF 075) 黒色土層	(47.9) 24.1 8.3 (8.1)		未製品(D-1) 両面両側辺より調整剥離。基部A面左側辺の他はステップ状を呈す。A面基部中央に大剥離面残存し、B面中央には初段階の大きな剥離面残存。基端は折れ欠損。	先端部 扇形 基部 不整四辺形	
	S-09-1042 MR57 溝 (SF 078) 表採	(58.2) 23.7 9.5 (12.2)		未製品(C-1) A面両側辺、B面右側辺、先端部左側辺よりあらい調整剥離。A面先端部には大剥離面、B面基部には右方向に打点をもつ主要剥離面が残存。B面基端に細かな調整あり。右側辺中央のエッジは敲打された様に白く潰れている。	扇形	
	S-09-1044 MT62 溝・小溝 (SF 074) 灰黒色粘土層	54.8 22.5 1.1 13.2		未製品 長方形の不整形。A面両側辺より調整剥離。中央に大剥離面残存。基辺寄りに大きな剥離面あり。両端には細かな調整あり。先端はステップ状を呈す。B面両側辺、基辺より調整剥離。	先端部 台形 基部 扇形	石鏃以外の可能性あり。 
	S-09-1045 MS59・60  黒褐色粘質土層	(37.5) 23.1 9.2 (7.6)		未製品 基部破片。不整形。両面ともあらい調整剥離を施して成形。A面は中高でB面は平坦に近い。	扇形	
	S-09-1047 MZ	(25.9) (21.5) (6.5) (2.8)		未製品(D) 基部破片。両面両側辺より調整剥離。A面は両側辺とも揃った剥離面が並列。B面は右側辺の剥離は大きく、左側辺はステップ状を呈する。A面基端部に主要剥離面残存。	菱形	
	S-09-1053 MK57 溝 (SF 074) 褐色砂層	52.1 28.8 7.9 11.4		未製品(B-2) 両面とも両側辺基辺、調整剥離。両面とも中央に大剥離面残存。A面基端にも一部残存。B面は、左上方に打点をもつ主要剥離面である。A面先端部左側辺、基部右側辺はステップ状を呈す。右側辺中央には調整以前の平坦な面残存。	先端部 扇形 基部 不整三角形	
	S-09-1054 JD 68・69  黒色粘質土層	46.4 22.4 9.3 7.3		未製品か 不整形。両面とも両側辺より調整剥離後、両側辺沿いに細かな調整。A面両側辺の基部ではステップ状を呈し、傾斜面が急であり、両側辺とも袂が入ったように凹み段をなす。基端は折れ面であり、そのエッジに細かな調整剥離を施す。両面とも基部中央にわずかに大剥離面残存。	菱形	A面に鉄分付着。 
	S-09-1055 MM61 溝 (SF 074) 黒褐色礫混合土層	54.6 29.0 14.7 24.3		未製品 ポイント状。両面とも両側辺よりあらい調整剥離を施す。基端は折れ面が厚く残存。両面とも左側辺沿いには小さな調整剥離あり、ともにステップ状を呈す。	先端部 扇形 基部 菱形	
	S-09-1056 LW54  整地層	(25.6) 27.4 6.6 (6.6)		未製品 基部破片。A面は背稜をもつ大剥離面、B面は右側辺基部に打点をもつ主要剥離面である。両面とも両側辺、基辺沿いに小さな調整剥離あり、左側辺のエッジには自然面が残存。周辺のエッジは磨滅。両面の厚味をもつ部分は研磨されている。	扁平な不整扇形	
	S-09-1057 LW54  整地層	46.0 27.2 9.1 13.7		未製品 楕円形。A面両側辺、基辺、B面両側辺より調整剥離。その後両側辺沿いに小さな調整剥離を施す。A面基辺、両面両側辺ともそれはステップ状を呈す。	先端部 杏仁形 基部 三角形	
	S-09-1059 JE66  床土・整地層	47.1 30.1 7.1 11.7		未製品(C-2) 両面両側辺より粗いがうすい調整剥離後周辺に小さな調整剥離を施す。A面中央部に大剥離面、B面先端部には下方に打点をもつ主要剥離面残存。A面ではステップ状が多く、B面左側辺沿いもステップ状を呈す。基端には自然面が残存。	扁平な杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1063 JE62  整地層	45.3 24.1 1.1 9.3		未製品(C-1) A面は左方向に打点をもつ大剝離面。B面は右側辺基端寄りに打点をもつ主要剝離面である。両面とも両側辺、基端より調整剝離。A面基部~B面基部右側にかけて自然面残存し、厚みが残る。両面とも左側辺はステップ状を呈す。先端部両側辺のエッジはうすく鋭いが、磨滅している。	先端部 扇形 基部 五角形	
	S-09-1066 JM58  整地層	(38.7) 25.8 4.4 (5.4)		未製品(D-2か) 基部欠損。A面左側辺よりうすい調整剝離。ステップ状を呈す。右側辺自然面残存。B面は右側辺中央に打点をもつ主要剝離面である。右側辺よりうすい調整剝離を施し打痕の厚みをとる。左側辺にもわずかに調整を施す。	扁平	
	S-09-1067 JY66  整地層	36.2 27.1 9.4 10.9		未製品 楕円形態を半載した形。両面とも両側辺より調整剝離。両面中央部に大剝離面残存。B面両側辺ともステップ状を呈する。基端は折れ面よりなるが、一部に打ち欠きが見られる。	扇形	
	S-09-1068 J158  整地層	(30.9) (20.0) (5.6) (2.9)		未製品 基部欠損。両面とも両側辺より調整剝離。A面は揃った剝離面が並列。B面左側辺はステップ状を呈し、中央に大剝離面残存。先端右側辺のエッジに自然面残存。	菱形	
	S-09-1074 JQ54  整地層	50.5 22.2 9.3 11.1		未製品(D-2) 柳葉形状を呈し、両端は鋭さが無い。両面とも両側辺より調整剝離。A面中央、B面両端部中央に大剝離面残存。基端には打面残存。両側辺はジグザグ状を呈す。先端のエッジは磨滅。	不整扇形	
	S-09-1076 KD58  整地層	55.7 25.2 14.2 18.5		未製品(B) 先端部は台形状で基部は四角形状を呈す。両面とも両側辺、基端より調整剝離。A面中央部両側辺ともステップ状。A面三辺沿いと、B面両側辺沿いに細かな調整。それらの両面両側辺ともステップ状を呈す。B面中央の左下方に打点をもつ主要剝離面残存し、厚味を残す。	先端部 菱形 基部 扇形	
	S-09-1079 JY62  整地層	47.9 27.1 9.0 13.6		未製品 楕円形状。基端は直線的。両面両側辺より調整剝離。B面両側辺ともステップ状を呈し、基部には右上方に打点をもつ主要剝離面残存。両側辺のエッジはうすく鋭い。先端には調整以前の剝片の平坦な面残存。	扁平な扇形	
	S-09-1082 LC54  黒色粘質土層	32.0 20.8 6.7 4.1		未製品(B-1) 両面両側辺より調整剝離。A面中央には左方に打点をもつ大剝離面、B面には、右逆刺に打点をもつ主要剝離面残存。基端にはあらい剝離あり。	不整四辺形	
	S-09-1092 IW68 溝 (SF 079) 黒色砂質土層下部	36.8 31.3 6.0 8.5		未製品(B-2) うすく幅広。両面両側辺、A面基端よりうすく調整剝離。両面ともステップ状を呈す。両面中央に大剝離面、基端は折れ面、右側辺には自然面が残存。A面左側辺には細かな調整あり、エッジを整形しており、左側辺は一直線上にのびる。両側辺のエッジは磨滅。	扁平	
	S-09-1095 JDZ  褐色礫混土層	36.5 25.7 8.5 8.7		未製品 楕円形を半載した形態。A面は比較的うすい調整剝離。先端はステップ状を呈す。B面は中央部右寄りに大剝離面残す。先端右側辺より調整剝離を施すがステップ状を呈し、左側は先端からの打ち欠きにより大きく剝離欠損。基端は折れ面よりなり、B面へわずかに打ち欠きあり、B面側エッジは敲打したようにつぶれる。	扇形	
	S-09-1098 JB58  床土層	45.7 25.1 9.3 12.5		未製品 不整形。両面周辺よりあらい調整剝離を施して成形。A面先端部で深く凹むステップ状剝離面あり。B面左側に大剝離面残存。左側辺のエッジには剝片の折れ面が厚く残存。両面とも周辺沿いに細かな調整がみられるが、ステップ状を呈し、全体として不整面を呈す。左側辺、先端のエッジは敲打された様に潰れて丸くなる。	不整台形	

( )は残存部分の法量である。











図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中 央 断 面	備 考
	S-09-1102 JB58  床土層	(50.5) (22.3) 7.0 (7.6)		未製品(B-2か) 基部左側は折れ欠損。両面とも周辺より調整剝離が施される。A面右側辺中央、基辺からの調整はステップ状を呈す。A面中央、B面先端には大剝離面残存。B面は揃った調整面よりなる。	扇形	
	S-09-1112 MB54	44.8 21.2 9.6 9.4		未製品 不整形。両面とも周辺よりあらい調整剝離が施されるが、両面とも両側辺の調整は深いステップ状を呈し、中央に厚みを残す。面の凹凸が大きい。B面中央に左側辺下方に打点をもつ主要剝離面が大きく残存。基部のエッジのみうすくつくられ、基辺は右下がり、左側は円く、右側は角ばった逆刺をなす。	不整形	
	S-09-1114 MJ57  礫混褐色砂層	51.5 23.5 7.7 8.0		未製品(D) 基端とA面基部に小さく自然面が残る。先端は鈍い。左側辺は、なだらかに外彎し、右側辺の中央よりやや下に角ばった逆刺をもつ。両面共両側辺より調整剝離が施され、剝離面は中央に至る。ステップ状を呈する剝離が多く混在する。	扁平な菱形	
	S-09-1115 KT64  第3層・黒色砂質土層	(43.7) 27.8 8.5 (11.0)		未製品(E-1) 大型。両面ともあらい調整剝離。A面は左側辺からの剝離面が大半を占める。A面基中央に自然面がわずかに残存。B面基部中央に大剝離面が残存。剝離はステップ状を呈するものが多く、A面に比べ、剝離は小さい。	不整形	
	S-09-1118 MJ57  黒褐色礫混合土層	43.3 18.9 7.2 5.7		未製品(B-1かC-1) 両面両側辺より調整剝離。A面両側辺、B面右側辺はステップ状を呈する。基端は折れ面よりなりB面側に細かな調整を施す。	先端部 扁平な菱形 基部 杏仁形	
	S-09-1139 KJ65  第4層・Pit内	51.8 22.8 7.0 9.0		未製品 基部左方に厚く、先端と右方に薄い。A面は右下方に打点を持つ主要剝離面よりなり、先端から右側辺先端部にかけて剝離はほとんど施されず。左側辺と基辺は、面に対して、急角度に入る剝離が施される。B面は左下方に打点をもつ大剝離面で、基部両側辺にのみあらい調整を施す。	不整三角形	
	S-09-1148 MN62 溝 (SF 074) 褐色砂層	34.5 22.9 8.4 6.3		未製品(C) A面は、粗い剝離が施され、中央に稜を持つ。ステップ状を呈する剝離が若干混在する。B面は剝離がA面に比べ小さく、ステップ状を呈し中央の左方に打点をもつ大剝離面が残る。	三角形	
	S-09-1150 KX62  第2層	60.6 24.3 10.0 15.2		未製品(C-2) 縦長のもの。両面共周辺より調整剝離が施され、A面中央、B面基部中央に小さく大剝離面が残る。剝離はあらく、ステップ状を呈するものが多く混在する。	先端部 菱形 基部 杏仁形	
	S-09-1154 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(45.7) 26.3 8.6 (10.3)		未製品(C) 両面とも両側辺、基辺より調整剝離。左逆刺には小さく自然面が残り角ばるが右逆刺は円い。B面先端部の下方に打点をもつ主要剝離面が残存。両面共にステップ状を呈する剝離が多く混在する。	杏仁形	
	S-09-1156 KI66  Pit 23	(35.3) 22.2 7.1 (4.5)		未製品(C-1) 両面共周辺より調整剝離。A面左側辺はステップ状を呈し、中央左寄りに、自然面が残存。B面基部中央には左下方に打点をもつ深いステップ状を呈する初段階の調整面が大きく残存し、両側辺沿いにステップ状を呈する小さい調整が施される。	扁平な菱形	鉄分付着 
	S-09-1157 MZ	(50.5) 24.0 6.4 (6.8)		未製品(E-2) 茎は比較的幅広く薄い。基端折れ欠損。両面とも両側辺より調整剝離が施される。A面基部両側辺の剝離はステップ状を呈し、中央に旧剝離面が残り、この部分は厚みを残す。先端は円く、調整は施されず、B面側には大剝離面の一部残存。	扁平な菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1163 JB63 黑色砂質土層	46.5 28.3 9.1 12.9		未製品 両面共周辺より調整剥離。右側辺は円くふくらみ、エッジはうすくつくられるが、左側辺は、両面にステップ状剥離面を呈し、エッジはくずれた様になり、特に先端部右側辺に厚みを残す。基端は厚い平坦な自然面を残す。B面中央に主要剥離面、A面中央には、深いステップ状剥離面を呈する大剥離面残存。	杏仁形	
	S-09-1164 JB63 黑色砂質土層	40.9 23.6 5.4 6.4		未製品(E-1) 両面とも周辺沿いに粗く細かな調整を施すのみ。挟りは両面とも左側からのみ調整を施し浅い茎をつくる。A面左逆刺〜先端にかけての左下方に打点をもつ大剥離面が残存し、右側は右下方に打点をもつ、ステップ状を呈する大きな打ち欠き面よりなる。B面基部は左側辺から右側辺に至る大きな打ち欠き面よりなり、先端部には左下方に打点をもつ主要剥離面残存。	扁平な扇形	
	S-09-1165 MW61-62 床土層	48.6 31.8 8.3 12.4		未製品(C-1) 基端は中央で鈍く角を持ち、尖基気味。A面周辺より、B面両側辺より調整剥離。両面共に剥離は粗い。ステップ状を呈する剥離が混在する。A面先端部中央に細長く主要剥離面が残存し、B面には大きく背稜をもつ大剥離面残存。	杏仁形	
	S-09-1167 MP62 黒色土層	46.7 20.4 8.6 9.3		未製品 細長い楕円形態。側辺は直線的にのびる。先端は円みを持ち細かく調整剥離される。基端はステップ状を呈する。両面共に剥離はあらく、A面左側は大きな螺旋剥離状を呈し、中央に大剥離面残存。B面先端部に大剥離面残存し、B面左側辺はステップ状を呈する。両面周辺のエッジに細かな調整。	三角形状	
	S-09-1169 MK62 黒褐色土層・Pit 15	54.6 26.4 8.9 12.3		未製品(C-2) 両面とも周辺より調整剥離。両面共両側辺の剥離はステップ状を呈し、中央に大剥離面が残る。A面左側辺の調整は特に深いステップ状剥離面を呈す。左方に厚く、右方にうすくなる剥片を使用。	三角形状	
	S-09-1189 LK54 黒褐色土層	(40.0) 37.3 7.5 (12.8)		未製品 A面は剥離があらく、大きな剥離面よりなり、右側は大剥離面残存。右側辺は未調整。B面は大剥離面で、周辺に調整を施すが、右側辺、基端はステップ状を呈する。	不整形	
	S-09-1203 不明	48.8 26.1 9.2 11.8		未製品(B) 両面共に大きな剥離を施す。更に、A面の左側辺と基端、B面両側辺には小さな剥離を施し、整形する。両面共にステップ状を呈する剥離が混在する。B面に小さく大剥離面残存。	扇形	
	S-09-1207 IH65 第3層・上面	43.2 22.8 10.3 7.1		未製品(C-1) A面は中央に稜を持つ。A面は初段階の大きな剥離面よりなり、左側は中央稜線上に打点をもつ。基部右側にわずかに大剥離面残存。基端左側辺は剥離面の末端が残る、螺旋剥離状を呈す。この剥離後、先端部左側は稜線上に打撃を加えて剥離し、右側辺沿いにあらう調整を施す。B面は、左側に剥離が集中する。剥離はステップ状を呈し。基部右方に大剥離面が残る。	三角形	鉄分付着 
	S-09-1209 KJ62 第3層・暗褐色砂質土層	32.6 18.4 7.6 4.4		未製品 右側辺は中央にふくらみ、D-2タイプ気味。左側辺は基部に浅い挟りを持ち、E-2タイプ気味である。A面は剥離が丁寧で、中央に稜を持つ。右側辺基部はステップ状を呈する。B面は下方に打点を持つ主要剥離面で、周辺に細かく剥離を施す。平坦な面である。	扇形	
	S-09-1210 MJ62	(44.0) 20.8 6.9 (6.4)		未製品(E-1) A面は中央に背稜をもつ大剥離面、B面は下方に打点をもつ主要剥離面である。A面先端部両側辺、B面挟り部分にのみ調整剥離。更にA面両側辺のエッジに細かな調整あり。基端はA面への打ち欠き。	扇形	
	S-09-1212 KG65 第3層・黒色砂質土層	48.1 28.0 4.7 7.2		未製品(C-1) 幅広。薄い。A面先端部中央に自然面残存。基部中央は基端に打点をもつ大きな打ち欠き面である。B面中央に左下方に打点をもつ主要剥離面を留める。両面共に周辺より調整剥離を施す。A面両側辺のエッジには更に細かい調整剥離を施す。	先端部 扁平な六角形 基部 扁平な台形状	

( )は残存部分の法量である。






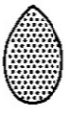




図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1213 MK58 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	40.2 19.5 6.2 4.3		未製品(B-2) 先端は鋭い。A面左側は下方に打点をもつ大剝離面、B面は左逆刺に打点をもつ主要剝離面である。A面先端部左側は剝片の折れ面残存。A面右側面および先端部中央の左側面に剝離が施される。B面は基部左側面に剝離を施す。基部右側面および基面に細かい剝離がわずかに見られる。	三角形	
	S-09-1221 ME61 黒色土層	45.1 25.1 4.9 5.6		未製品(B-2) A面は上下二面の大剝離面よりなり、先端にわずかに自然面残存。B面は基部左側面に打点をもつ主要剝離面である。右側面の両面、左側面中央の両面にのみ調整剝離が施される。	扁平な凸レンズ状	
	S-09-1226 MQ56 溝 (SF 078) 暗褐色小礫混砂層	40.9 26.1 6.5 6.3		未製品(C-2か) 左側面は先端から逆刺にかけて直線的にのび、基部にふくらみをもち右側面は中央でふくらむ。基面は右上がりである。両面共に両側面より剝離が施されるが両面に大きく大剝離面を留める。A面は背稜をもつ大剝離面、B面は主要剝離面で打点は上方にある。軸はB面側へ彎曲。基端は剝片の折れ面で、A面側へ剝離。A面基面およびB面右側面の剝離はステップ状を呈し、他の部分にも浅いステップ状剝離が混在。両側面のエッジは僅かに磨滅。	四辺形	
	S-09-1227 不明	47.2 25.4 10.9 13.6		未製品(E-2か) 左右両側面は非対称である。左側面は外彎し、逆刺は円い。右側面の先端から逆刺にかけては直線的にのび逆刺はやや角ばる。厚みをもち基部中央で最大厚を測る。両面共に両側面よりあらい剝離を施す。A面両側面寄りおよびB面基部左側面寄りの剝離はステップ状を呈す。他の部分にも浅いステップ状剝離が見られる。A面基部右寄りに大剝離面、B面基部中央に、右下方に打点をもつ主要剝離面を留める。打痕の厚みを残す。基端は折れ面を呈し、両面側へ剝離を施す。	扇形状	
	S-09-1228 MI63 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	43.5 20.9 12.7 10.3		未製品(CかD) 右側面は浅く、左側面は大きく彎曲する。厚みがあり、鏃身中央で最大厚を測る。両面共に周辺より剝離を施すが、A面右側面寄り中央に自然面を留める。両面の剝離は更にステップ状を呈す。周辺のエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	杏仁形	
	S-09-1239 MX62 暗褐色土層	48.4 23.0 7.0 8.3		未製品(C-1) A面左側面、先端部右側面、基面、B面両側面より調整剝離を施すが、両面に大剝離面を留める。A面左側面からの剝離は中央までのび右側の大剝離面とで稜をなす。B面は主要剝離面で打点は右方にある。両面に浅いステップ状剝離が混在。全体に形は整っている。	扇形	
	S-09-1250 IN66 礫混黒褐色土層	32.9 20.0 4.9 2.6		未製品(C-1) A面は粗い剝離が施され、基部は大剝離面を留める。B面は主要剝離面を呈し、打点は左上方にある。両面とも右側面にのみ細かい調整剝離が施されるが、急傾斜面を呈し、側面に厚みをもつ。	三角形	
	S-09-1253 JA56 第9号周溝墓-3区 (SH 128)	39.0 16.9 9.3 5.9		未製品(C-1か) 厚みあり。両面共に剝離が施され、大剝離面を留めず。両面右側面の剝離はステップ状を呈す。基端は折れ面よりなり、A面側へ剝離。両側面は鋭い。	杏仁形	
	S-09-1256 HN62 砂礫混黒色土層	49.5 23.6 8.6 11.3		未製品 厚みあり。左側面はなだらかに下り、右側面は中央で屈曲し、基部は円くすばまる。基端は折れ面よりなる。両面共に両側面より剝離を施し、A面先端部は中央までのび鏃をなす。基部中央に大剝離面残存。B面左側面は大きなステップ状を呈する。基端は折れ面よりB面側へ剝離するが、ステップ状を呈す。他の部分にも浅いステップ状剝離面が混在。先端には調整以前の剝離の平坦な面残存。	不整菱形	
	S-09-1264 L054 黒色土層	(44.8) 21.6 10.0 (7.3)		未製品(Eか) 左側面はごくわずかに屈曲し、右側面は大きく屈曲し、基端寄りで浅く袂が入る。基端部は折れ欠損。両面共に両側面より剝離を施す。A面中央に浅い鏃が通る。B面中央の右下方に打点をもつ大剝離面が残存。両面左側および両面基部右側はステップ状剝離を呈す。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃












図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅 厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1268 HC54 茶褐色土層・整地層	46.6 24.4 9.1 (9.9)		未製品(C-2か) 厚みがあり、鏃身中央で最大厚を測る。長軸でB面側へ彎曲。両面共に両側辺より剥離を施すが、A面先端部中央に大剥離面を残し、B面は主要剥離面をなす。A面両側辺からの剥離で中央に稜をなす。B面は平坦。A面基部両側辺共大きなステップ状剥離面を呈す。周辺のエッジは僅かに磨滅。	三角形	
	S-09-1274 不明	(48.8) 14.9 5.3 (4.6)		未製品(D-2) 細身。A面基部右側に自然面残存。A面先端部には背稜をもつ大剥離面が残り、B面は主要剥離面で打点は左側辺先端にある。先端部左側辺には打面を残す。両面共左側辺沿いに調整剥離を施し、右側辺にはあらい調整を施す。右側辺はステップ状を呈す。	扇形	
	S-09-1284 GT58 表土層	41.0 18.9 6.1 4.4		未製品(E-2) 逆刺は左右非対称で、左側が角ばるのに対し、右側は円い。両面共に両側辺より剥離を施すが、両面中央に大剥離面を留める。A面の打点は右方で、B面の打点は下方である。先端はB面へ反っている。A面基部左側は大きなステップ状剥離面を呈す。右逆刺部分のエッジは敲打されて白く潰れている。	先端部 菱形 基部 五角形状	
	S-09-1290 GZ 表探	60.1 27.7 9.7 13.2		未製品(D-1) 大型。両面共に両側辺よりあらい調整剥離が施される。B面は中央に主要剥離面を留め打点は基端にあり。基端は調整以前の打ち割り面である。右側辺両面の調整はステップ状を呈し、凹凸が著しい。先端部左側辺は小さなジグザグを呈し、エッジは鋭い。	先端部 菱形 基部 逆台形状	
	S-09-1298 HO50 Pit 6	(38.8) (29.6) (6.3) (10.6)		未製品 先端部は折れ欠損。先端部で最大厚を測る。両面共に両側辺より剥離を施すが、大剥離面残存。A面左側辺からは大きく剥離を施しており、一部に大剥離面を留め、打点は上方である。B面は主要剥離面を大きく残し、打点は左上方にある。両面にステップ状剥離が混在。B面基端部に自然面残存。	扁平な台形	
	S-09-1303 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	55.9 26.5 10.2 14.1		未製品 大型。鏃身中央で最大厚を測る。両面共に両側辺からあらい剥離を施し、大剥離面を留めず。B面先端部左側辺は大きなステップ状を呈し、厚みを残し、エッジは潰れている。基端は自然面を残す。	先端部 不整菱形 基部 杏仁形	
	S-09-1314 不明	(32.8) 20.9 7.6 (5.3)		未製品(D-2) 柳葉形を呈すか。基部破片。基端に自然面を残す。両面共に両側辺より調整剥離が施される。B面右側には大剥離面残存し、そのエッジは調整はみられず。先端部は折れ欠損。両側辺のエッジは僅かに磨滅。両面の稜は磨滅。	杏仁形	
	S-09-1317 MJ58 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	32.0 30.7 5.8 4.2		未製品(A-1) 正三角形。先端部両側辺で浅く凹む。両面共に両側辺より剥離が施され、A面では中央部までのび稜をなす。B面左半分に主要剥離面が残存し、打点は右下方にある。B面は平坦。両面左側辺、B面基辺には更に細かい調整を施す。両面にやや浅いステップ状剥離が混在。	三角形	
	S-09-1322 K166 第2層	42.6 18.3 4.1 3.5		未製品(CかD) 薄い。A面は主要剥離面で打点は左方にある。B面と基端は自然面である。A面両側辺、B面右側辺沿いにのみ細かい調整剥離が施される。B面基部右側辺は打ち欠きがあるがステップ状を呈し、基部はA面右側を除いて未調整。	先端部 扁平な五角形	
	S-09-1326 MR56 溝 (SF 078) 上部・黒色粘質土層	(41.6) 22.6 7.2 (7.3)		未製品(E-2) 基部中央よりやや下方で最大厚を測り、先端の方へ薄くなる。挟りは右側よりも左側の方が明瞭。A面は両側辺よりうすい調整剥離。B面は、両側辺から粗く剥離され、大剥離面を留めず。B面両側辺沿いに細かい調整剥離あり、ステップ状を呈する。基端には折れ面残存。	四辺形	
	S-09-1329 MG65 黒褐色土層	32.1 22.3 7.0 5.1		未製品(B-1) 両面中央に大剥離面を留める。B面は主要剥離面で打点は左方にある。両面共に両側辺より粗く剥離、両面両側辺ともステップ状を呈す。A面先端部両側辺、B面基部右側辺には更に細かい調整剥離。基端は折れ面で、その末端にわずかに調整がみられる。周辺のエッジおよび両面の稜は磨滅。	四辺形	

( )は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1330 IF70  礫混黒褐色土層	50.9 32.6 8.7 10.5		未製品(D-1) A面先端に自然面を留める。A面基部中央およびB面中央にわずかに大剝離面残存。両側辺からの剝離は粗く、B面中央部両側辺およびA面右側は大きなステップ状を呈し、右側辺中央部は厚みが残存。A面逆刺から基部にかけての両側辺およびB面両側辺には更に細かい調整が施される。	扁平な杏仁形	
	S-09-1334 ME61 溝 (SF 075) 黒色土層	(38.6) 24.7 7.4 (9.3)		未製品(B-2) 基端に自然面を留める。両面共に両側辺よりあらい調整剝離。A面基端からの剝離は大きなステップ状を呈す。更に両面両側辺沿いに細かな調整を施すがA面では左側辺中央、基部右側辺のみである。B面先端部中央に主要剝離面が一部残存し、打点は右方にある。両側辺エッジは僅かに磨滅。	台形状	
	S-09-1341 MH57  腐植土層	(26.2) 18.3 2.9 (1.7)		未製品(D-2) 薄い。A面は背稜をもつ大剝離面。B面は主要剝離面、打点はやや左よりの上方にある。両面共、両側辺沿いに小さな調整剝離。B面は平坦。基端は折れ面で、A面側のへりを細かく調整剝離。	扁平な三角形	
	S-09-1343 MM64 溝 (SF 075) 第4層・上面	29.5 18.8 5.8 3.6		未製品 楕円形態。両面共に周辺より剝離が施され、ステップ状を呈する。A面中央、B面先端に大剝離面残存。A面は中高で、B面は左側辺より大きく剝離され平坦な面をなす。先端部に厚みを残す。A面両側辺および基端は細かく調整剝離。	先端部 半円形状 基部 台形状	
	S-09-1344 JU64 溝 (SF 081) 第1層・黒色土層	45.8 24.8 5.6 8.0		未製品(B-2) 大型。A面中央に自然面と下方に打点をもつ大剝離面、B面中央に下方に打点をもつ主要剝離面を留める。周辺からは調整剝離が施され、剝離面は略揃っている。A面左側辺には更に細かい剝離が見られ、ステップ状を呈する。	先端部 菱形 基部 扁平な六角形	
	S-09-1350 KT66  第3層・黒色砂質土層	46.3 25.7 8.7 11.2		未製品(E-2) 基部中央で最大厚を測る。先端の角度は鈍い。挟りは右側が明確であるのに対し左側はやや浅い。両面共に周辺より粗く調整剝離。B面先端部中央に大剝離面残存。両面の剝離は不揃いでB面両側辺ではステップ状を呈し、他の部分にも混在。錆は通っていない。	五角形状	
	S-09-1351  不明	37.3 23.8 10.1 8.7		未製品(Dか) 基端で最大厚を測り、先端へ向けて薄くなる。両面共両側辺より調整剝離。A面中央に主要剝離面を留める。基部右側面およびB面基部左寄りに自然面を留める。基端左側は厚い打ち割り面よりなり、へりから両面側へ調整剝離。	杏仁形	
	S-09-1354 LB62  第2層	(47.8) (24.3) 5.0 (5.0)		未製品(D-1) 両面に大剝離面を留める。A面の打点は右方にある。B面は主要剝離面を呈し、打点は上方にある。両面とも周辺沿いに細かい調整剝離が施される。A面左側辺は折れ面のまま。周辺のエッジおよび基部両面の稜で僅かに磨滅。	扁平な五角形	
	S-09-1355 ML57  黒色土層	(35.8) 19.6 8.5 (5.8)		未製品(C-2) 厚みがあり、鏃身中央で最大厚を測る。両面共に周辺から調整剝離が施される。B面中央に、打点が左下方にある主要剝離面を残し、B面はやや平坦な面である。A面は中高で先端部中央に略錆が通る。両面にステップ状剝離が混在。先端はA面側へ剝離。周辺のエッジおよび両面の稜は僅かに磨滅。	扇形	
	S-09-1358 MP64  床土層	39.6 28.7 6.5 8.5		未製品(D-2) 幅広。両面共に周辺から調整剝離。B面は中央に大剝離面を留め、平坦な面をなす。A面両側辺、B面基部右側辺にやや細かい剝離を施し、ステップ状を呈する。他の部分にもステップ状剝離は混在。基端は厚く折れ面を留め、B面側のへりを少し調整剝離。	台形状	
	S-09-1359 MM59 溝 (SF 074) 茶褐色砂質土層	(31.0) (24.4) 5.2 (3.1)		未製品(D) 基部破片。両面共に両側辺から剝離が施され、大剝離面を留めず。A面はやや中高で、B面は平坦な面である。両側辺には更に細かい調整剝離が施されている。	扁平な扇形	



( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1363 MI56  黒色土層	(43.3) 22.7 8.7 (8.7)		未製品(B-2) 鏃身はやや長い。両面共両側辺、基端より調整剥離が施され剥離面は略揃っている。A面中央、B面基部に大剥離面残存。両側辺は更に細かい剥離も見られる。両面にステップ状剥離が混在。A面中央、基端附近、B面基端附近に研磨が施され、基端は鋭い。鏃は両面に通る。	菱形	
	S-09-1367 JM line 溝 (SF 081) 第4層・暗灰色粘土層	29.4 20.2 6.3 3.3		未製品(C-1) 基端部で最大厚を測る。A面は両側辺よりあらく剥離しており、基部右に大剥離面を留める。基端からの剥離も見られ大きなステップ状を呈する。B面は主要剥離面で右逆刺部に打痕がある。両面の先端部右側辺には更に細かい調整剥離が施されている。	扇形	
	S-09-1370 MQ63  第6層・褐色砂礫層	40.9 19.2 4.8 3.8		未製品(C-2) A面に剝片をつくる以前の調整面を留め、中央に稜をなす。A面基部は左側辺、下方から剥離が施され、ステップ状を呈する。B面は主要剥離面で、打点は右下方にある。両面ともに右側辺に細かい急傾斜面を呈する、調整剥離が施される。錯向剥離。	三角形状	
	S-09-1372 ME61  黒色土層	39.8 26.8 6.2 6.6		未製品(B-1) A面基部左側に自然面を留める。B面に大きく主要剥離面を留め、打点は左方にある。両面共に周辺より調整剥離を施し、ステップ状が混在する。但しA面左側辺は未調整。	扁平な杏仁形	ホルンフェルス を石材とする。 
	S-09-1380 ME61  黒褐色礫混合土層	(36.3) 25.3 9.8 (8.5)		未製品(E-2) 厚みがある。両面共に両側辺より剥離され、大剥離面を留めず。鏃は両面に通る。剥離は全体にあらく不揃いである。	菱形	
	S-09-1384 GP58 溝 (SF 083) 南斜面・黒色土層	38.2 25.9 9.3 9.8		未製品 楕円形態。厚みがあり、鏃身中央で最大厚を測り、先端に向い薄くなる。両面共に周辺より剥離を施すが、A面左に大剥離面を留める。B面先端部に主要剥離面を留め、打点は下方にある。基端には自然面残存。A面両側辺、両面の基端附近はステップ状剥離を呈する。	扇形	
	S-09-1385 HQ64 土城 (SJ160)	51.0 27.0 9.1 12.9		未製品(Cか) 厚みがあり、先端部寄り最大厚を測る。基部は左右非対象で左が円みもち、右はやや角ばる。両面共に周辺から剥離され、先端部に鏃が通る。基部の剥離は中央までのびずB面中央に大剥離面を留める。両面基部およびB面先端部左側辺はステップ状剥離が多く見られる。	先端部 菱形 基部 五角形	
	S-09-1390 LX56 溝 (SF 075) 腐混黒色粘土層	47.0 22.5 9.5 10.1		未製品(C-2) 鏃身中央で最大厚を有し、右側辺中央は厚い。両面共に周辺からあらく剥離を施すがB面先端部に大剥離面を留め、平坦な面をなす。A面側の剥離は中央までのび中高である。両側辺寄りの剥離はステップ状を呈す。左側辺のエッジはうすく鋭いが、右側辺中央には、厚く打ち割り面が残し、A面側の調整はステップ状呈し、くずれた様な剥離面を呈す。	半円形	
	S-09-1396 MN64 溝・第2溝 (SF 074)	(36.9) 25.1 7.7 (9.9)		未製品(C-2) 両面共に両側辺、基端より剥離が施されるが両面に大きく大剥離面を留める。A面の打点は右上方である。B面は主要剥離面であり、打点は右下方にあたる。A面左側は大きな折れ面よりなり、ステップ状を呈する。B面基部にもステップ状の剥離が見られる。両側辺、基端のエッジは僅かに磨滅。先端はB面側へ剥離欠損。	台形	
	S-09-1397 MO62  黒褐色礫混合土層	46.5 21.5 9.2 (8.9)		未製品(C-2) 厚みがあり、基部中央で最大厚を測る。両面共に両側辺よりあらく剥離され、大剥離面を留めず。A面右側辺先端部には細かい剥離も見られる。鏃は両面に通るが、A面が中高であるのに対し、B面は平坦である。B面先端部右側辺に浅い、ステップ状剥離が見られ、他の部分にも薄いステップ状剥離が混在。A面先端部右側辺は僅かに磨滅。	菱形	
	S-09-1398 KI64  第3層・暗褐色砂質土層	27.8 12.4 3.6 1.7		未製品(C-2) 小型。細身。先端は作り出さず、平面は楕円形状である。両面は大剥離面を留め、A面の打点は右下方にある。B面は主要剥離面で、打点は基端にある。基端に自然面残存。両面とも左側辺に調整剥離が見られる。錯向剥離。	不整四辺形	

( )は残存部分の法量である。














図版番号	登録番号 出土地点 遺構 (遺構番号) 層位	法 量 (mm) (g)	現 長 幅 厚 重 量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1400 KH65  第3層・黒色砂質土層	38.5 17.4 7.1 4.9		未製品(C-2) 両側辺は左右非対称で、左側が浅く外彎するのに対し、右側は浅く内彎する。周辺より剝離が施されるが、剝離面は不揃いで、右側辺寄りに厚みがある。基部右側辺寄りで最大厚を測る。竪はA面に通り、右に偏っている。B面先端部右側に大剝離面が残存。両面ともステップ状剝離が混在。全体にあらいつくりである。	菱形	
	S-09-1401 KJ64  第3層・褐色砂質土層	42.2 26.3 7.9 6.8		未製品(C-2) 幅広。両面とも大剝離面残存。A面は先端部にあり、打点は右上方。B面は主要剝離面で打点は基端左方にある。右逆刺に自然面を残す。A面は両側辺より剝離され、先端部は小さい剝離で、基部では中央までのびる。B面基部右側辺にも細かい剝離が見られる。基辺は主にA面側へ剝離。両側辺のエッジは僅かに磨滅。	扁平な凸レンズ状	
	S-09-1402 MK60  黒褐色礫混合土層	39.9 24.2 9.4 7.8		未製品(B-2) 右方に厚く、左方に薄い。A面の剝離は、左側辺はのびるが、右側辺はステップ状を呈しのびず、右側辺沿いに稜を持ち、厚みを残す。B面は自然面で、先端部左側辺は折れ面であり、基辺、右側辺には小さな剝離を施している。	不整四辺形	
	S-09-1407  不明	32.6 15.3 4.5 3.1		未製品 楕円形状。両面とも大剝離面よりなり、両側辺にわずかに調整剝離を施す。A面は右下方に打点があり、B面は主要剝離面で、基辺中央に打点がある。右側辺はジグザグ状を呈す。	杏仁形	
	S-09-1410 ML60  黒色砂質土層	43.6 25.3 8.7 9.5		未製品 軸はB面側へ彎曲。両面に大剝離面を留め、A面の打点は下方。B面は主要剝離面で、打点は下方である。両面ともに両側辺よりあらく剝離。A面基部両側辺部の剝離は大きなステップ状を呈し他の部分にも浅いステップ状剝離が混在。基端は折れ面よりなる。両側辺エッジは極く僅かに磨滅。	六角形状	
	S-09-1411 MJ69  第3層・黒色砂質土層・Pi21	(49.9) 32.3 6.0 (10.3)		未製品 幅広で薄身。両面共に周辺より剝離が施されるが、A面右半分に主要剝離面を留める。打点は上方である。B面先端部には右上方に打点をもつ大剝離面残存。剝離面は全体に大きく不揃いであるが、両面とも両側辺には更に小さい剝離が見られる。両面に浅いステップ状剝離が混在。	扁平な杏仁形	
	S-09-1417 MK61 溝 (SF 074) 腐混黒色土層	30.3 14.8 6.8 2.4		未製品(E-2) 小型。先端で最大厚を測る。先端は薄く鋭い。軸は右側へやや彎曲。A面中央に大剝離面を留め打点は右上方。B面は主要剝離面で、打点は基端にある。基端には自然面を留める。A面右側辺からは大きく剝離し、左側辺およびB面両側辺には小さい剝離が施されている。A面にステップ状剝離が混在。	三角形	
	S-09-1418  表採	(36.9) 21.2 6.2 (5.6)		未製品(D-2) 両面共に両側辺より剝離され、大剝離面を留めず。A面右側辺沿いに厚みを残す。B面右半分の剝離は大きなステップ状を呈し、両面の両側辺にも小さいステップ状剝離が見られる。先端はB面側へ折れ欠損。	扁平な半円形	
	S-09-1419 MB58  整地層	52.1 21.0 10.3 10.0		未製品(E-2) 厚みがあり、鏃身中央で最大厚を測る。両面共に周辺から剝離を施すが、B面中央に大剝離面残存。右側辺の両面とも大きなステップ状剝離を呈し、厚みを残す。他の部分にも浅いステップ状剝離が混在。両面の稜は磨滅。	菱形	
	S-09-1420 MC61  黒色土層	48.2 25.7 8.0 9.4		未製品 基部欠損。両面共にあらいつくり調整剝離。A面右側辺は基端からの剝離と共にステップ状を呈す。B面先端部は大剝離面が残存し、未調整。	台形状	
	S-09-1421  表採	(25.3) 26.8 5.1 (5.1)		未製品(B-1) 両面共に大剝離面よりなり、周辺に調整剝離を施しているが、ステップ状を呈し、ほとんど中央にのびない。左側辺は折れ面よりなる。	不整形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法現長 量幅 (mm)厚 (g)重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1422  不明	(29.1) 25.8 7.1 (6.1)	未製品(B-1) A面はあらく剥離され、右側辺と基辺はステップ状を呈す。基辺は特に小さなステップ状を呈する剥離が幾重にもかさなっている。A面中央に主要剥離面残存。B面は上方に、打点を持つ大剥離面で、周辺にはほとんど剥離をみない。基辺は右下がりの斜基である。	半円形	
	S-09-1424 LE68  第2層	(53.5) 25.6 7.9 (11.1)	未製品(C-2) 左側辺に比べ右側辺のふくらみが大きく、左右非対称。A面は右側辺からの剥離が大きく、ほぼ全面におよぶが、先端部は、先端からの剥離よりなり、これはステップ状を呈す。左側辺からの剥離はのびず、側辺にとどまり、ステップ状を呈す。B面は左下方に打点を持つ主要剥離面で、周辺に粗く剥離を施す。右側辺はA面左側辺と同様のステップ状を呈す。	扇形状	
	S-09-1428 MH64 溝 (SF 075) 黒褐色礫混合土層	40.6 27.3 11.1 13.6	未製品 楕円形態。A面はあらく剥離されており、基辺と右側辺はステップ状を呈す。B面は右方に打点を持つ主要剥離面が残る。剥離はあらい。	不整菱形	
	S-09-1429  不明	37.5 24.2 7.7 7.0	未製品(C-2かD-2) 両面共に剥離はあらい。A面の先端部は先端方向から大きくステップ状に剥離しており、中央に大剥離面残存。B面先端部右側に主要剥離面残存。両面共周辺沿いに細かな調整が施される。周辺のエッジは磨滅。	先端部 逆三角形 基部 逆扇形	
	S-09-1430 IW69 溝 (SF 079) 暗褐色粘質土層	47.5 24.7 8.7 8.4	未製品(C-2) 両面共に粗い調整剥離。B面両側辺A面右側辺に更に小さな剥離が施され、これはステップ状を呈す。B面基部に右上方に打点をもつ主要剥離面が残る。左側辺は折れ面残存。	扇形	
	S-09-1431 MNZ	(29.8) 26.8 5.4 (3.3)	未製品(C-2かD-2) 薄い。両面共に両側辺から細かく調整剥離が施される。基端は自然面を留めやや尖がる。両面には大きく大剥離面を留め、A面の打点は左上方にある。B面は主要剥離面を呈し、左下方に打点がある。	扁平な杏仁形	
	S-09-1432  床土層	57.8 26.4 11.1 18.2	未製品 細長い楕円形態。A面中央に縦長に自然面が残る。B面では剥離は全体におよぶが、両面共に側辺沿いの剥離はステップ状を呈する。	杏仁形	
	S-09-1434 JH66  床土・整地層	52.3 32.0 9.0 13.5	未製品(B-2) B面は大剥離面で、A面は左上方に打点を持つ主要剥離面である。両面共に右側辺には剥離をほとんど施さず、左側辺に施すが、ステップ状を呈し、剥離はあらい。A面右側辺基部は、主要剥離面の端が残っており、これは蝶番剥離状を呈している。	不整四辺形	
	S-09-1438 MB55  黒褐色礫混土層	51.4 28.7 7.4 11.7	未製品(B-2) A面は左方に打点を持つ主要剥離面でB面は、左上方に打点を持つ大剥離面である。両面共に周辺にあらく剥離を施す。ステップ状を呈する剥離が多く混在する。基辺はB面側に急角度に入っており、右上がりの斜基である。基端部右側辺には厚みを残す。	杏仁形	
	S-09-1439 JQ54  茶褐色土層	41.5 26.9 7.6 9.2	未製品(C-1) A面は右方に打点を持つ主要剥離面で、左側辺に若干剥離を施すがステップ状を呈し、右側辺は調整剥離が施され、中央やや右寄りに稜をつくる。B面は、大剥離面で先端部でステップ状を呈し、先端部は瘤状に残るが、他は平坦な面である。周辺に剥離を施す。	先端部 菱形 基部 三角形	
	S-09-1440  不明	40.8 22.3 7.8 7.5	未製品(C-2) 楕円形態。両面両側辺より調整剥離。A面中央に主要剥離面が小さく残る。両側辺共にステップ状を呈する。B面中央に縦長の大剥離面が残り、先端部に小さく自然面も残る。A面同様に側辺はステップ状を呈す。	杏仁形	

( )は残存部分の法量である。


図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 層位	法量 (mm) (g)	現長 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1442 MR50 溝 (SF 085) 黒褐色粘土層	50.3 28.9 9.6 13.0		未製品 A面は背稜をもつ大剝離面で、左側辺の一部と基辺の一部に小さな調整を施す。B面は下方に打点を持つ主要剝離面で、周辺に小さな剝離をあらく施す。先端部は主要剝離面の末端にあたり、螺旋剝離状を呈する。	扇形	
	S-09-1444  表採	46.6 27.6 8.8 10.4		未製品(D-1) 先端部の左側辺と基端は自然面である。A面は大剝離面で周辺にあらく剝離を施す。B面中央に大剝離面が小さく残る。両面共にあらく剝離され、ステップ状を呈する。	先端部 不整三角形 基部 菱形	
	S-09-1445 IV62  黒褐色土層	50.2 27.0 7.7 9.3		未製品(D-2) A面は左半が大剝離面で、左側辺のエッジに細かい剝離を施す。右側辺からの剝離と中央で稜をなす。B面は左側辺中央に打点を持つ主要剝離面で、右側辺に細かい剝離を施している。A面右側辺中央は潰れている。	三角形	
	S-09-1448 GZ  上部・砂礫層	44.8 25.9 9.5 12.1		未製品(C-2) 左側辺は直線的で、右側辺はふくらむ左右非対称。A面は全体に剝離がおよぶが、B面は右下方に打点を持つ主要剝離面である。左逆刺には平坦な打面残存。B面の右側辺の剝離は整っているが、左側辺は小さな剝離をあらく施している。	杏仁形	
	S-09-1449 JZ	51.8 24.5 8.4 10.9		未製品(D-2) A面は大剝離面で、左側辺に剝離を施すがステップ状を呈し、エッジはくずれた様になり厚みを残す。右側辺には、ほとんど剝離を施さず。B面は右方に打点を持つ主要剝離面で、周辺に剝離を施す。B面基部右側辺はステップ状を呈す。基部右側辺は折れ面からなり、剝離は両面共施されず。	先端部 不整菱形 基部 四辺形	
	S-09-1459 KT62  第2層・黒褐色砂質土層	22.9 18.8 4.7 2.1		未製品(A-1) 基辺は浅いV字形に凹む。逆刺は鈍い。A面右側辺の先端部はステップ状を呈し、稜をなし、基部右側辺沿いに自然面が残る。左右非対称。基辺、左側辺はそれぞれ1つの大きな剝離面よりなり、周辺に小さく剝離を施す。B面は主要剝離面で、上方に打点をもつ。周辺に小さな剝離を粗く施す。	先端部 三角形 基部 台形状	
	S-09-1464 GT50 溝 (SF 334)	36.5 21.3 8.2 6.3		未製品(C-1) 基辺の左半はやや直線的で、基部は非対称。両面共に剝離はステップ状を呈し、中央に大剝離面残存。	杏仁形	
	S-09-1465 MJ63 溝 (SF 077) 腐混黒色粘質土層	39.8 28.3 4.9 7.0		未製品(A-2) 全体的に厚きはあまり変化はなく、板状である。A面は大きく剝離した後に周辺に急角度に入る剝離を施すが、右側辺基部にはその剝離がなく、先端部では、ステップ状を呈す。B面は左逆刺に打点を持つ主要剝離面で、周辺にあらく剝離を施す。左逆刺部に打面残存。基辺は円基の基辺の中央をわずかに凹めている。	扁平な台形	
	S-09-1467 MQ63  褐色砂層	36.0 23.3 4.3 4.2		未製品(C-2) A面は両側辺より調整剝離。先端部、基端部に大剝離面残存し、先端部左側辺は折れ面である。B面は剝離面よりなり、大半は右下方に打点を持つ打ち欠き面である。両面共周辺に細かな剝離を施すが粗く、基辺にはほとんど施していない。	先端部 扁平な四辺形 基部 扁平な台形	
	S-09-1468 MI57  黒色砂質土層	39.1 25.0 6.3 7.1		未製品(C-2) 先端は鈍く、側辺に肩を持ち、側辺は基部にかけてあまりふくらまず、ほぼ直線的である。A面は粗く剝離され、基辺はステップ状を呈し、中央に小さく、主要剝離面が残る。B面は左側辺中央に打点をもつ大剝離面で周辺に粗く剝離を施す。先端部右側辺沿いに自然面残存。	扁平な杏仁形	
	S-09-1469 KK64  第3層・褐色砂質土層	51.4 23.8 8.3 11.4		未製品(B-2) B面は、大剝離面で平坦。A面は右方に打点を持つ主要剝離面で、右側辺中央に最大厚を持つ凸面である。側辺は中央から基辺にかけてあまりふくらみを持たず、直線的で縦長の形態。両面共に周辺にあらく剝離を施しており、ステップ状を呈する。基辺はB面のみの剝離である。	杏仁形	

( )は残存部分の法量である。

石 鏃


図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法現長 量幅 (mm)厚 (g)重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1470  不明	34.3 24.5 6.6 5.0	未製品(C-2) 左方に厚く、右方に薄い。左側辺の形は整っているが、右側辺は整っておらず、横にふくらむ。A面右に大剝離面、B面左に主要剝離面が残る。A面右側辺、B面左側辺の剝離は粗く、周辺にとどまる。全体にステップ状を呈する剝離が多く混在する。	不整扇形	
	S-09-1471  不明	41.3 27.7 10.6 14.4	未製品 ポイント状。平面の大きさに比べ厚い。A面、中央にまで剝離はのびているが小さく大剝離面が残る、周辺は幾重にもステップ状を呈する剝離がみられる。B面は主要剝離面で周辺に剝離を施しておりステップ状を呈する。	五角形	
	S-09-1472 MI58 溝 (SF 074) 褐色砂層	30.6 17.3 4.1 2.5	未製品(B-2) A面は左逆刺方向に打点を持つ大剝離面で、B面は右逆刺に打点をもつ主要剝離面。基部左側辺に打面残存。A面の両側辺に小さな剝離をあらく施す。基底は折れ面である。B面は左側辺に若干剝離をみるが、右側辺は、部分的に剝離あり。縦軸はB面側へ彎曲する。	扁平な杏仁形	
	S-09-1473 LB65  第2層	24.0 15.0 3.2 1.8	未製品 楕円形態。A面は大きな剝離面よりなり、左側辺のみに剝離を施す。B面は右下方に打点を持つ主要剝離面で両側辺に小さな剝離を施す。基部に厚く先端にうすくなる。	台形状	
	S-09-1474 MJ61  床土層	37.8 21.5 7.5 7.5	未製品(B-1) 縦長の台形状。右側辺は直線的であるが左側辺はややふくらみを持つ。A面は右逆刺近くに自然面が小さく残るがほぼ全面に剝離はおよんでいる。先端はステップ状剝離が施されるが、自然面わずかに残存。B面は右下方に打点をもつ主要剝離面で、周辺に小さく剝離を施しており、左側辺はステップ状を呈する。	杏仁形	
	S-09-1475 LA58  黒褐色礫混合土層	40.0 29.4 10.0 12.1	未製品 ポイント状。平面の大きさに比べ厚みあり。最大幅は基底近くにある。剝離は両面共に、ステップ状を呈するものが大部分を占める。両面中央に大剝離面残存。先端は鈍く円みを持つ。	不整杏仁形	
	S-09-1476 MF61  黒褐色礫土層	53.0 29.8 7.5 (10.7)	未製品(C-2) 左側辺に比べ右側辺は大きくふくらむ。A面は右上方に打点を持つ大剝離面で、右側辺中央に剝離を施し、先端部には細かな剝離を施す。左側辺は先端部のみ細かな剝離を施す。B面は左下方に打点を持つ主要剝離面で、左側辺中央に剝離を施し、先端部右側辺に細かな剝離を部分的に施すのみである。	杏仁形	
	S-09-1477 MN59 溝 (SF 078) 黒色粘質土層	(47.8) 25.1 6.0 (7.7)	未製品 基底には自然面残存。A面右側辺の剝離は中央までのびるが、左側辺は小さな剝離があらく施されるのみで左半分は右方に打点をもつ主要剝離面である。B面は基底に打点をもつ大剝離面で、調整は施されておらず、長軸は、B面側に彎曲している。	扁平な三角形	
	S-09-1478  不明	35.6 23.0 5.2 4.1	未製品(B-1) 基底は右上がりの斜基である。A面両側辺より調整剝離。基部右寄りに大剝離面残存。B面先端部両側辺沿いのみ調整が施され、大半は大剝離面よりなる。基底右側辺中央には折れ面残存。	扁平な扇形	
	S-09-1479 JW64  黒褐色土層	69.4 24.4 8.6 14.3	未製品(B-2) 大型。縦に長く、石槍に似る。先端部は厚く、基部に薄い。主軸はB面側に彎曲する。基底は斜基気味である。A面は自然面で、周辺に小さく剝離を施しており、ステップ状を呈する。B面は基底に打点を持つ主要剝離面で、周辺に剝離を施しており、ステップ状を呈するものが多く混在する。基底は折れ面でB面ではステップ状剝離を施す。	先端部 半円形 基部 板状	
	S-09-1480 IB66  黒色砂質土層	49.8 23.8 7.4 8.6	未製品 剝離は粗い。A面右側辺の剝離は中央近くまでのびる。左側辺は周辺のみで、左半分は大剝離面が残る、中央に稜を持つ。B面は先端の右側辺に自然面が残る、その角に打点が残る主要剝離面で、周辺のみ剝離を施す。両面共に剝離の多くはステップ状を呈する。	扁平な扇形	

( ) は残存部分の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現場 幅厚 重量	特 徴	中央断面	備 考
	S-09-1481 IA58 土塚 (SJ 177)	(51.0) 23.9 7.0 (9.0)		未製品(D-2) 両面とも両側辺より調整剥離。A面基部左側～基端には自然面を残し、先端部中央に大剥離面残在。B面は中央の右上方に打点をもつ主要剥離面が残存し、平坦で両側辺の剥離の多くはステップ状を呈す。	扁平な三角形	
	S-09-1482  不明	37.5 21.3 6.0 5.4		未製品(B-2) 先端は円く鈍い。基辺は右下がりの斜基である。両面共にあらわい剥離後、周辺沿いに細かな調整を施す。両面とも中央に大剥離面が残る。	扁平な杏仁形	
	S-10-0011 KZ  第3層・暗褐色砂質土層	(37.9) 30.4 9.3 (12.2)		未製品(B-1) 基部は正方形に近い。両面共周辺より調整剥離。両面共中央に大剥離面が残る。	菱形	
	S-10-0109 NM59  茶褐色砂質土層	52.3 30.9 8.0 10.9		未製品(A-1) 縦長。側辺はなだらかに内彎し、基部で広がる。基辺は、右方で凹む。両面共に中央に竊が通る。A面の基辺の左方に小さく自然面が残り、B面基部左半には、左上方に打点を持つ主要剥離面が残る。両側辺のエッジはうすく鋭い。	菱形	
	S-10-0111 LE・LF 64・65  第3層・茶褐色砂質土層	34.3 27.7 7.3 17.5		未製品(B-1) A面中央に下方に打点をもつ主要剥離面が残る。両側辺の剥離は粗く、ステップ状を呈するものが混在する。B面先端部の先端方向からの剥離はステップ状を呈しており、基部には背稜をもつ大剥離面残存。先端右側辺には厚く剥片の折れ面残存。基端は折れ面で、両角に調整がみられる。	扇形	
	S-10-0126  不明	58.1 22.2 9.8 13.7		未製品 縦長。基端は自然面。A面右側辺の剥離は中央までのび左側辺は周辺のみで左半は左下方に打点を持つ主要剥離面で中央に竊が通る。B面は基部中央に小さく大剥離面が残る。両面共にステップ状を呈する剥離が多く混在する。	扇形	
	S-10-0281 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	44.5 26.3 11.8 13.4		未製品 ポイント状。基部中央で最大厚を測る。先端は円い。左側辺はふくらみもち、右側辺は鉄身の略中央でふくらみ下半は直線的にのびる。基辺は右下がりの斜基を呈す。A面先端部両側辺からは大きく剥離され、深いステップ状を呈し先端部はうすい。A面基部、先端にはやや細かい剥離が施されている。B面は両側辺から剥離が施されるが中央までのびず、中央に主要剥離面を留める、打点は左方にある。B面基端は打ち欠きにより、ステップ状を呈す。	先端部 扇形 基部 厚手の台形状	
	S-10-0321 HU66  黒褐色礫層	52.2 28.9 8.2 10.5		未製品(D-1) 両面共に周辺からあらく調整剥離を施すが、A面右側辺部に一部大剥離面を留め、厚みあり。B面中央部には左下方に打点をもつ主要剥離面残存。	先端部 菱形 基部 四辺形	





( )は残存部分の法量である。

磨製石鏃

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	現場 幅厚 重量	石 材	特 徴	中央断面	備 考
PL.17-34	S-09-0292 KP62  第2層・Pit 2	(33.9) (15.7) (5.7) (3.6)		玢 岩 か	先端部破片。細身。厚みがある。竊は両面中央に通る。側辺のエッジは鋭い。両側辺には刃こぼれ状の細かい剥離が見られる。	菱形	

( )は残存部分の法量である。

磨製石鏃

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 層位	法量	現場	石材	特徴	中央断面	備考
		(mm) (g)	幅 厚 重量				
PL.17-35	S-09-0511 MT58 溝 (SF 078) 灰黒色粘質土層	(23.9) 21.0 6.3 (3.8)		サヌカイト	基部破片。両側辺は略平行し、基部は平基式を呈すが、やや円みをもち、左逆刺は切れあがる。鏃は両面中央に通る。両側辺エッジは長軸と直交する方向に少し研磨が施され、平坦に擦りおとされる。基端も研磨により浅く彎曲してつくられるが、折れ面が残る。	菱形	表面は白く変色。 
PL.17-36 PL.61-19	S-09-0379 KX62  第3層・Pit	(38.8) 23.1 3.8 (4.4)		サヌカイト	凸基有茎式。薄身。先端から逆刺にかけてわずかに外彎して幅広くなり、逆刺および抉りは略直角をなす。抉り部は両側共に穿孔されて円みをもち、両面共、抉りが中心寄りの斜め上方に向けて、擦り切りによる溝(長さ3mm)がある。両面ともなだらかで鏃はない。両側辺のエッジはうすく鋭い。鏃身の厚さは略一定で基端部は薄い。	扁平な杏仁形	表面は白く変色。 
PL.17-37	S-09-0384 MH56 溝 (SF 074) 青褐色砂層	(53.3) 18.2 (5.6) (6.5)		サヌカイト か	細身。基端はB面側へ剝離欠損後、一部研磨が施され、基辺は平坦な面をなし、左上がりである。逆刺から基辺にかけての両側辺は長軸と直交する方向に研磨されている。鏃は両面中央に通る。両側辺には一部細かく剝離が見られるが、エッジは鋭い。	菱形	
PL.17-38 PL.61-20	S-09-1085 MB52  黒褐色礫混土層	56.1 21.1 5.5 8.9		ホルンフェ ルスか	平基式か。基端部は折れ面である。A面右側は研磨の及ばない剝離面残存。鏃は両面共通するが、A面では少し右寄りB面では少し左寄りに位置する事から、石鏃の先端部破片を再加工したものかとも思われる。基部両側辺には長軸と直交する方向の研磨が施され、浅い抉りをなし(幅9mm)基辺に向かいややすぼまる。基端のエッジは磨滅。	菱形	磨製石鏃の再加工品か。 

( )は残存部分の法量である。

## 第2節 石 匙 (PL. 53、PL. 62)

本遺跡出土の石匙は、総数11点である。すべてサスカイトを石材とする打製石器であり、縄石 材  
文時代よりひきつづき存在し、『皮剥ぎ』としての機能を有する。

石匙は、つまみのある位置により次の様に<sup>54)</sup>2分類を行った。

タイプ分類

Aタイプ つまみが刃部と直角ないし直角に近い角度を有するもの。すなわち、つまみが刃部の左右方向に位置するものである。5点あり。すべて直刃であり、片刃(2点)と両刃(3点)の両者がある。大半は一辺に刃をつくりだすが、1点のみ、二辺に両刃をつくりだすものがみられる(S-23-0008)。

Bタイプ つまみが、刃部と平行して存在するもの。すなわち、つまみが刃部の上方に位置するものである。6点あり。すべて外彎刃であり、一辺に刃をつくりだす。その内、両刃は5点を占め、片刃が<sup>55)</sup>1点である。

Bタイプは平面形によって2小分類しうる。

B-1 長さの割合に、横幅が広いもので、刃部は外彎刃であり、扇形を呈す。小型のものが多く、つまみが突出しており、その両側の挟りが明らかなもの(S-23-0005)とつまみに挟りのないもの(S-23-0002)とがみられる。

B-2 長さや横幅がほぼ等しく、平面形が正三角形状を呈し、三角形の頂点(背頂部)につまみをもつ(S-23-0003、0004)。

### 製作状況

石匙は、全点、両面に大剝離面を残している。自然面を残すものが6点あり、その内2点は一方の面に自然面が残存し、他は背面や、つまみの先端に自然面が残っている。

Bタイプは、両面に比較的くり返して、調整剝離を施し、大剝離面は痕跡的に残るものが多い(S-23-0001、0004、0006)。また、一方の面(A面-図の正面)にのみ調整剝離を施し、他方の面(B面-図の裏面)は、主要剝離面よりなるものもみられる(S-23-0003、0005、0007)。

Aタイプ、Bタイプの前者以外のものは、大剝離面が両面に大きく残り、主要剝離面の打点も判断しうる。Aタイプ2点(S-23-0010、0012)、Bタイプ3点(S-23-0001、0002、0005)は、刃部と反対側の背頂部に打点があり、刃部は剝片の末端にあたる。他の1点(S-23-0003)は背頂部よりやや右寄りに打点があり、刃部は剝片の末端にあたる。Aタイプの他の2点(S-23-0008、0011)はつまみと反対側の方向、つまみの下方に打点を持ち、刃部が剝片の末端に該当しないものである。

主要剝離面と、大剝離面の打点の方向は異なり、適当な剝片をつくっているといえる。

B-1タイプに1点(S-23-0001)、両者の打点の方向が一致し、横長剝片を利用した事がわかるものがある。

刃部の剝離状況には、両面加工と片面加工の両者があり、Aタイプでは、両面加工のものが3点、片面加工のものが2点ある。Bタイプでは、両面加工のものが4点、片面加工のものが

2点みられる。また、B-1タイプの中には、刃先が両面加工により、交互剝離のようにジグザグを呈するものもある（S-23-0006）。

石匙は、全体として薄い剝片よりなり、Bタイプでは、調整剝離を施して整形しているが、Aタイプでは、周辺の必要部分にのみ、加工を加えている。

**使用痕** 石匙は、『皮剥ぎ』としての機能が考えられるが、刃部に磨滅のみられるものが、4点ある。その内3点は、刃先から刃面にかけて磨滅しており（S-23-0004、0005、0008）、他の1点（S-23-0007）は、両刃を呈すが、刃先は丸く磨滅し、両面とも刃先から長さ5mmの部分には光沢がみられ、両面の稜線は磨滅している。

**刃器** 石匙と同様の機能をもつ打製石器として、「刃器」がある（PL. 53-26~28）。これは剝片の周縁に調整剝離を施して、背部と刃部をつくりだしている石器である。また、背部に自然面を残し、剝片の末端にのみ調整を施して刃部をつくるだけのものもある。体部中央には、大きく大剝離面が残り、形を作り上げる事に主眼はおかれず、機能的につくられている。このような「刃器」が、本遺跡では、484点出土している。

遺構出土の石匙は4点あり。内1点（Aタイプ）は第Ⅰ様式期より出土しており、他の2点（Aタイプ、B-1タイプ）は第Ⅱ～第Ⅳ様式期と考えられる。

注 54) 中谷治宇次郎『日本石器時代提要』1943の分類基準に拠る。

55) S-23-0002は片面にのみ加工を施すが、他方の面は傾斜しており両刃を呈す。



図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (mm) (g)	横幅 長さ 厚さ 重量	特 徴	備 考
PL.53-15	S-23-0010 MD60 溝 (SF 075) 黒色土層	58.6 23.3 5.7 6.9		A 細長いスプーン形を呈す。A面背部に調整剝離を施し、厚みをとる。右側につまみがつくれる。刃部にはA面側に細かな刃こぼれ状の調整あり。片刃を呈す。A面に大剝離面残存し、B面は背面中央よりやや左寄りに打点をもつ主要剝離面からなり、背部、つまみにわずかに調整を施すのみ。	
PL.53-16 PL.62-1	S-23-0012 LK58 溝 (SF 430) 黒褐色砂質土層	72.8 40.0 9.2 22.7		A 平面形は直角三角形形状を呈し、右側につまみをつくる。原石の角を剝離させてできた三角形形状の剝片を素材とし、A面は大剝離面で、末端の薄い部分を片面加工調整し、刃部を形成。片刃の直刃である。B面は背頂部に打点をもつ主要剝離面であり、わずかにつまみにのみ調整を施す。刃部は主要剝離面の末端にあたり、加工はみられず、背面は自然面よりなる。	(第I様式)
PL.53-17	S-23-0011 JY58 黒褐色土層	67.2 39.9 11.0 28.1		A 平面形は直角三角形形状を呈し、右側につまみあり、B面はつまみと反対側に打点のある主要剝離面で、A面は自然面のまま。下辺に両面加工による、両刃の直刃をつくる。刃部、つまみにのみ調整剝離。背部に厚みあり。	
PL.53-20	S-23-0007 MC54 整地層	27.0 39.0 8.2 7.4		A つまみが刃部に対し斜め方向につくられているのが特徴。全体に平行四辺形状を呈しており、刃部は両刃の直刃である。A面は周辺より調整剝離され、刃部直上に大剝離面残存。B面はつまみに大剝離面が残り、厚みをもつ。体部は大きな打ち欠き面よりなり、B面は周辺にのみ小さな調整。刃部は両面とも刃先～5mmの間に光沢があり、刃先は丸く磨滅。つまみの反対側の辺は、A面側へ直角に剝離している。	
PL.53-21 PL.62-4	S-23-0008 IT66 溝 (SZ 318) 第1層・黒色土層	40.0 27.7 5.0 4.7		A 平面形は隅丸の正三角形を呈し、右側につまみをもつ。左辺と下辺の二辺に両面加工により刃部がつくれ、ともに両刃の直刃を呈す。両面とも大剝離面残存。B面はつまみの下方に打点あり。下辺の刃面の稜は磨滅。	
PL.53-22	S-23-0005 JE62	29.0 47.9 6.4 6.9		B-1 扇形を呈し、背頂部につまみあり。B面は主要剝離面で、背頂部に打点あり。A面中央に自然面残存し、背部はあらく調整剝離。刃先に細かな調整により片刃の外彎刃をつくる。B面は背部周辺に細かな調整があるのみ。刃部は剝離の末端にあたり、右端部にのみわずかに調整あり。刃先から刃面にかけて磨滅あり。	
PL.53-23	S-23-0002 MM60 溝 (SF 074)	16.2 33.3 4.3 1.9		B-1 小型。二等辺三角形形状を呈す。背頂部に抉りのないつまみあり。刃部はごく浅い両刃の外彎刃。つまみ先端に自然面残存。A面は背頂部に打点をもつ主要剝離面、B面は大剝離面残存。A面左辺と刃部、B面背部の両辺にのみ、細かな調整剝離。刃部はA面のみ片面調整だが、B面刃先は傾斜しており、両刃を呈す。	(第III-IV様式)
PL.53-24	S-23-0006 LC58 茶褐色土層	16.7 35.1 5.0 2.1		B-1 小型。横幅の広い扇形。両面とも調整剝離を施し、B面中央にわずかに大剝離面残存。刃部は両面加工により、両刃の外彎刃。刃先はジグザグを呈す。背頂部のつまみの先端にわずかに自然面残存。	
PL.53-25 PL.62-2	S-23-0001 KW60 第3層・黒色砂質土層	17.5 44.3 7.6 4.0		B-1 横幅の広い扇形を呈す。つまみ先端を欠いた形をしている。両面ともに周縁から両面加工され、中央に大剝離面が残存している丁寧な作り。つまみは主要剝離面の頂端に近い。刃部は両刃の外彎刃。	

( )は残存部分の法量である。

石匙

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 位層	法量 (mm) (g)	長さ 横幅 厚 重量	特 徴	備 考
PL.53-18	S-23-0003 MI65  茶褐色土層	45.0 53.8 6.1 9.3		B-2 平面形は正三角形を呈し、背頂部につまみあり。B面は主要剝離面で、右辺中央に打点をもち、刃部は剝片の末端にあたる。頂部および右側面に自然面を残す。B面を作るまえにA面を調整剝離している。A面左辺・下辺、B面左辺・下辺にのみ細かな調整を施す。刃部は両面加工により、やや外彎する両刃をつくる。	
PL.53-19 PL.62-3	S-23-0004 JU66  整地層	37.5 (42.8) 6.3 7.9		B-2 両面ともに大剝離面をとどめない程、周縁から中央へ深く押圧剝離され、全体の形も整った三角形状を呈す。刃部は両面加工により、両刃の外彎刃を呈す。A面刃部中央29mm幅にわたり、主としてB面側に小さく剝離し、本来の刃線より2.2mm凹んでいる。これは他の調整剝離とは異なるが本来の皮剥ぎ以外の用途に給されたものであろう。	

( )は残存部分の法量である。

## 第4章 紡織具

本遺跡出土の紡織具として、石製品では紡錘車がある。

### 第1節 紡錘車 (PL. 54、PL. 62)

本遺跡出土の紡錘車は総数18点である。この内、17点は弥生時代の紡錘車であり、1点は古墳時代に属するものである。

#### 弥生時代の紡錘車

弥生時代の紡錘車は、全て円板形をなす。

石材は、緑色片岩が大半を占めるが、この他に、石英安山岩、ホルンフェルスを用いている石  
材  
ものもみられる。

法量は、外径3.8cm×3.9cm～5.5cm×5.7cm (平均 4.5cm)、厚さ0.3cm～0.8cm (平均 0.6cm)、法  
量  
重量15g<sup>56)</sup>～47g、中心孔径0.5cm～0.6cm (平均 0.6cm) である。

紡錘車には大型と小型がある。

大型品は1点あり。法量は、外径5.5cm×5.7cm、厚さ0.8cm、重量44g<sup>57)</sup> (復元重量47g)、中  
心孔径0.6cmとなる。

小型品は8点あり。法量は、外径3.8cm×3.9cm～4.8cm×約5.0cm (平均 4.3cm)、厚さ0.3cm～  
0.7cm (平均 0.6cm)、重量15g<sup>58)</sup>～18g (平均16g)、中心孔径0.5cm～0.6cm (平均 0.5cm) となる。

大型品と小型品とでは、外径と重量において、相対的な較差が表われ、大型品では、外径5  
cm<sup>58)</sup>以上、重量50g<sup>59)</sup>前後のものであり、小型品は、外径5cm未満、重量30g<sup>59)</sup>未満のものといえる。

#### 未製品

未製品の数も多く、17点中8点を数える。これは、両面が片理面よりなる、薄い板材の周辺  
に打ち欠きを施して、円形に成形しているもの (S-15-0011、0014)、そして、両面に研磨  
を施しているもの (S-15-0015) などがあり、製作状況をみることができる。大型の未製品  
は3点、小型の未製品は5点みられる。また完成品から、中心孔は、両面に直接穿孔している  
ものが多いが (5点)、両面に敲打後穿孔するものも1点あり (S-15-0001)、一方の面から  
のみ直接穿孔するものもみられる (S-15-0008、0018)。

#### 転用

本来的に紡錘車としてつくっているものと、他の石器、即ち石庖丁の破片に再加工を施して  
紡錘車として作り直しているものがある。石庖丁からの転用品が5点みられ、完成品では1点

石庖丁の  
再加工

(S-15-0007) にその痕跡を残す。未製品では4点あり。周辺を打ち欠いて成形後、そのエッジを擦っている。未製品全体の半数を占め、転用の比率は比較的高いと考えられる。

完成品の中に、製作時の研磨痕がうすれ、光沢をもち、両面の稜が丸みをもつものがあり、使用によるものと思われる(S-15-0008、0010)。

弥生時代の紡錘車17点中、遺構より検出されるものは4点あるが、これは、第Ⅱ様式期以降と考えられる。

#### 古墳時代の紡錘車

1点あり(S-15-0005)。これは、側面形が円錐台形をなし、両平面に鋸歯紋が線刻されているものである。蛇紋岩を石材としている。

注 56) 新しい欠損があるため、そこを補った復元重量である。

57) 注56) 参照。

58) 中心孔を通り、縦×横ともに5cm以上とする。

59) 30gという数値は、紡錘車の残存状況と照らしあわせて復元重量を求めた結果のものである。

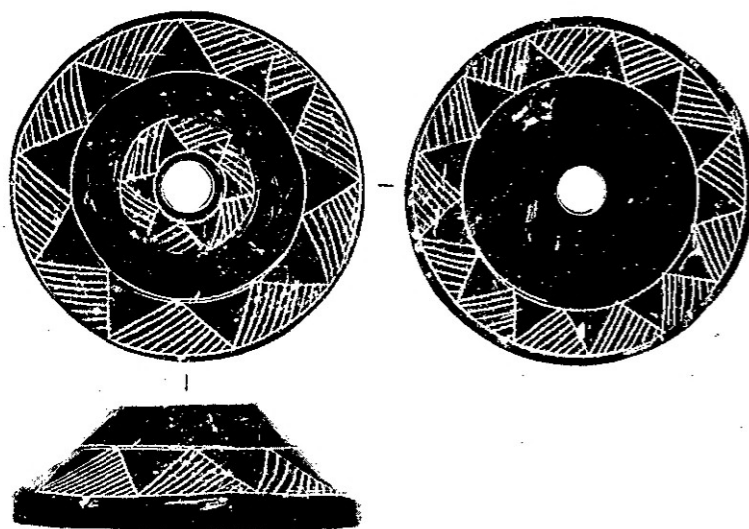


fig.22 古墳時代の紡錘車

1:1

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	外径 孔径 厚さ 重量	石材	特徴	備考
PL.54-10	S-15-0004 MP56 溝 (SF 078) 黒色粘質土層	3.8×4.0	— 0.3 (7)	緑色片岩	小型 一部欠損、薄手である。両面とも稜は不明瞭で、側面は非常にうすく丸みをもつ。中心孔は剝離欠損するが、一部残存。稜線に僅かに剝離痕が見られる。	B面僅かに鉄分付着。
PL.54-11	S-15-0013 MJ59 黒褐色砂層	4.0×4.4	0.6 0.9 24	緑色片岩	小型の未製品 完形。石庖丁の紐孔部破片を転用したもの。再加工途上にあり、周囲から打ち欠いて成形。側面の一部に背部および紐孔残存。もう一方の紐孔を中心孔としている(外孔径 A 9mm, B 8mm)。側面の一部分に研磨が施されている。	石庖丁から転用。 加工途上品。 両面僅かに鉄分付着。
PL.54-12	S-15-0018 MN54 土器堆積 (SL 321) 黒色土層	4.4	0.6 0.6 18	緑色片岩	小型 完形。平面形は正円に近い。両面共に研磨面下に一部剝離面残存。中心孔は中心よりも2mm程ずれて位置する(外孔径 A 7mm, B 8mm)。稜は丸味をもつ。表面全体に火を受けて変色し、荒れている。	火をうけて赤変、表面は荒れている。
PL.54-13 PL.62-10	S-15-0001 KT66 第2層・黒褐色砂質土層	5.5×5.7	0.6 0.8 (44)	緑色片岩	大型 略完形。側面には稜線に沿った方向の研磨痕が残存。中心孔は両面より敲打後穿孔(外孔径 A 9mm, B 8mm)。両面の研磨痕は薄れ、稜は丸味をもつ。	
PL.54-14	S-15-0002 KI70 第3層・黒色砂質土層・Pit21	約 4.8	— 0.6 (8)	緑色片岩か	小型 約1/2個体。側面には稜に沿った方向の研磨痕が残存。両面共に研磨痕は薄れている。表面はやや光沢を帯びる。B面角剝離欠損、A面剝落。火をうけたためか。両面とも稜線は明瞭な角をなす。	
PL.54-15	S-15-0003 MB58 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	約 4.7	0.5 0.7 (14)	黒色片岩	小型 1/2個体。側面には稜線と直交する方向および稜線に沿った方向に研磨が施されており、平坦である。両面共に研磨痕が明確で、稜も角ばっている事から、あまり使用されないうちに破損したと思われる。(外孔径 A 8mm, B 不明)。	
PL.54-16	S-15-0007 JQ58 茶褐色土層	4.8×約5.0	0.5 0.6 (19)	石英安山岩	小型 石庖丁の体部中央破片を転用したもの。再加工途上にある。厚さは不均一で破損部付近で最大厚を有し、相対する側の側面で薄くなる。側面は比較的平坦な面で、稜は両面とも明確な角をなす。紐孔は2孔あるが、孔径の大きい方が比較的中心寄りに位置する(外孔径 A 8.5mm, B 7mm)。B面研磨面下に一部剝離面残存。側面に一部打ち欠き面残存。破損部の中央突出部は僅かに磨滅。	石庖丁から転用。 A面鉄分付着
PL.54-17 PL.62-11	S-15-0010 HE52 Pit68底部	3.8×3.9	0.5 0.6 15	緑色片岩	小型 完形。B面研磨面下に一部剝離面残存。両面共周縁に打ち欠き成形面残存。A面全体側面はやや光沢を帯びる。B面は研磨痕残存。側面は上下両端を面取りされ、その稜は丸味をもつ。中心孔は両面より穿孔(外孔径 A 7.5mm, B 6.5mm)。	両面に鉄分付着
PL.54-18	S-15-0008 KB64 黒褐色土層	4.1	0.6 0.5 15	緑色片岩	小型 完形。平面形は正円に近い。孔部は略中心に位置する(外孔径 A 7mm, B 8mm)。A面孔部稜に重なった小さい穿孔痕あり(径 3mm)。両面共に研磨痕は薄れ、表面全体にやや光沢を帯びる。側面は丸味をもつ。	

( )は残存部分の法量である。

外孔径(A面・B面)

紡錘車

図版番号	登録番号 出土地点 遺構地 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	外径 孔径 厚さ 重量	石材	特徴	備考
PL.54-19	S-15-0017 KX68・69  第3層・茶褐色砂質土層	6.2×6.5 — 0.9 68	— — — —	緑色片岩 (点紋)	大型の未製品 完形。石庖丁の体部右方破片を転用したもの。側面には石庖丁時の紐孔および背部、刃部が残存。背部・刃部以外の側面には打ち欠きを行い、円形に成形する途上にある。側面は一部磨滅している。	石庖丁から転用。 加工途上品。
PL.54-20	S-15-0015  不明	6.2×6.5 — 0.8 51	— — — —	緑色片岩	大型の未製品 完形。周囲に打ち欠きを施し、円形に成形する。打ち欠き成形後、両面に粗い研磨を施す。B面に研磨のおよばない片理面残存。	
PL.54-21 PL.62-12	S-15-0014 MI56  礫混黒褐色土層	6.1×6.8 — 0.9 49	— — — —	緑色片岩	大型の未製品 完形。周囲から打ち欠きにより円形に成形。両面共に片理面のまま。	B面に鉄分付着
	S-15-0009 MM64  整地面	4.1 (0.8) 0.6 (7)	— — — —	緑色片岩	小型 1/2 個体。火をうけて変色し表面は荒れているため、詳細不明。中心孔は両面より穿孔。	火をうけて変色。表面は荒れている。
	S-15-0011 JI66  整地層	4.9×5.4 — 0.9 33	— — — —	緑色片岩 (点紋)	小型の未製品 完形。周囲から打ち欠きにより円形に成形。A面は平坦な自然面、B面は片理面よりなり、厚さは均一でない。打ち欠きのエッジは磨滅している。	
	S-15-0016 MB50 溝・東流路 (SF 074)	4.9×5.5 — 0.8 39	— — — —	緑色片岩	小型の未製品 完形。石庖丁の体部右方破片を転用したもの。周辺に打ち欠きを施し円形に成形。側面には石庖丁時の紐孔および背部を留める。両面共に研磨のおよばない片理面が一部残存。A面中央部寄りに僅かに敲打痕がある。打ち欠き面には磨滅がみられる。	石庖丁から転用。 加工途上品。
	S-15-0019 MB54  茶褐色土層	4.6×5.3 — 1.0 31	— — — —	緑色片岩	小型の未製品 完形。片側が厚く、もう一方の側は薄い。周囲からの打ち欠きにより円形に成形。両面ともに研磨のおよばない片理面残存。側面は一部磨滅している。	表面は風化し、荒れている。
	S-15-0020 JG56 溝 (SF 080) 第1層・茶褐色砂質土層	4.8×4.8 — 0.6 (21)	— — — —	緑色片岩	小型の未製品 完形。石庖丁の右方体部破片を転用したもの。側面に石庖丁時の紐孔、背部・刃部を留める。周囲から打ち欠き成形した後、三方の角を研磨し、円形につくろうとする。	石庖丁から転用。 加工途上品。
fig. 22	S-15-0005 KP54  茶褐色土層	4.5×4.6 0.6 1.6 43	— — — —	蛇紋岩	古墳時代の紡錘車 完形。円錐台形を呈し、側面は垂直に下る(幅3~4mm)。A面傾斜面には中心より放射状にのび、側面では稜線と直交する方向に、表面が削り取られた痕跡を有し、その後研磨が施されている。側面の研磨は横方向である。A面中心部、傾斜面周縁部、B面周縁部には、2つの同心円内に鋸歯状の線刻が施されている。中心孔の外孔径は6.5mmである。	

( )は残存部分の法量である。